

**玉城町**  
**男女共同参画に係る町民意識調査**  
**【結果報告書】**

**令和3年9月**

**玉城町**

# 目次

I 調査の概要.....	1
1 調査概要.....	2
II 調査結果.....	3
1 あなた自身のことについて.....	4
2 男女平等について.....	7
3 家庭生活について.....	42
4 職業生活について.....	74
5 女性の活躍について.....	100
6 DV(ドメスティックバイオレンス)などの暴力について.....	120
7 マタハラ、パタハラ、セクハラについて.....	132
8 防災・災害復興対策などについて.....	147
9 多様な性について.....	149
10 男女共同参画社会づくりについて.....	153

# I 調査の概要

# 1 調査概要

## (1) 調査目的

本調査は、住民の男女共同参画の意識や実態を把握し、「第3次玉城町男女共同参画計画」策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

## (2) 調査概要

対象者	令和3年7月現在、玉城町に居住している 18歳以上の町民より無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収（Webでの回答も併用）
調査期間	令和3年7月1日～7月16日

配布数（A）	1,500件
有効回答件数（B）	654件
有効回答率（B/A）	43.6%

## (3) 報告書の見方

- 本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。
- グラフ中の「n」とは、Number of Casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表しています。したがって、各選択肢の％に「n」を乗じることで、その選択肢の回答者数が計算できます。
- グラフ中の「％」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、○はひとつの設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100％にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。
- 「その他」「わからない」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。ただし、n数が1桁のものは順位付けを省略し、読み取り文の対象外としています。
- 比較分析において使用した調査名は次のとおりです。
  - 【経年比較】・玉城町平成28年実施「男女共同参画 町民意識調査」
  - 【県調査比較】・三重県令和元年実施「男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査」
  - 【国調査比較】・内閣府令和元年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

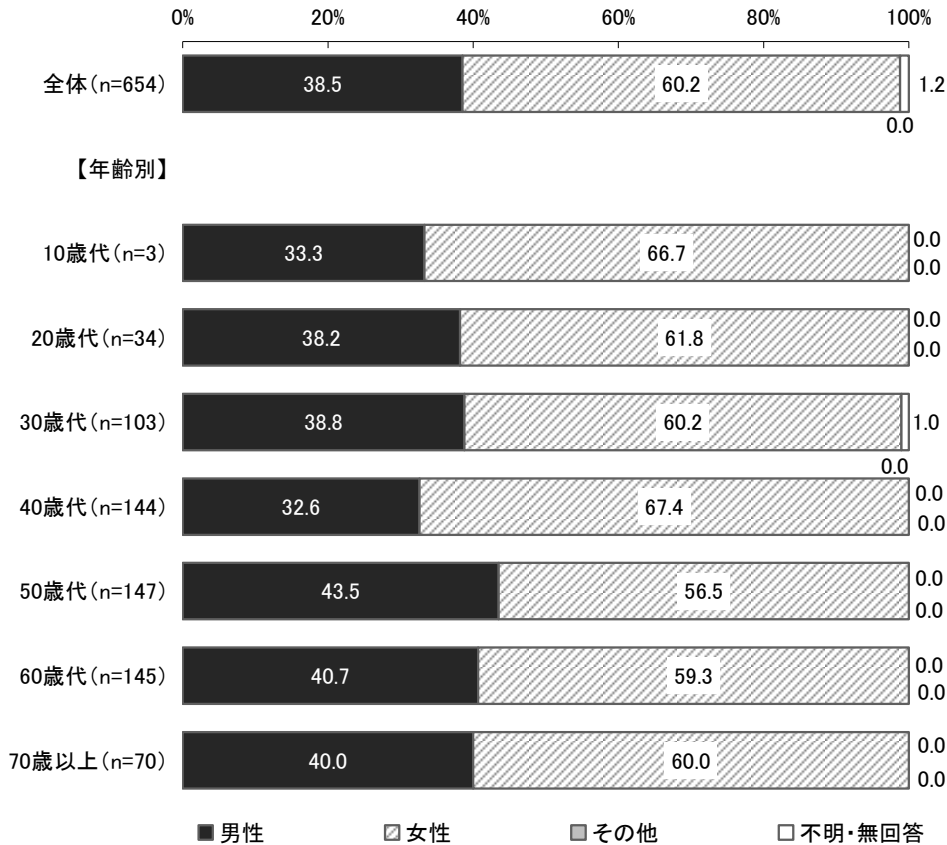
## II 調査結果

# 1 あなた自身のことについて

## 問1. あなたの性別をお答えください。(○は1つまで)

性別についてみると、全体では「男性」が38.5%、「女性」が60.2%となっています。

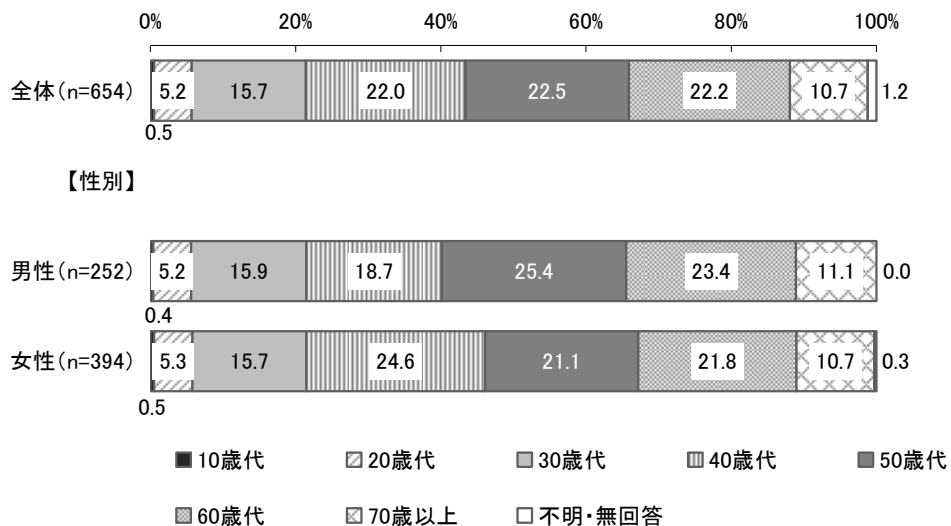
年齢別でみると、40歳代以下で「男性」の割合が3割台と、他の年齢区分と比べて低くなっています。



## 問2. あなたの年齢をお答えください。(○は1つまで)

年齢についてみると、全体では「50歳代」が22.5%と最も高く、次いで「60歳代」が22.2%、「40歳代」が22.0%となっています。

性別でみると、女性では「40歳代」の割合が男性に比べて高くなっています。

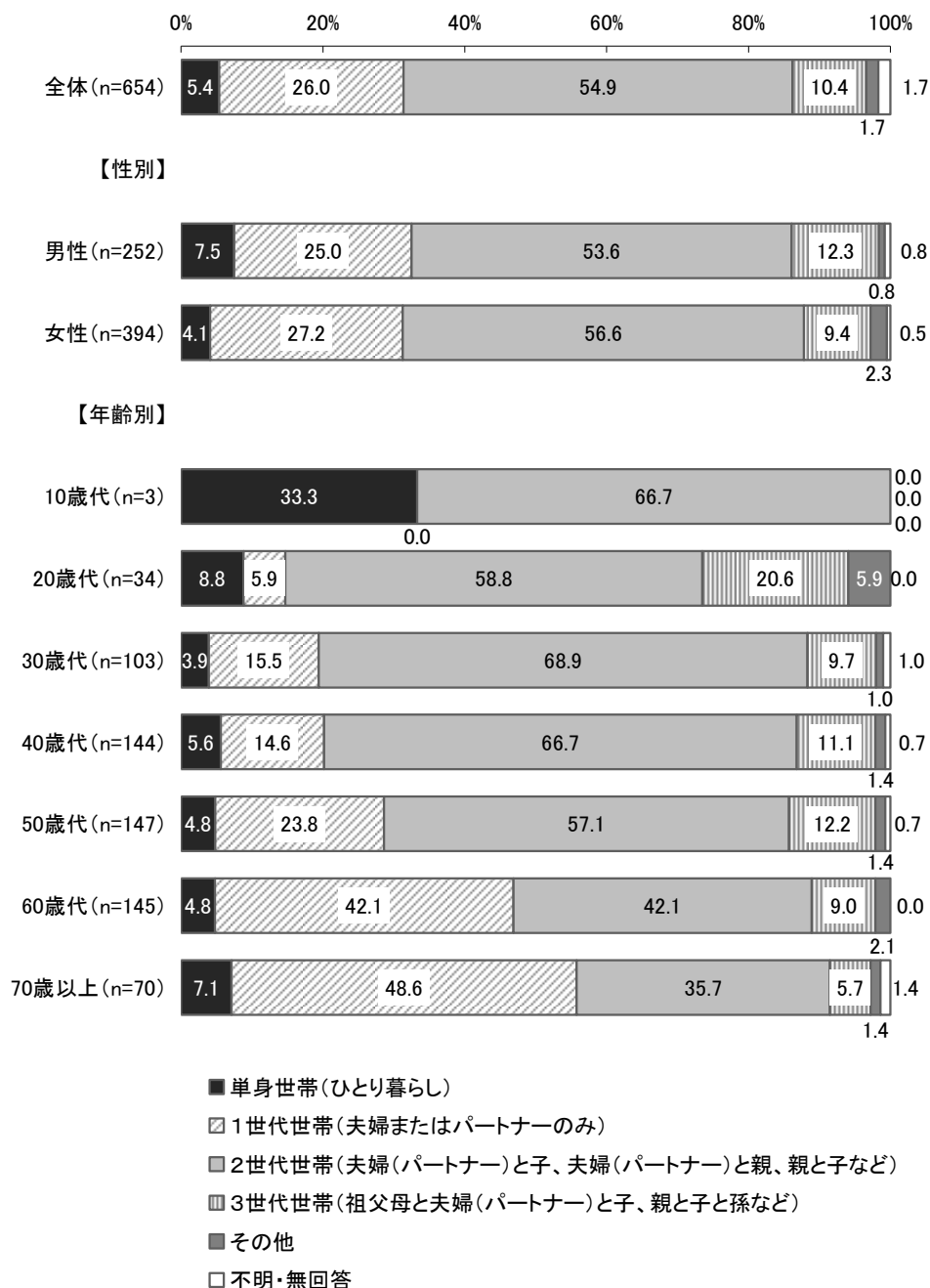


### 問3. あなたが現在同居している家族の構成をお答えください。(〇は1つまで)

家族構成についてみると、全体では「2世代世帯(夫婦(パートナー)と子、夫婦(パートナー)と親、親と子など)」が54.9%と最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦またはパートナーのみ)」が26.0%、「3世代世帯(祖父母と夫婦(パートナー)と子、親と子と孫など)」が10.4%となっています。

性別でみると、男性では「単身世帯(ひとり暮らし)」の割合が女性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、「1世代世帯(夫婦またはパートナーのみ)」の割合は概ね年齢が上がるにつれて、高くなる傾向がみられます。

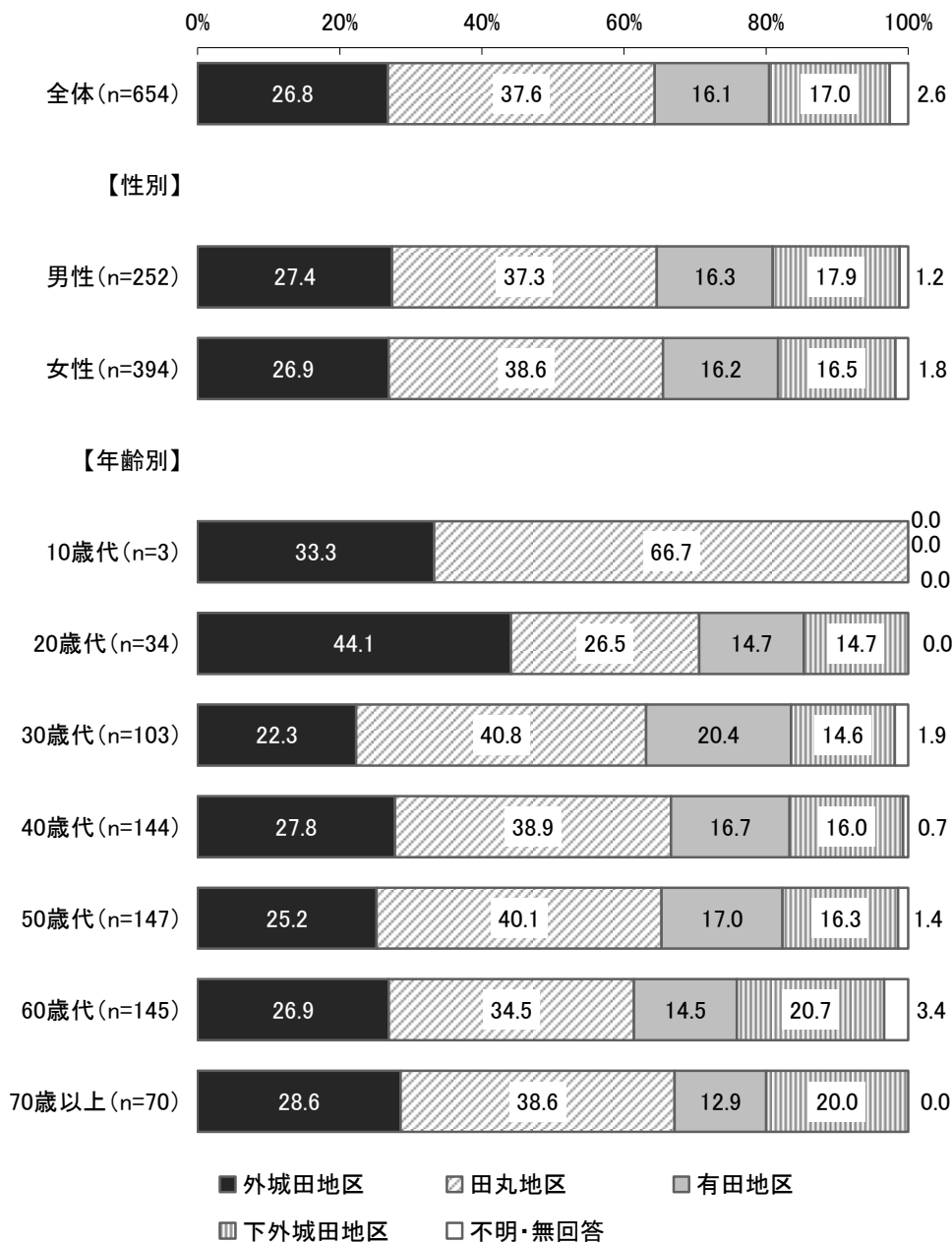


**問4. あなたがお住まいの地区をお答えください。(〇は1つまで)**

居住地区についてみると、全体では「田丸地区」が37.6%と最も高く、次いで「外城田地区」が26.8%、「下外城田地区」が17.0%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、20歳代では「外城田地区」の割合が最も高くなっており、30歳代以上では「田丸地区」の割合が高くなっています。





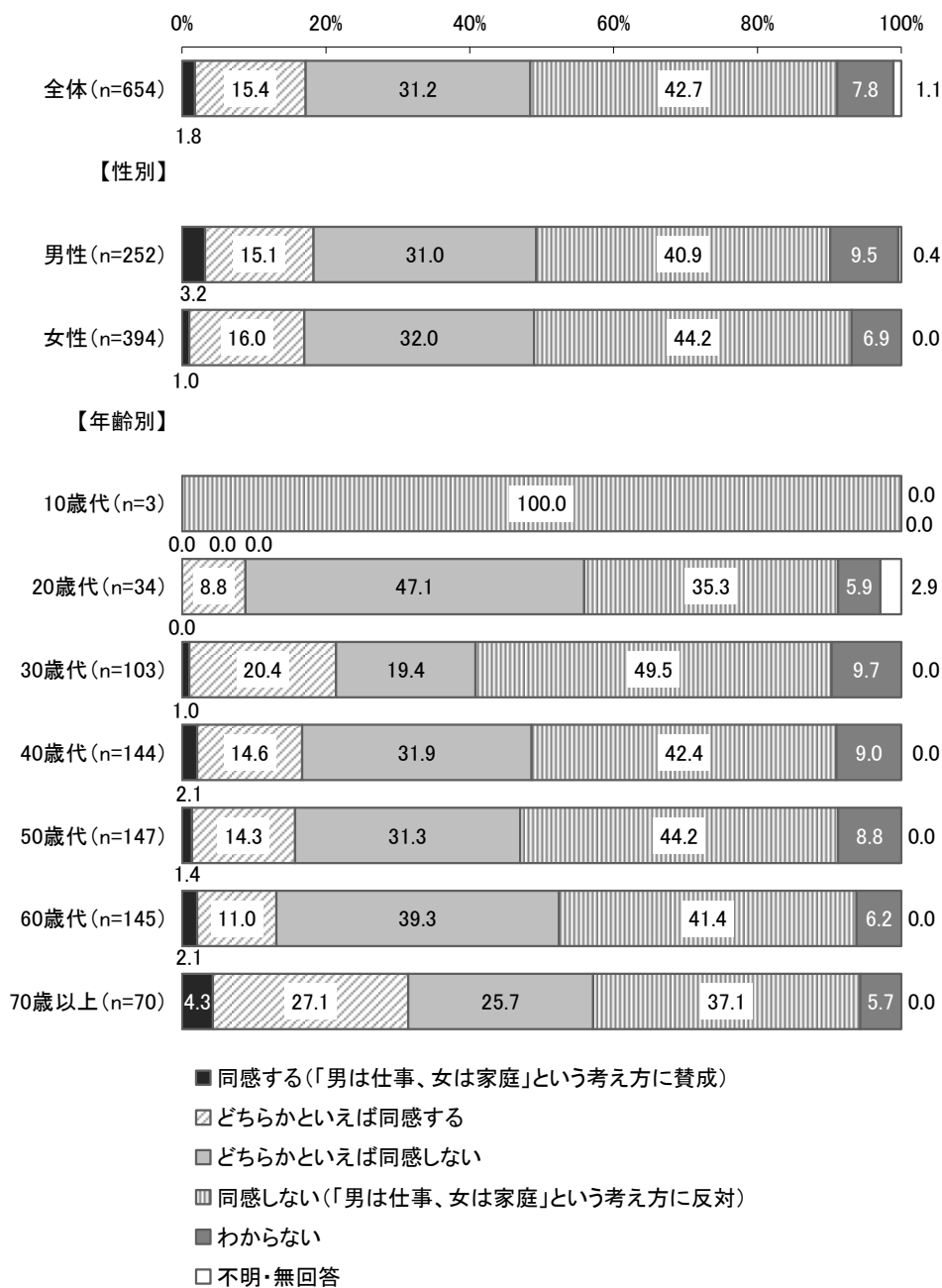
## 2 男女平等について

### 問5. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つまで)

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてみると、全体では「同感しない（「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対）」が 42.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば同感しない」が 31.2%、「どちらかといえば同感する」が 15.4%となっています。

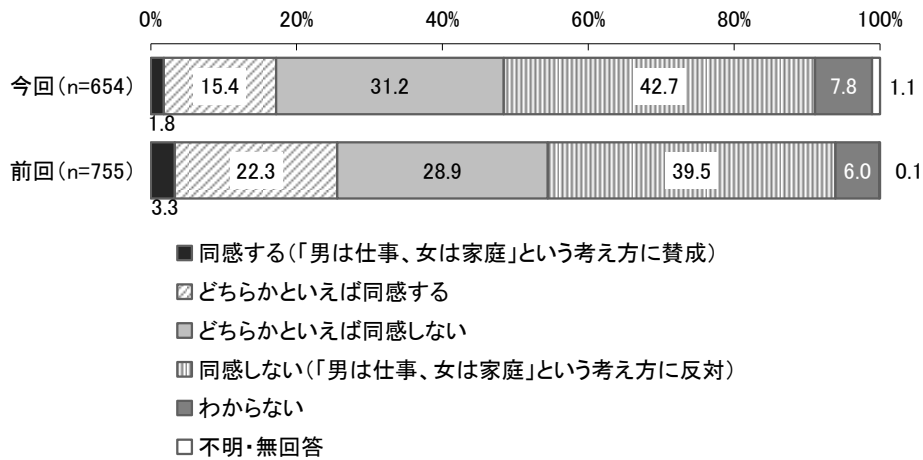
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、20歳代では「どちらかといえば同感しない」の割合が最も高く、30歳代以上では「同感しない（「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対）」の割合が高くなっています。



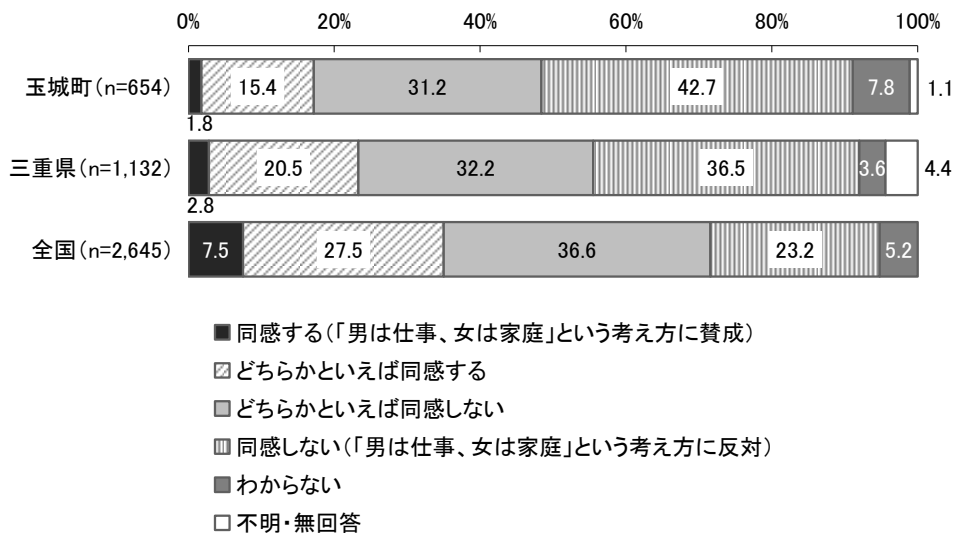
### <前回調査(平成 28 年)との比較>

「男は仕事、女は家庭」という考え方について前回調査と比較すると、「同感する」と「どちらかといえ  
ば同感する」をあわせた【同感する計】の割合が減少し、「同感しない」と「どちらかといえ  
ば同感しない」をあわせた【同感しない計】の割合が増加しています。



### <県調査・全国調査との比較>

「男は仕事、女は家庭」という考え方について県調査、全国調査と比較すると、三重県、全国に比べ【同  
感する計】の割合が低くなり、【同感しない計】の割合が高くなっています。



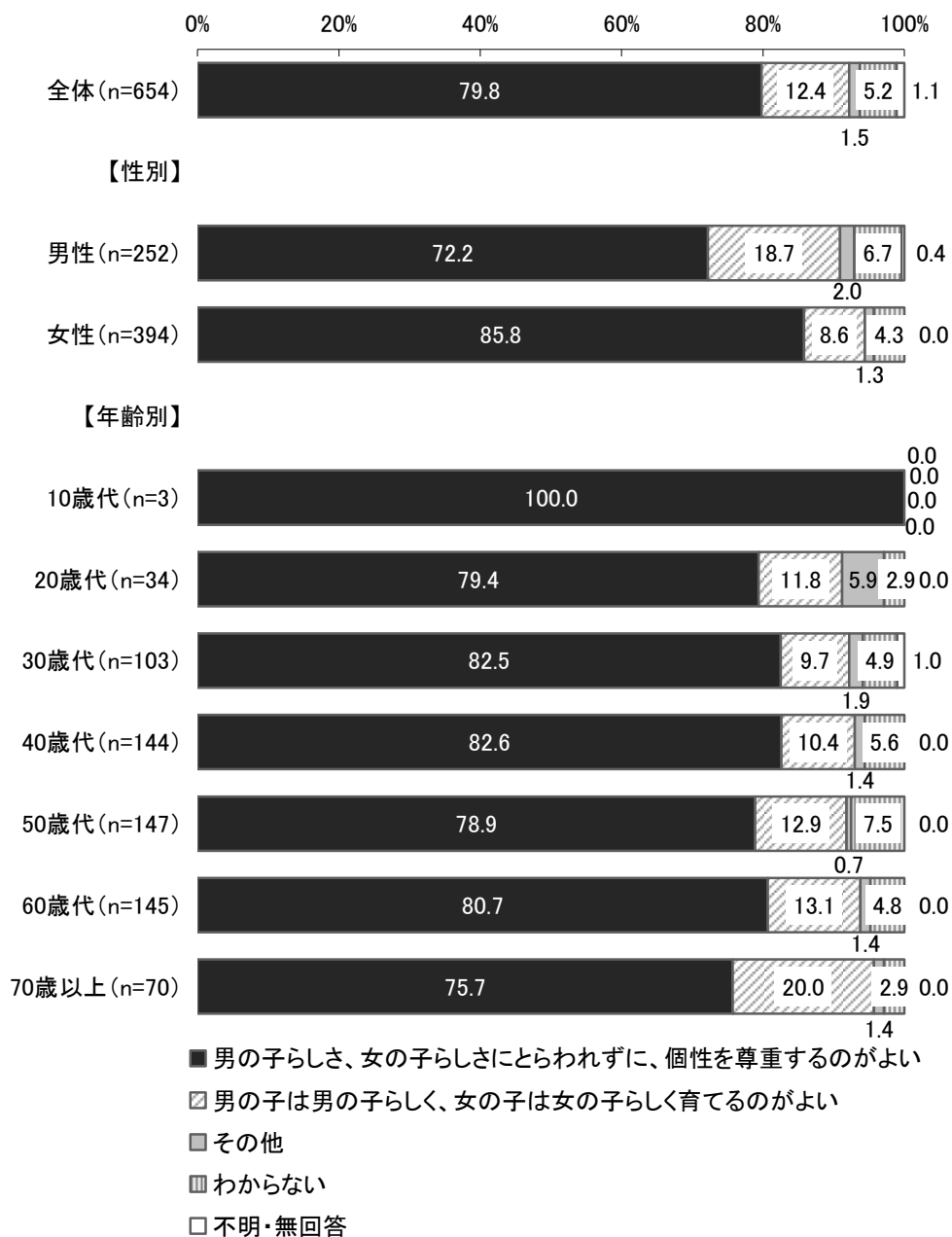
※全国に「不明・無回答」はなし

## 問6. あなたは男の子と女の子のしつけや教育についてどう思いますか。(○は1つまで)

男の子と女の子のしつけや教育についてみると、全体では「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれずに、個性を尊重するのがよい」の割合が最も高く約8割となっています。

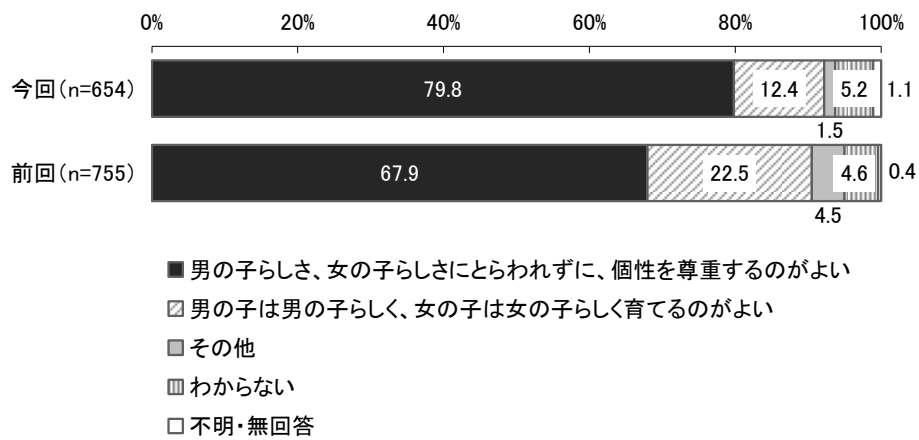
性別でみると、女性では「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれずに、個性を尊重するのがよい」の割合が8割を超えている一方で、男性では7割台と低くなっています。

年齢別でみると、70歳以上では「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」の割合が2割と他の年齢区分と比べて高くなっています。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

男の子と女の子のしつけや教育について前回調査と比較すると、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれずに、個性を尊重するのがよい」の割合が6割台から約8割と増加し、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」の割合が2割台から1割台へと減少しています。



問7. 次の①～⑮の言葉について、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。

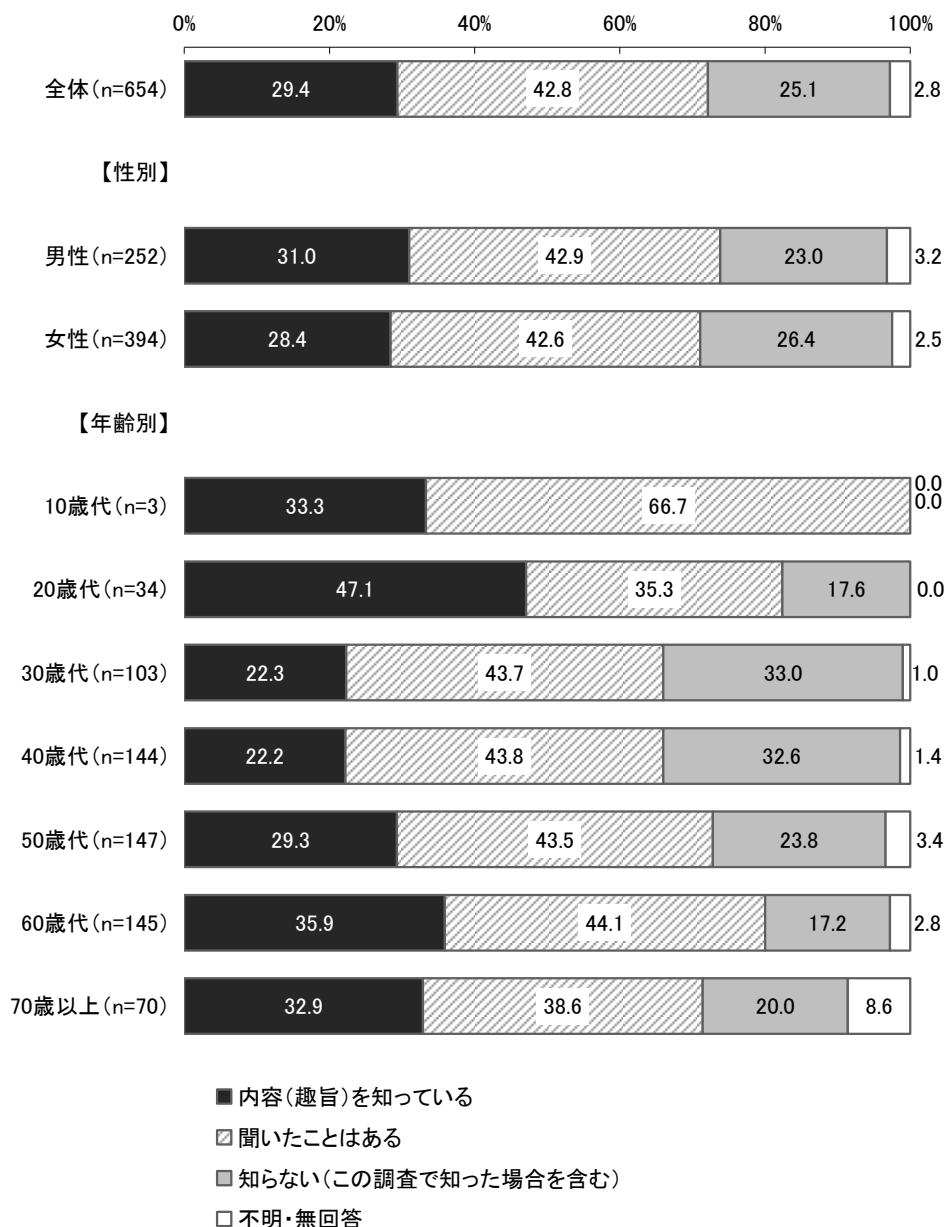
(各言葉それぞれについて、○は1つまで)

① 男女共同参画社会

男女共同参画社会という言葉についてみると、全体では「聞いたことはある」が42.8%と最も高く、次いで「内容(趣旨)を知っている」が29.4%、「知らない(この調査で知った場合を含む)」が25.1%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、20歳代では「内容(趣旨)を知っている」が47.1%と最も高く、30歳代以上では「聞いたことはある」が3割台後半から4割台半ばと高くなっています。

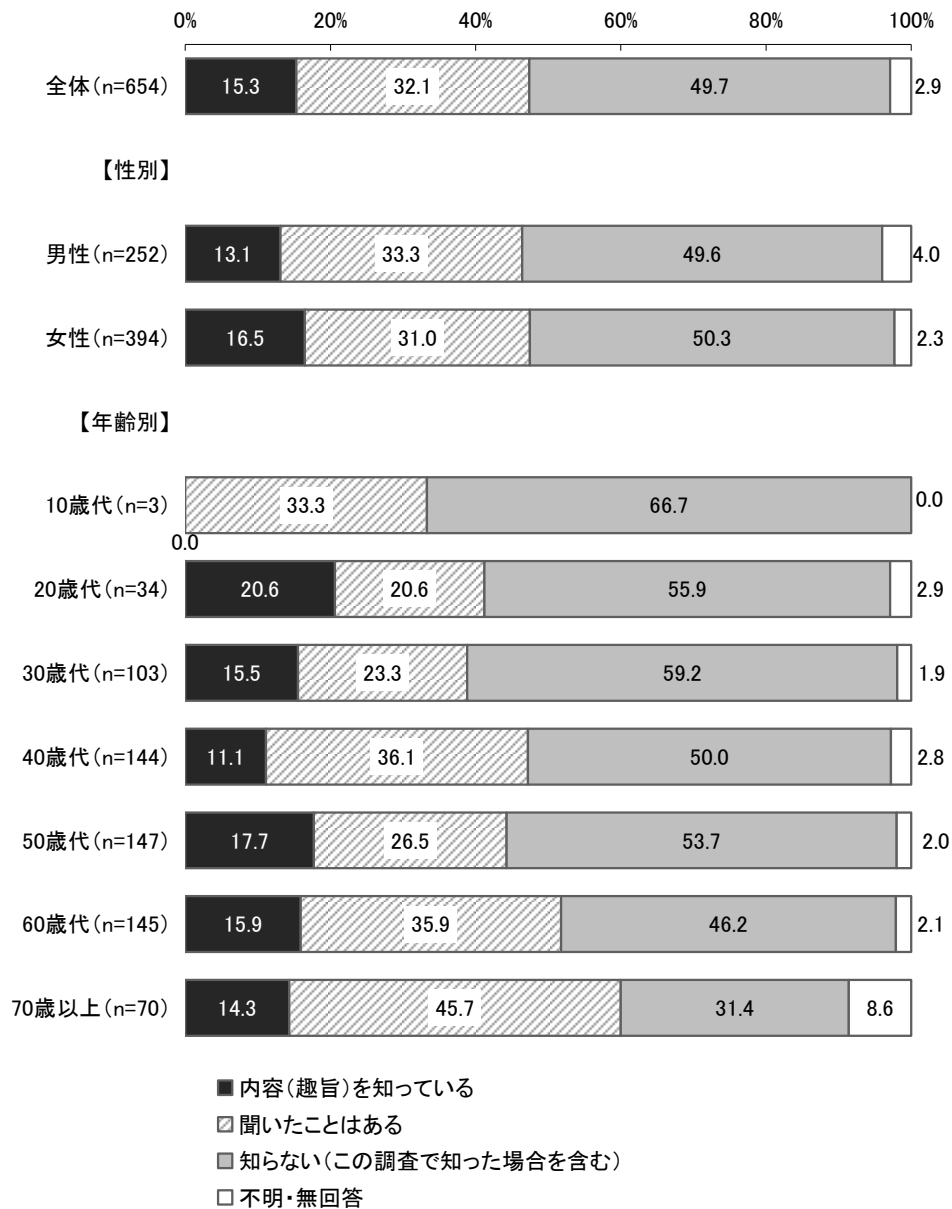


## ② 性別役割分担意識

性別役割分担意識という言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が49.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が32.1%、「内容（趣旨）を知っている」が15.3%となっています。

性別で見ると、大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、「内容（趣旨）を知っている」の割合は20歳代で2割台と高く、30歳代以上では1割台となっています。

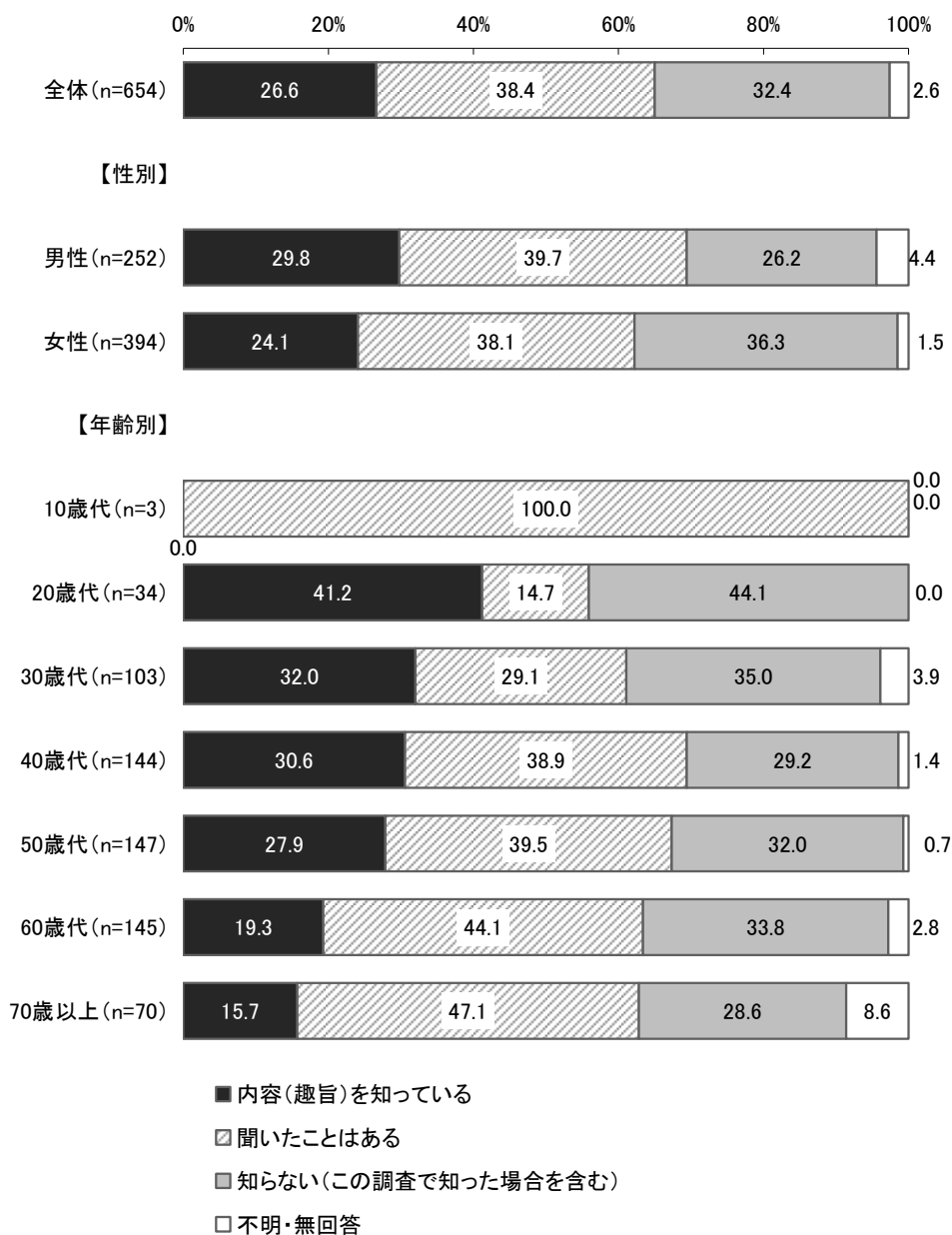


### ③ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉についてみると、全体では「聞いたことはある」が38.4%と最も高く、次いで「知らない（この調査で知った場合を含む）」が32.4%、「内容（趣旨）を知っている」が26.6%となっています。

性別でみると、男性では「内容（趣旨）を知っている」の割合が女性より高い一方で、女性では「知らない（この調査で知った場合を含む）」の割合が男性より高くなっています。

年齢別でみると、「内容（趣旨）を知っている」の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。

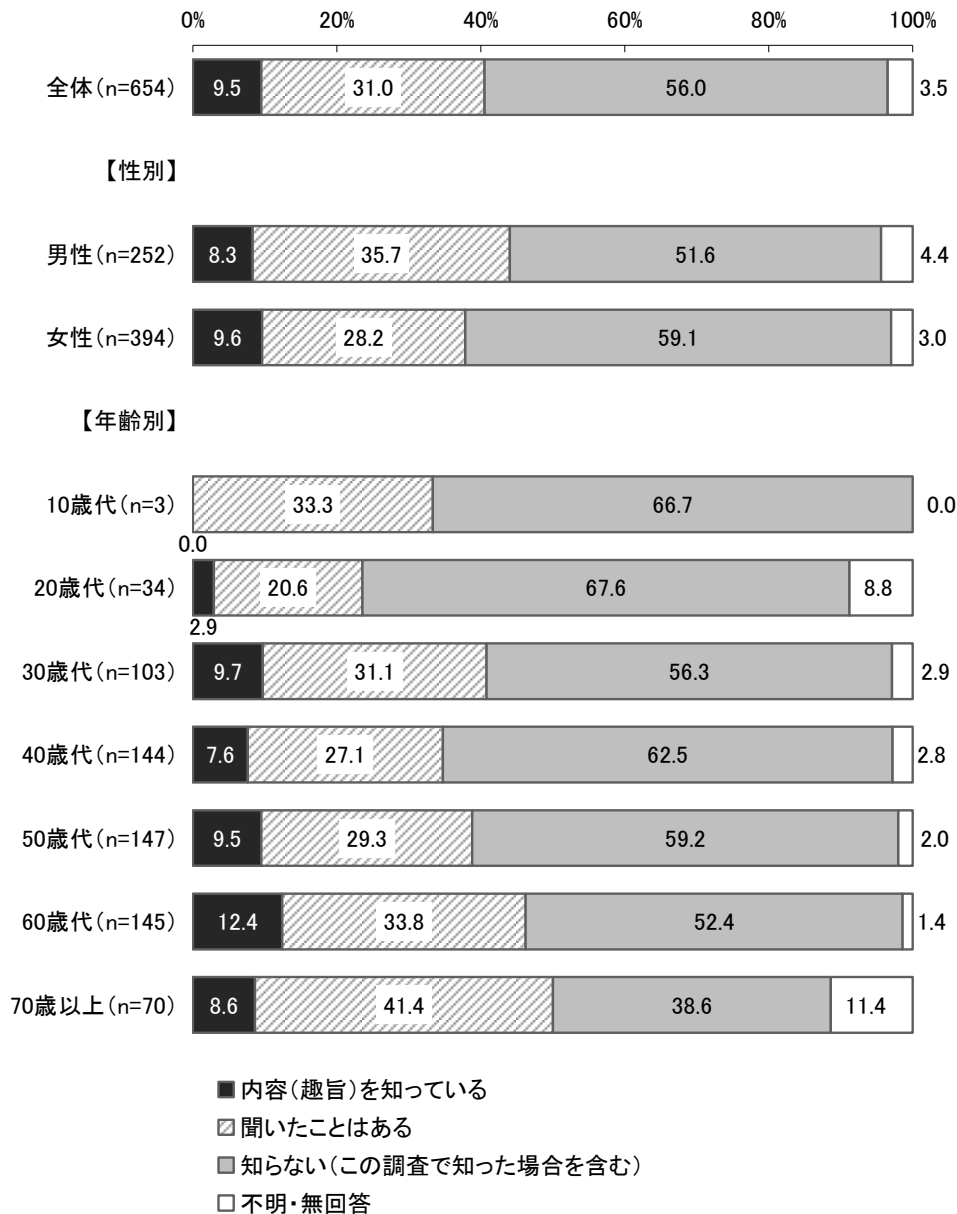


#### ④ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）という言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が56.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が31.0%、「内容（趣旨）を知っている」が9.5%となっています。

性別でみると、男性では「聞いたことはある」の割合が女性より高く、女性では「知らない（この調査で知った場合を含む）」の割合が男性より高くなっています。

年齢別でみると、20歳代と40歳代で「知らない（この調査で知った場合を含む）」の割合は6割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。



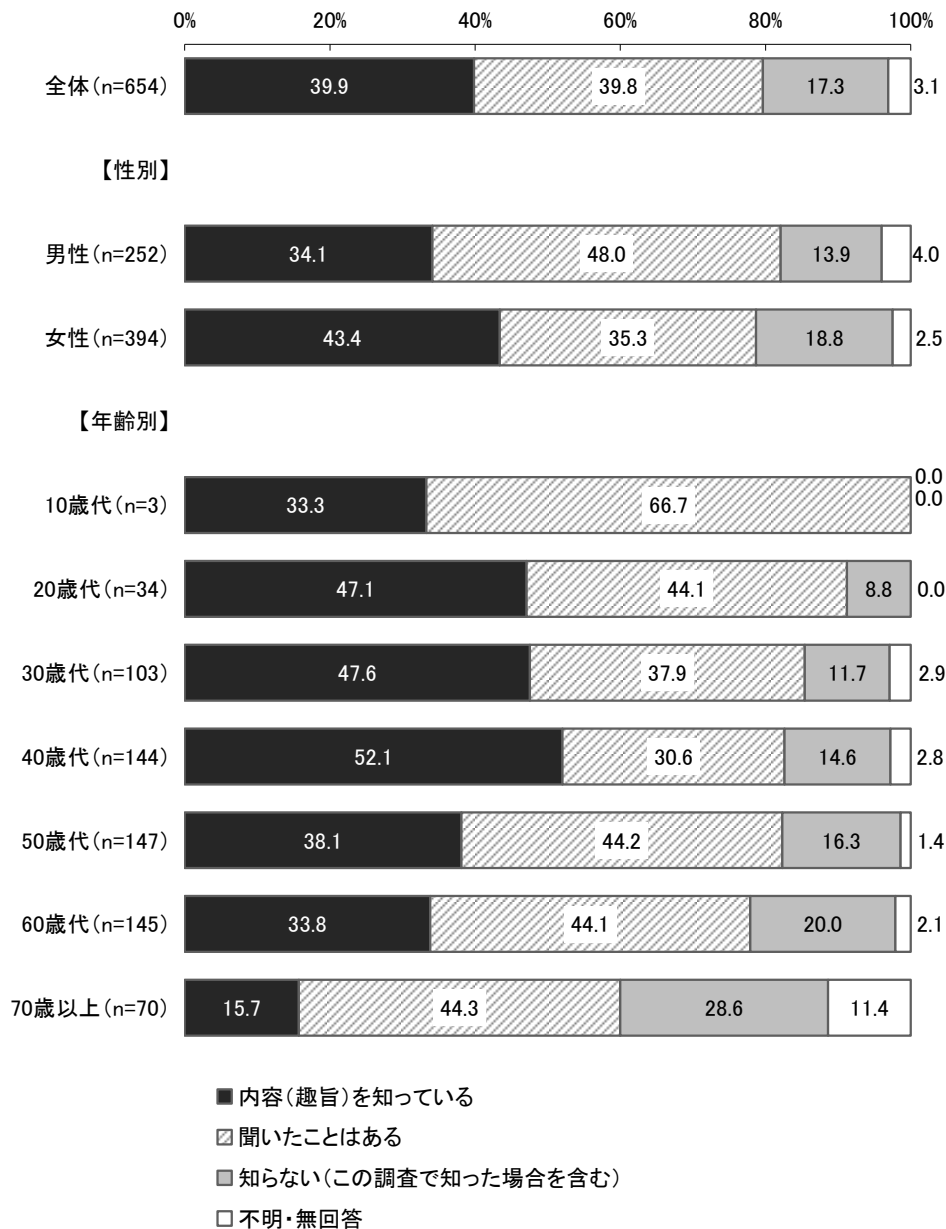


## ⑤ ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)

ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)という言葉についてみると、全体では「内容(趣旨)を知っている」「聞いたことはある」がともに約4割と高く、次いで「知らない(この調査で知った場合を含む)」が17.3%となっています。

性別でみると、男性では「聞いたことはある」の割合が女性より高く、女性では「内容(趣旨)を知っている」の割合が男性より高くなっています。

年齢別でみると、「内容(趣旨)を知っている」の割合は20歳代から40歳代では4割台から5割台と高く、50歳代と60歳代では3割台、70歳以上は1割台と低くなっています。

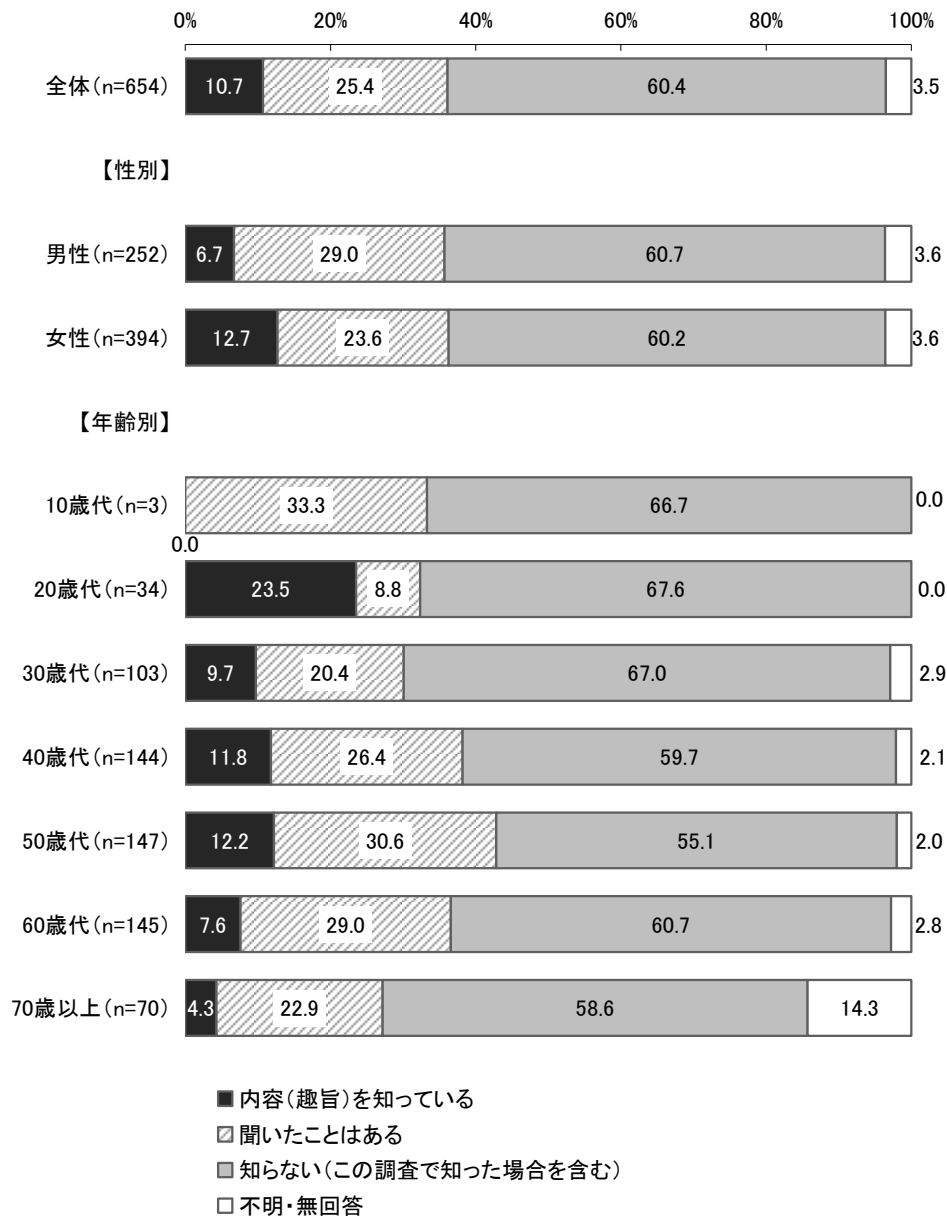


## ⑥ 女性のエンパワーメント

女性のエンパワーメントという言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が60.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が25.4%、「内容（趣旨）を知っている」が10.7%となっています。

性別でみると女性では「内容（趣旨）を知っている」の割合が1割台と男性より高くなっています。

年齢別でみると、20歳代では「内容（趣旨）を知っている」の割合が2割を超えており、他の年齢区分と比べて高くなっています。

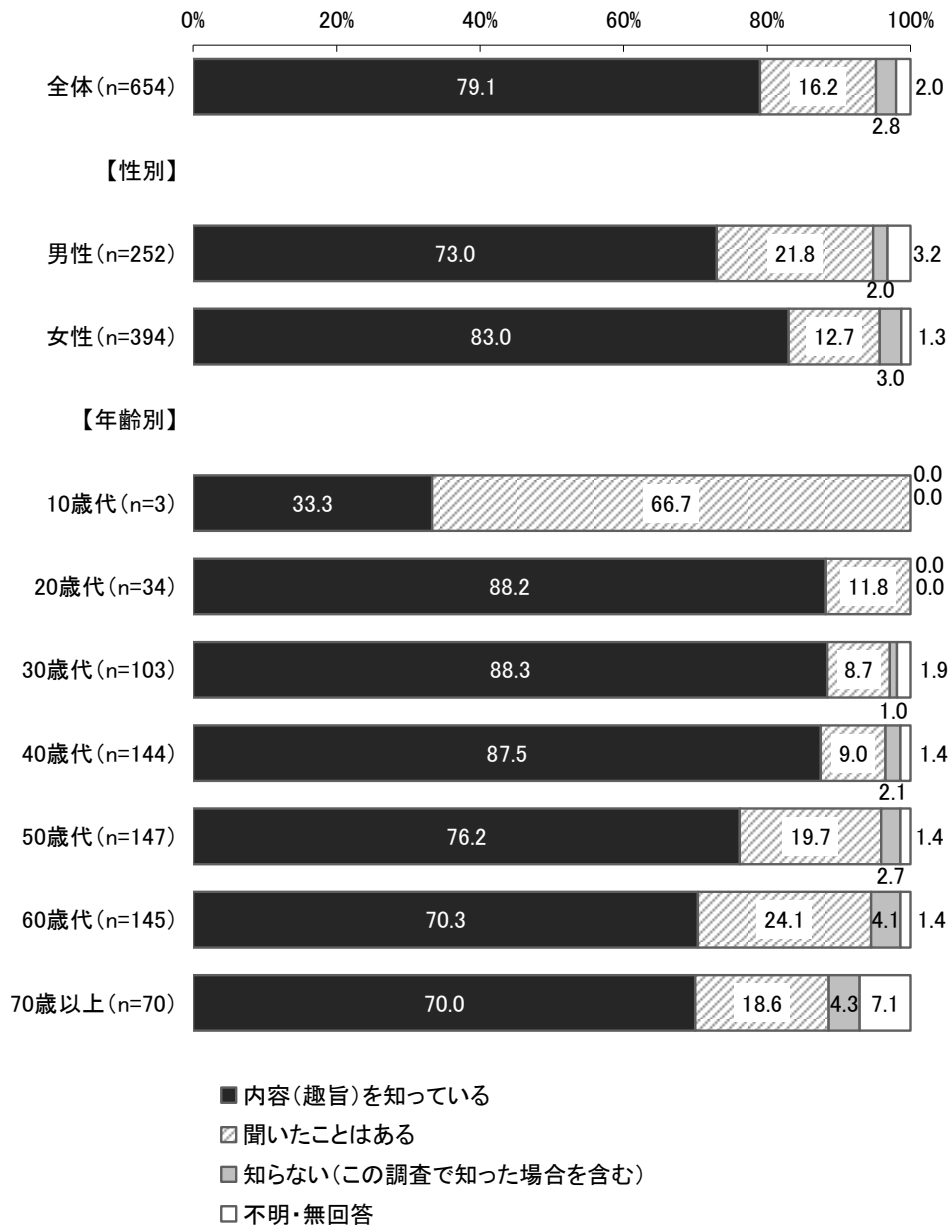


## ⑦ 配偶者等からの暴力(DV)(ドメスティックバイオレンス)

配偶者等からの暴力(DV)(ドメスティックバイオレンス)という言葉についてみると、全体では「内容(趣旨)を知っている」が79.1%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が16.2%、「知らない(この調査で知った場合を含む)」が2.8%となっています。

性別でみると、女性では「内容(趣旨)を知っている」の割合が83.0%と男性(73.0%)と比べて10ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「内容(趣旨)を知っている」の割合は、概ね年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。

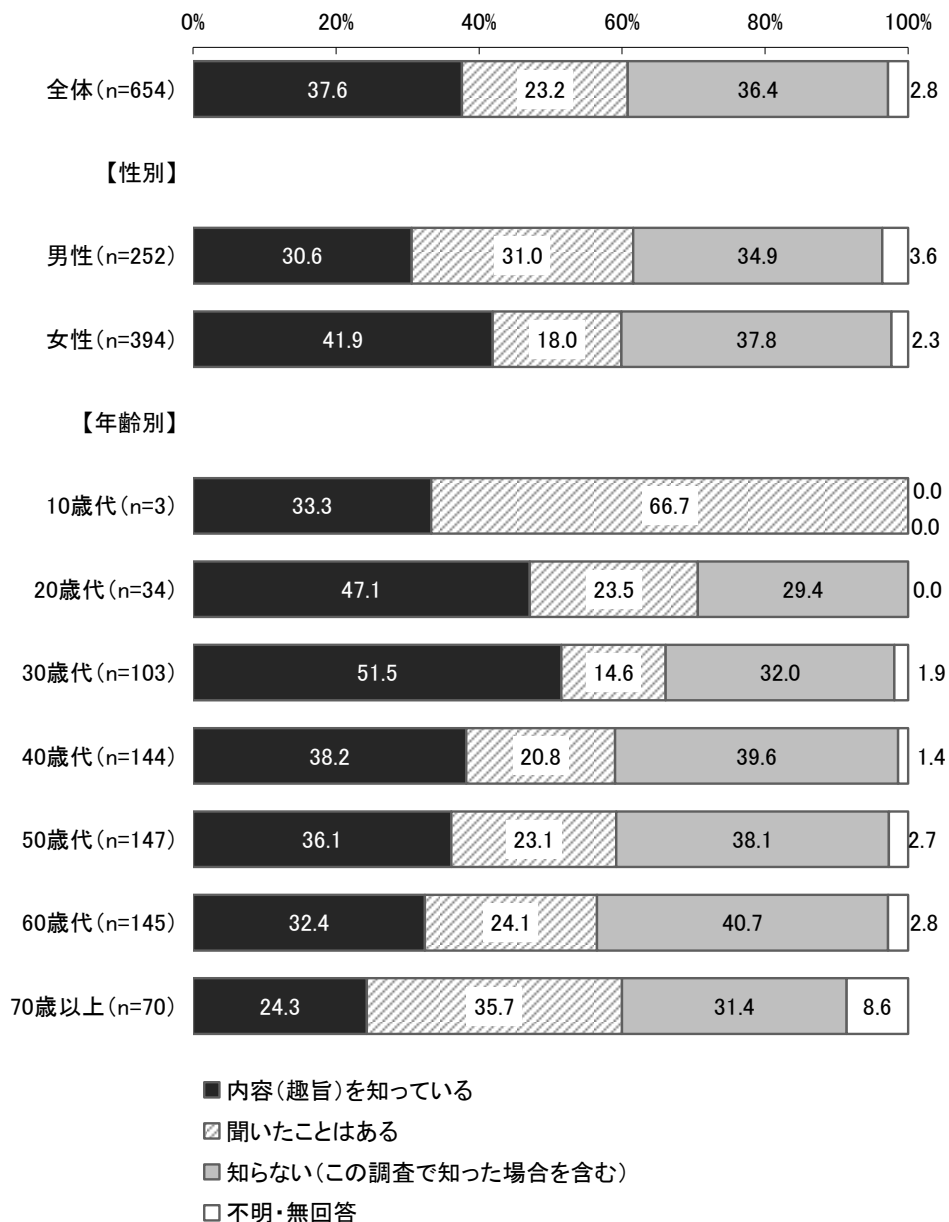


## ⑧ デートDV

デートDVという言葉についてみると、全体では「内容（趣旨）を知っている」が37.6%と最も高く、次いで「知らない（この調査で知った場合を含む）」が36.4%、「聞いたことはある」が23.2%となっています。

性別でみると、女性では「内容（趣旨）を知っている」の割合が4割台と男性（3割台）と比べて高くなっています。

年齢別でみると、「内容（趣旨）を知っている」の割合は30歳代で5割以上と他の年齢区分に比べて高くなっています。一方40歳代以上の割合は2割台から3割台と年齢が上がるにつれて低くなる傾向となっています。

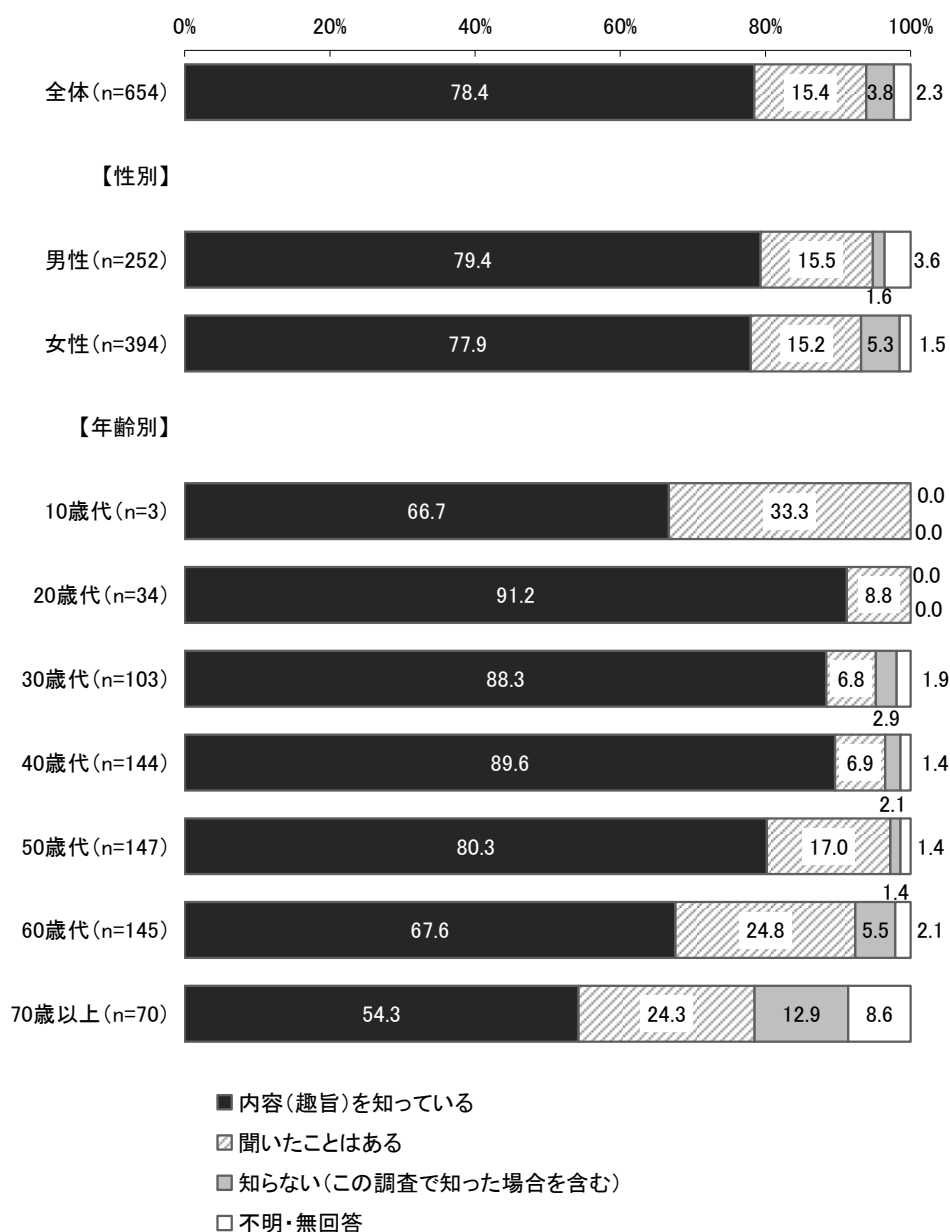


## ⑨ セクシュアルハラスメント

セクシュアルハラスメントという言葉についてみると、全体では「内容(趣旨)を知っている」が78.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が15.4%、「知らない(この調査で知った場合を含む)」が3.8%、となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、「内容(趣旨)を知っている」の割合は20歳代で9割台、30歳代から50歳代で8割台と高くなっています。一方で60歳代と70歳以上の割合は5割台から6割台と低くなっています。

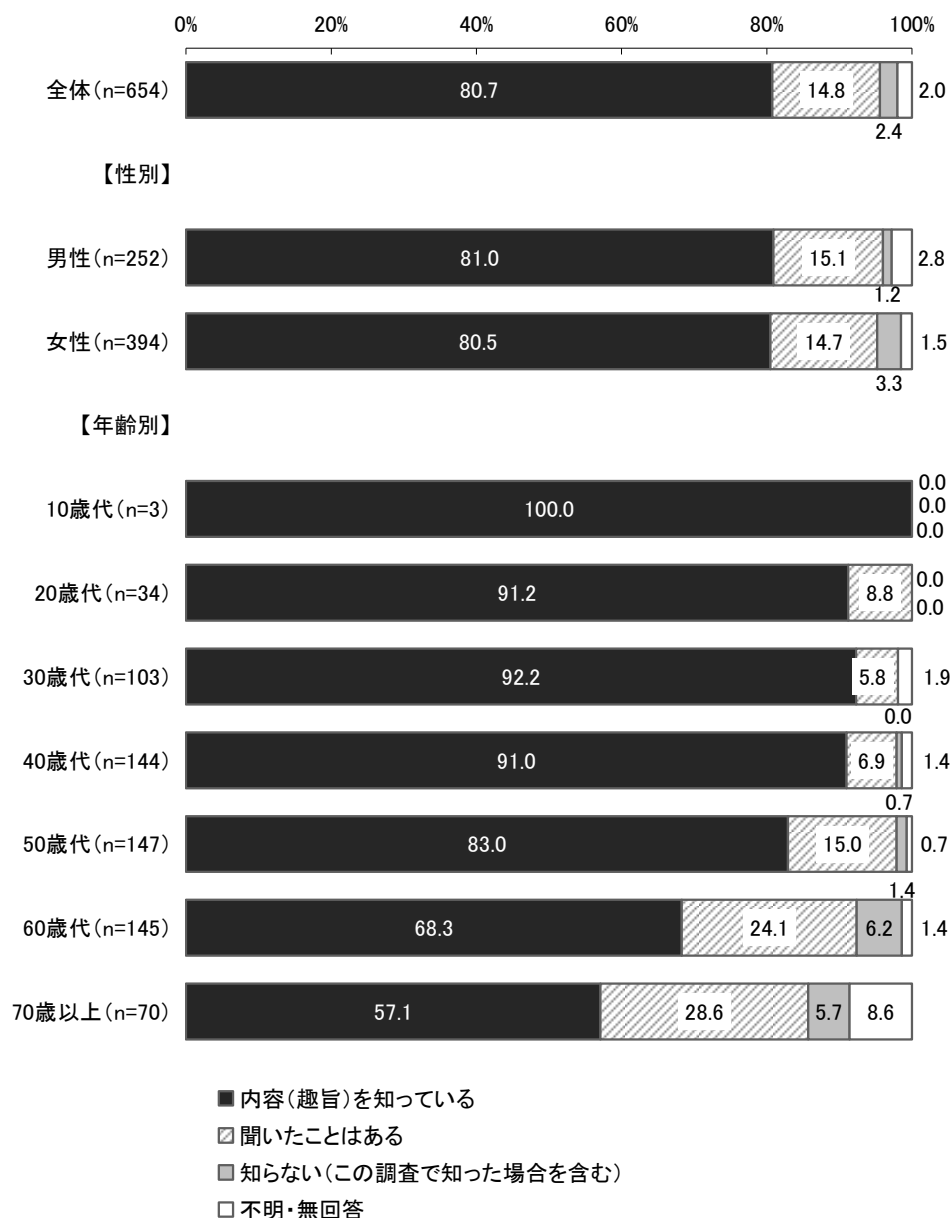


## ⑩ パワーハラスメント

パワーハラスメントという言葉についてみると、全体では「内容（趣旨）を知っている」が80.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が14.8%、「知らない（この調査で知った場合を含む）」が2.4%、となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、「内容（趣旨）を知っている」の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向となっており、20歳代から40歳代では「内容（趣旨）を知っている」の割合が9割を超えていますが、70歳以上では5割台となっています。

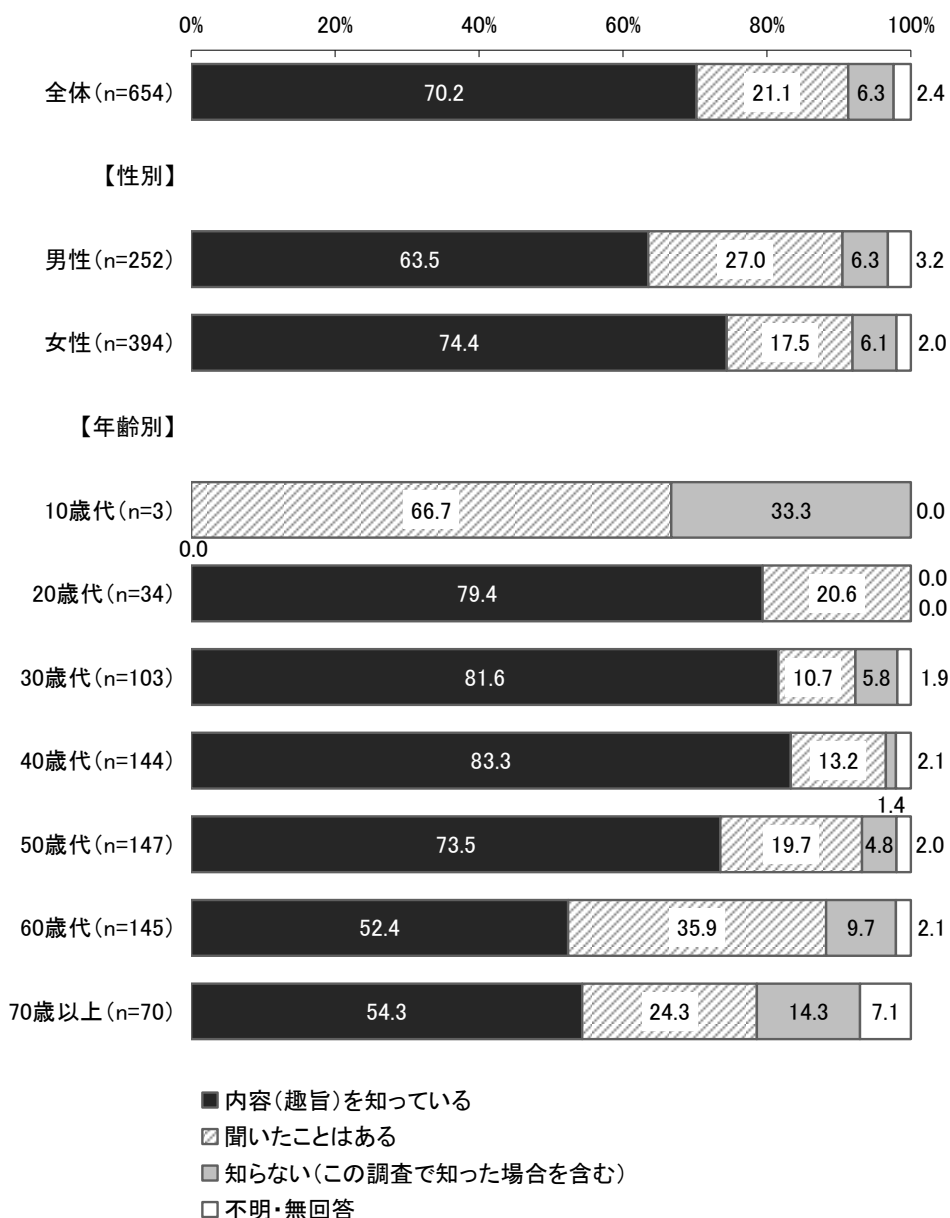


## ⑪ マタニティハラスメント

マタニティハラスメントという言葉についてみると、全体では「内容（趣旨）を知っている」が70.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が21.1%、「知らない（この調査で知った場合を含む）」が6.3%、となっています。

性別でみると、男性では「聞いたことはある」の割合が女性と比べて高く、女性では「内容（趣旨）を知っている」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代から50歳代では「内容（趣旨）を知っている」の割合が7割台から8割台と高く、60歳代と70歳以上では、5割台と低くなっています。

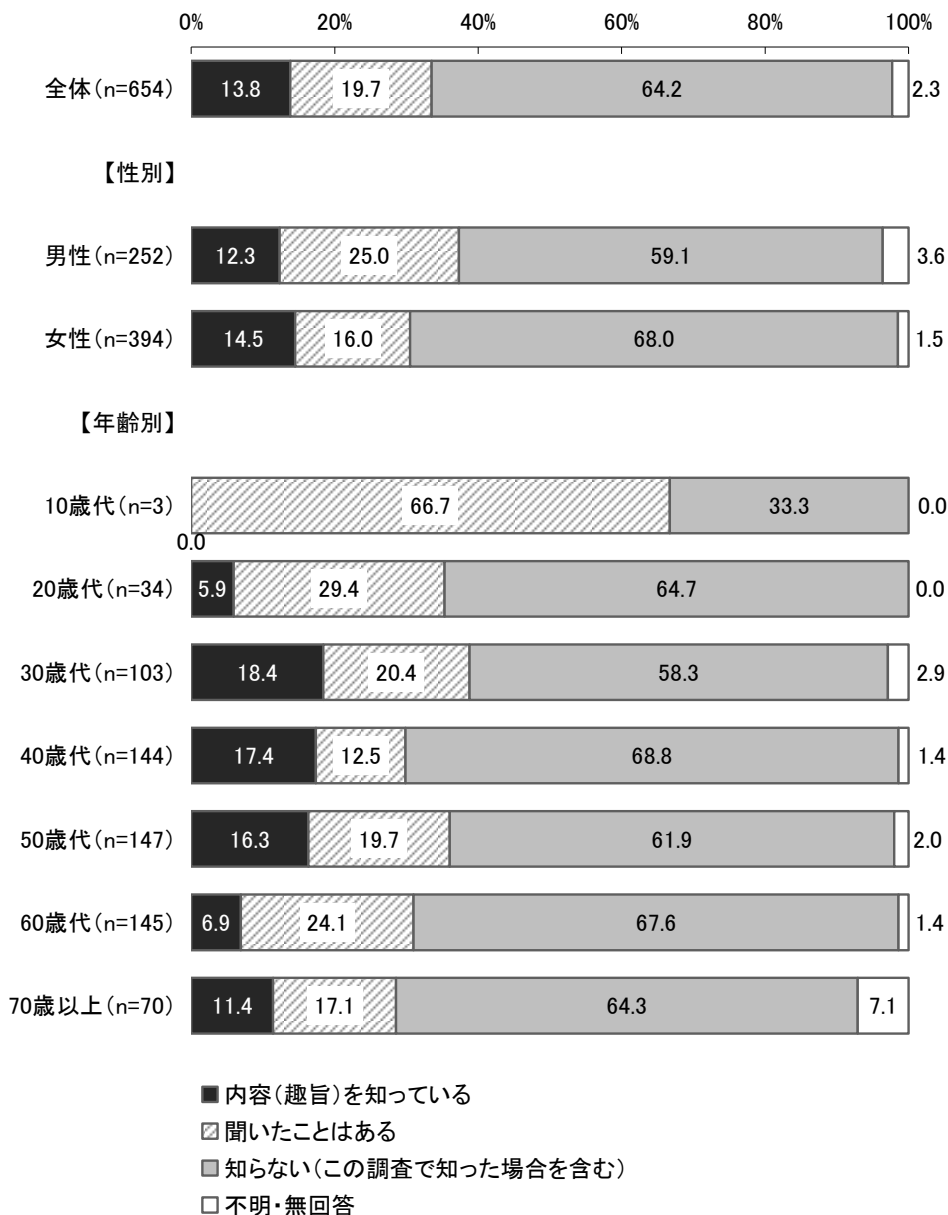


## ⑫ パタニティハラスメント

パタニティハラスメントという言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が64.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が19.7%、「内容（趣旨）を知っている」が13.8%、となっています。

性別でみると、男性では「聞いたことはある」の割合が女性と比べて高く、一方女性では「知らない（この調査で知った場合を含む）」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代と60歳代で「内容（趣旨）を知っている」の割合が1割以下と他の年齢区分と比べて低くなっています。



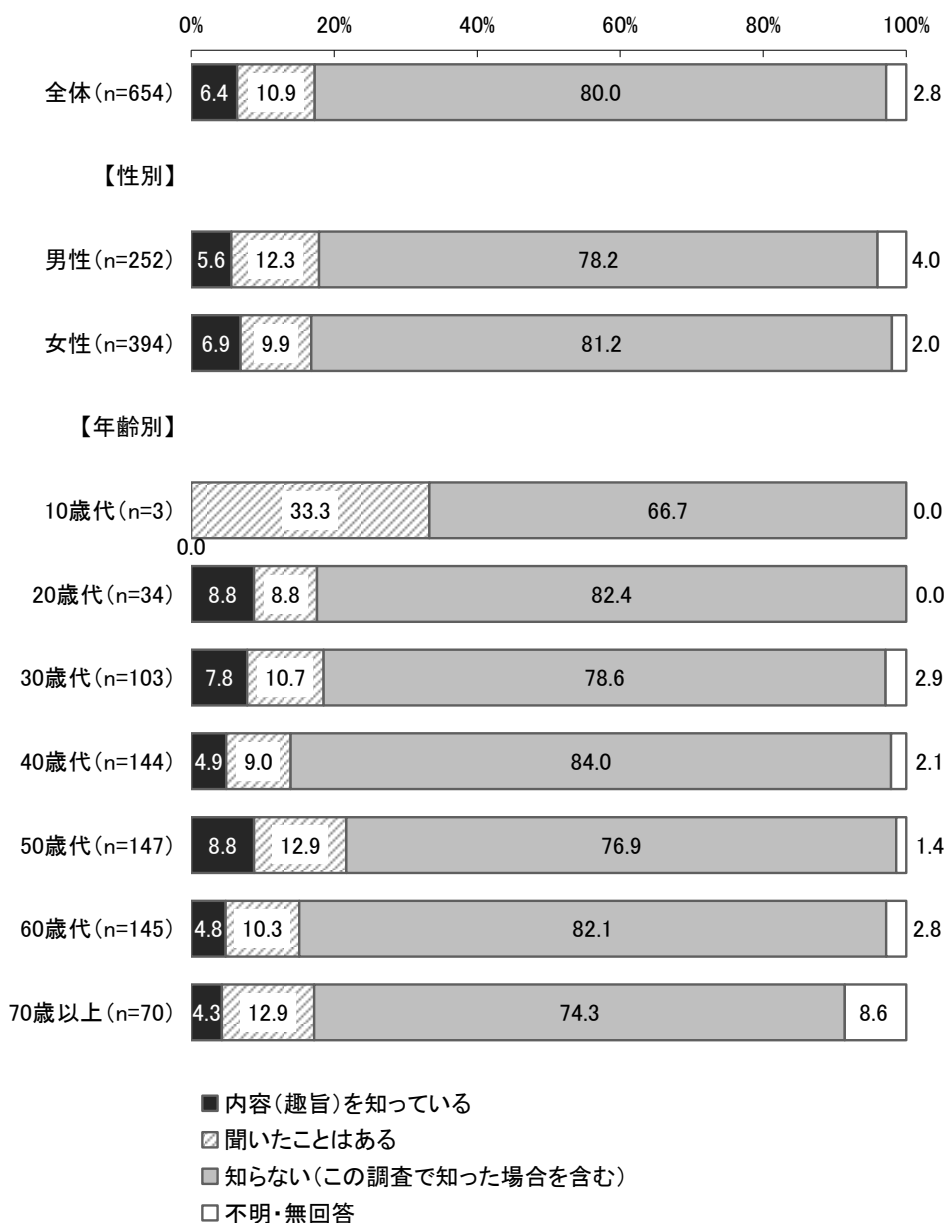


### ⑬ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

リプロダクティブ・ヘルス/ライツという言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が80.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が10.9%、「内容（趣旨）を知っている」が6.4%、となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、50歳代で「内容（趣旨）を知っている」と「聞いたことはある」をあわせた【知っている計】の割合が2割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。

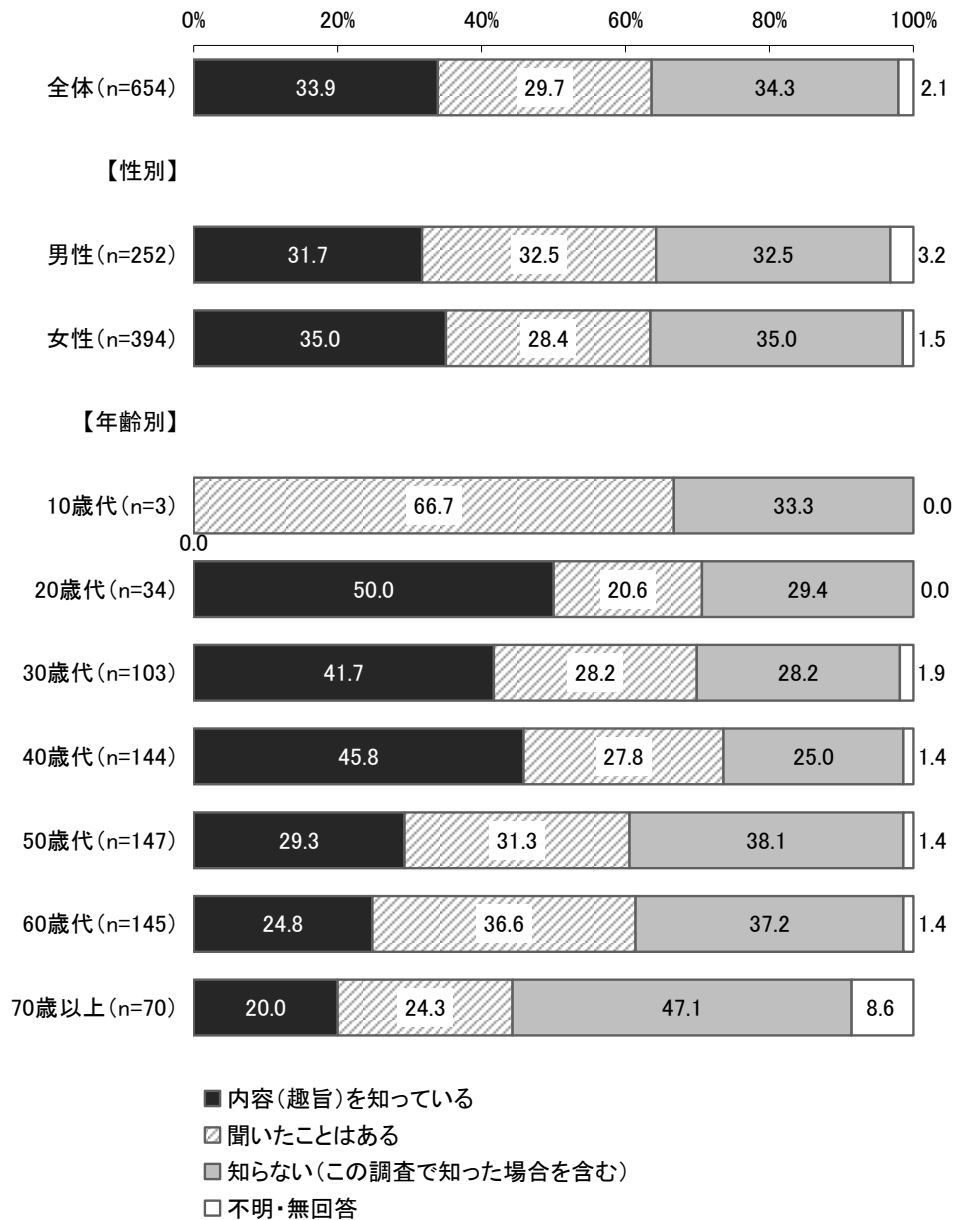


## ⑭ LGBTQ

LGBTQという言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が34.3%と最も高く、次いで「内容（趣旨）を知っている」が33.9%「聞いたことはある」が29.7%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、「内容（趣旨）を知っている」の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられ、20歳代の割合50%に対し、70歳以上の割合は20%と半分以下となっています。

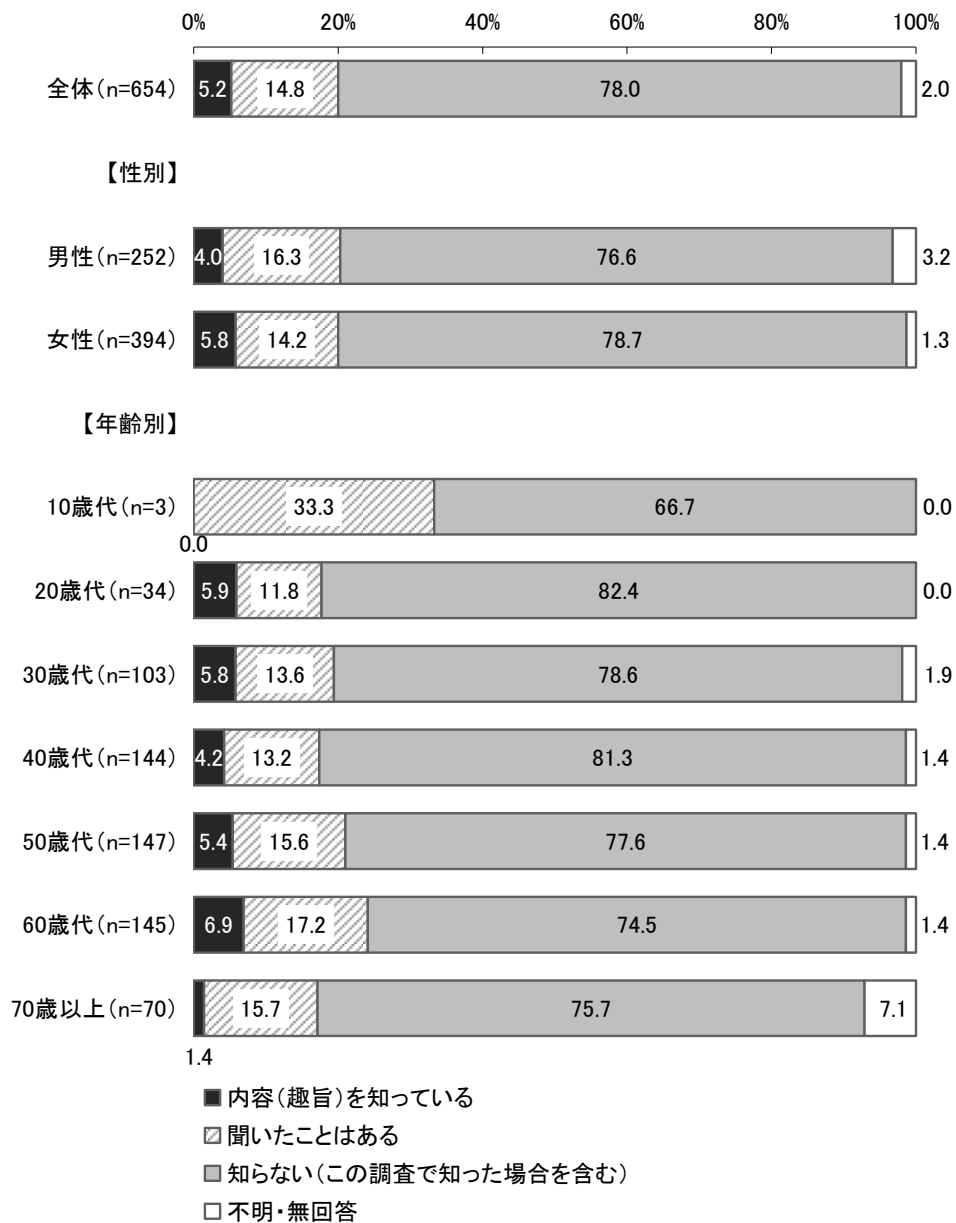


## ⑮ SOGIE

SOGIEという言葉についてみると、全体では「知らない（この調査で知った場合を含む）」が78.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が14.8%、「内容（趣旨）を知っている」が5.2%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、20歳代と40歳代で「知らない（この調査で知った場合を含む）」の割合が8割を超えています。



**問 8. あなたは、次にあげるA～Hの分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。**

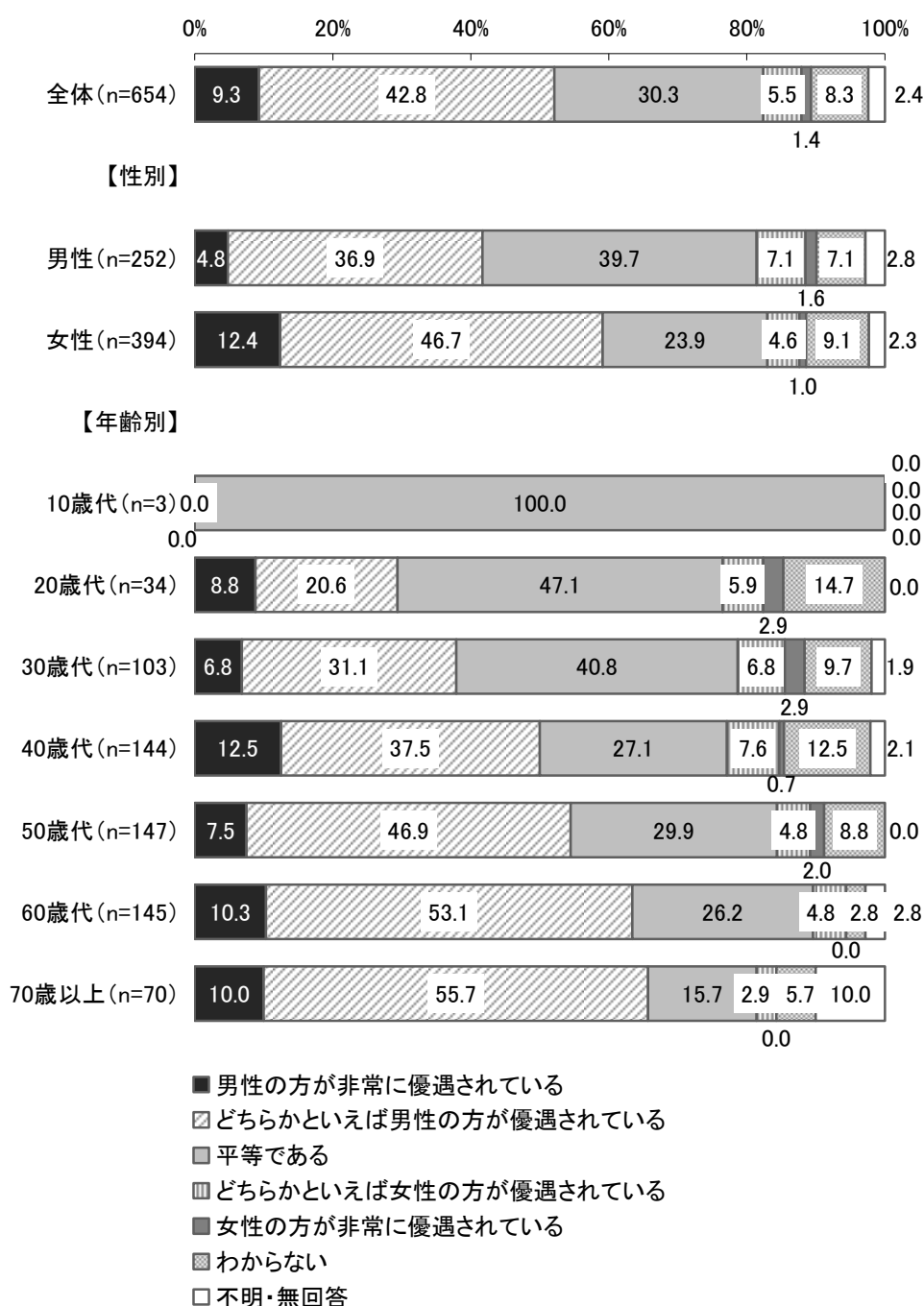
(各分野それぞれについて、○は1つまで)

**A 家庭のなかで**

家庭のなかで男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた【男性の方が優遇されている計】が 52.1%、「平等である」が 30.3%、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた【女性の方が優遇されている計】は 6.9%となっています。

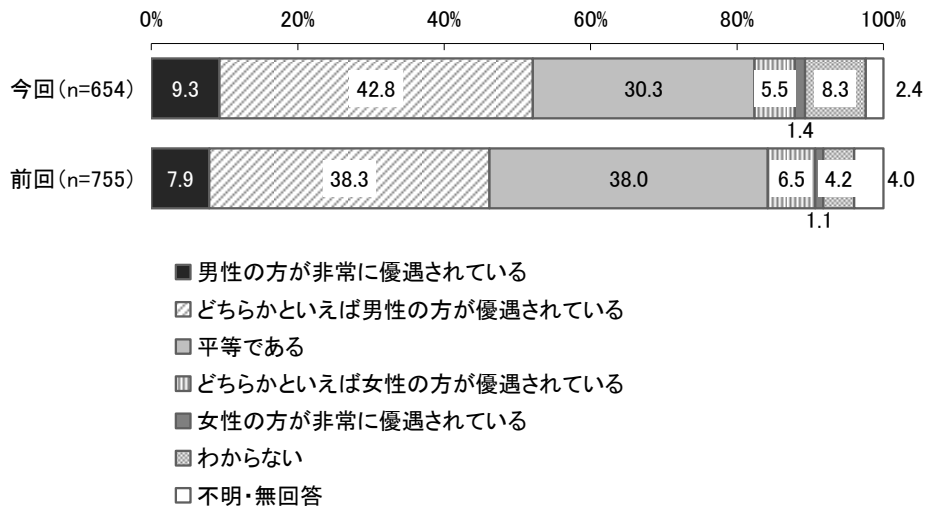
性別でみると、男性では「平等である」の割合が最も高く、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、【男性の方が優遇されている計】の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60歳代以上では6割を超えています。



### <前回調査(平成 28 年)との比較>

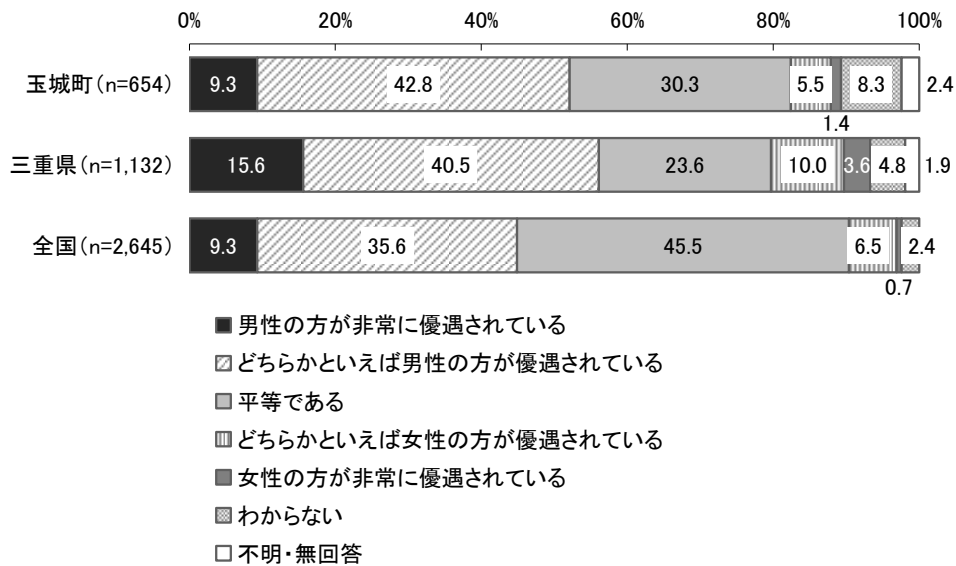
前回調査と比較すると、「平等である」の割合が減少し、【男性の方が優遇されている計】の割合が増加しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査と比較すると、三重県に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が低く、「平等である」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。



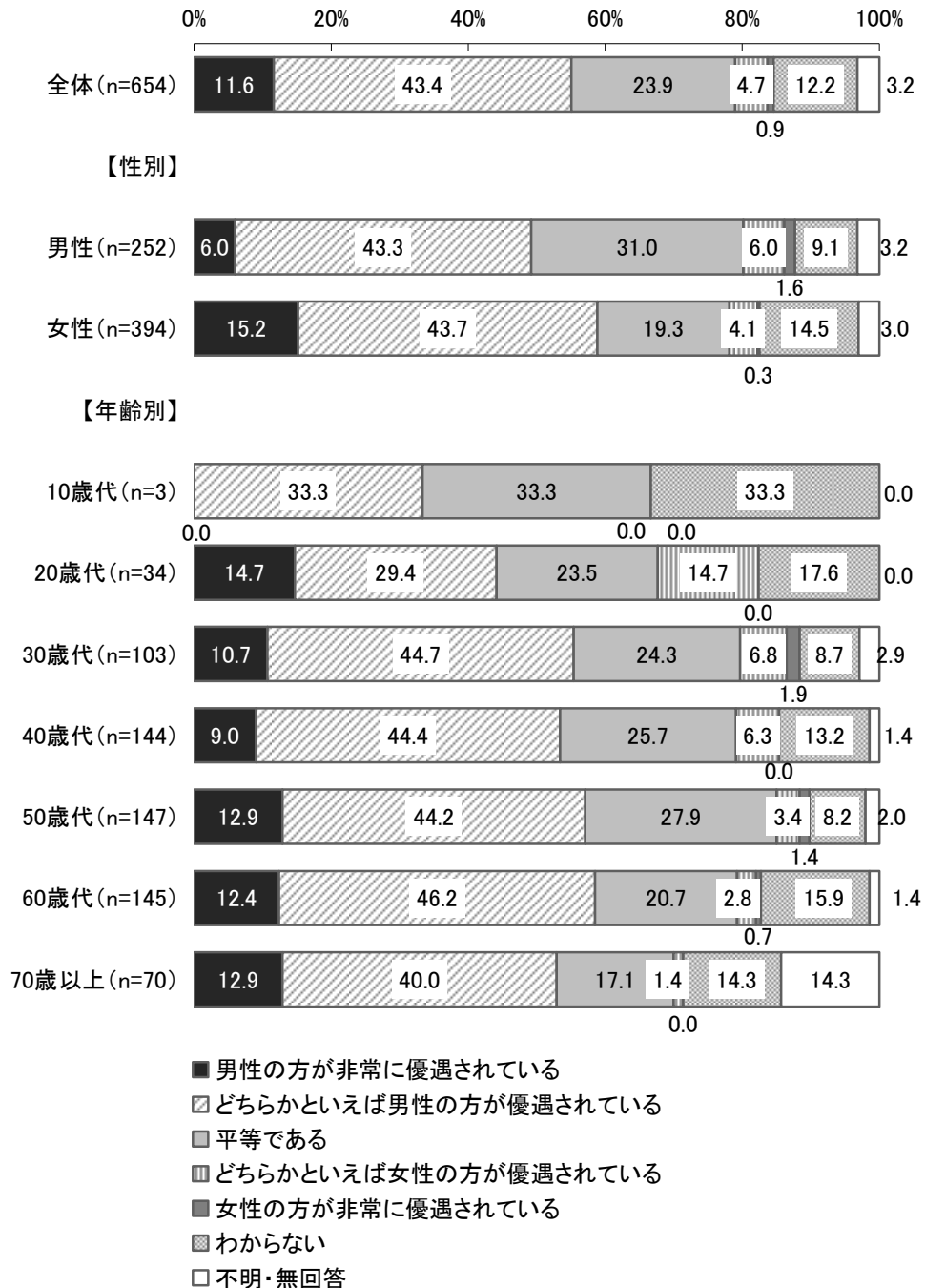
※全国に「不明・無回答」はなし

## B 職場のなかで

職場のなかで男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では【男性の方が優遇されている計】が55.0%、「平等である」が23.9%、【女性の方が優遇されている計】は5.6%となっています。

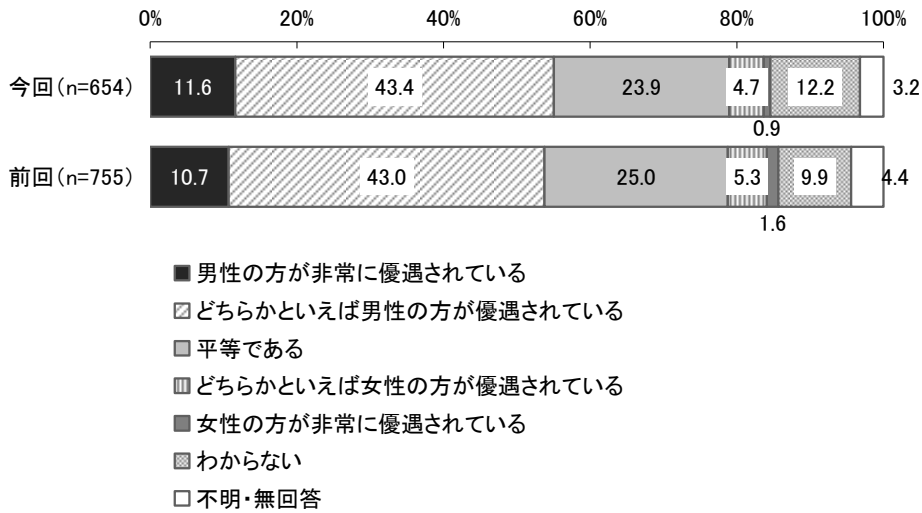
性別でみると、男性では「平等である」の割合が女性と比べて高く、女性では【男性の方が優遇されている計】の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代以上では【男性の方が優遇されている計】の割合が5割を超えています。



### <前回調査(平成 28 年)との比較>

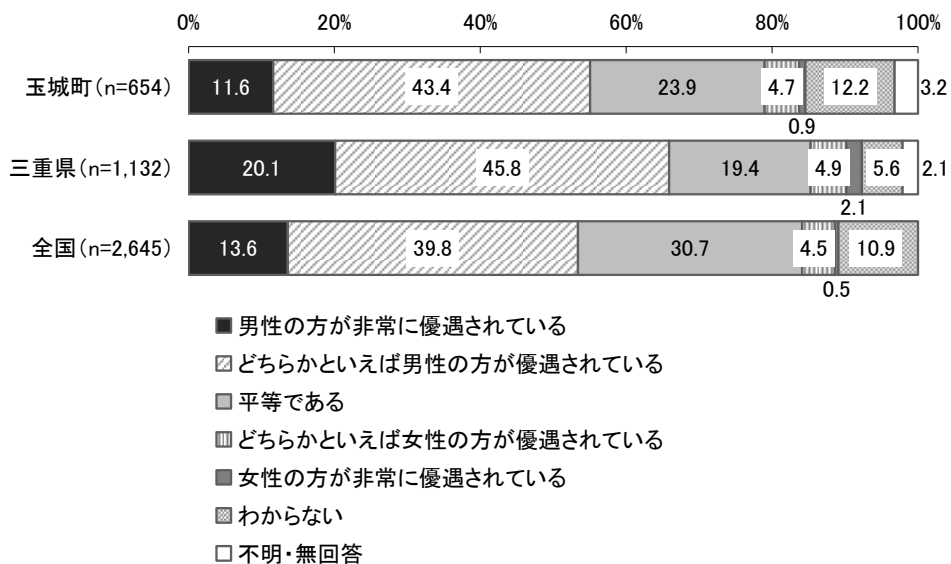
前回調査との比較では、大きな差異はみられません。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査と比較すると、三重県に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が低く、「平等である」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合では大きな差異はみられず、「平等である」の割合が低くなっています。

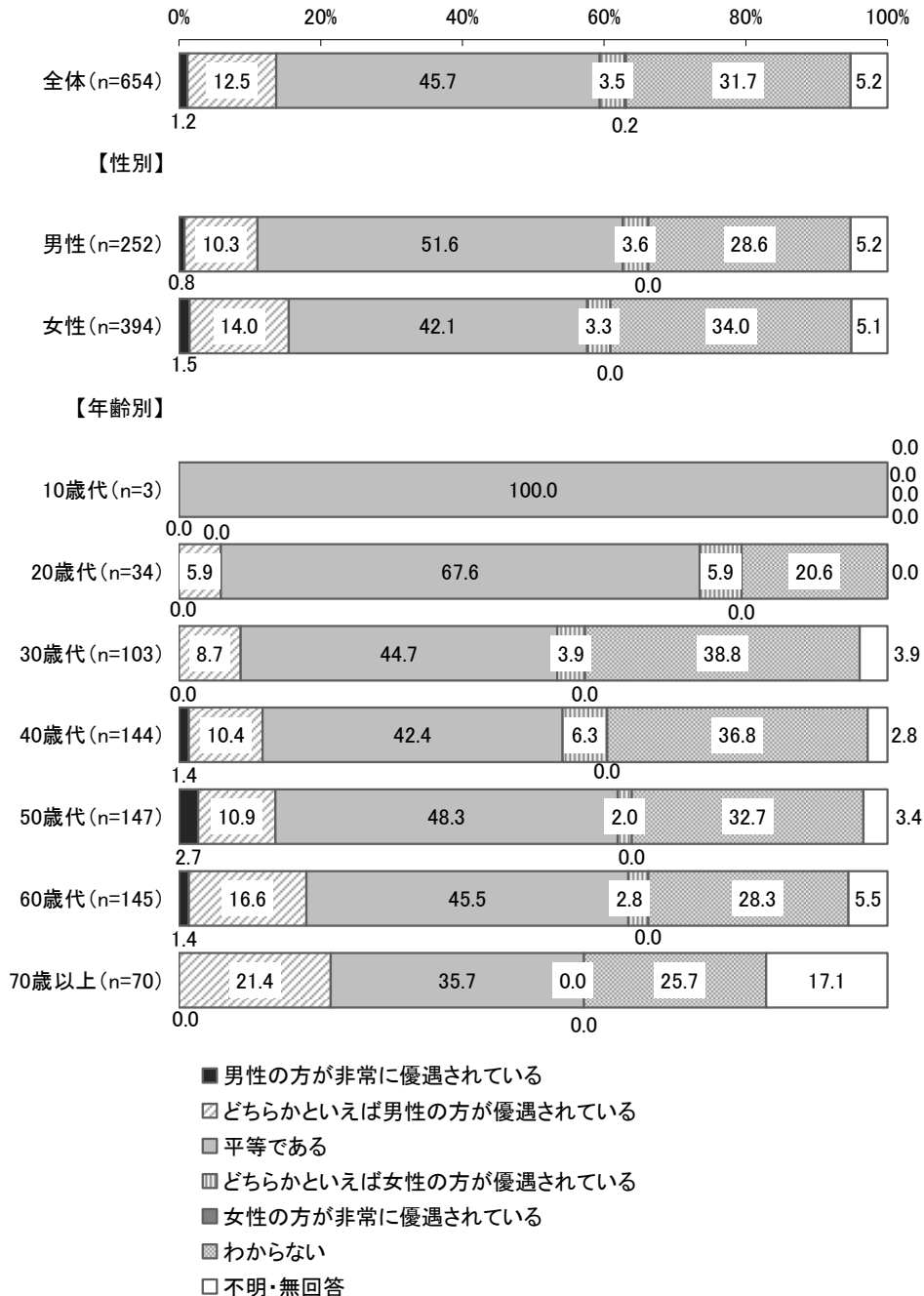


※全国に「不明・無回答」はなし

### C 学校のなかで

学校のなかで男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では「平等である」が 45.7%、【男性の方が優遇されている計】が 13.7%、【女性の方が優遇されている計】は 3.7%となっています。性別でみると、男性では「平等である」の割合が女性と比べて高くなっています。

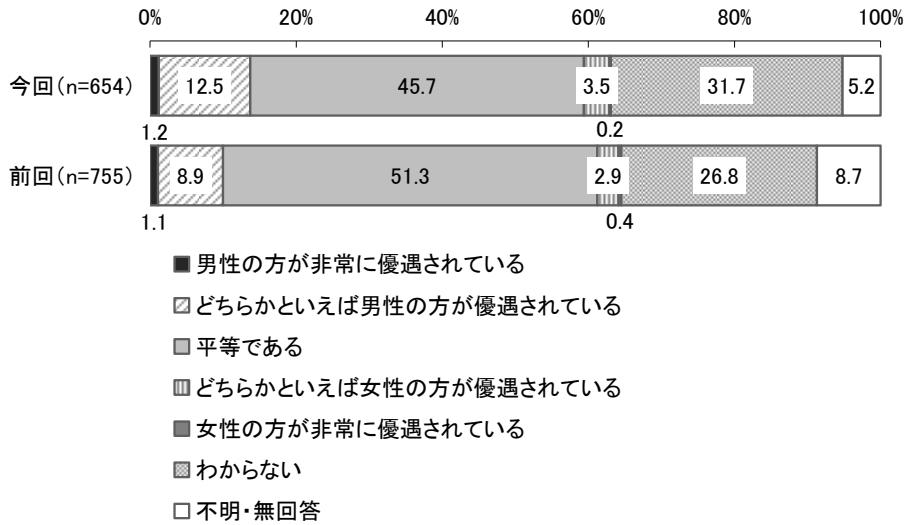
年齢別でみると、【男性の方が優遇されている計】の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、70歳以上では割合が2割を超えています。





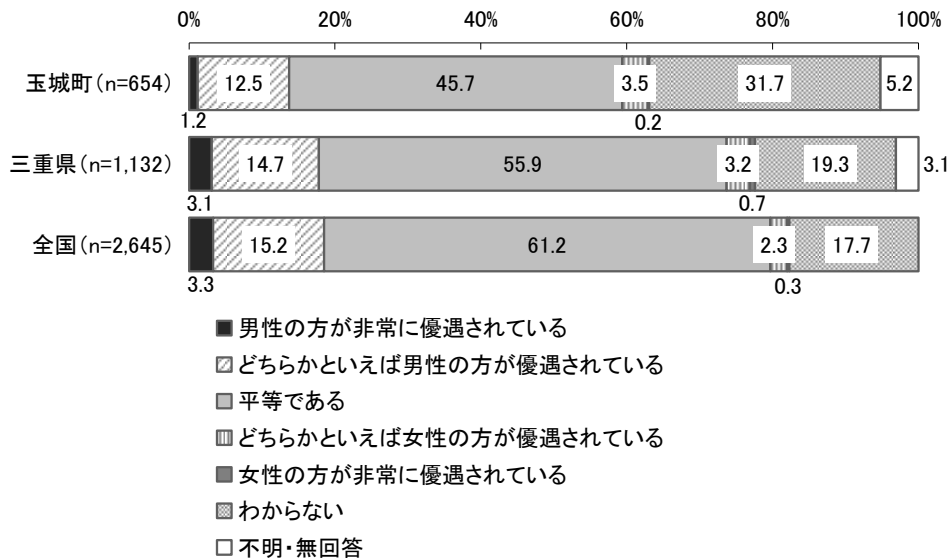
### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、【男性の方が優遇されている計】の割合が増加し、一方で「平等である」の割合が減少しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査、全国調査と比較すると、三重県・全国に比べ「平等である」の割合が低くなっています。



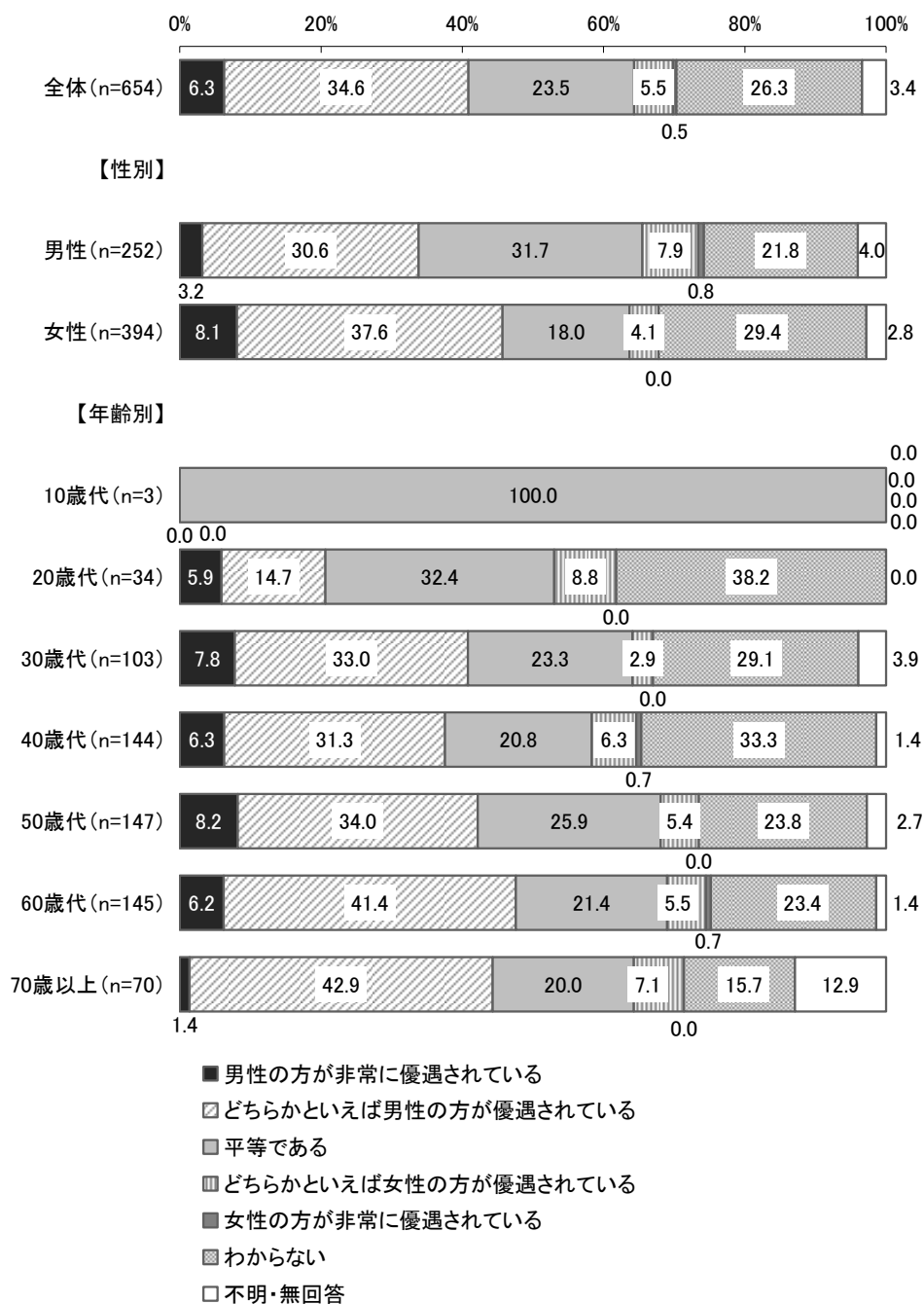
※全国に「不明・無回答」はなし

## D 地域のなかで

地域のなかで男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では【男性の方が優遇されている計】が40.9%、「平等である」が23.5%、【女性の方が優遇されている計】は6.0%となっています。

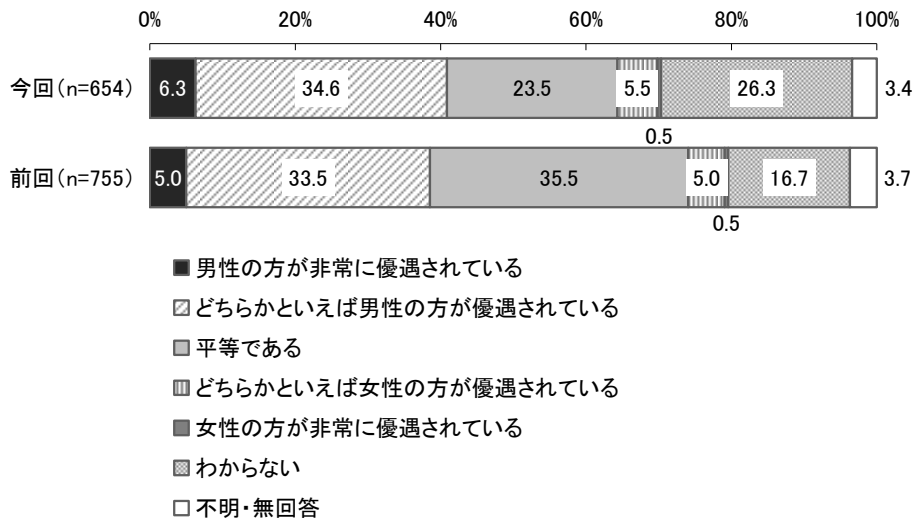
性別でみると、男性では「平等である」の割合が女性と比べて高く、女性では【男性の方が優遇されている計】の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代と50歳代以上では【男性の方が優遇されている計】の割合が4割を超えています。



### <前回調査(平成 28 年)との比較>

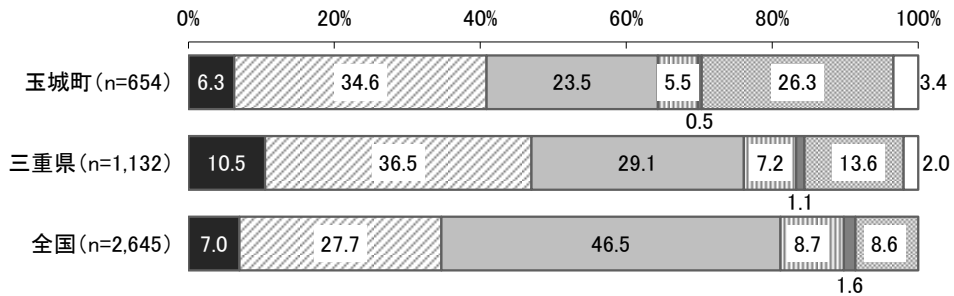
前回調査と比較すると、「平等である」の割合が減少しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査と比較すると、三重県に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 不明・無回答

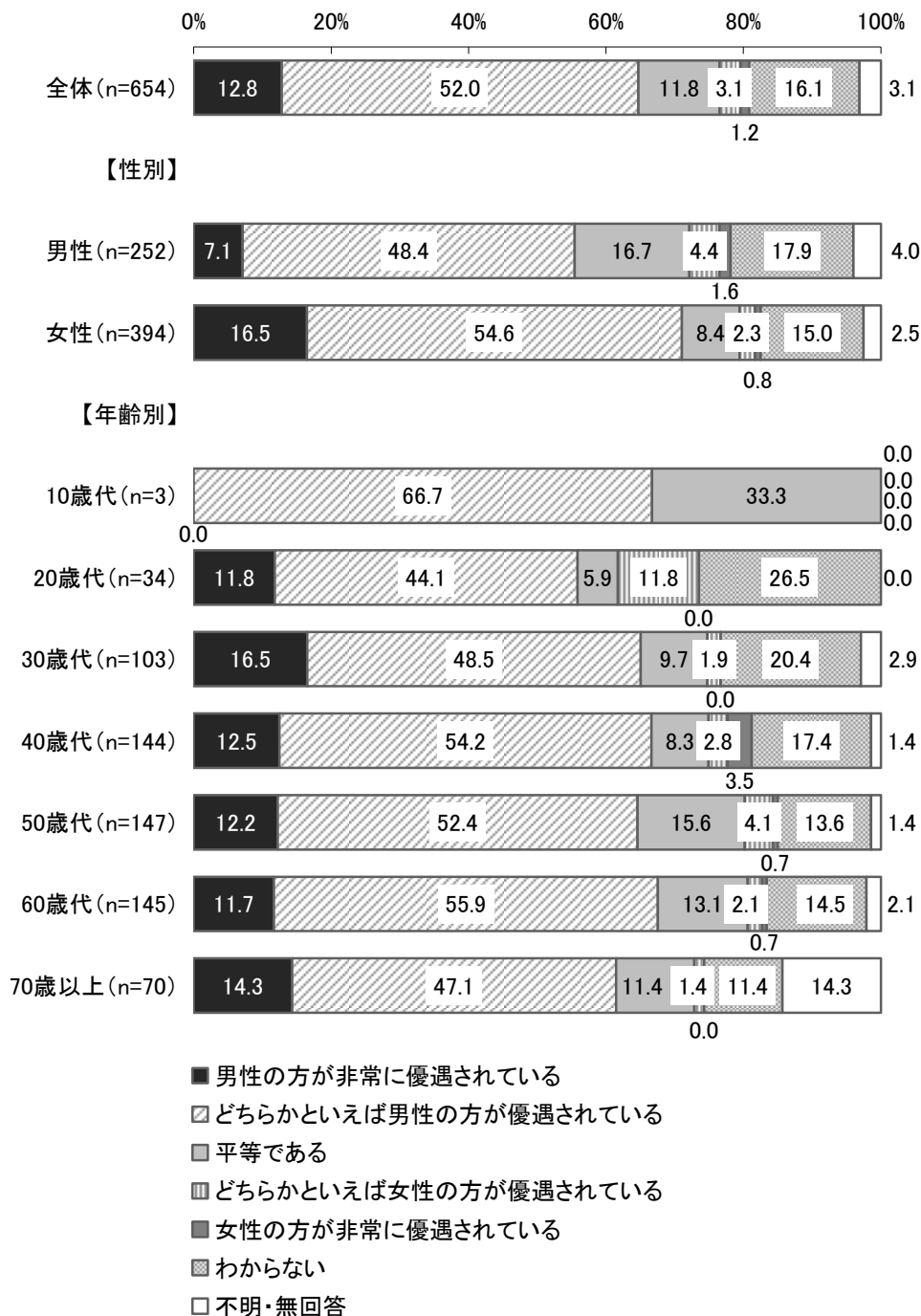
※全国に「不明・無回答」はなし

## E 社会通念や風潮で

社会通念や風潮において男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では【男性の方が優遇されている計】が 64.8%、「平等である」が 11.8%、【女性の方が優遇されている計】は 4.3%となっています。

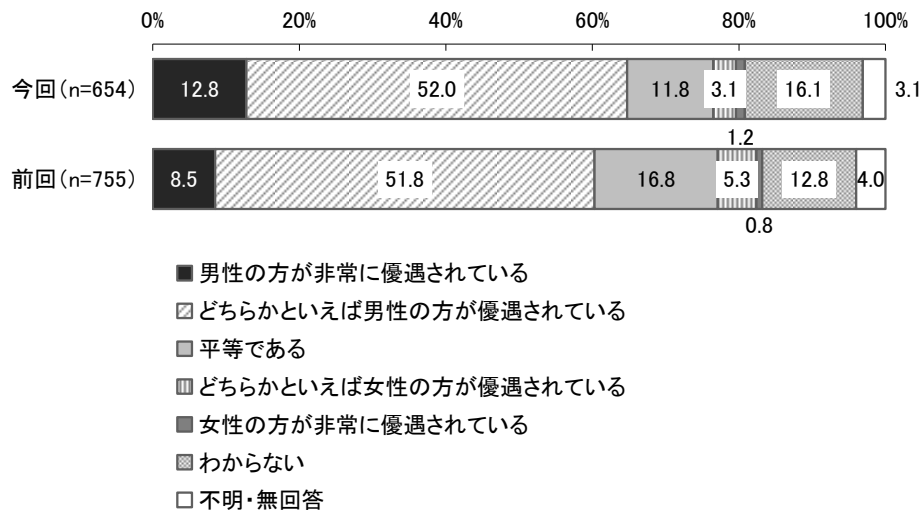
性別でみると、女性では【男性の方が優遇されている計】の割合が男性と比べて高く、7割を超えています。

年齢別でみると、30歳代以上では【男性の方が優遇されている計】の割合が6割を超えています。一方20歳代では【男性の方が優遇されている計】の割合が5割台と他の年齢区分と比べて低く、【女性の方が優遇されている計】の割合は1割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。



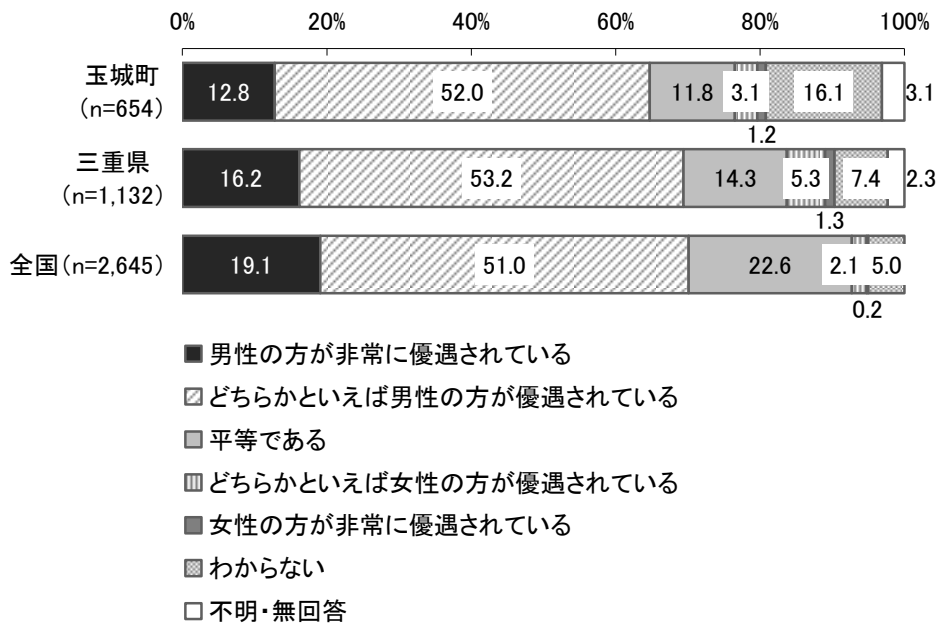
### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「平等である」の割合が減少し、【男性の方が優遇されている計】の割合が増加しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査、全国調査と比較すると、三重県・全国に比べ【男性の方が優遇されている計】「平等である」の割合がともに低くなっています。



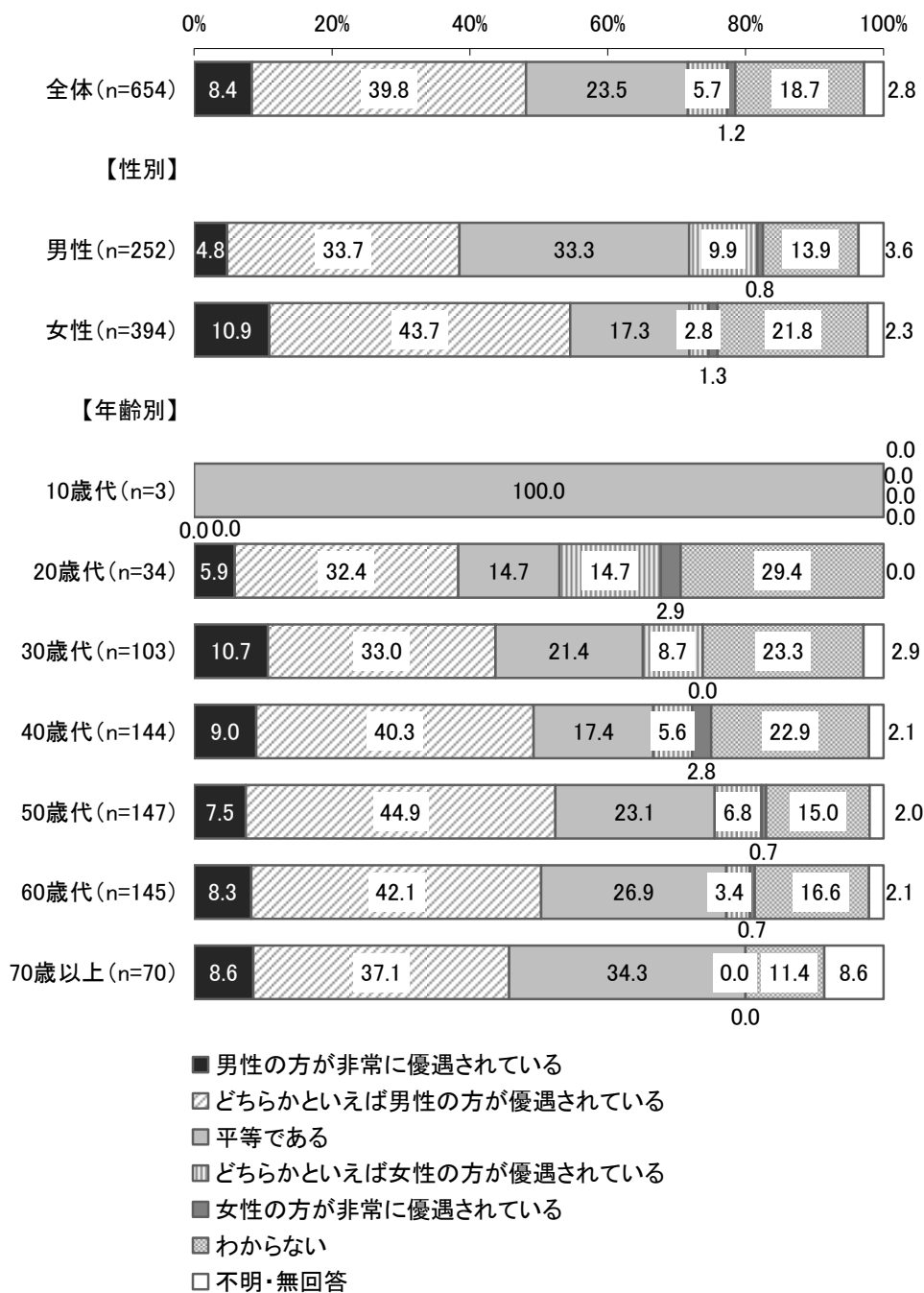
※全国に「不明・無回答」はなし

## F 法律や制度の上で

法律や制度の上で男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では【男性の方が優遇されている計】が48.2%、「平等である」が23.5%、【女性の方が優遇されている計】は6.9%となっています。

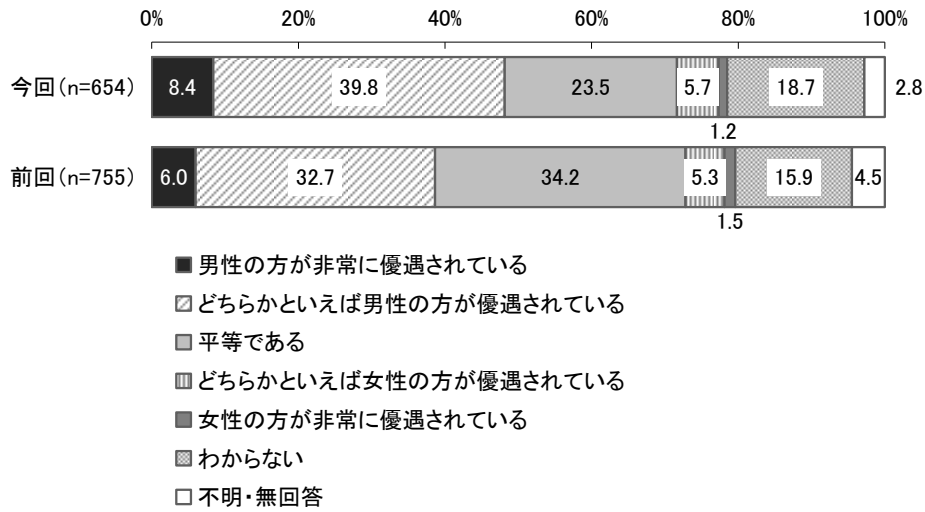
性別でみると、男性では「平等である」の割合が女性と比べて高く、女性では【男性の方が優遇されている計】の割合が男性と比べて高く、5割台となっています。

年齢別でみると、20歳代では【女性の方が優遇されている計】の割合が17.6%と他の年齢区分と比べて高くなっています。



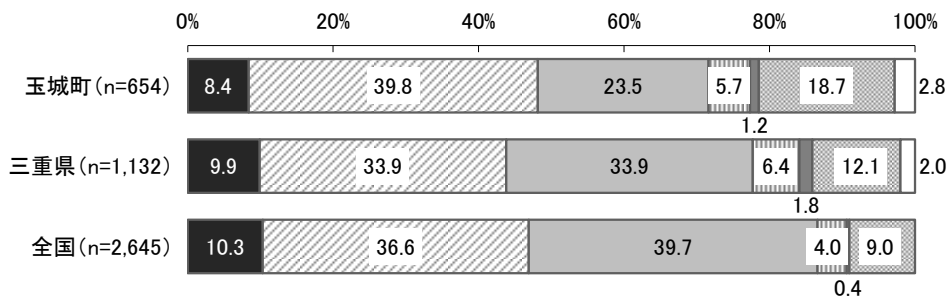
### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、【男性の方が優遇されている計】の割合が増加し、「平等である」の割合が減少しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査、全国調査と比較すると、三重県・全国に比べ「平等である」の割合が低くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 不明・無回答

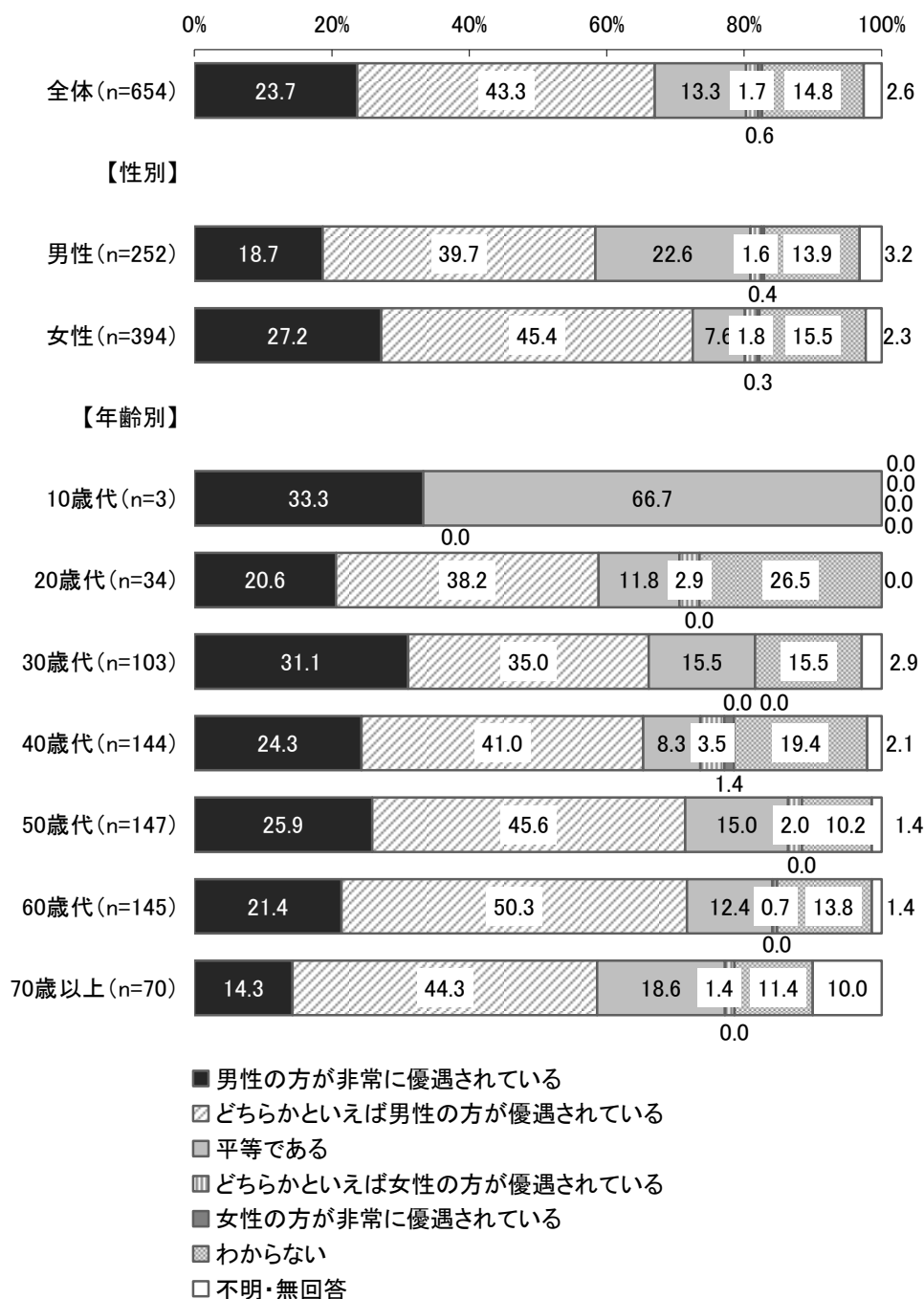
※全国に「不明・無回答」はなし

## G 政治(政策決定)の場で

政治(政策決定)の場で男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では【男性の方が優遇されている計】が67.0%、「平等である」が13.3%、【女性の方が優遇されている計】は2.3%となっています。

性別でみると、男性では「平等である」の割合が女性と比べて高く、女性では【男性の方が優遇されている計】の割合が72.6%と男性と比べて高くなっています。

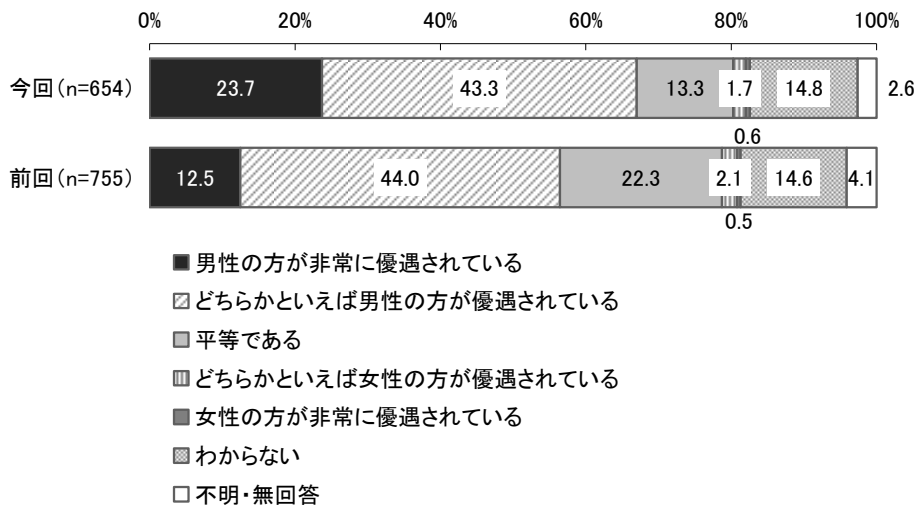
年齢別でみると、50歳代と60歳代では【男性の方が優遇されている計】の割合が他の年齢区分と比べて高く7割を超えています。





### <前回調査(平成 28 年)との比較>

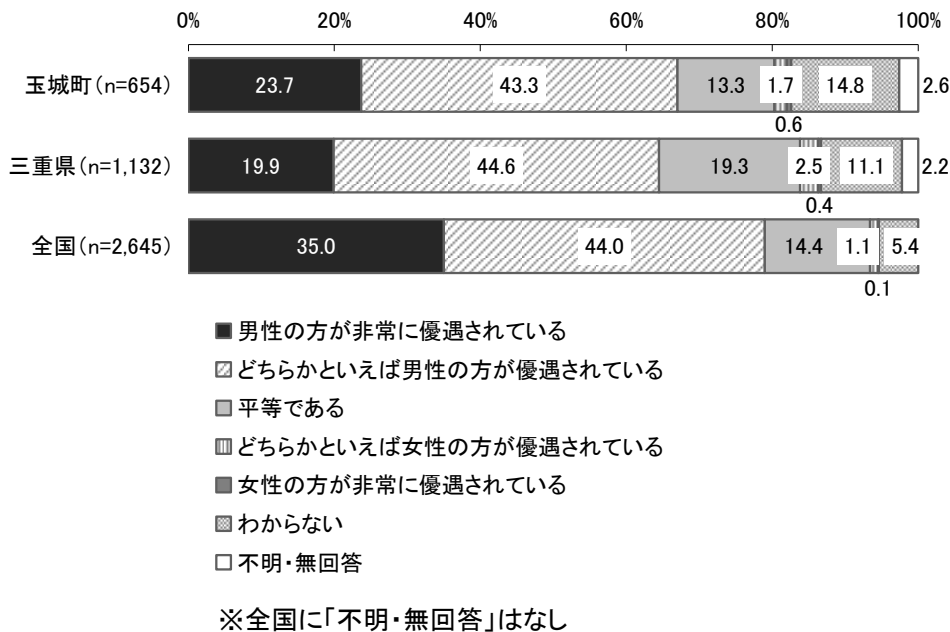
前回調査と比較すると、【男性の方が優遇されている計】の割合が増加し、「男性の方が非常に優遇されている」の割合は前回の 12.5%から 23.7%と 10 ポイント以上増加しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査と比較すると、三重県に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が高く、「平等である」の割合は低くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ【男性の方が優遇されている計】の割合が低くなっています。

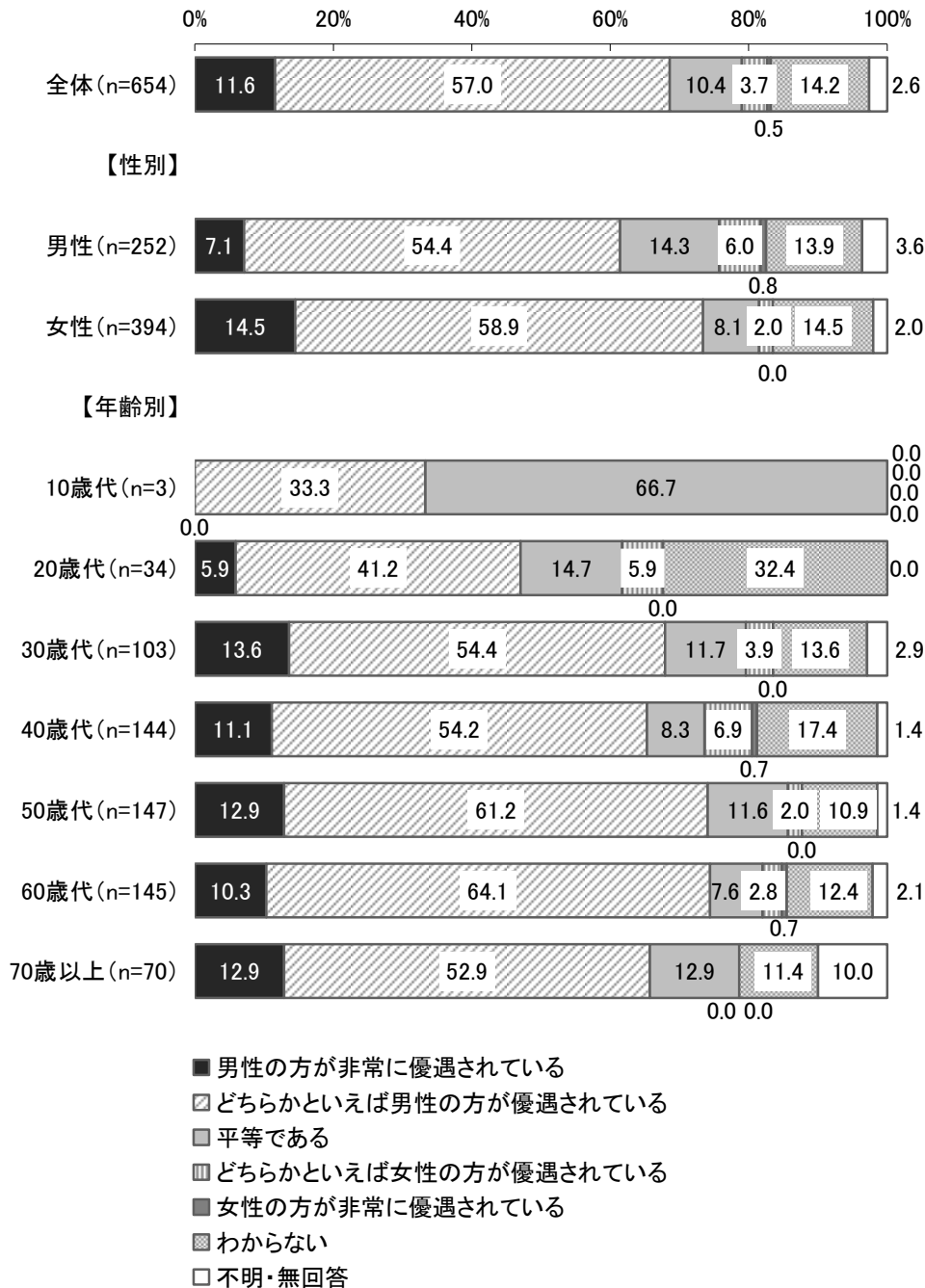


## H 社会全体で

社会全体で男女の地位が平等になっているかについてみると、全体では【男性の方が優遇されている計】が68.6%、「平等である」が10.4%、【女性の方が優遇されている計】は4.2%となっています。

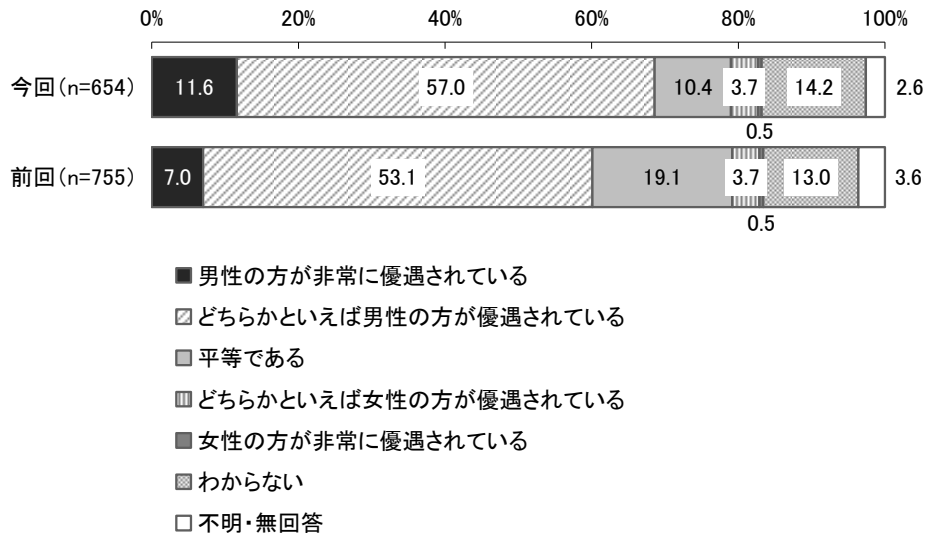
性別でみると、男性では「平等である」の割合が女性と比べて高く、女性では【男性の方が優遇されている計】の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代では【男性の方が優遇されている計】の割合が他の年齢区分と比べて低く5割以下となっています。



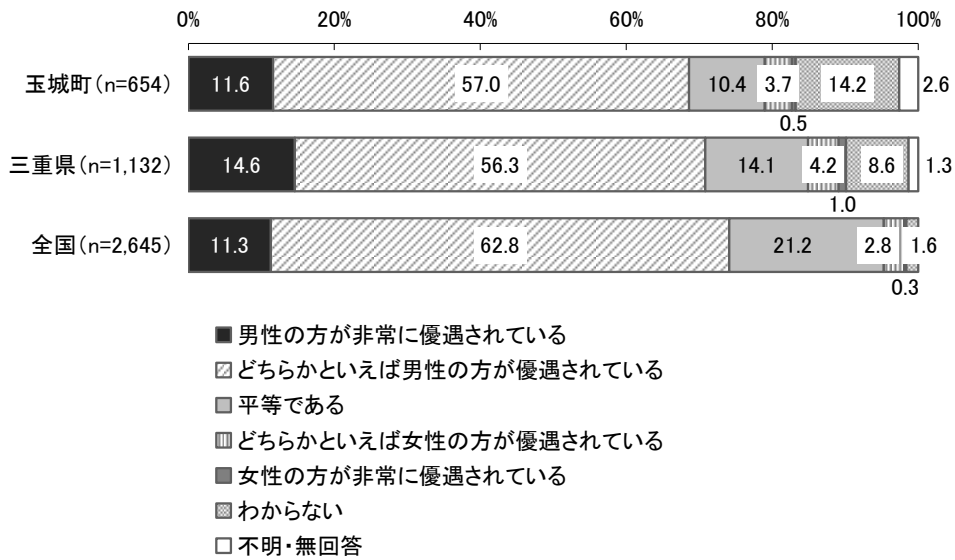
### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、【男性の方が優遇されている計】の割合が増加し、「平等である」の割合が減少しています。



### <県調査・全国調査との比較>

県調査、全国調査と比較すると、三重県・全国に比べ「平等である」の割合が低くなっています。



※全国に「不明・無回答」はなし

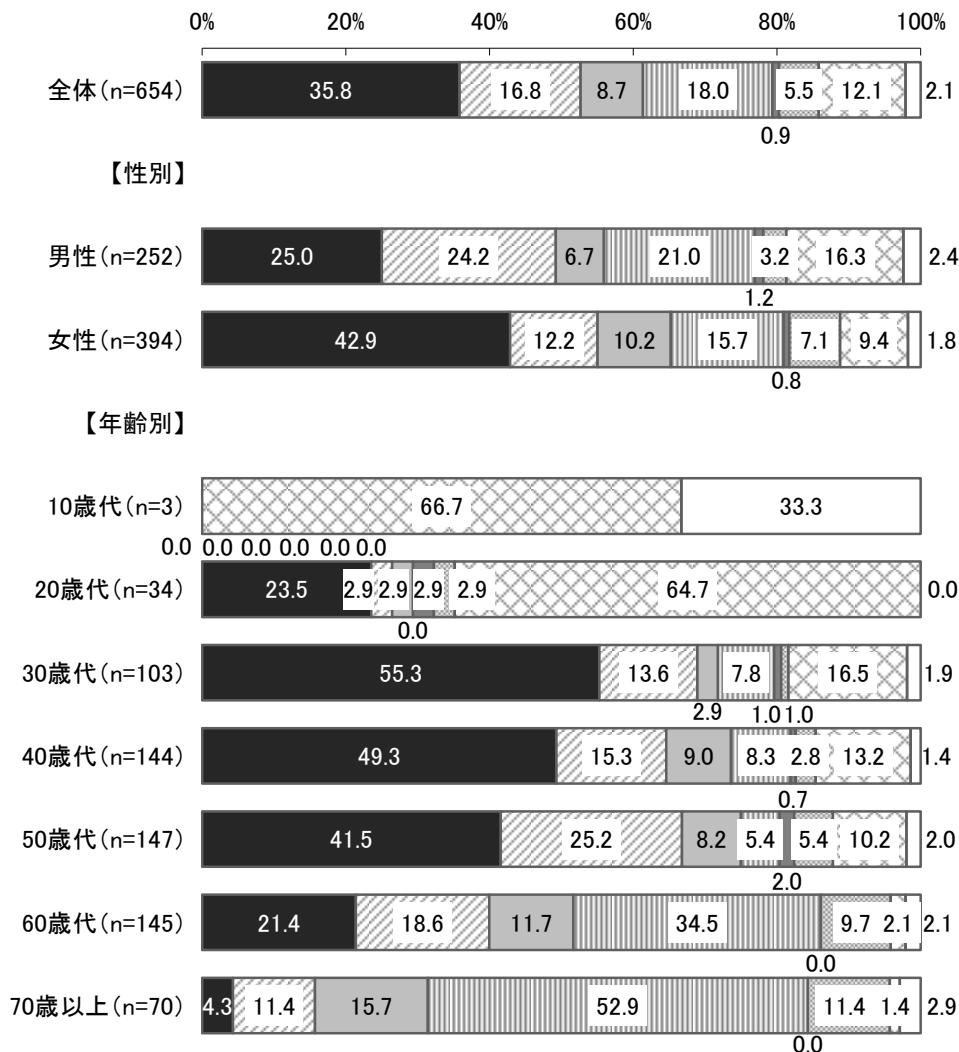
### 3 家庭生活について

#### 問9. あなたは結婚していますか。(○は1つまで)

結婚をしているかについてみると、全体では「既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:勤め人(フルタイム))」が35.8%と最も高く、次いで「既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:就労していない)」が18.0%、「既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:パートタイマー・アルバイト)」が16.8%となっています。

性別でみると、男性では「既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:パートタイマー・アルバイト)」の割合が女性と比べて高く、女性では「既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:勤め人(フルタイム))」の割合が男性と比べて高くなっています。

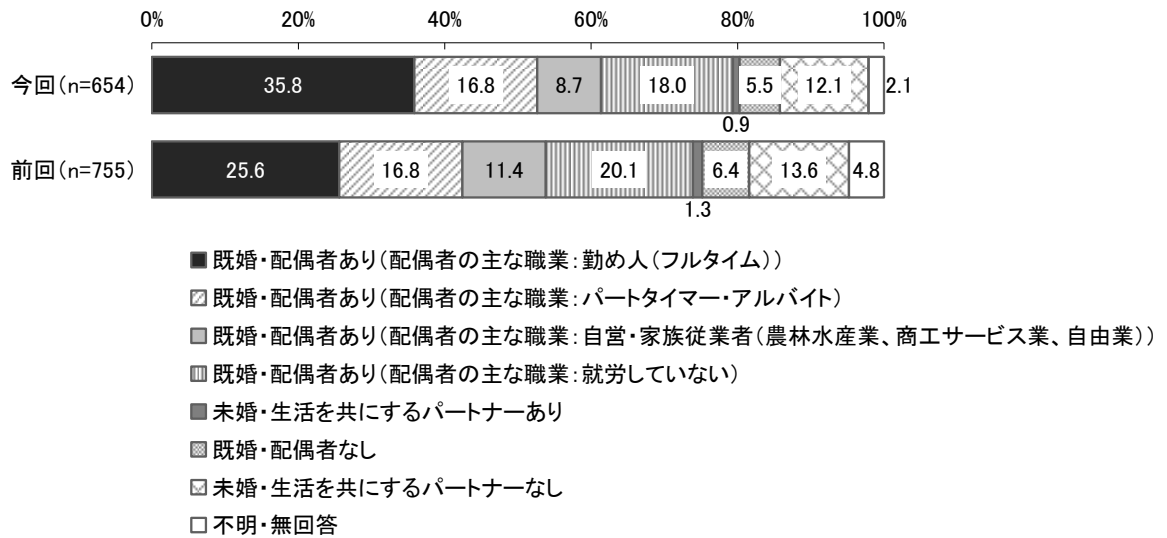
年齢別でみると、30歳代以上では「既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:勤め人(フルタイム))」の割合が、年齢が上がるにつれて低くなる傾向となっています。



- 既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:勤め人(フルタイム))
- ▨ 既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:パートタイマー・アルバイト)
- ▩ 既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:自営・家族従業者(農林水産業、商工サービス業、自由業))
- ▧ 既婚・配偶者あり(配偶者の主な職業:就労していない)
- 未婚・生活を共にするパートナーあり
- ▨ 既婚・配偶者なし
- ▩ 未婚・生活を共にするパートナーなし
- 不明・無回答

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「既婚・配偶者あり（配偶者の主な職業：勤め人（フルタイム）」の割合が増加しています。



問9で「配偶者あり」「生活を共にするパートナーあり」と答えた方にお聞きします。

問 10. あなたの家庭では、A～Iのそれぞれについて、夫婦・パートナーの間でどのように行っていますか。

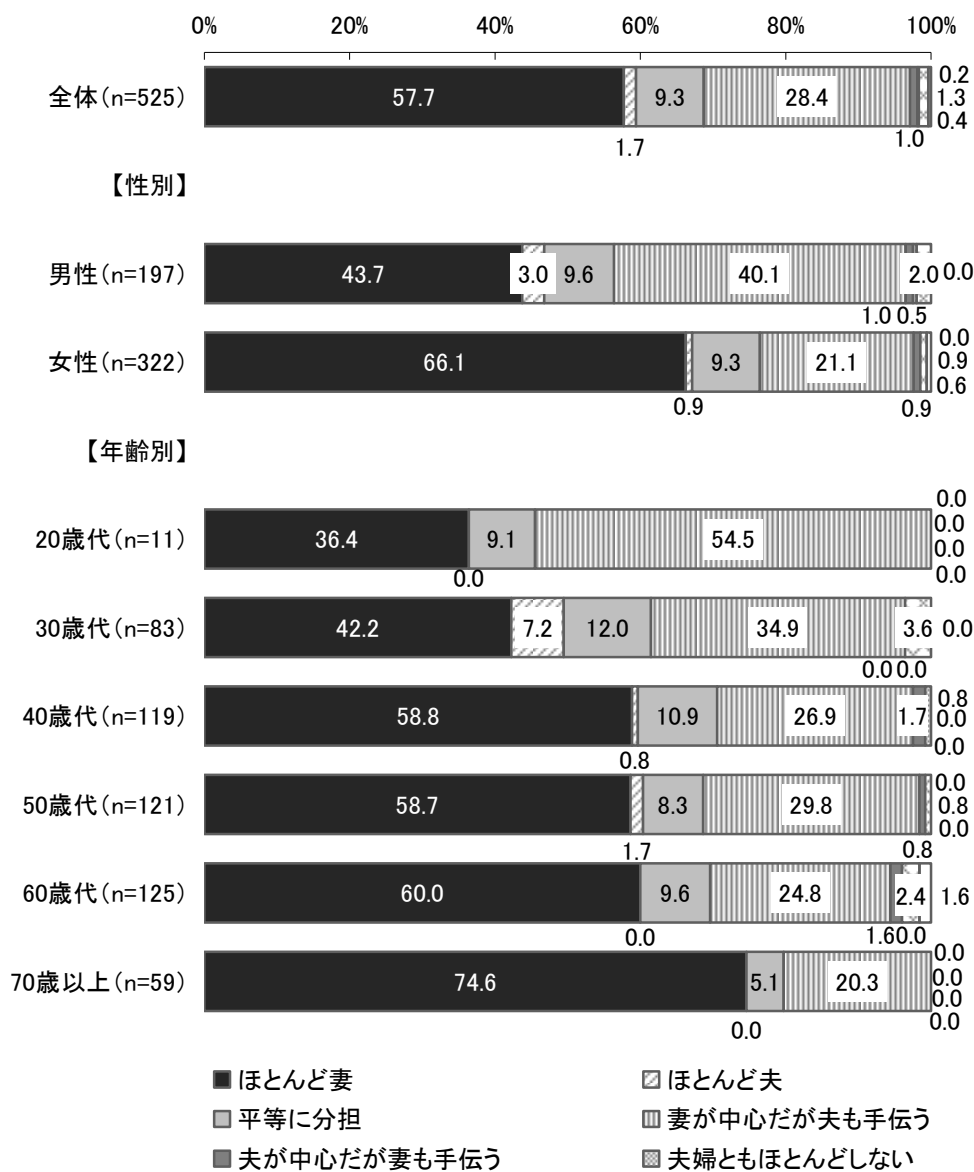
(A～Iのそれぞれについて、○は1つまで)

A 食事の支度・後片付け

食事の支度・後片付けについて、夫婦・パートナーの間でどのように行っているかについてみると、全体では「ほとんど妻」が57.7%と最も高く、次いで「妻が中心だが夫も手伝う」が28.4%、「平等に分担」が9.3%となっています。

性別でみると、男性では「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が女性と比べて高く、女性では「ほとんど妻」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、「ほとんど妻」の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。一方で、20歳代では「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が他の年齢区分と比べて高く、5割を超えています。



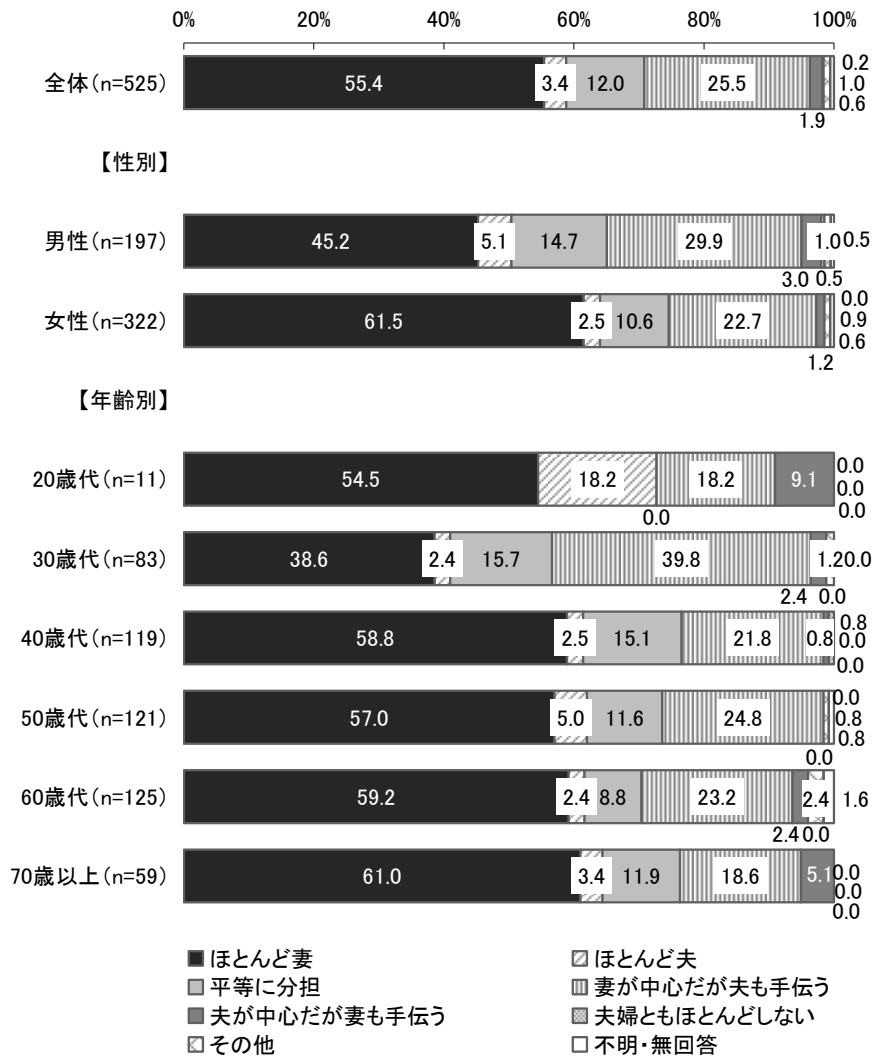
※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

## B 家の掃除

家の掃除について、全体では「ほとんど妻」が 55.4%と最も高く、次いで「妻が中心だが夫も手伝う」が 25.5%、「平等に分担」が 12.0%となっています。

性別でみると、女性では「ほとんど妻」の割合が男性と比べて高くなっています。

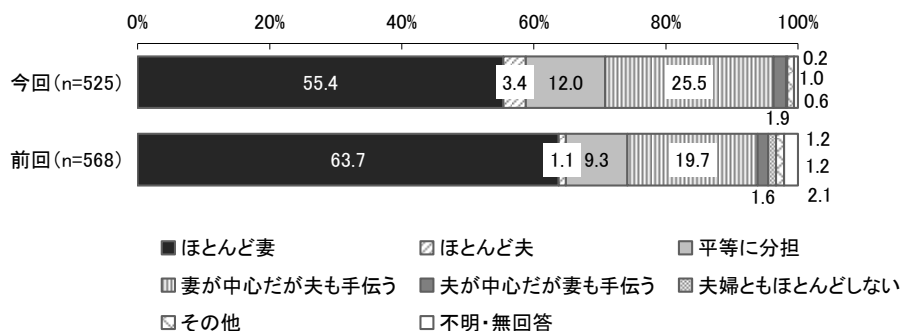
年齢別でみると、30歳代では「ほとんど妻」の割合が 38.6%と他の年齢区分と比べて低く、「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が 39.8%と他の年齢区分と比べて高くなっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少し、「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が増加しています。

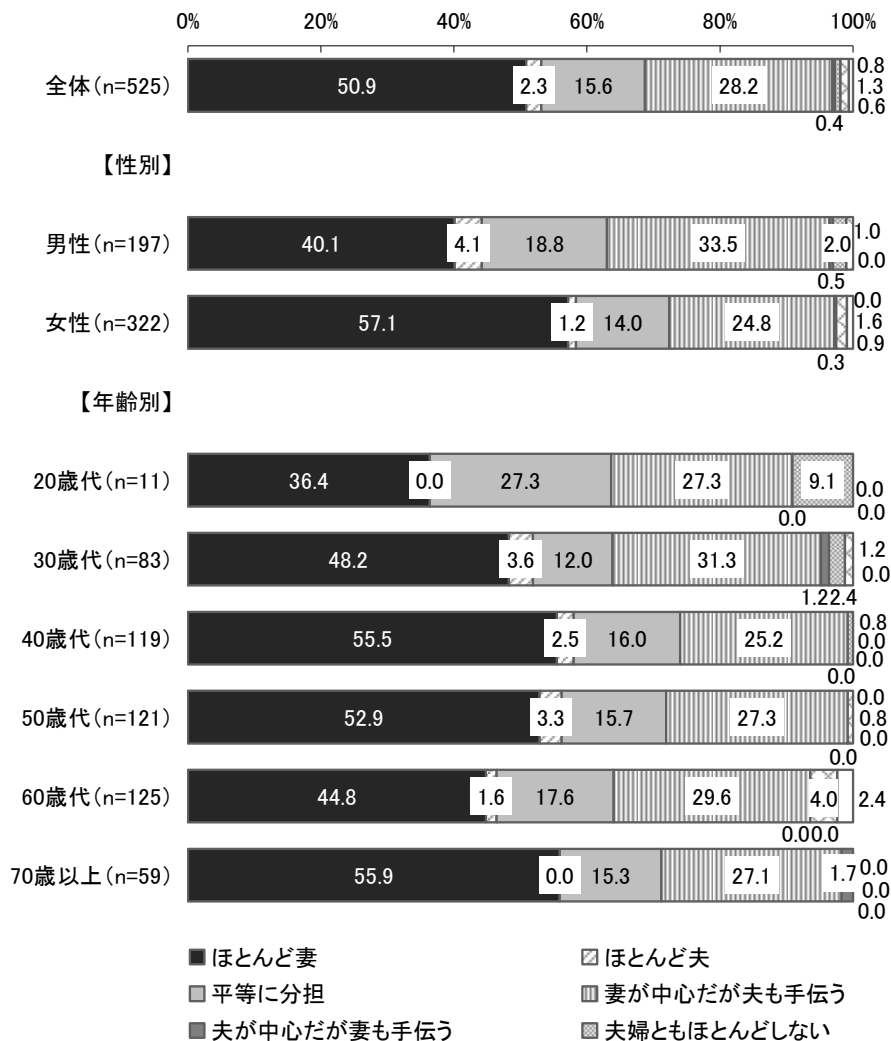


## C 買い物

買い物について、全体では「ほとんど妻」が 50.9%と最も高く、次いで「妻が中心だが夫も手伝う」が 28.2%、「平等に分担」が 15.6%となっています。

性別でみると、男性では「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が女性と比べて高くなっています。女性では「ほとんど妻」の割合が男性と比べて高く、5割台後半となっています。

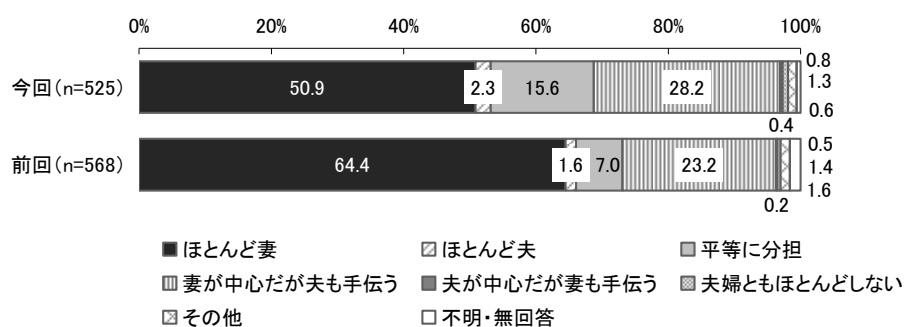
年齢別でみると、30歳代から70歳以上では「ほとんど妻」の割合は4割台半ばから5割台半ばと高くなっています。一方20歳代では「ほとんど妻」の割合が3割台と他の年齢区分と比べて低く、「平等に分担」の割合は27.3%と他の年齢区分と比べて高くなっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少し、「平等に分担」「妻が中心だが夫も手伝う」の割合が増加しています。



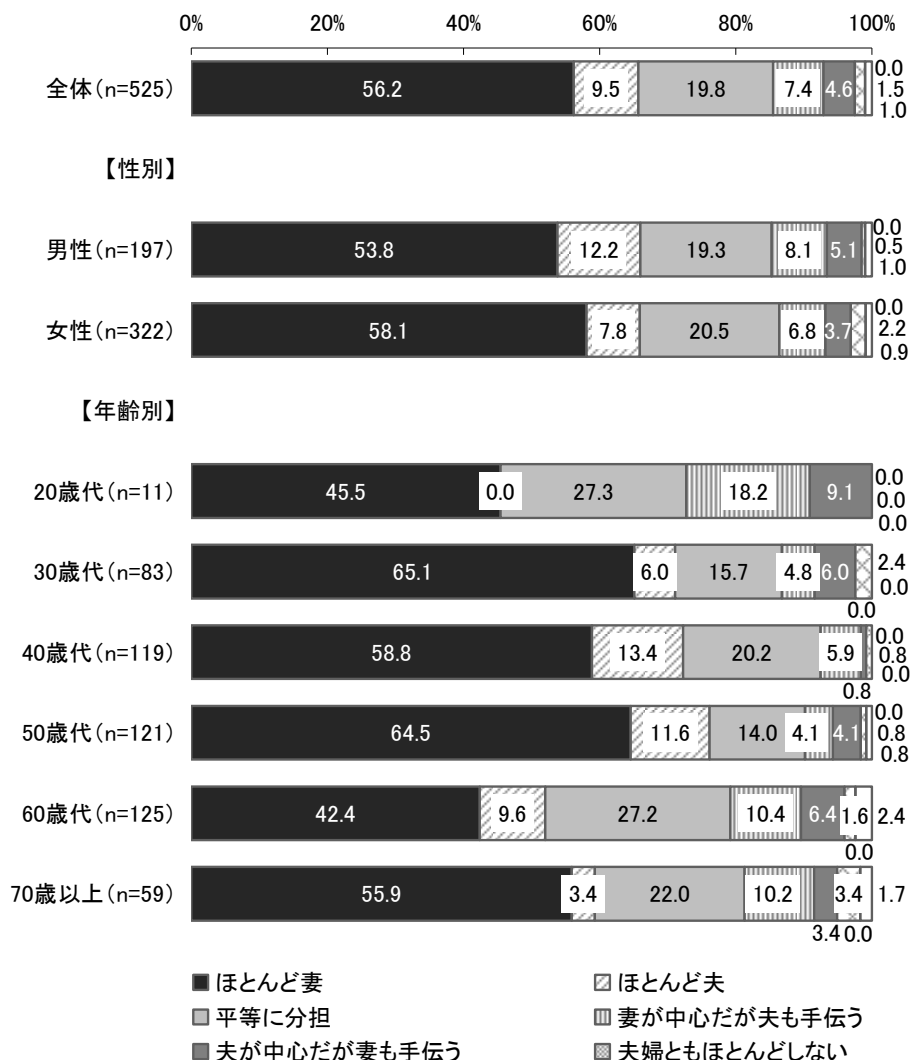


## D 日常の金銭管理

日常の金銭管理について、全体では「ほとんど妻」が 56.2%と最も高く、次いで「平等に分担」が 19.8%、「ほとんど夫」が 9.5%となっています。

性別でみると、男性では「ほとんど夫」の割合が女性と比べて高くなっています。

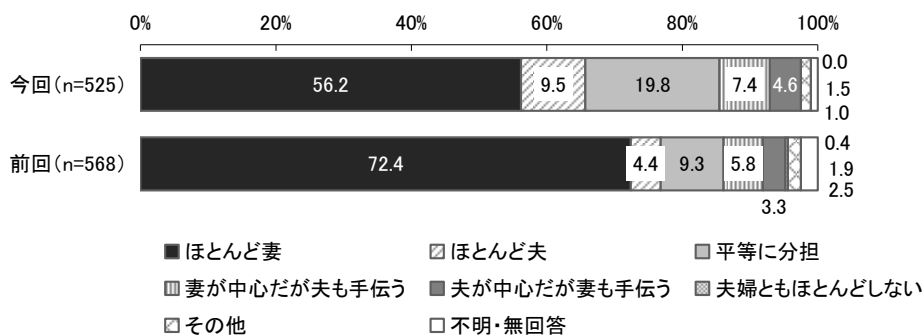
年齢別でみると、20歳代と60歳代では「ほとんど妻」の割合が他の年齢区分と比べて低く、4割台となっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少し、「ほとんど夫」「平等に分担」の割合が増加しています。

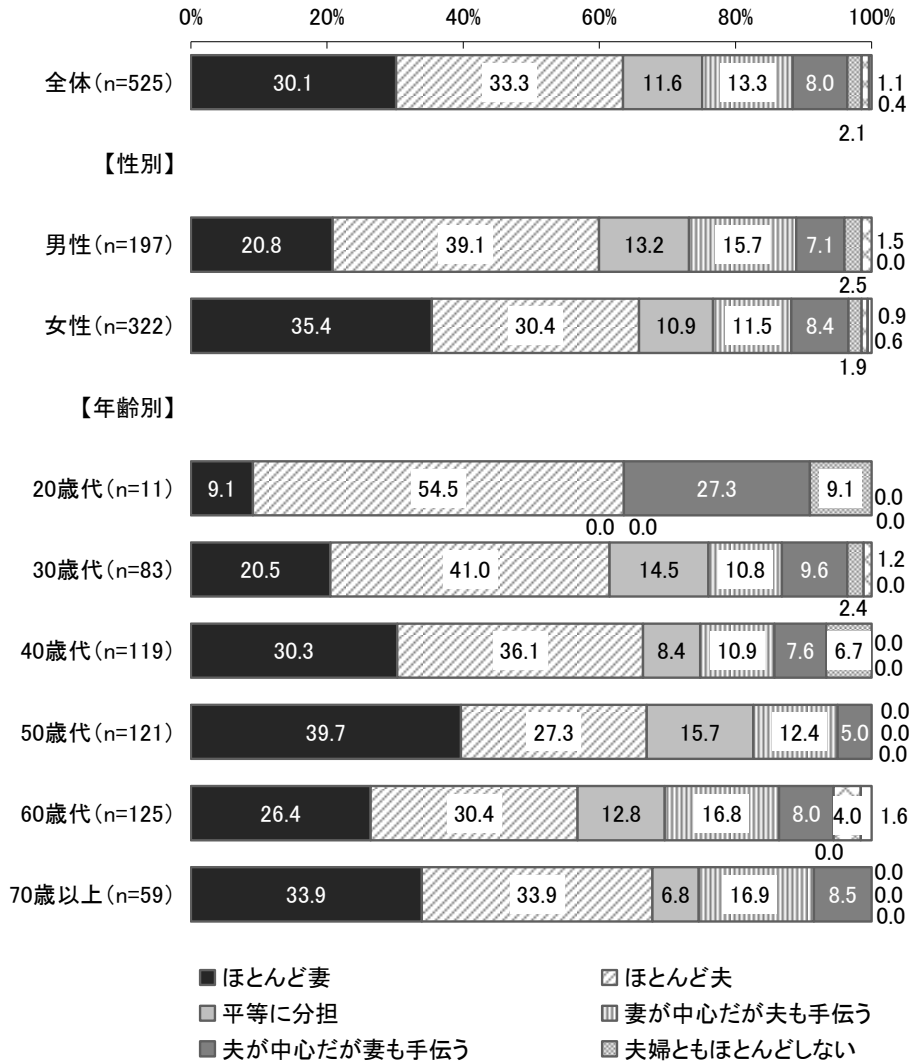


## E ゴミ捨て

ゴミ捨てについて、全体では「ほとんど夫」が33.3%と最も高く、次いで「ほとんど妻」が30.1%、「妻が中心だが夫も手伝う」が13.3%となっています。

性別でみると、男性では「ほとんど夫」の割合が女性と比べて高く、女性では「ほとんど妻」の割合が男性と比べて高くなっています。

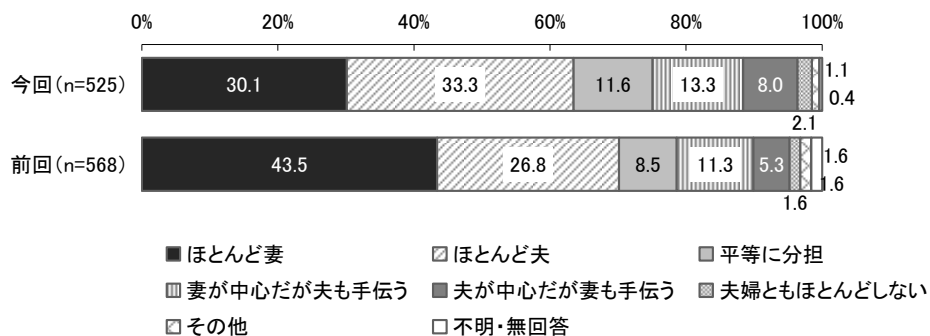
年齢別でみると、20歳代と30歳代では「ほとんど夫」の割合が4割台から5割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少し、「ほとんど夫」の割合が増加しています。

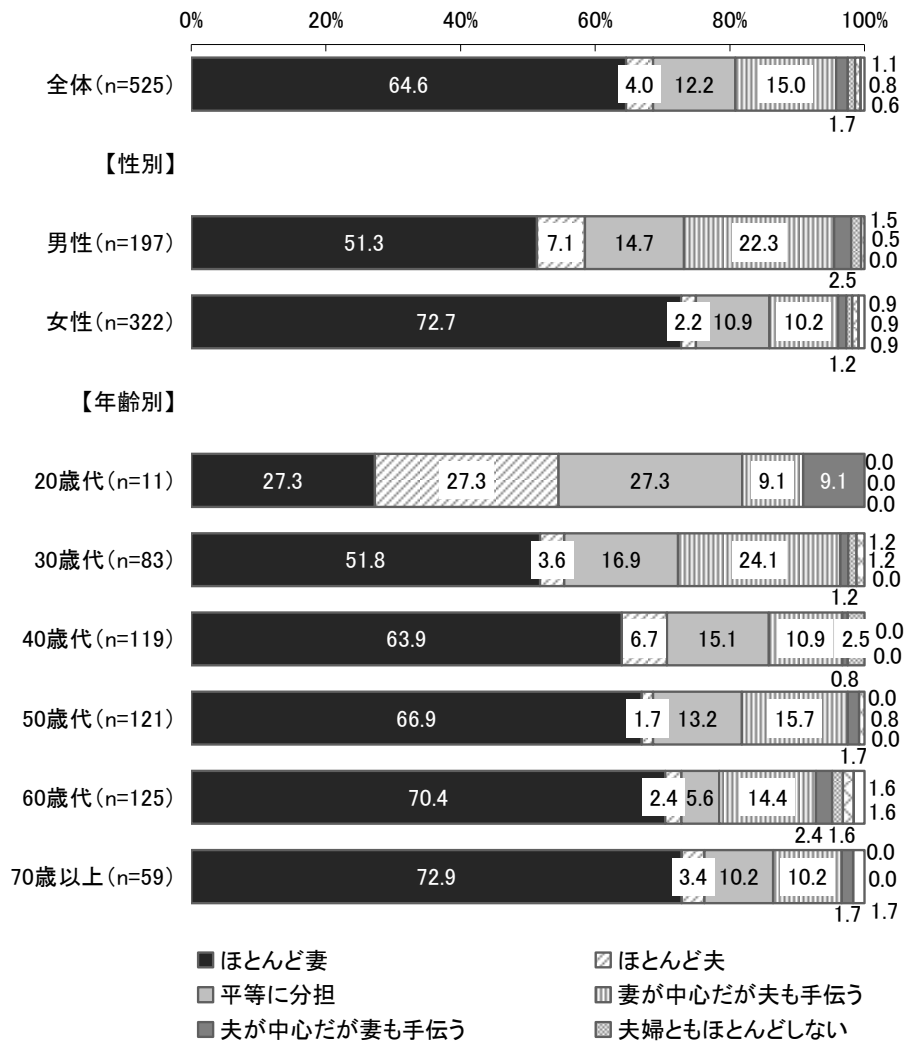


## F 洗濯

洗濯について、全体では「ほとんど妻」が64.6%と最も高く、次いで「妻が中心だが夫も手伝う」が15.0%、「平等に分担」が12.2%となっています。

性別でみると、女性では「ほとんど妻」の割合が72.7%と男性と比べて高くなっています。

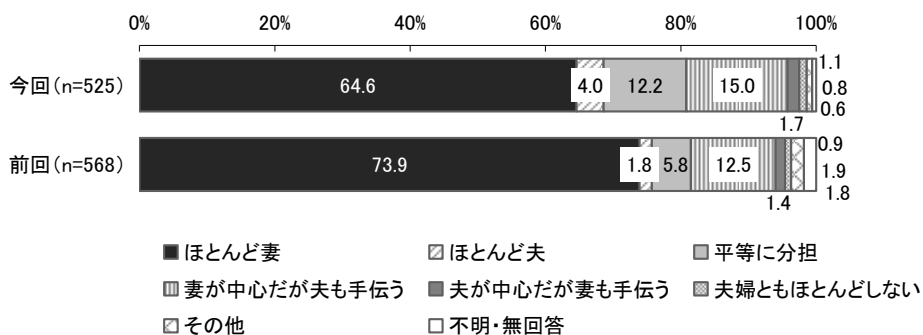
年齢別でみると、「ほとんど妻」の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60歳代以上では7割を超えています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少しています。一方で「平等に分担」の割合は増加し、1割を超えています。

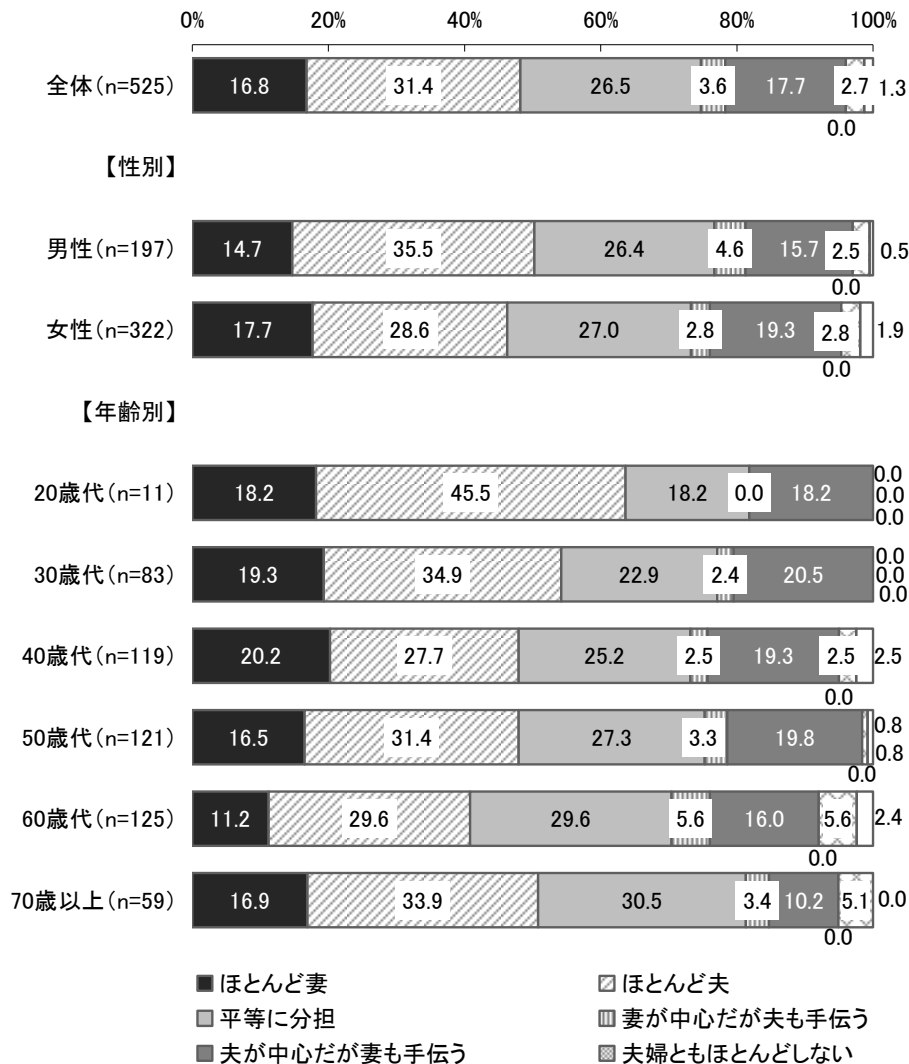


## G 生活費の確保

生活費の確保について、全体では「ほとんど夫」が 31.4%と最も高く、次いで「平等に分担」が 26.5%、「夫が中心だが妻も手伝う」が 17.7%となっています。

性別でみると、男性では「ほとんど夫」の割合が女性と比べて高くなっています。

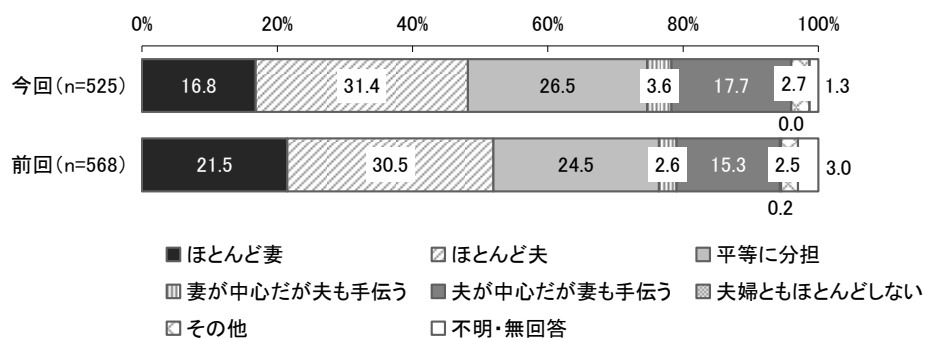
年齢別でみると、「平等に分担」の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少している以外、大きな差異はみられません。

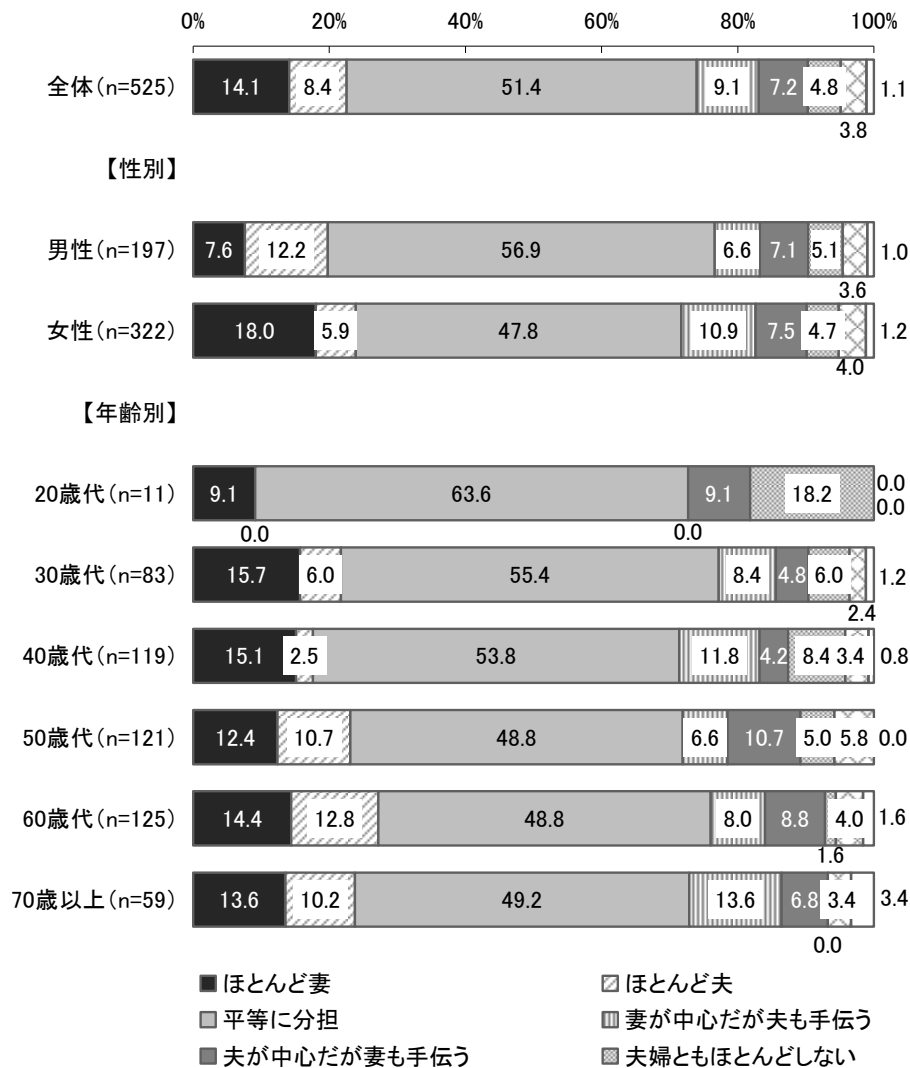


## H 親戚とのつきあい

親戚とのつきあいについて、全体では「平等に分担」が51.4%と最も高く、次いで「ほとんど妻」が14.1%、「妻が中心だが夫も手伝う」が9.1%となっています。

性別でみると、男性では「平等に分担」の割合が女性と比べて高く、女性では「ほとんど妻」の割合が男性と比べて高くなっています。

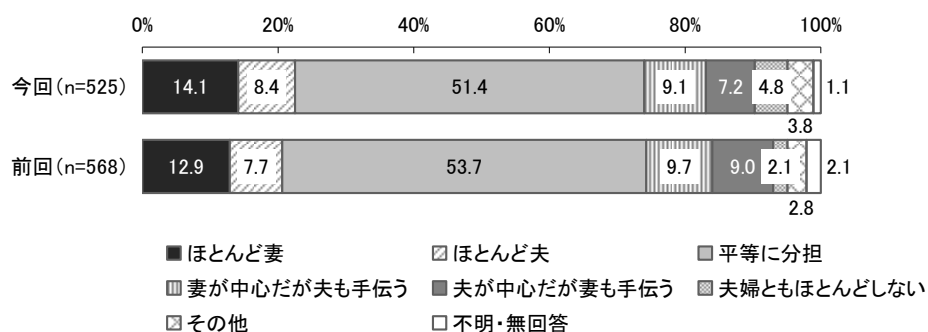
年齢別でみると、50歳代以上では「ほとんど妻」と「ほとんど夫」の割合は大きく変わらずともに1割台となっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査との比較では、大きな差異はみられません。

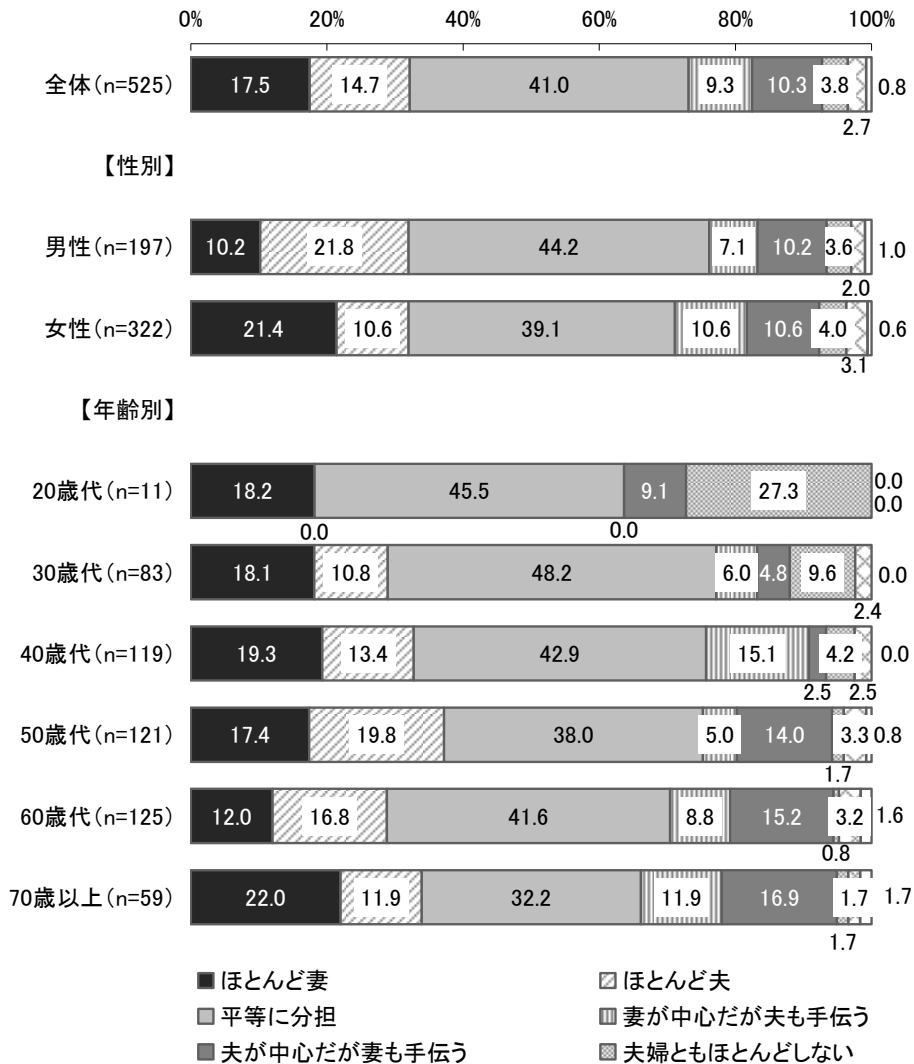


## Ⅰ 地域・近所とのつきあい

地域・近所とのつきあいについて、全体では「平等に分担」が41.0%と最も高く、次いで「ほとんど妻」が17.5%、「ほとんど夫」が14.7%となっています。

性別でみると、男性では「ほとんど夫」の割合が女性と比べて高く、女性では「ほとんど妻」の割合が男性と比べて高くなっています。

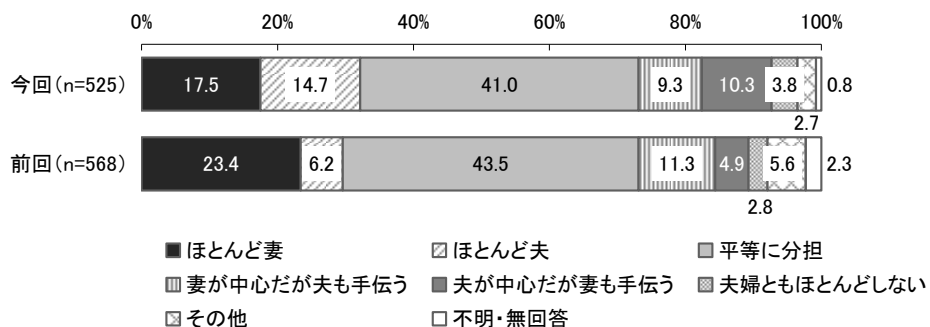
年齢別でみると、70歳以上では「ほとんど妻」の割合が他の年齢区分と比べて高く、一方で、「平等に分担」の割合は他の年齢区分と比べて低くなっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成28年)との比較>

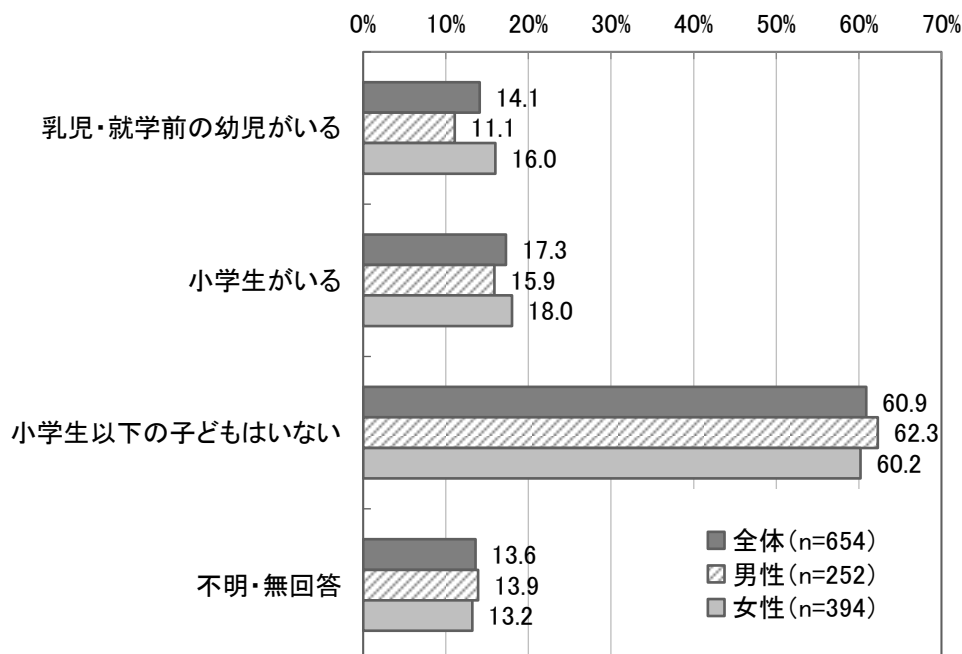
前回調査と比較すると、「ほとんど妻」の割合が減少しています。一方「ほとんど夫」の割合は増加し1割を超えています。



### 問 11. あなたの家庭には、同居している小学生以下の子どもがいますか。(〇はいくつでも)

小学生以下の子どもと同居しているかについてみると、全体では「小学生以下の子どもはいない」が60.9%と最も高く、次いで「小学生がいる」が17.3%、「乳児・就学前の幼児がいる」が14.1%となっています。

性別でみると、男性では「小学生以下の子どもはいない」の割合が女性と比べて高く、女性では「乳児・就学前の幼児がいる」「小学生がいる」の割合が男性と比べて高くなっています。



### <年齢別>

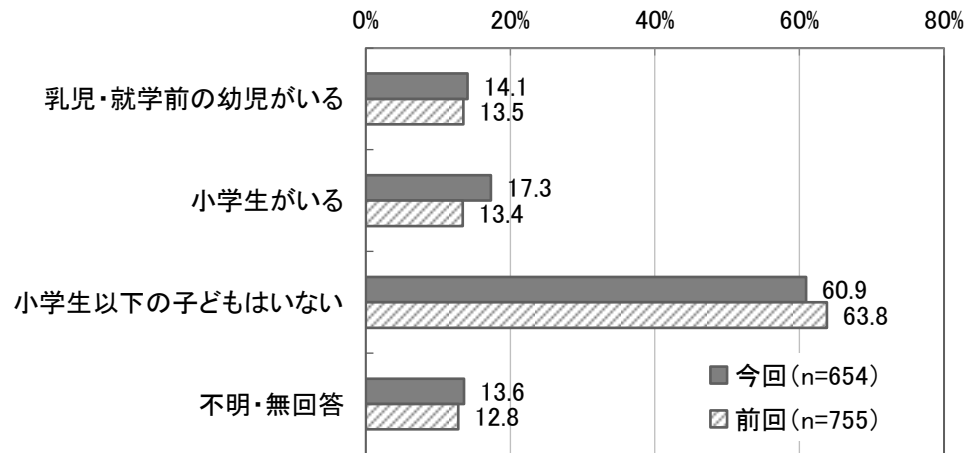
年齢別でみると、20歳代と40歳代以上では「小学生以下の子どもはいない」の割合が最も高く、30歳代では「乳児・就学前の幼児がいる」の割合が高くなっています。

単位：%

年齢	乳児・就学前の幼児がいる	小学生がいる	小学生以下の子どもはいない	不明・無回答
10歳代 (n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0
20歳代 (n=34)	23.5	0.0	76.5	0.0
30歳代 (n=103)	49.5	43.7	23.3	7.8
40歳代 (n=144)	10.4	34.7	54.9	5.6
50歳代 (n=147)	3.4	6.8	80.3	10.2
60歳代 (n=145)	5.5	1.4	73.8	20.7
70歳以上 (n=70)	5.7	5.7	52.9	37.1

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「小学生がいる」の割合が増加し、「小学生以下の子どもはいない」の割合は減少しています。





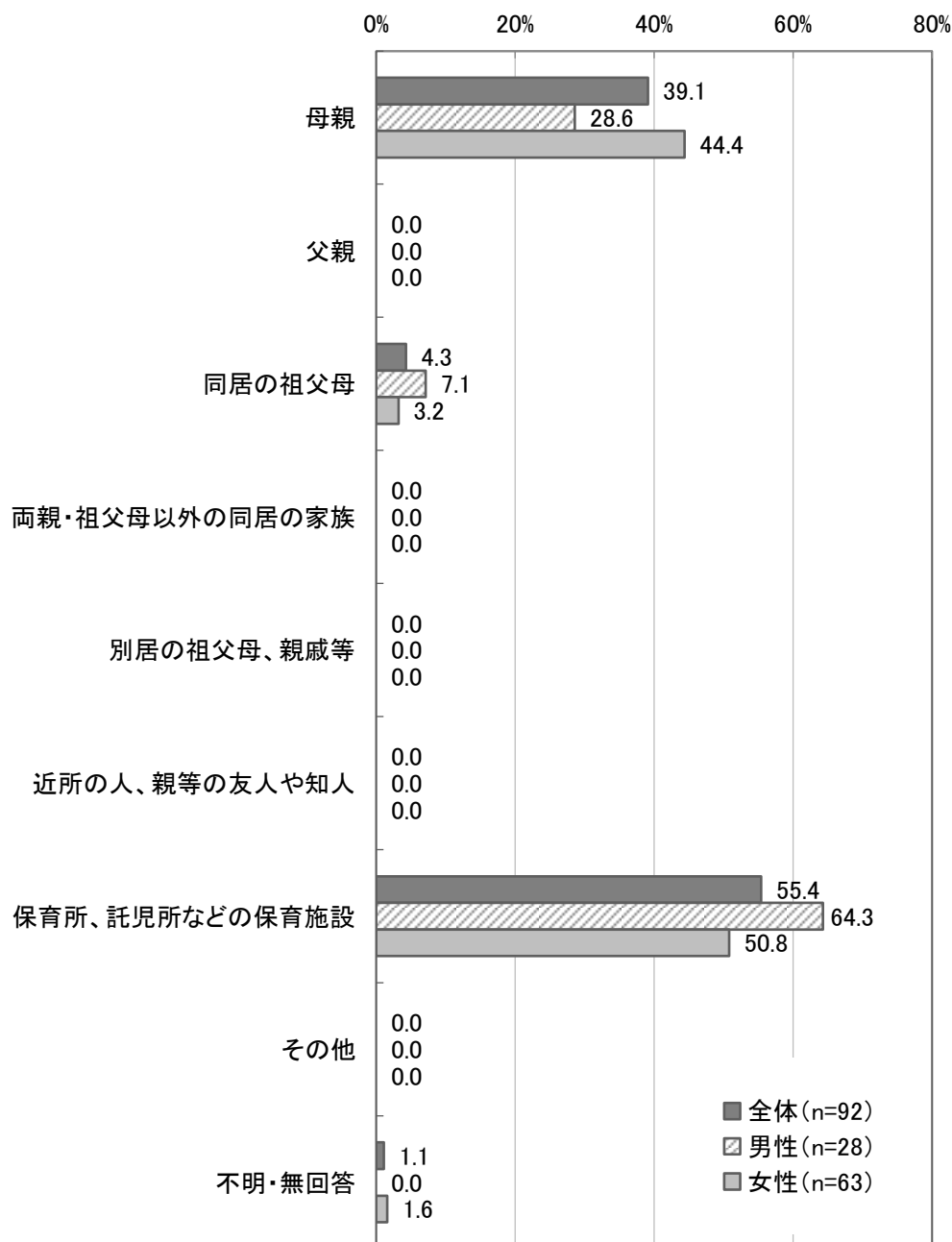
問 11 で「乳児・就学前の幼児がいる」と答えた方にお聞きします。

問 12. 平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育していますか。(〇は1つまで)

(※その子どもからみた続柄でお答えください。)

平日の日中、乳児・就学前の幼児を誰が養育しているかについてみると、全体では「保育所、託児所などの保育施設」が 55.4%と最も高く、次いで「母親」が 39.1%、「同居の祖父母」が 4.3%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに全体と同じ傾向となっていますが、男性では「保育所、託児所などの保育施設」の割合が6割台と女性と比べて高く、女性では「母親」の割合が4割台と男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

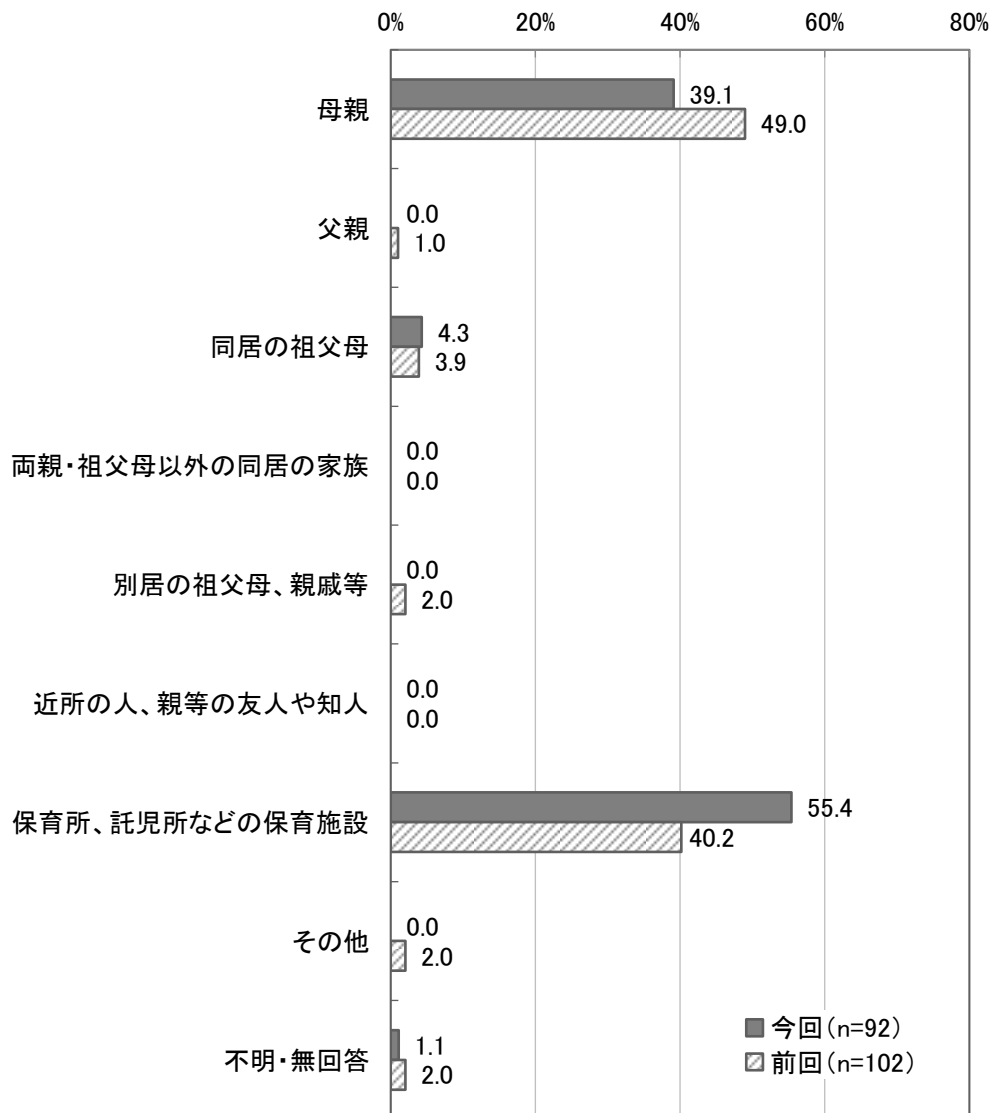
年齢別で見ると、30歳代と40歳代では「保育所、託児所などの保育施設」の割合が最も高くなっています。

単位：%

	母親	父親	同居の祖父母	両親・祖父母以外の同居の家族	別居の祖父母、親戚等	近所の人、親等の友人や知人	保育所、託児所などの保育施設	その他	不明・無回答
20歳代(n=8)	50.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0
30歳代(n=51)	37.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.7	0.0	0.0
40歳代(n=15)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	6.7
50歳代(n=5)	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
60歳代(n=8)	50.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0
70歳以上(n=4)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「保育所、託児所などの保育施設」の割合が増加し、「母親」の割合が減少しています。



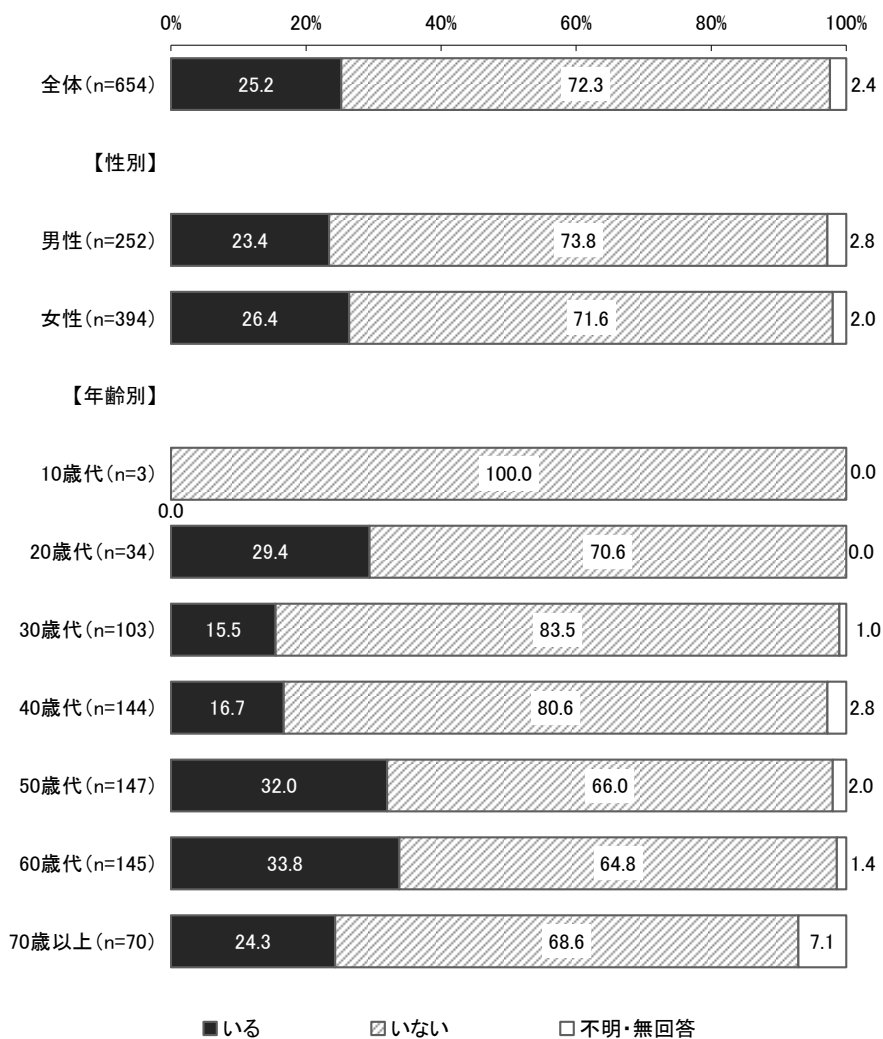
### 問 13. あなたの身近な身内に日常的に手助けが必要な方(高齢者や障がいのある方など)がいますか。

(○は1つまで)

身近な身内に日常的に手助けが必要な方がいるかについてみると、全体では「いない」が72.3%、「いる」が25.2%となっています。

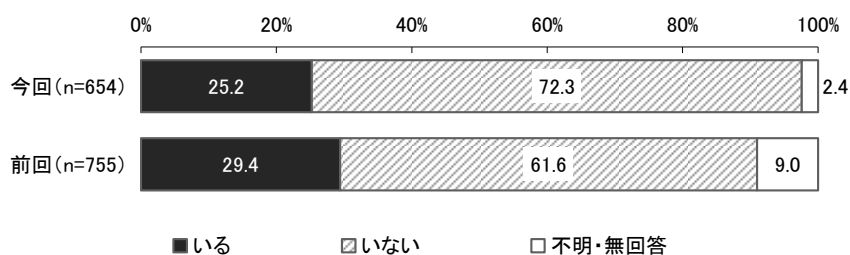
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、30歳代と40歳代で「いる」の割合が1割台と他の年齢区分と比べて低くなっています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「いない」の割合が増加し、7割台となっています。



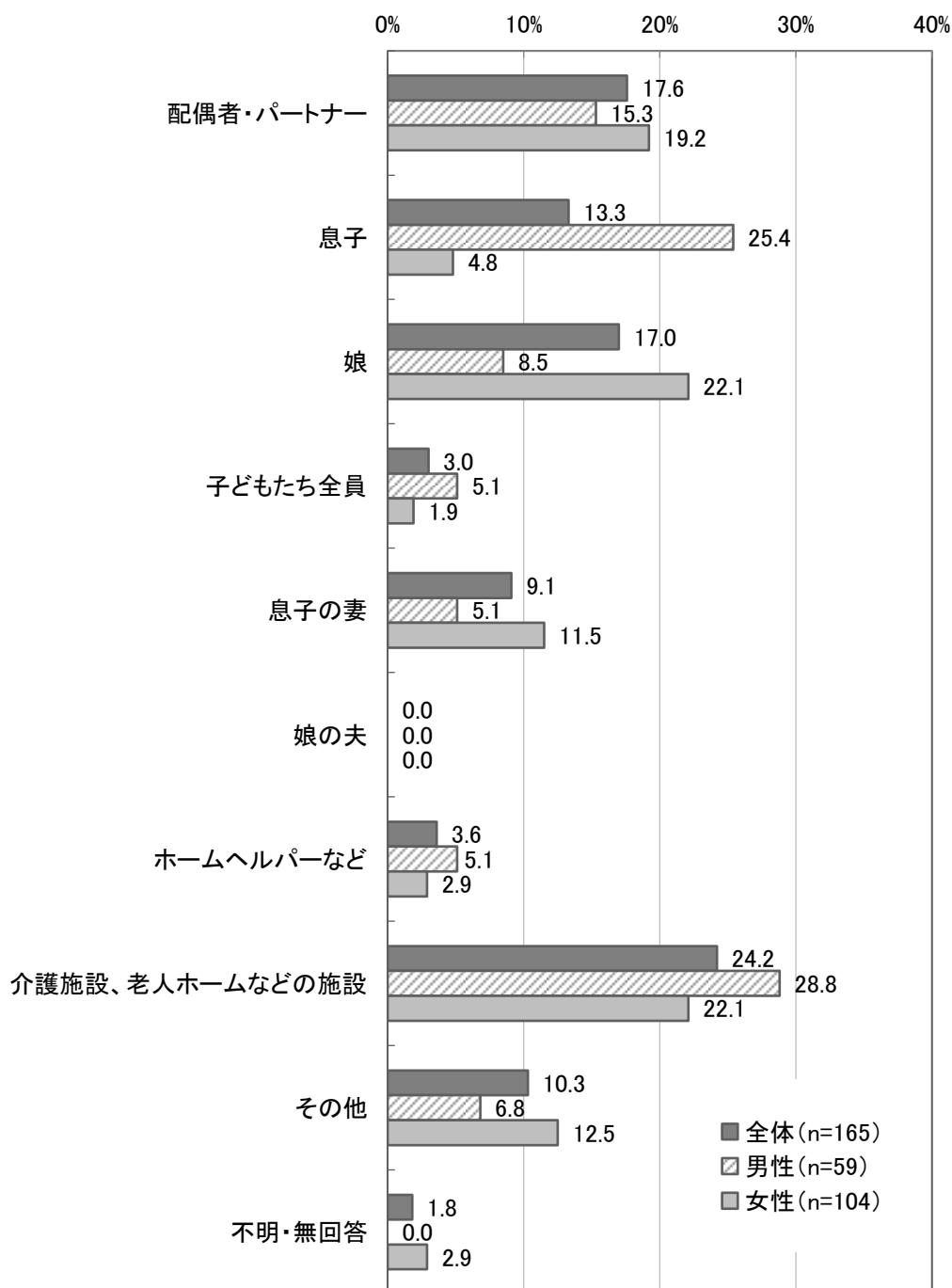
問 13 で「身近な身内に日常的に手助けが必要な方がいる」と答えた方にお聞きします。

問 14. その方(高齢者や障がいのある方など)は主に誰が手助けをしていますか。

(○は1つまで)(※その人からみた続柄でお答えください。)

日常的に手助けが必要な方は主に誰が手助けしているかについてみると、全体では「介護施設、老人ホームなどの施設」が24.2%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が17.6%、「娘」が17.0%となっています。

性別でみると、男性では「介護施設、老人ホームなどの施設」「息子」の割合が女性と比べて高く、女性では「娘」「息子の妻」の割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別でみると、20歳代と50歳代以上では「介護施設、老人ホームなどの施設」の割合が高く、30歳代と40歳代では「配偶者・パートナー」の割合が高くなっています。

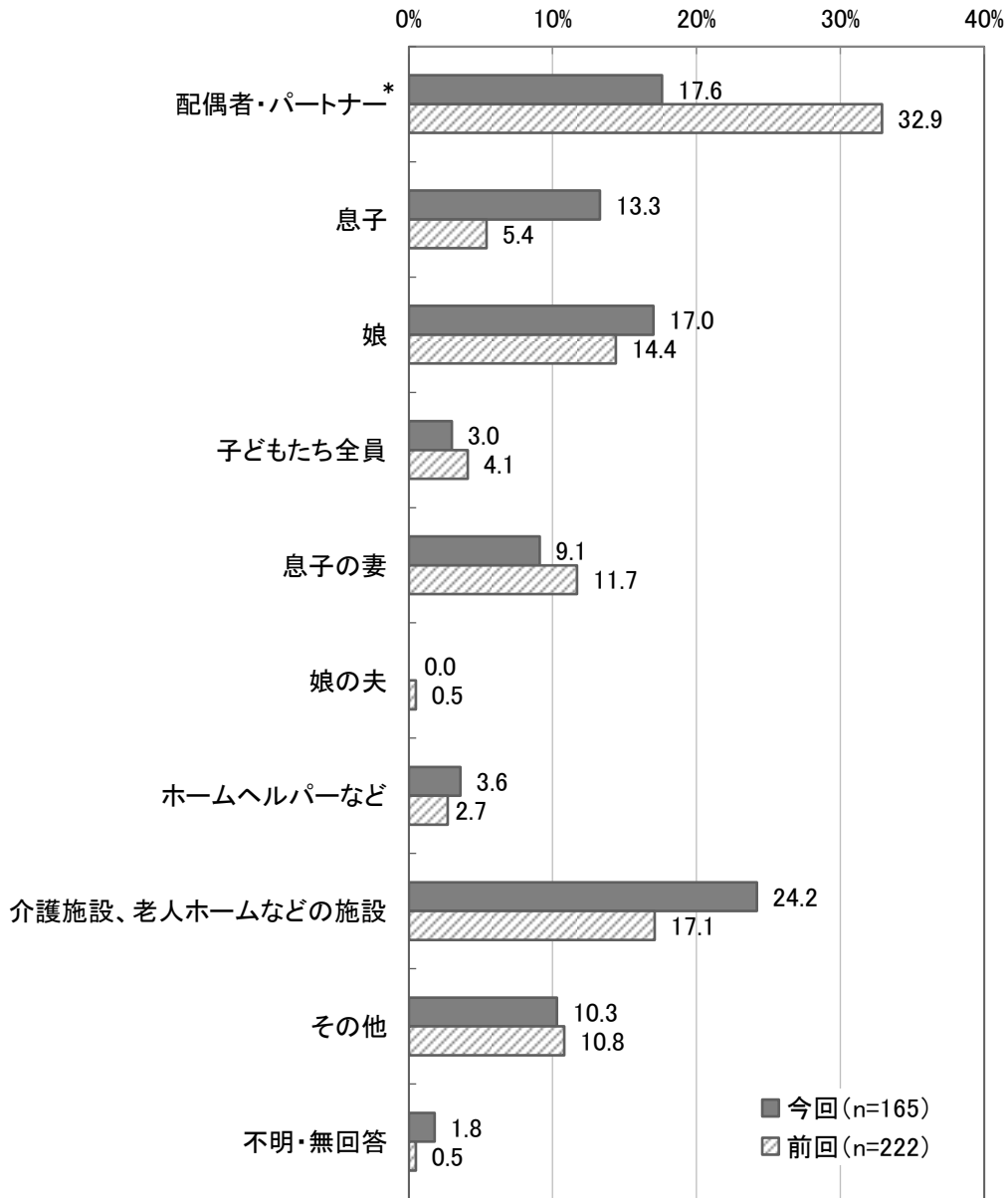
単位：%

	配偶者・パートナー	息子	娘	子どもたち全員	息子の妻	娘の夫	ホームヘルパーなど	介護施設、老人ホームなどの施設	その他	不明・無回答
20歳代 (n=10)	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	30.0	20.0	10.0
30歳代 (n=16)	25.0	18.8	6.3	0.0	18.8	0.0	0.0	18.8	12.5	0.0
40歳代 (n=24)	25.0	16.7	20.8	0.0	4.2	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
50歳代 (n=47)	10.6	14.9	17.0	10.6	6.4	0.0	2.1	27.7	10.6	0.0
60歳代 (n=49)	18.4	8.2	22.4	0.0	12.2	0.0	2.0	26.5	6.1	4.1
70歳以上 (n=17)	17.6	11.8	11.8	0.0	11.8	0.0	17.6	23.5	5.9	0.0

※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「配偶者・パートナー」の割合が減少し、「息子」「介護施設、老人ホームなどの施設」の割合が増加しています。

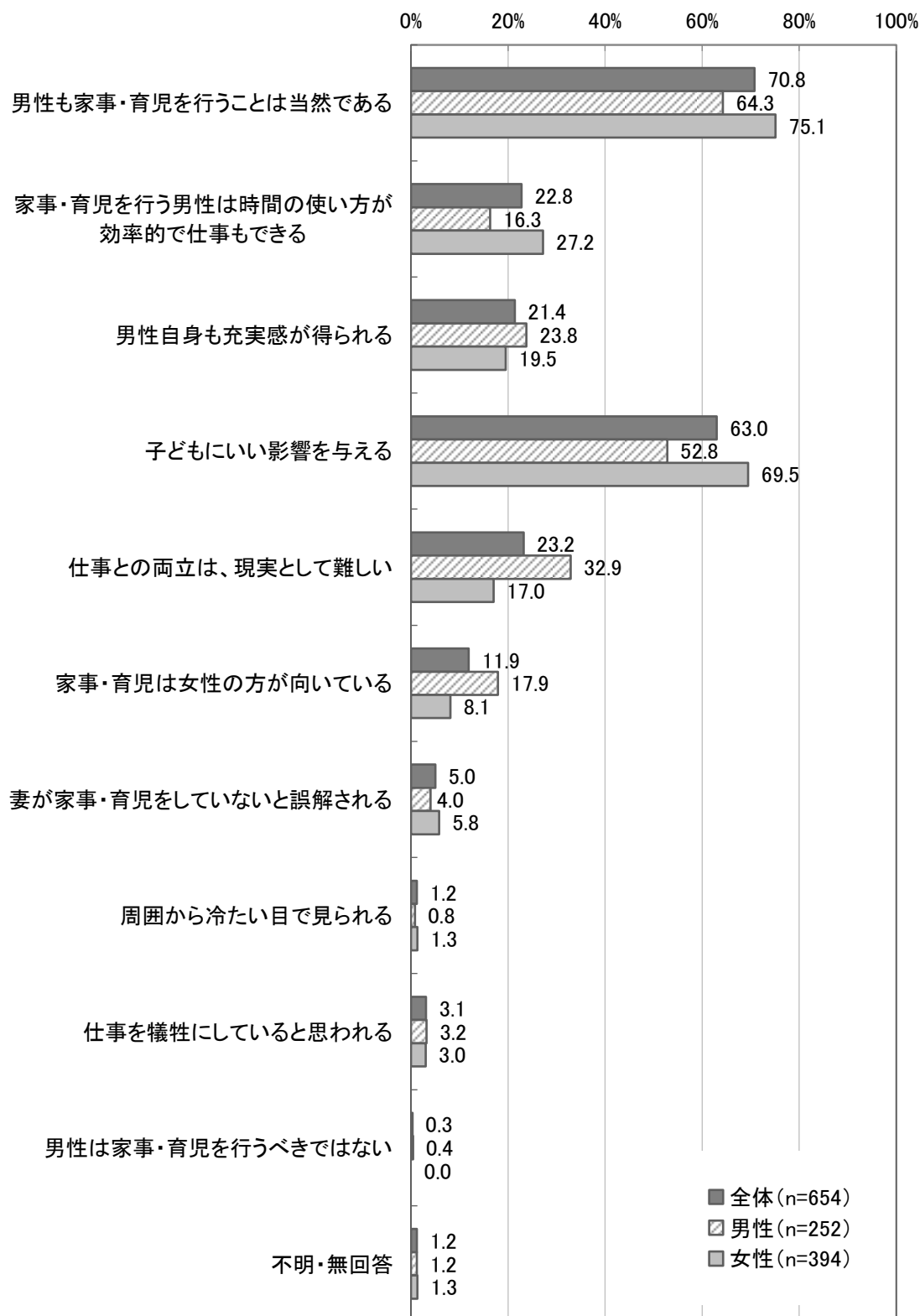


\* 前回調査では「配偶者」

### 問 15. 男性が家事・育児を行うことについてどのようなイメージをお持ちですか。(〇は3つまで)

男性が家事・育児を行うことに対するイメージについてみると、全体では「男性も家事・育児を行うことは当然である」が70.8%と最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」が63.0%、「仕事との両立は、現実として難しい」が23.2%となっています。

性別でみると、全体上位の「男性も家事・育児を行うことは当然である」「子どもにいい影響を与える」では女性の割合が男性より高く、「仕事との両立は、現実として難しい」では男性の割合が女性よりも高くなっています。





## <年齢別>

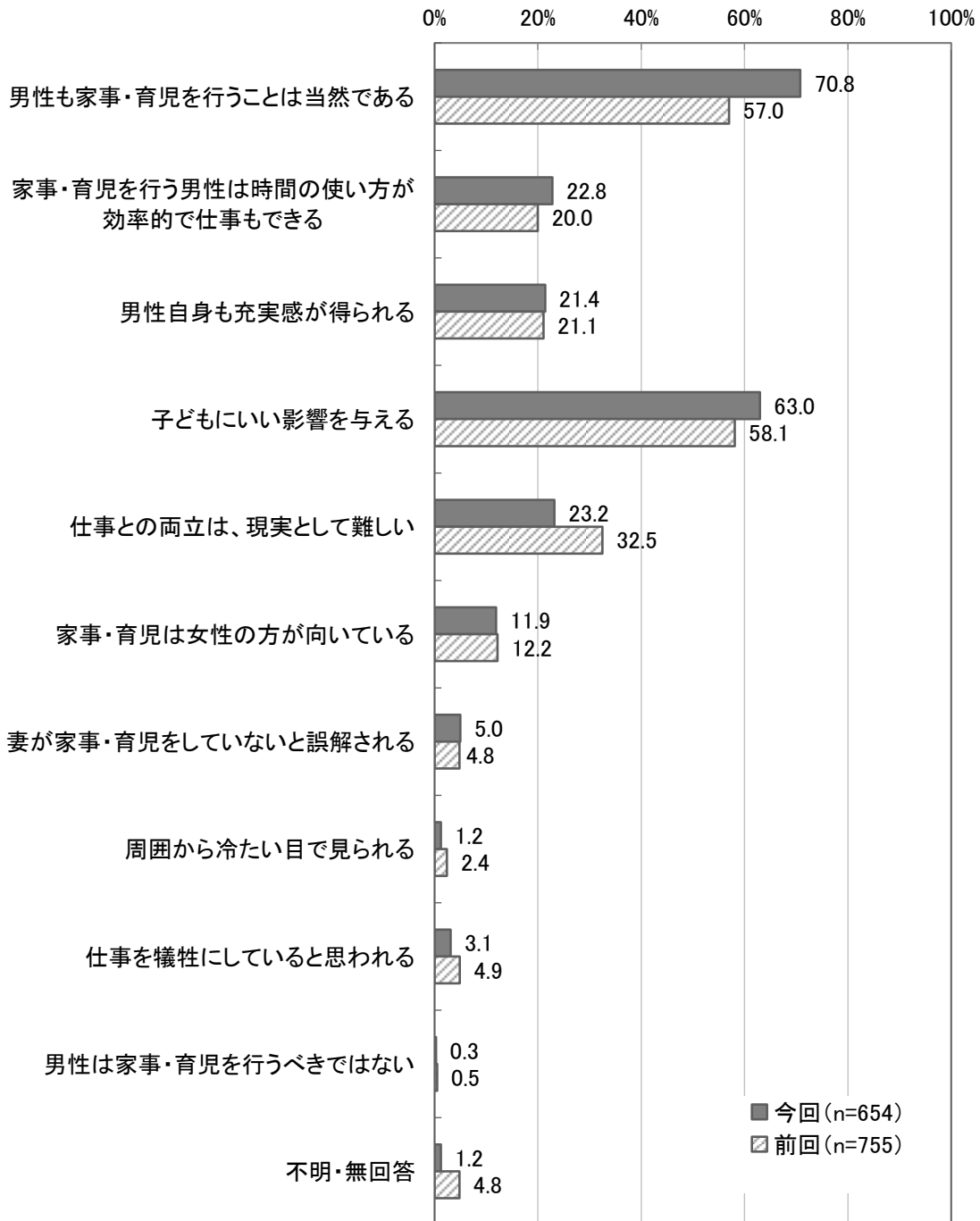
年齢別で見ると、20歳代から70歳以上まで「男性も家事・育児を行うことは当然である」の割合が最も高く、なかでも20歳代から50歳代までの割合は7割を超えています。

単位：%

	男性も家事・育児を行うことは当然である	家事・育児を行う男性は時間的使用が効率的で仕事もできる	男性自身も充実感が得られる	子どもにいい影響を与える	仕事との両立は、現実として難しい	家事・育児は女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	周囲から冷たい目で見られる	仕事を犠牲にしていると思われる	男性は家事・育児を行うべきではない	不明・無回答
10歳代(n=3)	100.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=34)	70.6	26.5	20.6	64.7	20.6	11.8	11.8	0.0	8.8	0.0	2.9
30歳代(n=103)	78.6	17.5	16.5	69.9	15.5	13.6	3.9	3.9	2.9	0.0	1.0
40歳代(n=144)	71.5	20.8	18.1	60.4	29.2	9.0	4.2	0.7	2.1	0.0	1.4
50歳代(n=147)	70.7	27.2	17.7	60.5	23.1	10.9	6.1	1.4	3.4	0.7	0.7
60歳代(n=145)	69.0	20.7	24.8	64.1	20.7	11.7	3.4	0.7	2.8	0.0	0.7
70歳以上(n=70)	61.4	28.6	34.3	60.0	30.0	18.6	7.1	0.0	2.9	0.0	2.9

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

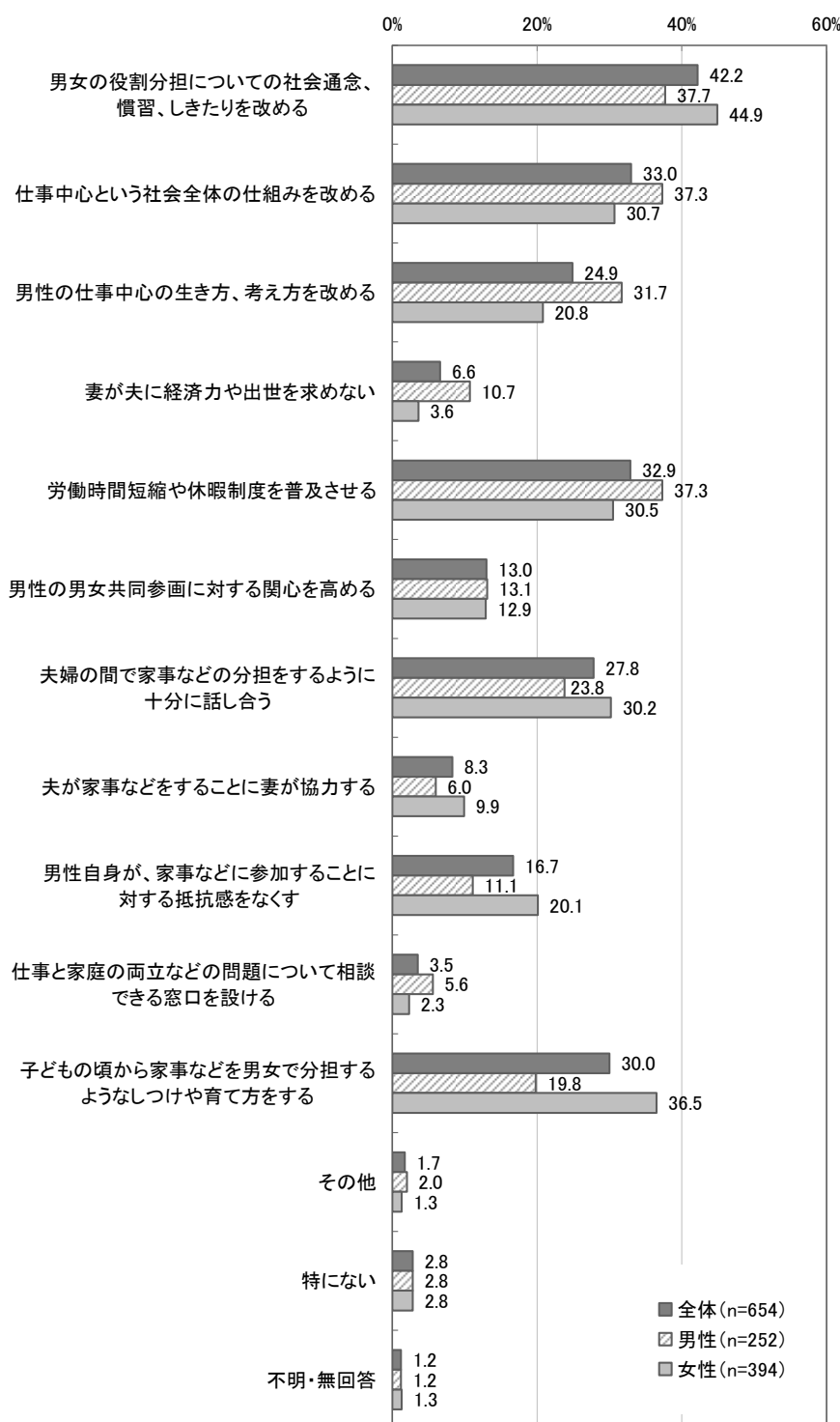
前回調査と比較すると、「男性も家事・育児を行うことは当然である」「子どもにいい影響を与える」の割合が増加し、「仕事との両立は、現実として難しい」の割合は減少しています。



**問 16. 今後、男性が女性とともに家事・育児や教育、介護、地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)**

男性が女性とともに家事・育児や教育、介護、地域活動などに積極的に参画していくために必要なことについてみると、全体では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が42.2%と最も高く、次いで「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が33.0%、「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」が32.9%となっています。

性別でみると、男性では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」が上位項目となっており、その割合は女性よりも高くなっています。一方女性では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」「子どもの頃から家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする」が上位項目となっており、その割合は男性より高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、20歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」の割合が高く、30歳代では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」、40歳代以上では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合が高くなっています。

単位：%

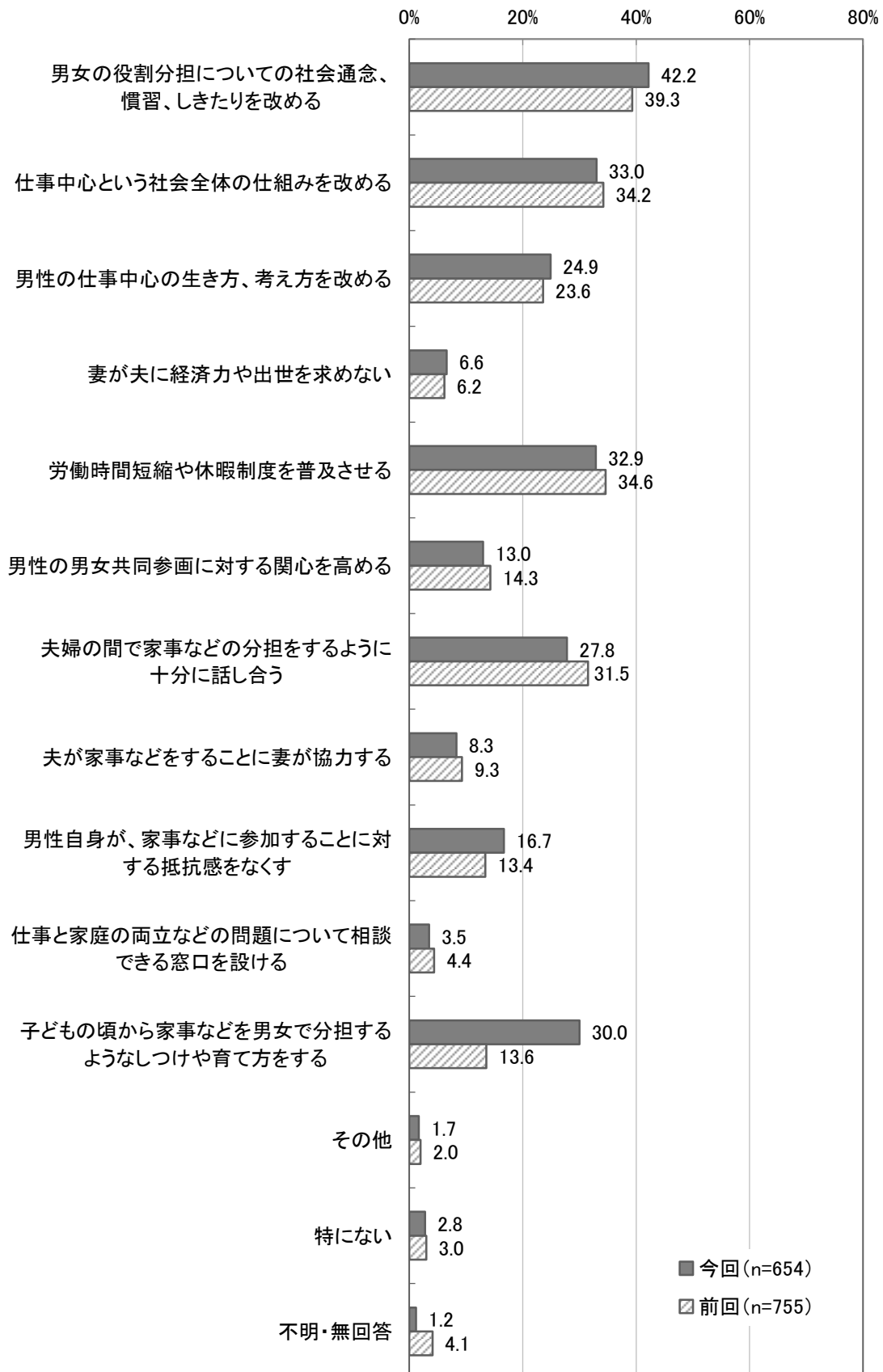
	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める	仕事中心という社会全体の仕組みを改める	男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	妻が夫に経済力や出世を求めない	労働時間短縮や休暇制度を普及させる	男性の男女共同参画に対する関心を高める	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う
10歳代(n=3)	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7
20歳代(n=34)	32.4	47.1	20.6	11.8	50.0	5.9	50.0
30歳代(n=103)	40.8	47.6	28.2	3.9	26.2	8.7	21.4
40歳代(n=144)	42.4	35.4	28.5	7.6	34.0	5.6	19.4
50歳代(n=147)	41.5	34.7	24.5	6.8	40.8	12.9	28.6
60歳代(n=145)	44.1	22.1	23.4	6.9	30.3	19.3	26.9
70歳以上(n=70)	44.3	22.9	20.0	2.9	22.9	24.3	42.9

	夫が家事などをするために妻が協力する	男性自身が、家事などに参加することに 対する抵抗感をなくす	仕事と家庭の両立などの問題について 相談できる窓口を設ける	子ども頃から家事などを男女で分担するよ うなしつけや育て方をする	その他	特にな い	不明・無 回答
10歳代(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=34)	11.8	14.7	11.8	14.7	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=103)	9.7	15.5	1.9	29.1	1.0	4.9	1.0
40歳代(n=144)	6.9	11.8	1.4	31.3	1.4	4.9	1.4
50歳代(n=147)	6.1	17.0	4.8	30.6	2.0	0.7	1.4
60歳代(n=145)	11.0	21.4	2.8	35.2	2.1	1.4	1.4
70歳以上(n=70)	7.1	18.6	5.7	25.7	1.4	4.3	1.4

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」「子どもの頃から家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする」の割合が増加し、「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」の割合が減少しています。



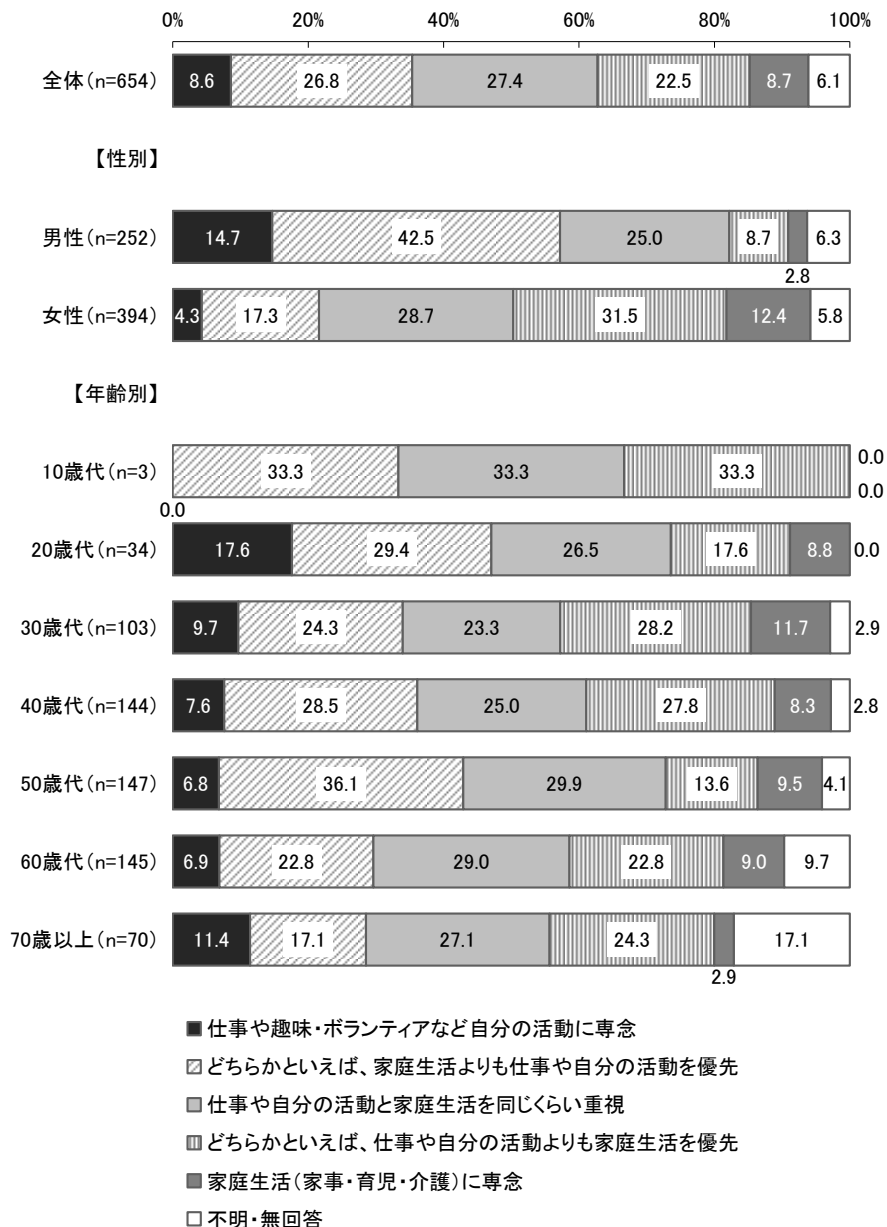
問 17. 家庭生活と自分の活動の優先度について、下記の選択肢から「現実」に最も近いもの、「希望」として最も近いものをそれぞれ選んでください。また、配偶者・パートナーにどのような家庭生活を望みますか。(あなたの①現実、②希望、③配偶者・パートナーに対する希望を1～5の中からそれぞれ1つずつ選んで番号を記入)

① 現実／家庭生活と自分の活動の優先度

家庭生活と自分の活動の優先度において「現実」に最も近いものについてみると、全体では「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」が27.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」が26.8%、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が22.5%となっています。

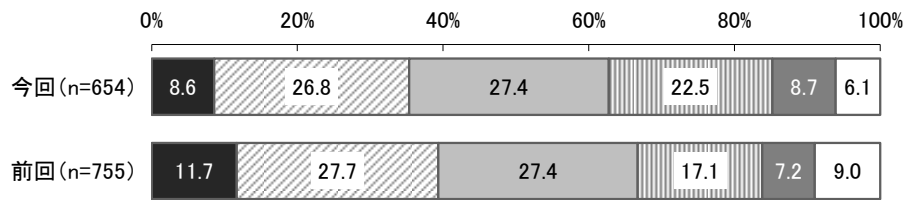
性別でみると、男性では仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念」と「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」をあわせた【自分の活動を優先する計】の割合が女性と比べて高く、女性では「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」と「家庭生活（家事・育児・介護）に専念」をあわせた【家庭生活を優先する計】の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代と50歳代で【自分の活動を優先する計】の割合が4割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、【自分の活動を優先する計】の割合が減少し、【家庭生活を優先する計】の割合が増加しています。



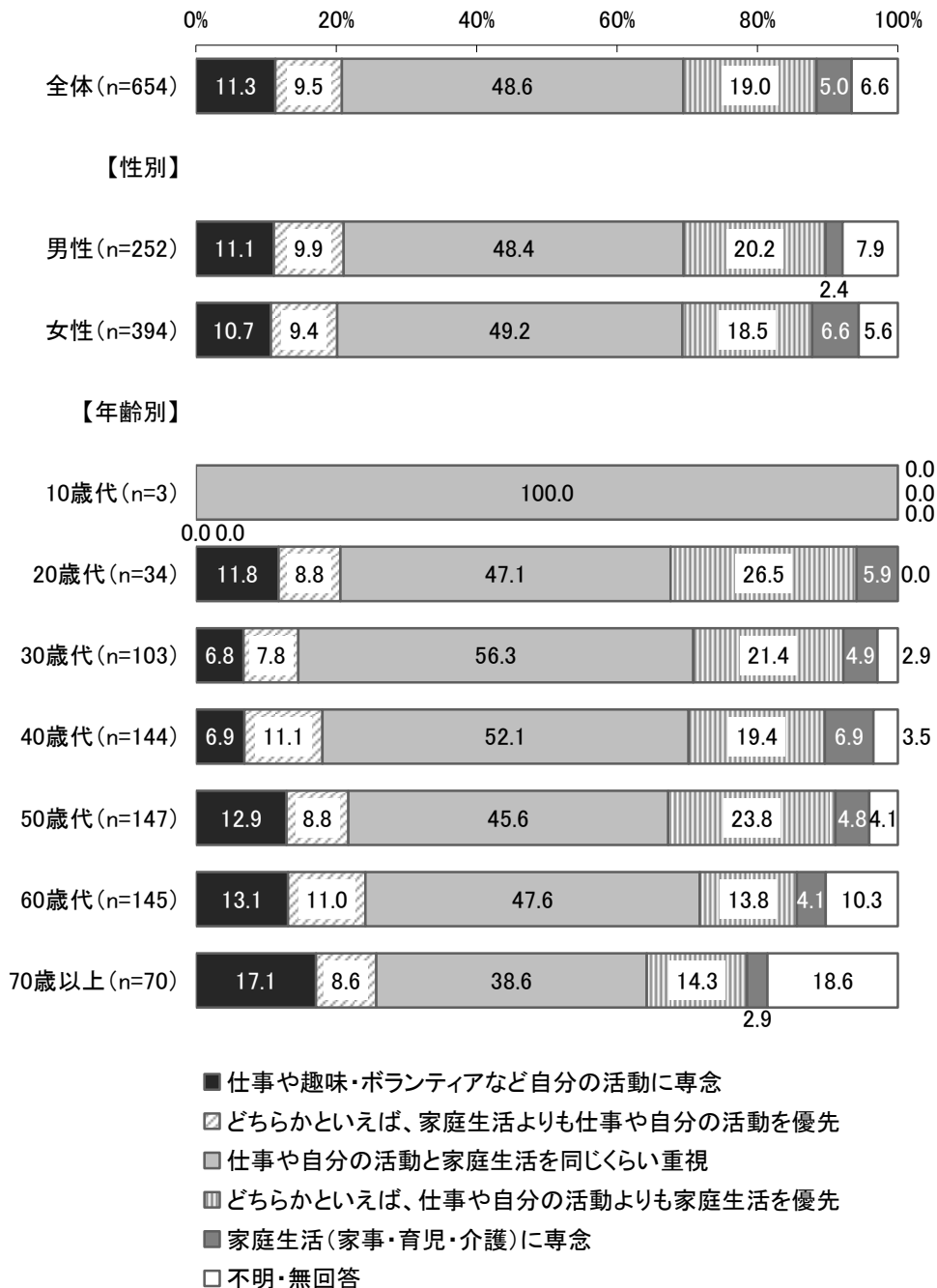
- 仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念
- ▣ どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先
- ▤ 仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視
- ▥ どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 家庭生活(家事・育児・介護)に専念
- 不明・無回答

## ② 希望／家庭生活と自分の活動の優先度

家庭生活と自分の活動の優先度において「希望」に最も近いものについてみると、全体では「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」が48.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が19.0%、「仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念」が11.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

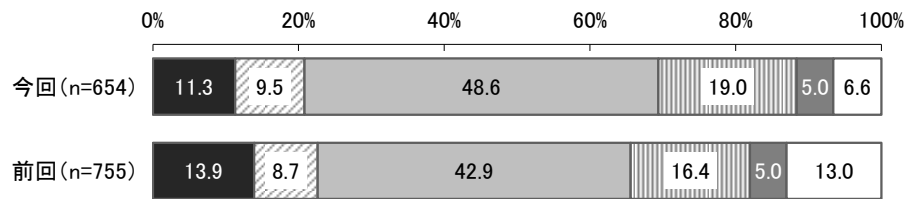
年齢別でみると、30歳代と40歳代で【自分の活動を優先する計】の割合が1割台と他の年齢区分と比べて低くなっています。





## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、【自分の活動を優先する計】の割合が減少し、「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」【家庭生活を優先する計】の割合が増加しています。



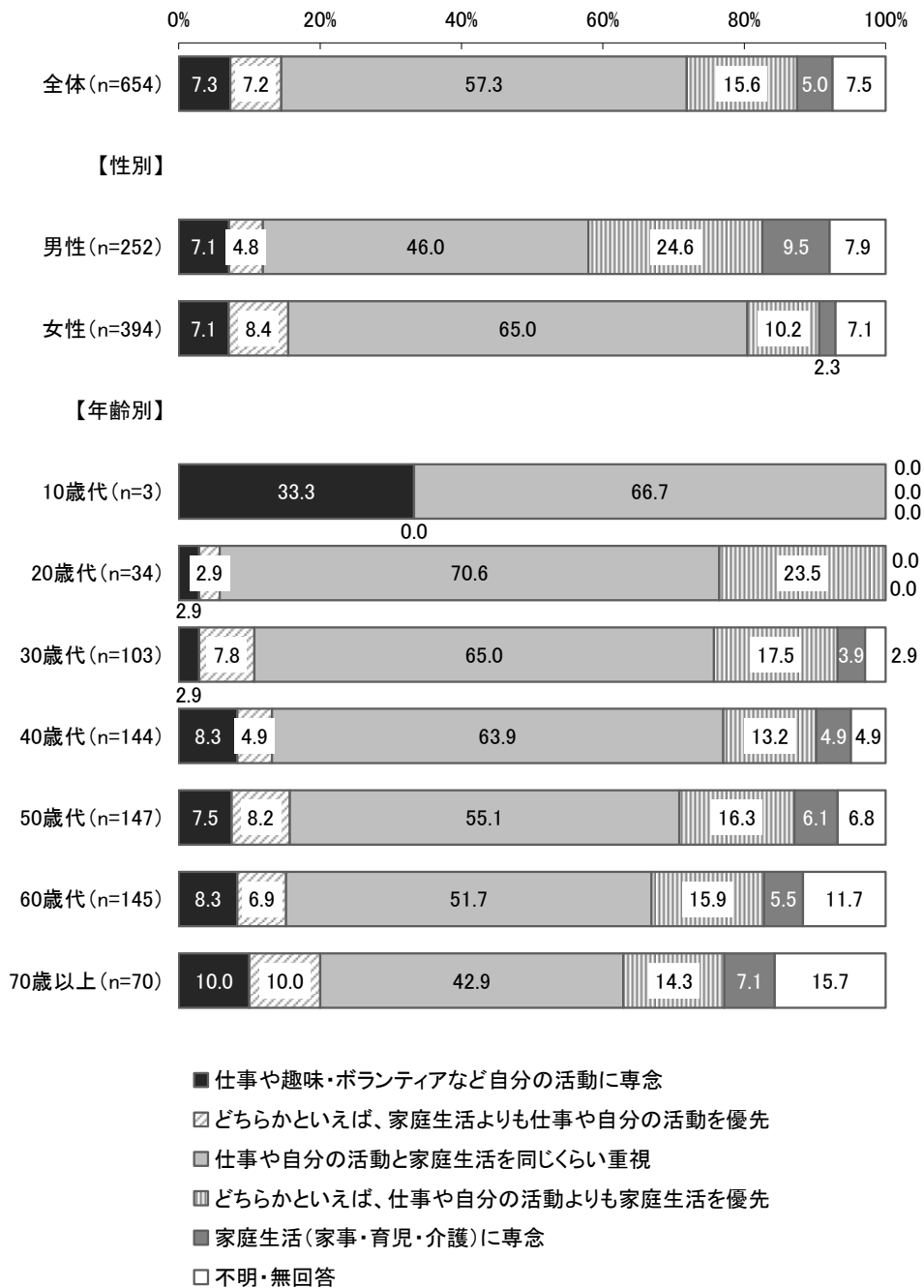
- 仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念
- ▣ どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先
- ▢ 仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視
- ▤ どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 家庭生活(家事・育児・介護)に専念
- 不明・無回答

### ③ 配偶者・パートナーに対する希望／家庭生活と自分の活動の優先度

家庭生活と自分の活動の優先度において配偶者・パートナーに対する希望に最も近いものについてみると、全体では「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」が57.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が15.6%、「仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念」が7.3%となっています。

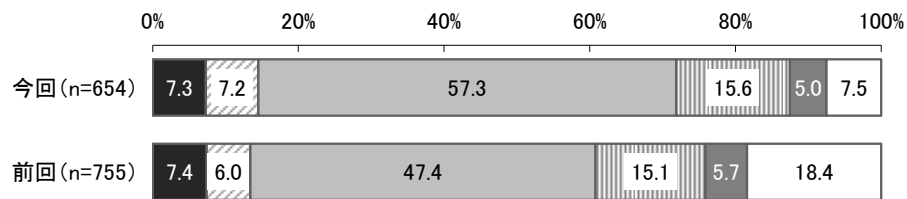
性別でみると、男性では【家庭生活を優先する計】の割合が女性と比べて高く、女性では「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、【自分の活動を優先する計】の割合は概ね年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」の割合が増加しています。



- 仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念
- ▣ どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先
- ▨ 仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視
- ▤ どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 家庭生活(家事・育児・介護)に専念
- 不明・無回答

## 4 職業生活について

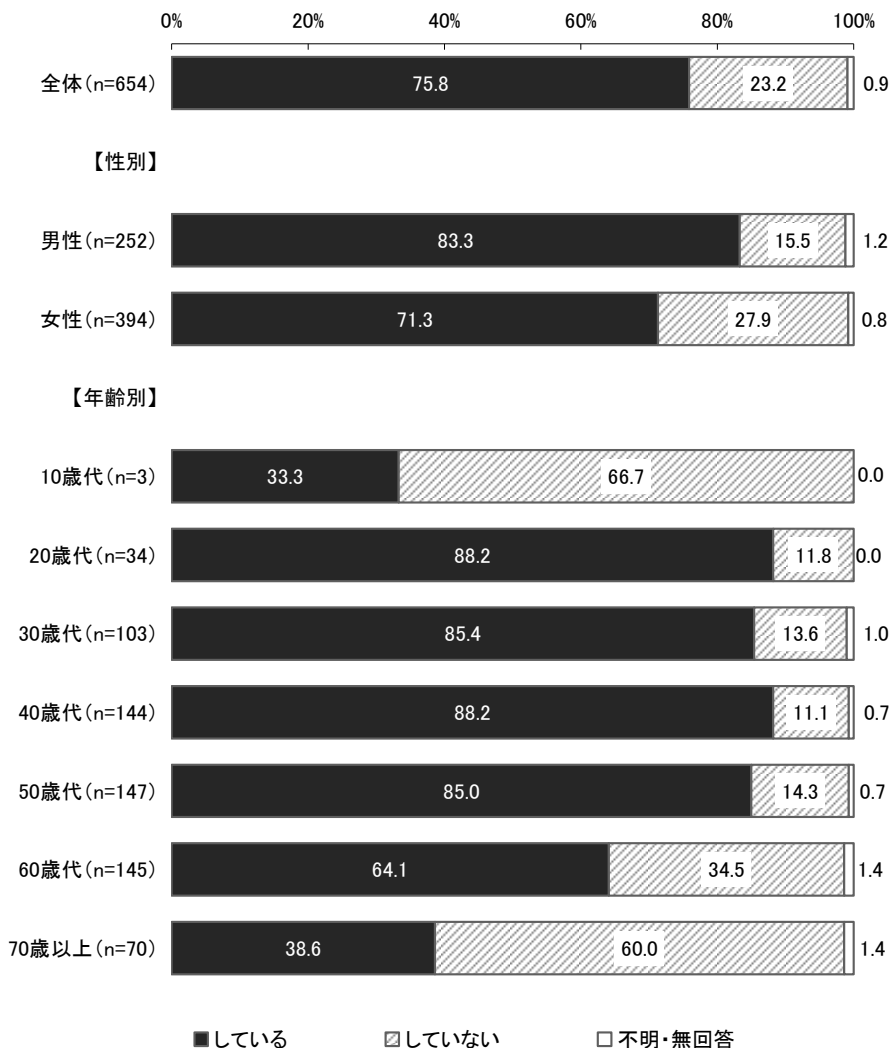
問 18. あなたは現在、収入を得る仕事(産前・産後休暇、育児・介護休業中も含む)をしていますか。

(○は1つまで)

収入を得る仕事についてみると、全体では「している」が75.8%、「していない」が23.2%となっています。

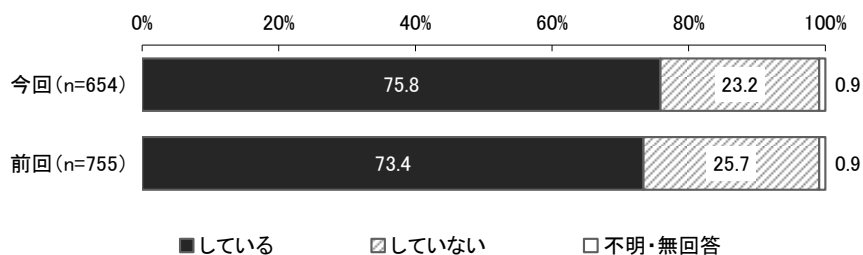
性別でみると、男性では「している」の割合が女性と比べて高く、女性では「していない」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代から50歳代では「している」の割合が8割台となっています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査との比較では、大きな差異はみられません。



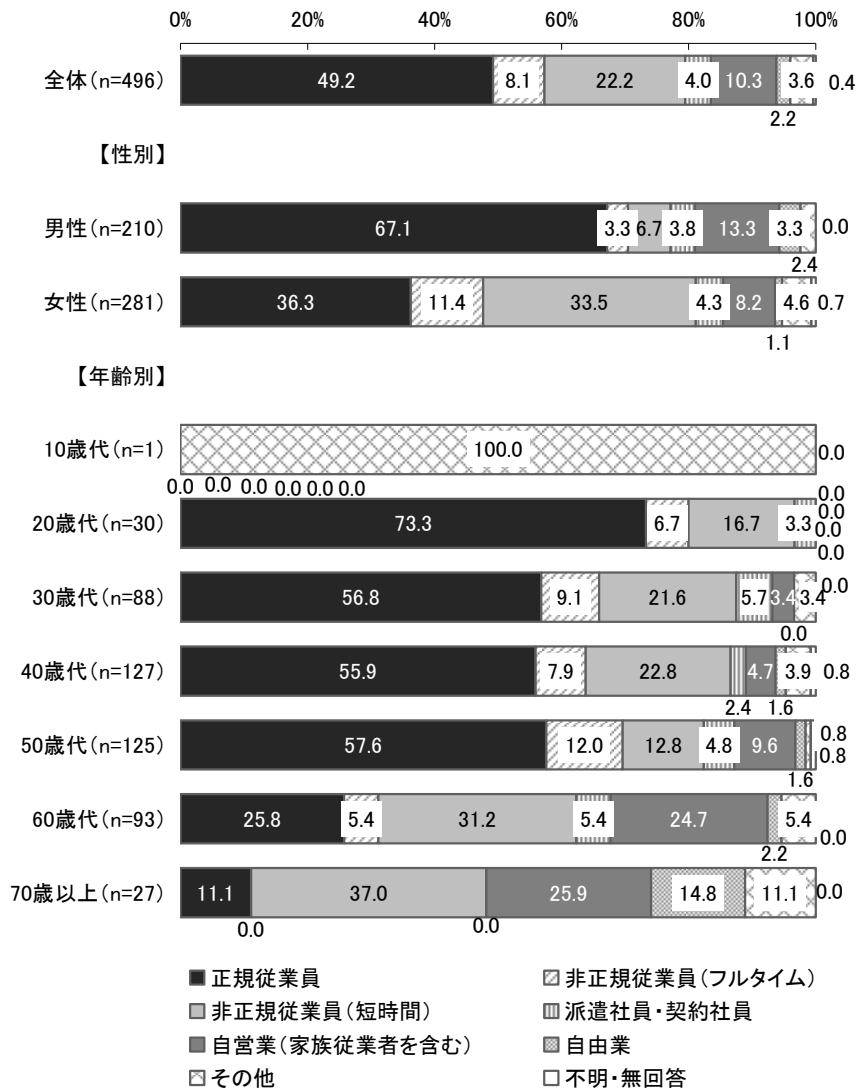
**問 18 で「現在、収入を得る仕事をしている」と答えた方にお聞きします。**

**問 19. あなたの勤務形態を教えてください。(○は1つまで)**

勤務形態についてみると、全体では「正規従業員」が 49.2%と最も高く、次いで「非正規従業員（短時間）」が 22.2%、「自営業（家族従業者を含む）」が 10.3%、となっています。

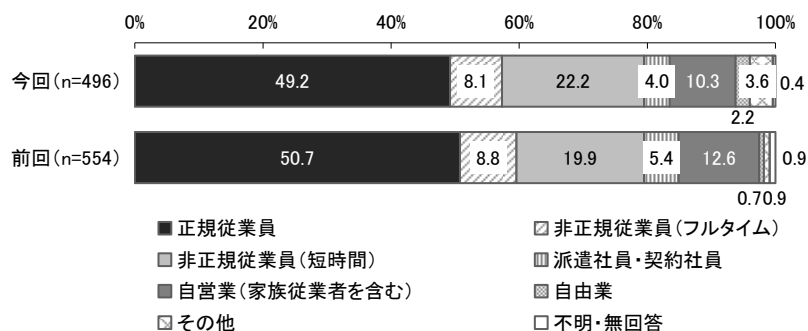
性別でみると、男性では「正規従業員」の割合が女性と比べて高く、女性では「非正規従業員（短時間）」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「正規従業員」の割合は低くなり、「自営業（家族従業者を含む）」の割合は高くなる傾向がみられます。



**<前回調査(平成 28 年)との比較>**

前回調査との比較では、大きな差異はみられません。

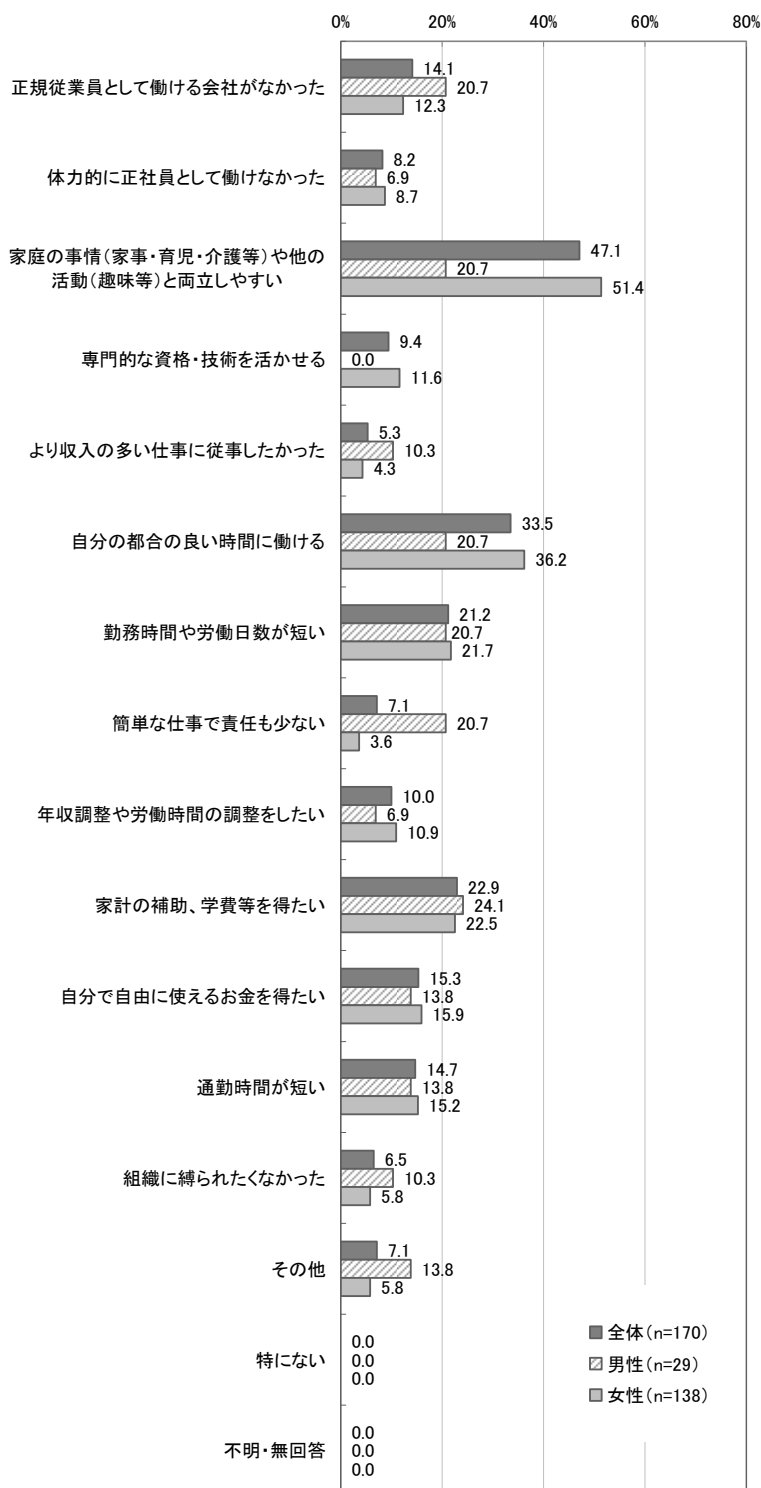


**問 19 で勤務形態について「非正規従業員(フルタイム)」「非正規従業員(短時間)」「派遣社員・契約社員」と答えた方にお聞きします。**

**問 20. 現在の就業形態を選択した理由は何ですか。(〇は3つまで)**

現在の就業形態を選択した理由についてみると、全体では「家庭の事情(家事・育児・介護等)や他の活動(趣味等)と両立しやすい」が47.1%と最も高く、次いで「自分の都合の良い時間に働ける」が33.5%、「家計の補助、学費等を得たい」が22.9%となっています。

性別でみると、男性では「簡単な仕事で責任も少ない」の割合が女性と比べて高く、女性では「家庭の事情(家事・育児・介護等)や他の活動(趣味等)と両立しやすい」「自分の都合の良い時間に働ける」の割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別でみると、30歳代から50歳代では「家庭の事情（家事・育児・介護等）や他の活動（趣味等）と両立しやすい」の割合が高く、60歳代では「自分の都合の良い時間に働ける」、70歳以上では「勤務時間や労働日数が短い」の割合が高くなっています。

単位：%

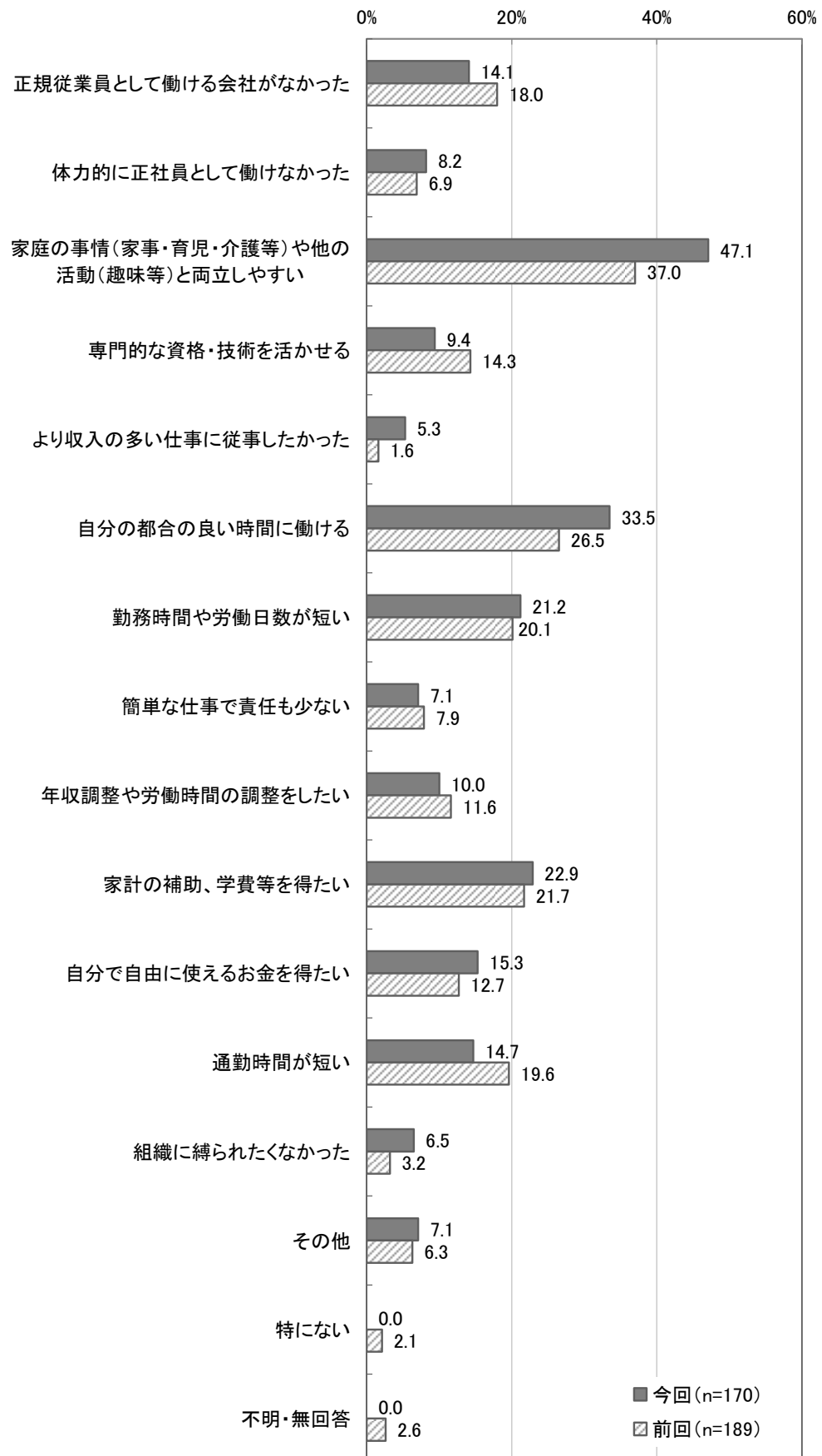
	正規従業員として働ける会社になかった	体力的に正社員として働けなかった	家庭の事情（家事・育児・介護等）や他の活動（趣味等）と両立しやすい	専門的な資格・技術を活かせる	より収入の多い仕事に従事しなかった	自分の都合の良い時間に働ける	勤務時間や労働日数が短い	簡単な仕事で責任も少ない
20歳代(n=8)	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	37.5	25.0	0.0
30歳代(n=32)	15.6	6.3	71.9	0.0	9.4	37.5	12.5	9.4
40歳代(n=42)	9.5	7.1	61.9	11.9	4.8	28.6	19.0	0.0
50歳代(n=37)	29.7	8.1	32.4	10.8	5.4	27.0	8.1	5.4
60歳代(n=39)	7.7	12.8	33.3	15.4	2.6	35.9	33.3	12.8
70歳以上(n=10)	0.0	10.0	20.0	10.0	0.0	50.0	60.0	20.0

	年収調整や労働時間の調整をしたい	家計の補助、学費等を得たい	自分で自由に使えるお金を得たい	通勤時間が短い	組織に縛られなくなかった	その他	特にない	不明・無回答
20歳代(n=8)	0.0	25.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=32)	3.1	15.6	15.6	12.5	0.0	6.3	0.0	0.0
40歳代(n=42)	21.4	26.2	11.9	16.7	14.3	2.4	0.0	0.0
50歳代(n=37)	8.1	18.9	8.1	18.9	10.8	13.5	0.0	0.0
60歳代(n=39)	7.7	25.6	20.5	12.8	0.0	10.3	0.0	0.0
70歳以上(n=10)	10.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「家庭の事情（家事・育児・介護等）や他の活動（趣味等）と両立しやすい」「自分の都合の良い時間に働ける」の割合が増加し、「通勤時間が短い」の割合が減少しています。





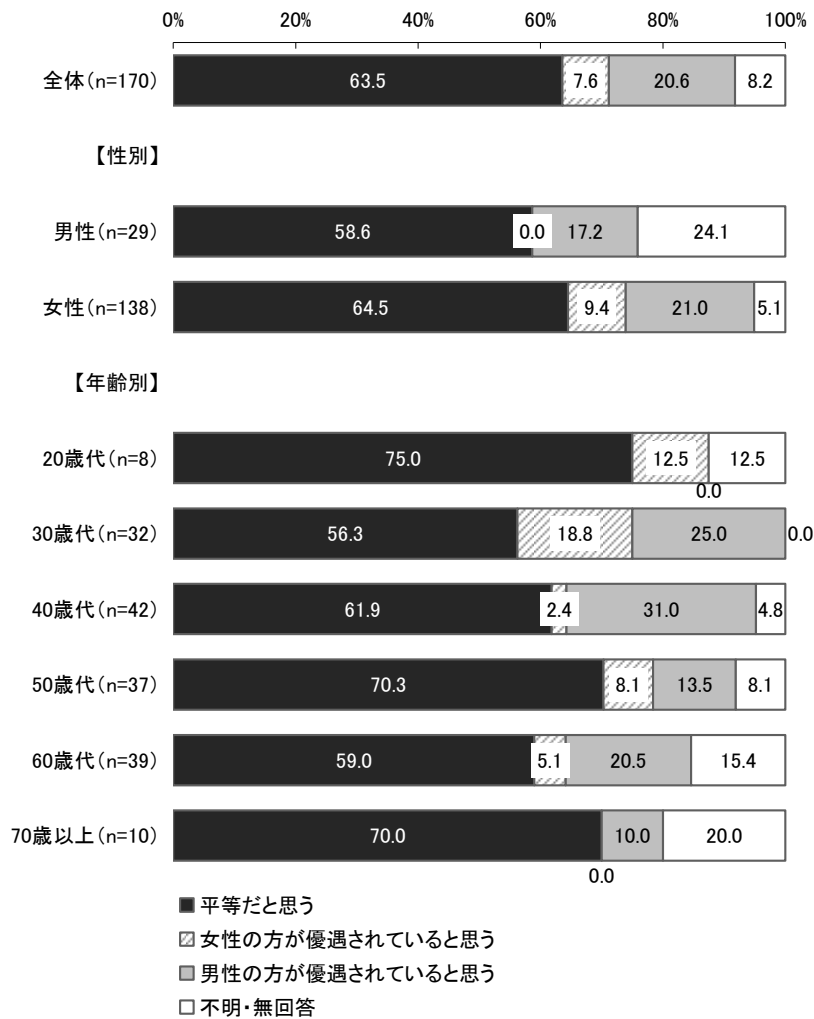
**問 19 で勤務形態について「非正規従業員(フルタイム)」「非正規従業員(短時間)」「派遣社員・契約社員」と答えた方にお聞きします。**

**問 21. あなたの働いているところでは、女性と男性は平等だと思いますか。(○は1つまで)**

職場における女性と男性の平等についてみると、全体では「平等だと思う」が 63.5%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されていると思う」が 20.6%、「女性の方が優遇されていると思う」が 7.6%となっています。

性別でみると、「平等だと思う」の割合は男性より女性が高くなっています。

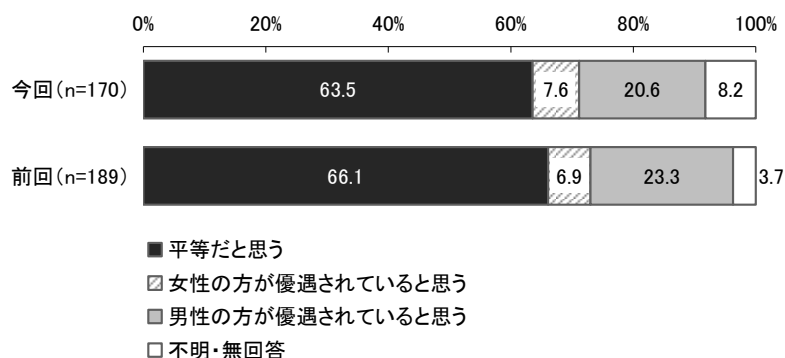
年齢別でみると、40歳代では「男性の方が優遇されていると思う」の割合が3割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

**<前回調査(平成28年)との比較>**

前回調査との比較では、大きな差異はみられません。

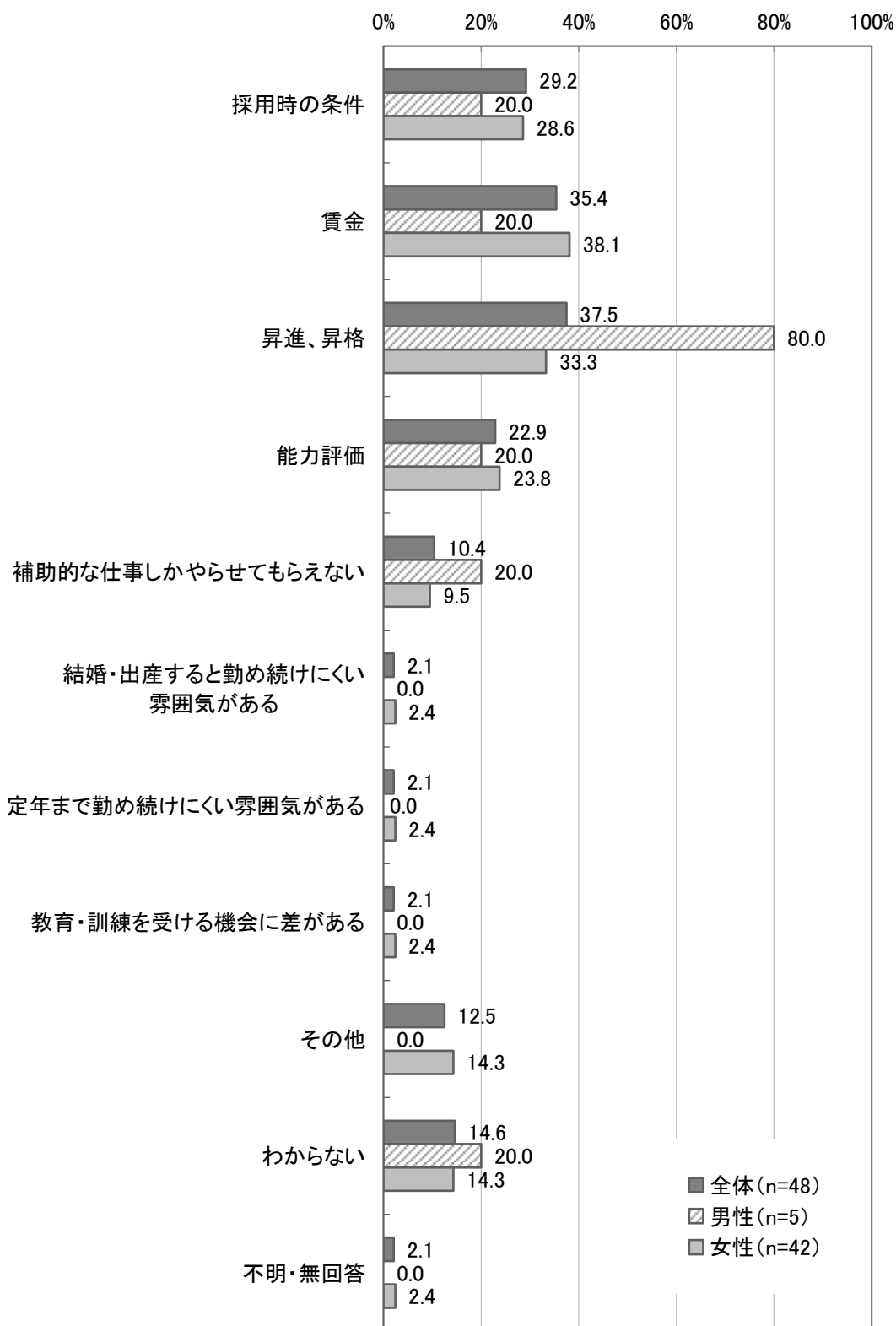


問 21 で「女性の方が優遇されていると思う」「男性の方が優遇されていると思う」と答えた方にお聞きします。

問 22. 男女が平等だと思わない理由はどのようなことですか。(〇は3つまで)

男女が平等だと思わない理由についてみると、全体では「昇進、昇格」が 37.5%と最も高く、次いで「賃金」が 35.4%、「採用時の条件」が 29.2%となっています。

性別でみると、男性では「昇進、昇格」の割合が高い一方で、女性では「賃金」の割合が高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、30歳代と40歳代では「昇進・昇格」の割合が高く、40歳代では「賃金」の割合も高くなっています。60歳代では「賃金」の割合が最も高くなっています。

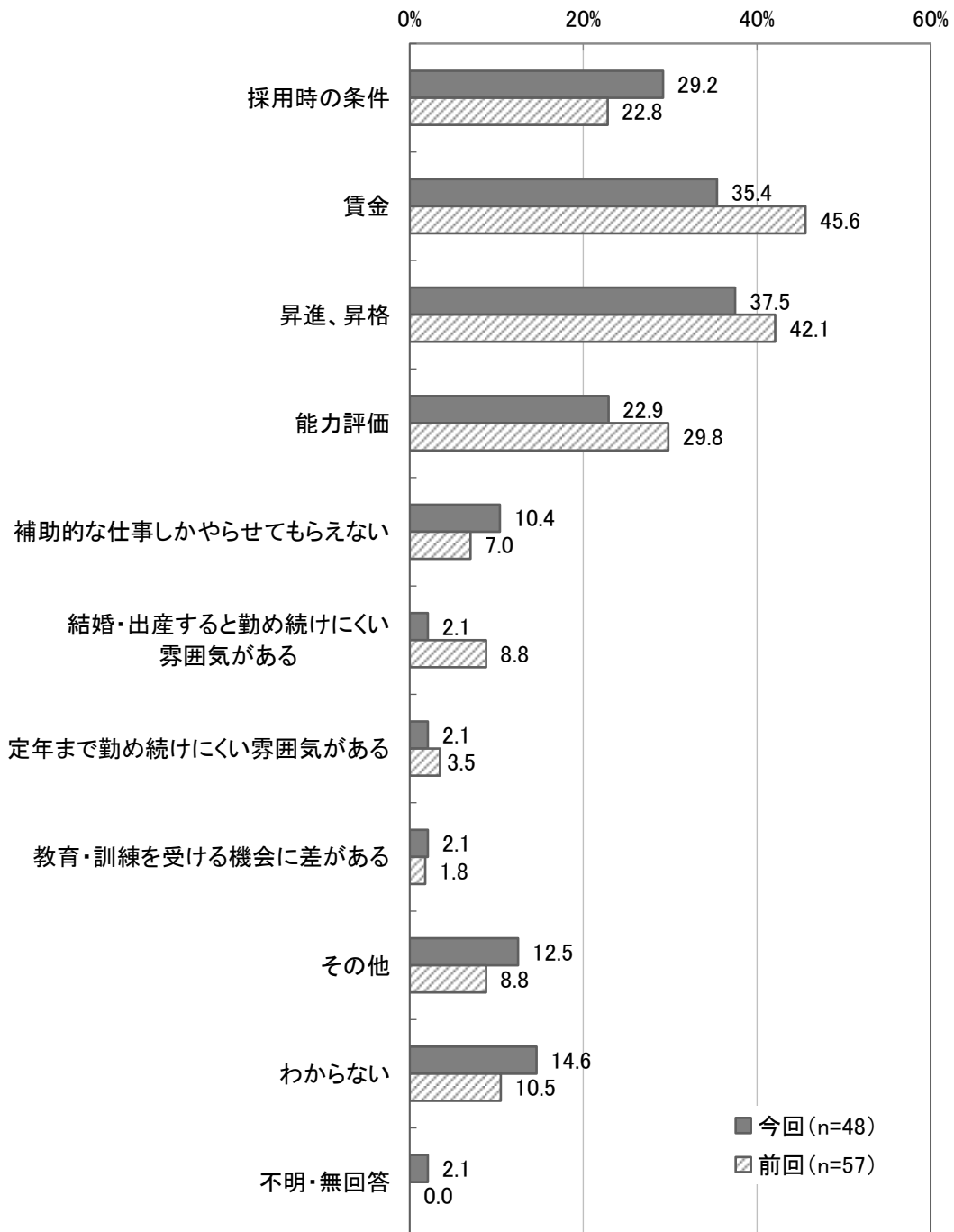
単位：%

	採用時の条件	賃金	昇進、昇格	能力評価	補助的な仕事しかやらせてもらえない	結婚・出産すると勤め続けにくい 雰囲気がある	定年まで勤め続けにくい 雰囲気がある	教育・訓練を受ける機会に差がある	その他	わからない	不明・無回答
20歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
30歳代(n=14)	28.6	28.6	42.9	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	14.3	7.1	
40歳代(n=14)	28.6	35.7	35.7	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1	28.6	
50歳代(n=8)	0.0	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0	12.5	
60歳代(n=10)	40.0	60.0	30.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	
70歳以上(n=1)	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「採用時の条件」の割合が増加し、「賃金」「昇進、昇格」「能力評価」の割合が減少しています。



問 18 で「現在、収入を得る仕事をしている」と答えた方にお聞きします。

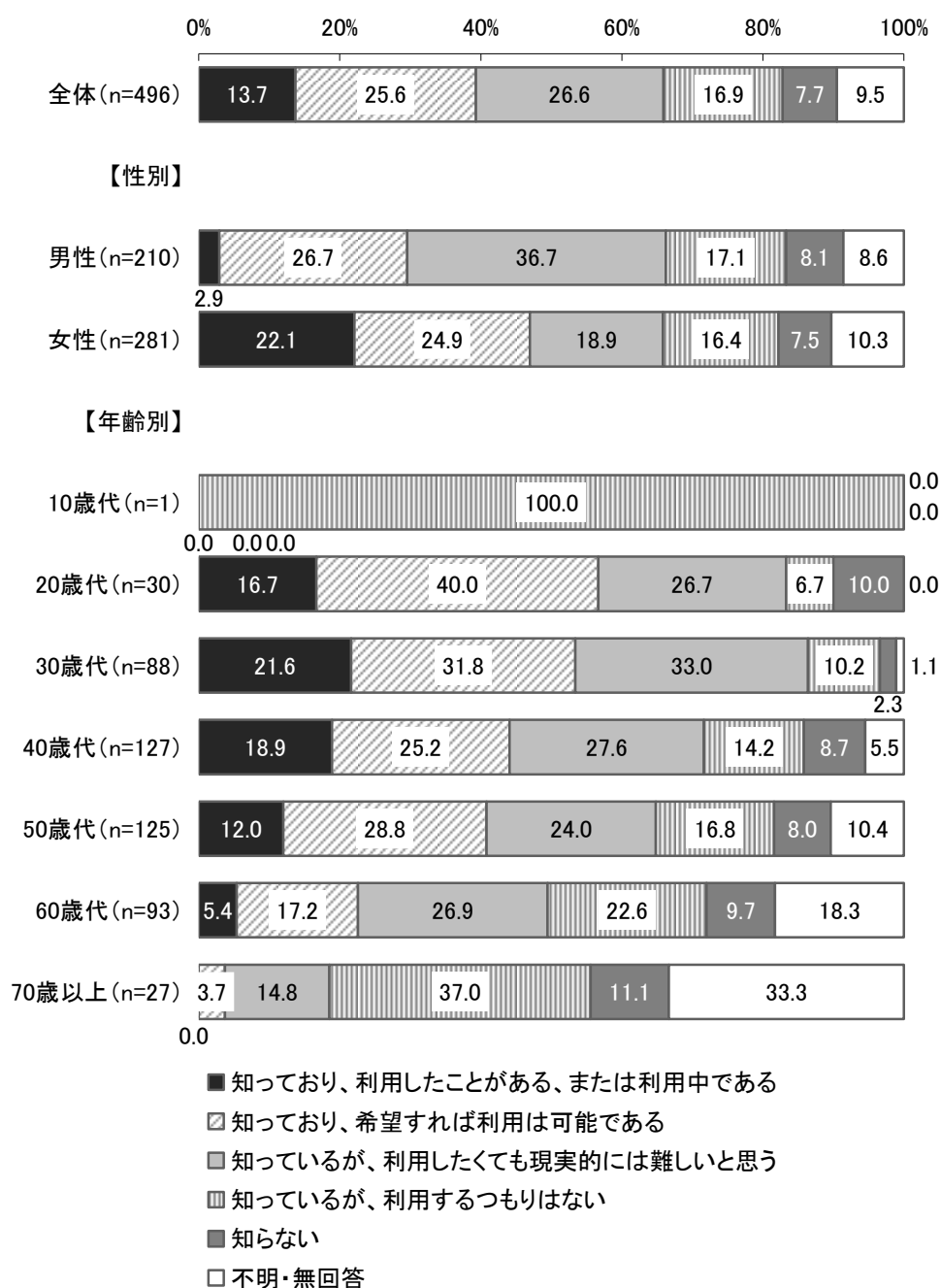
問 23. 次の制度について、あなたの利用経験・認知状況を教えてください。(それぞれ○は1つまで)

### A 育児休業制度

育児休業制度の利用経験・認知状況についてみると、全体では「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」が 26.6%と最も高く、次いで「知っており、希望すれば利用は可能である」が 25.6%、「知っているが、利用するつもりはない」が 16.9%となっています。

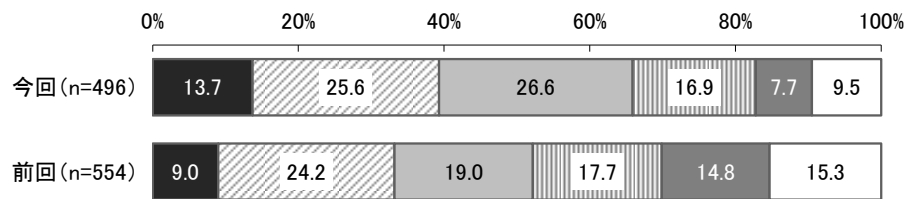
性別でみると、男性では「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」の割合が女性と比べて高く、女性では「知っており、利用したことがある、または利用中である」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、「知っており、利用したことがある、または利用中である」と「知っており、希望すれば利用は可能である」をあわせた【育児休業制度が利用可能な環境計】の割合は概ね年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、【育児休業制度が利用可能な環境計】の割合が増加する一方で、「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」の割合も増加しています。



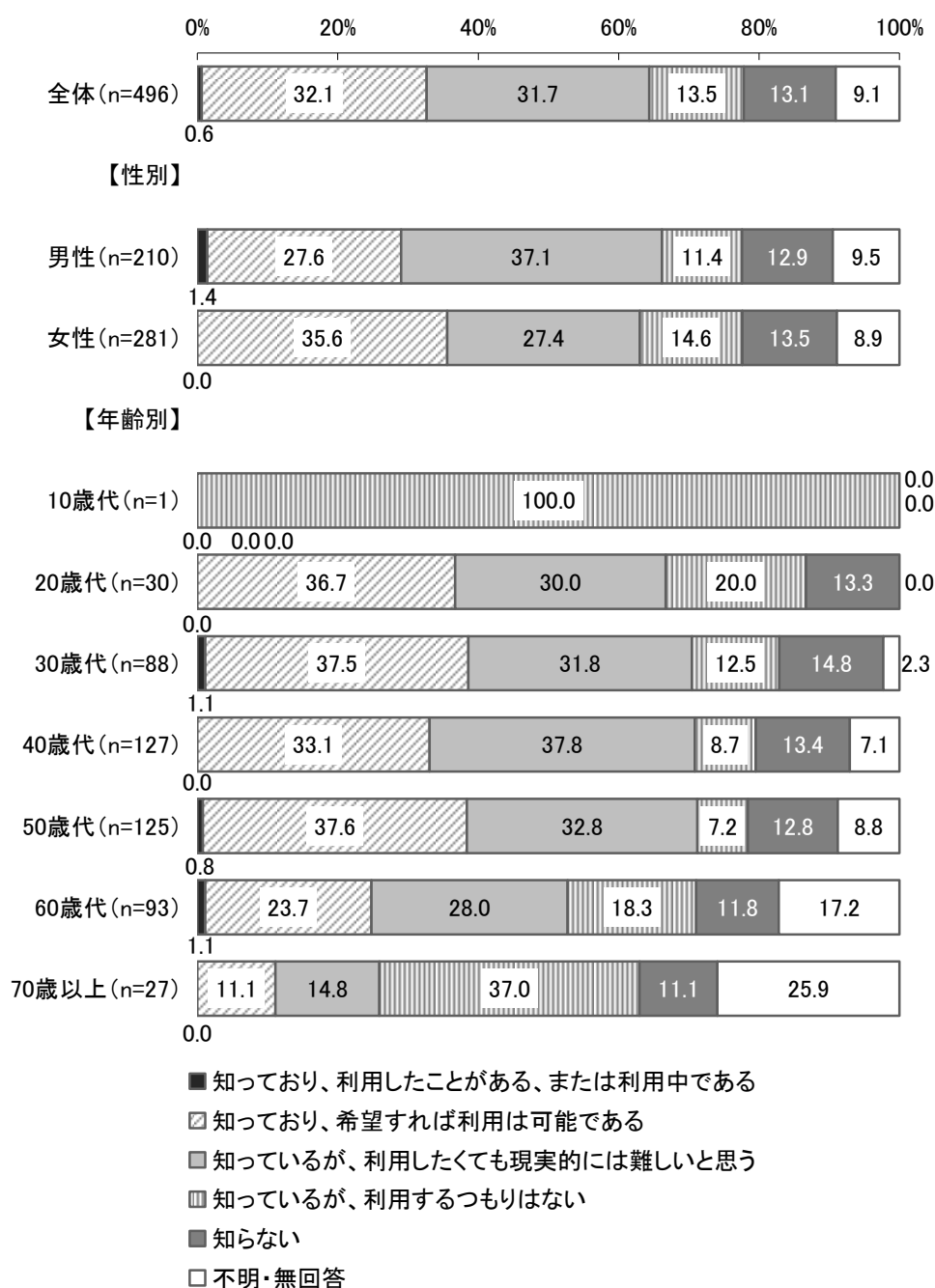
- 知っており、利用したことがある、または利用中である
- ▣ 知っており、希望すれば利用は可能である
- ▤ 知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う
- ▥ 知っているが、利用するつもりはない
- 知らない
- 不明・無回答

## B 介護休業制度

介護休業制度の利用経験・認知状況についてみると、全体では「知っており、希望すれば利用は可能である」が32.1%と最も高く、次いで「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」が31.7%、「知っているが、利用するつもりはない」が13.5%となっています。

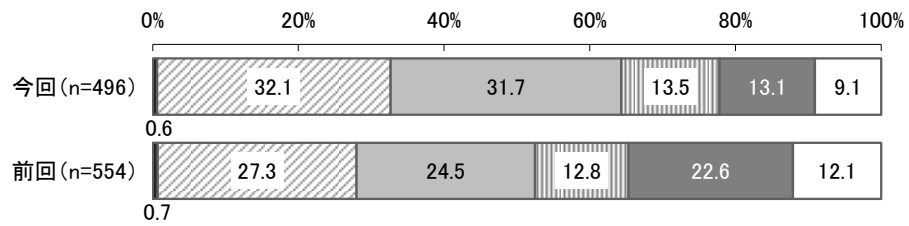
性別でみると、男性では「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」の割合が女性と比べて高く、女性では「知っており、希望すれば利用は可能である」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、「知らない」と「不明・無回答」を除いた【介護休業制度認知計】の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられ、20歳代の割合が8割台後半に対し70歳以上では6割台となっています。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「知らない」の割合は減少する一方で、「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」の割合が増加しています。



- 知っており、利用したことがある、または利用中である
- ▣ 知っており、希望すれば利用は可能である
- ▤ 知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う
- ▥ 知っているが、利用するつもりはない
- 知らない
- 不明・無回答



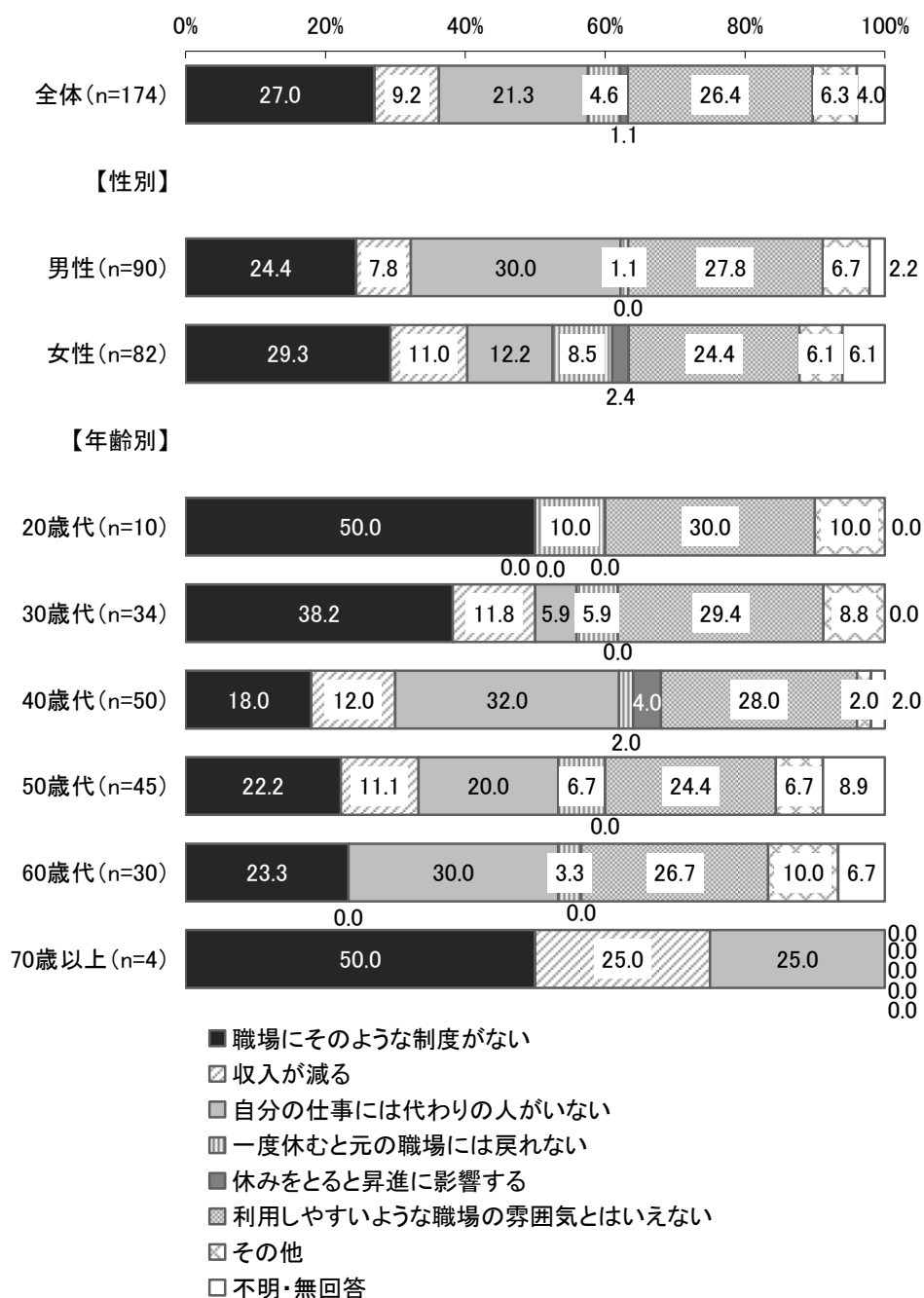
**問 23 で【育児休業制度】または【介護休業制度】について、「知っているが、利用したくても現実的には難しいと思う」と答えた方にお聞きします。**

**問 24. その理由はなぜですか。(○は1つまで)**

育児休業制度または介護休業制度について、利用したくても現実的に難しいと思う理由についてみると、全体では「職場にそのような制度がない」が27.0%と最も高く、次いで「利用しやすいような職場の雰囲気とはいえない」が26.4%、「自分の仕事には代わりの人がいない」が21.3%となっています。

性別でみると、男性では「自分の仕事には代わりの人がいない」の割合が女性と比べて高く、女性では「一度休むと元の職場には戻れない」の割合が男性と比べて高くなっています。

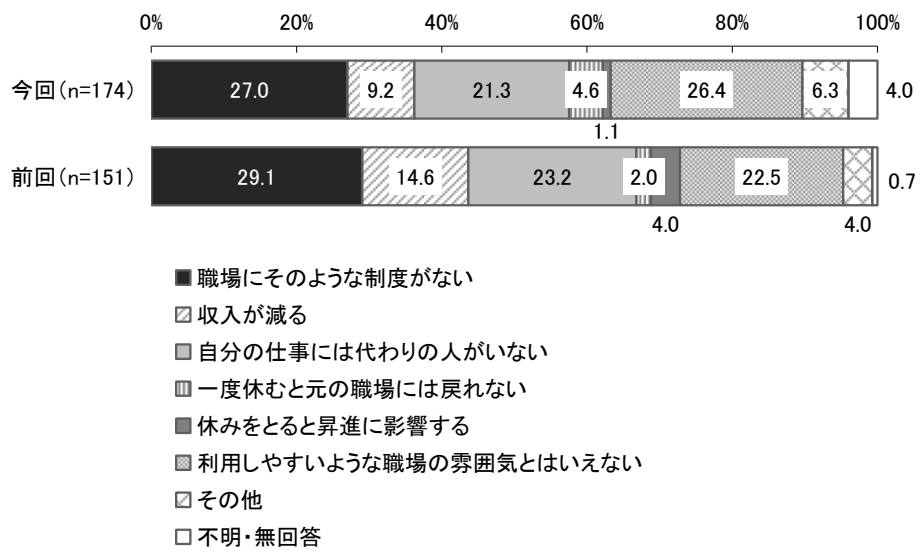
年齢別でみると、20歳代で「職場にそのような制度がない」の割合が5割となっており、他の年齢区分と比べて高くなっています。



※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「収入が減る」の割合が減少しています。



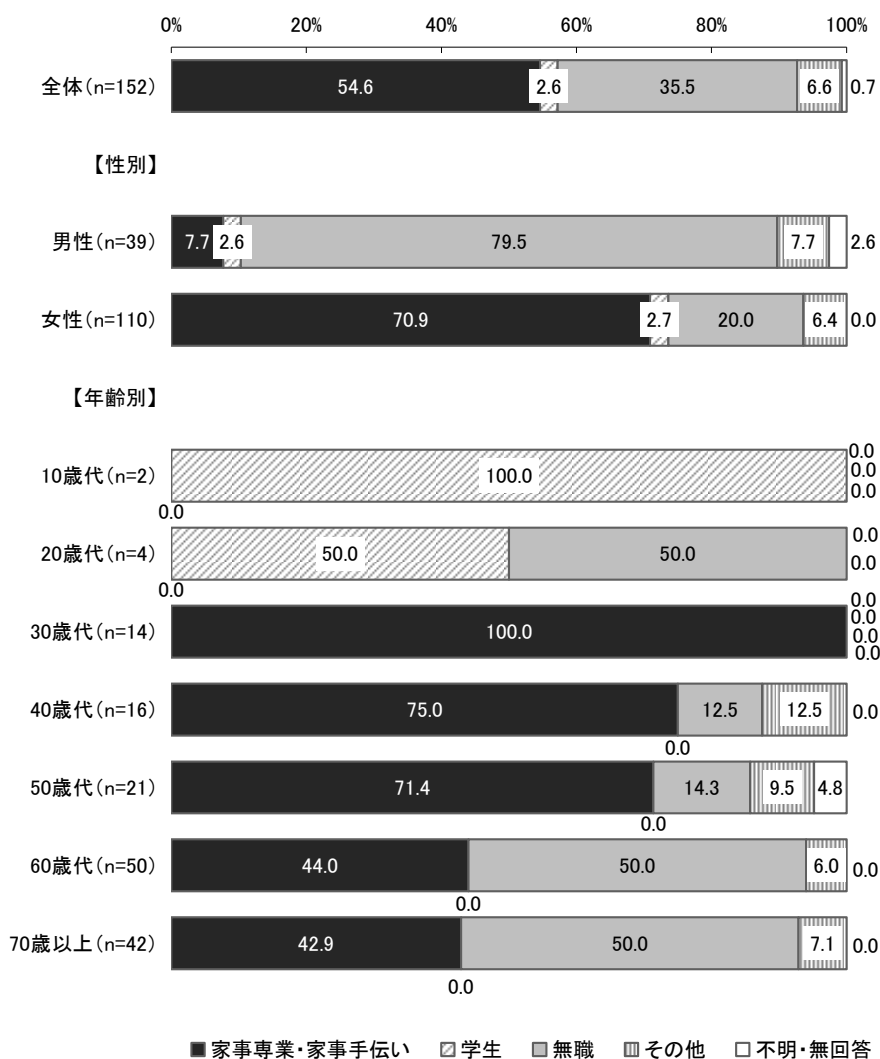
**問 18 で「現在、収入を得る仕事をしていない」と答えた方にお聞きします。**

**問 25. あなたの現在の状況は、次のどちらにあたりますか。(○は1つまで)**

現在、収入を得る仕事をしていないと答えた方の現在の状況についてみると、全体では「家事専業・家事手伝い」が 54.6%と最も高く、次いで「無職」が 35.5%となっています。

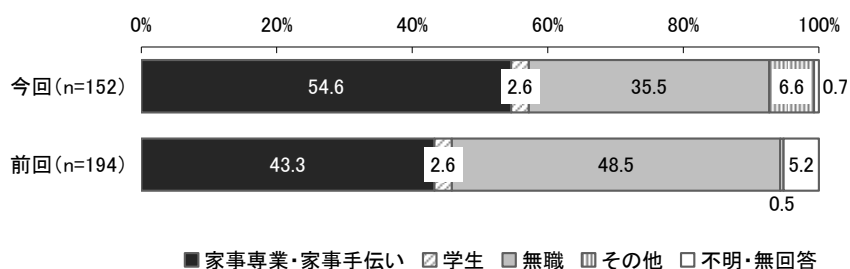
性別でみると、男性では「無職」の割合が女性と比べて高く、女性では「家事専業・家事手伝い」の割合が男性と比べて高くなっています

年齢別でみると、30 歳代以上で「家事専業・家事手伝い」の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。



**<前回調査(平成 28 年)との比較>**

前回調査と比較すると、「家事専業・家事手伝い」の割合が増加し、「無職」の割合が減少しています。

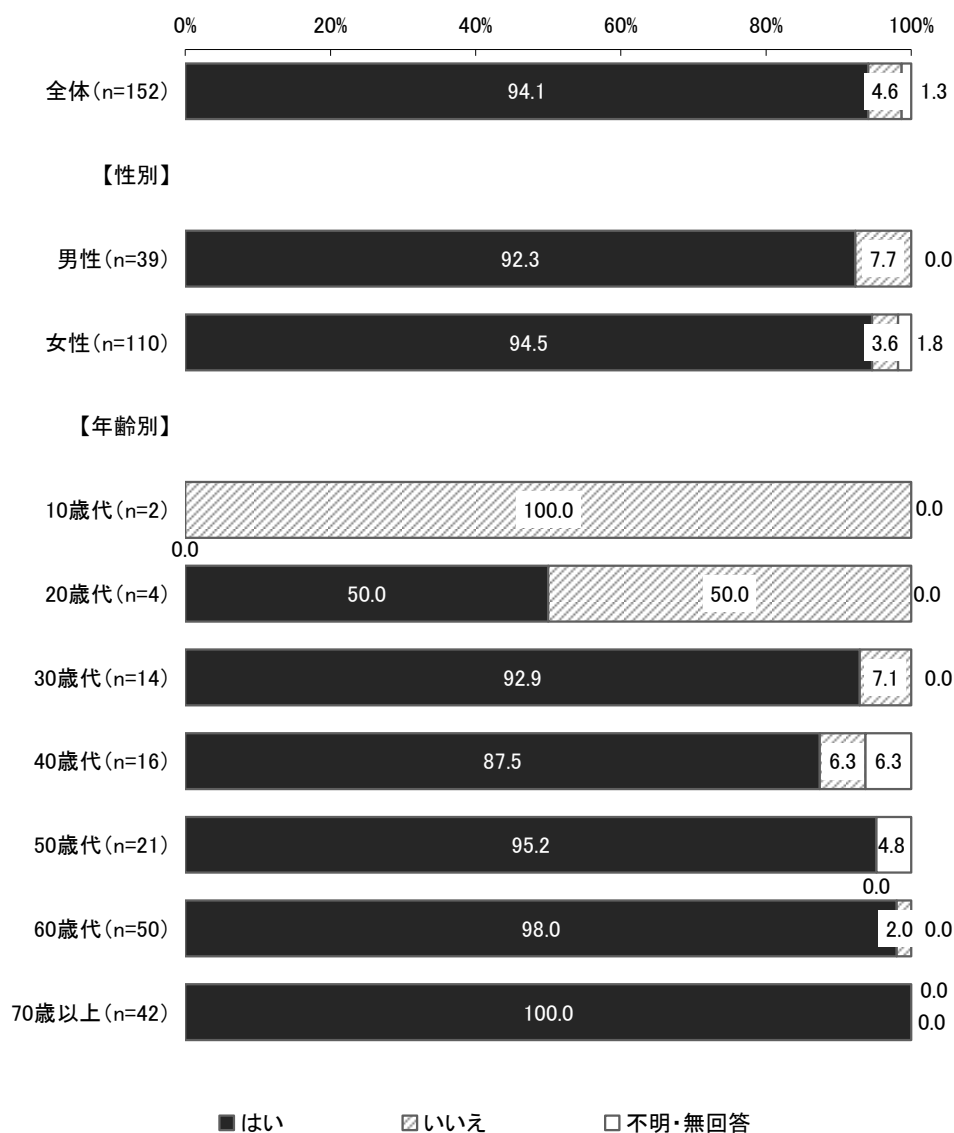


## 問 26. あなたは過去に収入を得る仕事をしたことがありますか。(○は1つまで)

収入を得る仕事の経験の有無についてみると、全体では「はい」が 94.1%、「いいえ」が 4.6%となっています。

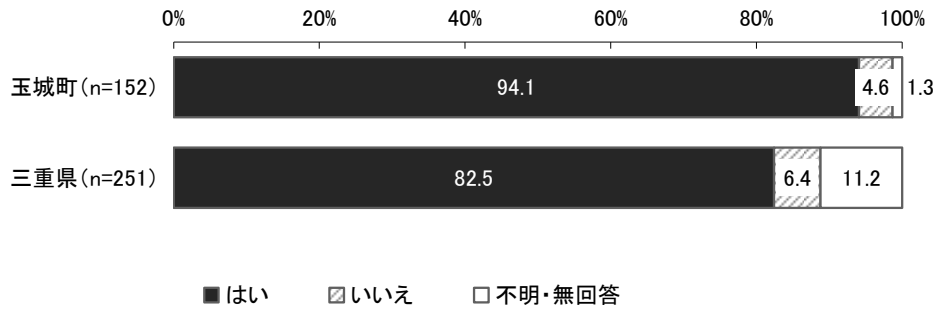
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、30歳代と40歳代では「いいえ」の割合が50歳代以上と比べて高くなっています。



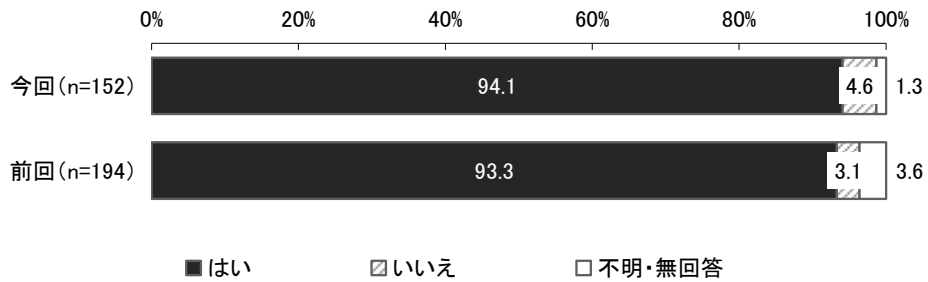
### <県調査との比較>

県調査と比較すると、「はい」の割合では、三重県の82.5%に対し、94.1%と高くなっています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査との比較では、大きな差異はみられません。

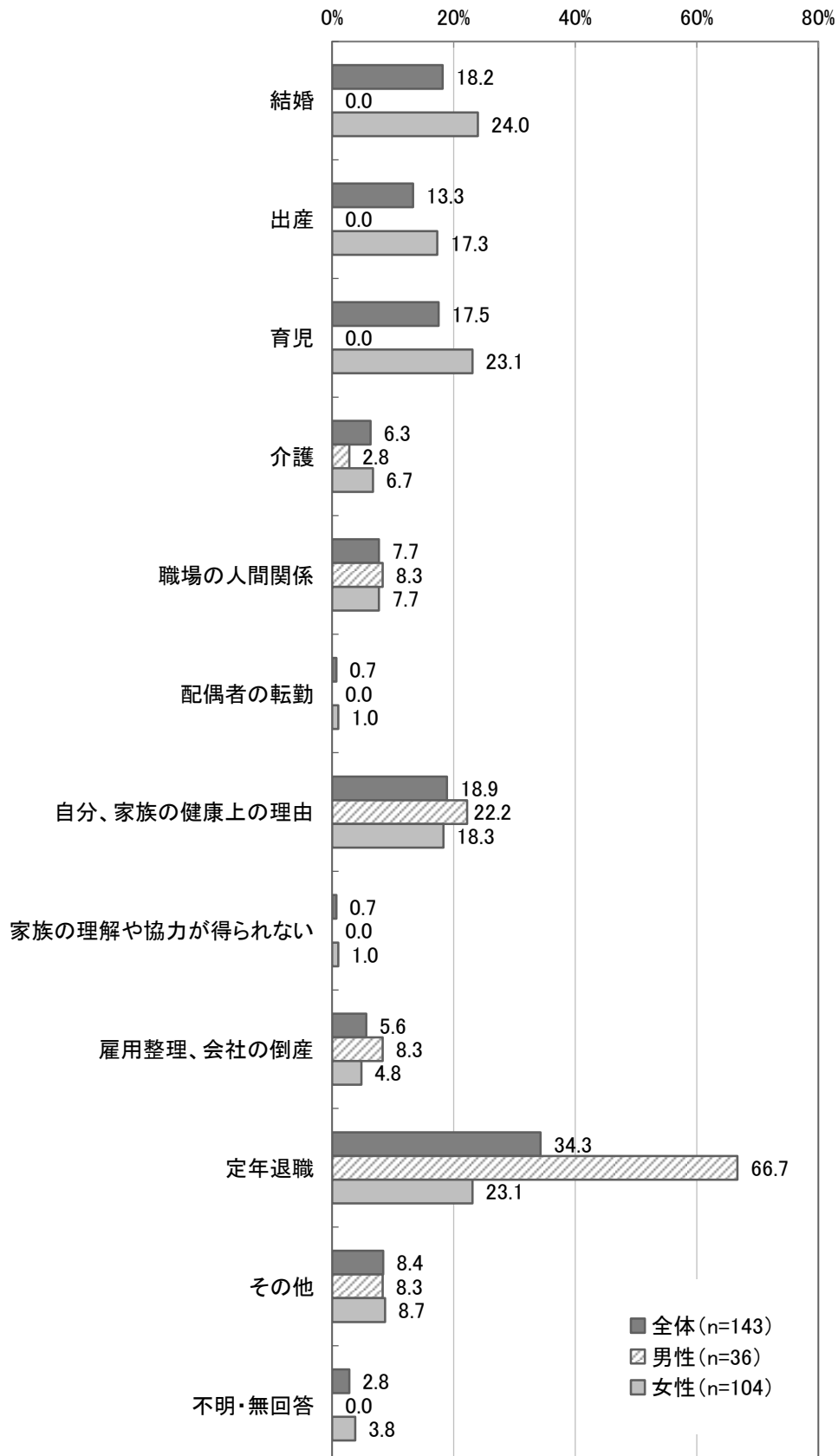


問 26 で「過去に収入を得る仕事をしたことがある」と答えた方にお聞きします。

問 27. あなたが離職した理由についてお答えください。(〇は3つまで)

離職した理由についてみると、全体では「定年退職」が 34.3%と最も高く、次いで「自分、家族の健康上の理由」が 18.9%、「結婚」が 18.2%となっています。

性別でみると、男性では「定年退職」の割合が最も高く、女性では「結婚」の割合が最も高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、30歳代と50歳代では「結婚」の割合が最も高く、40歳代では「自分、家族の健康上の理由」、60歳代以上では「定年退職」の割合が最も高くなっています。

単位：%

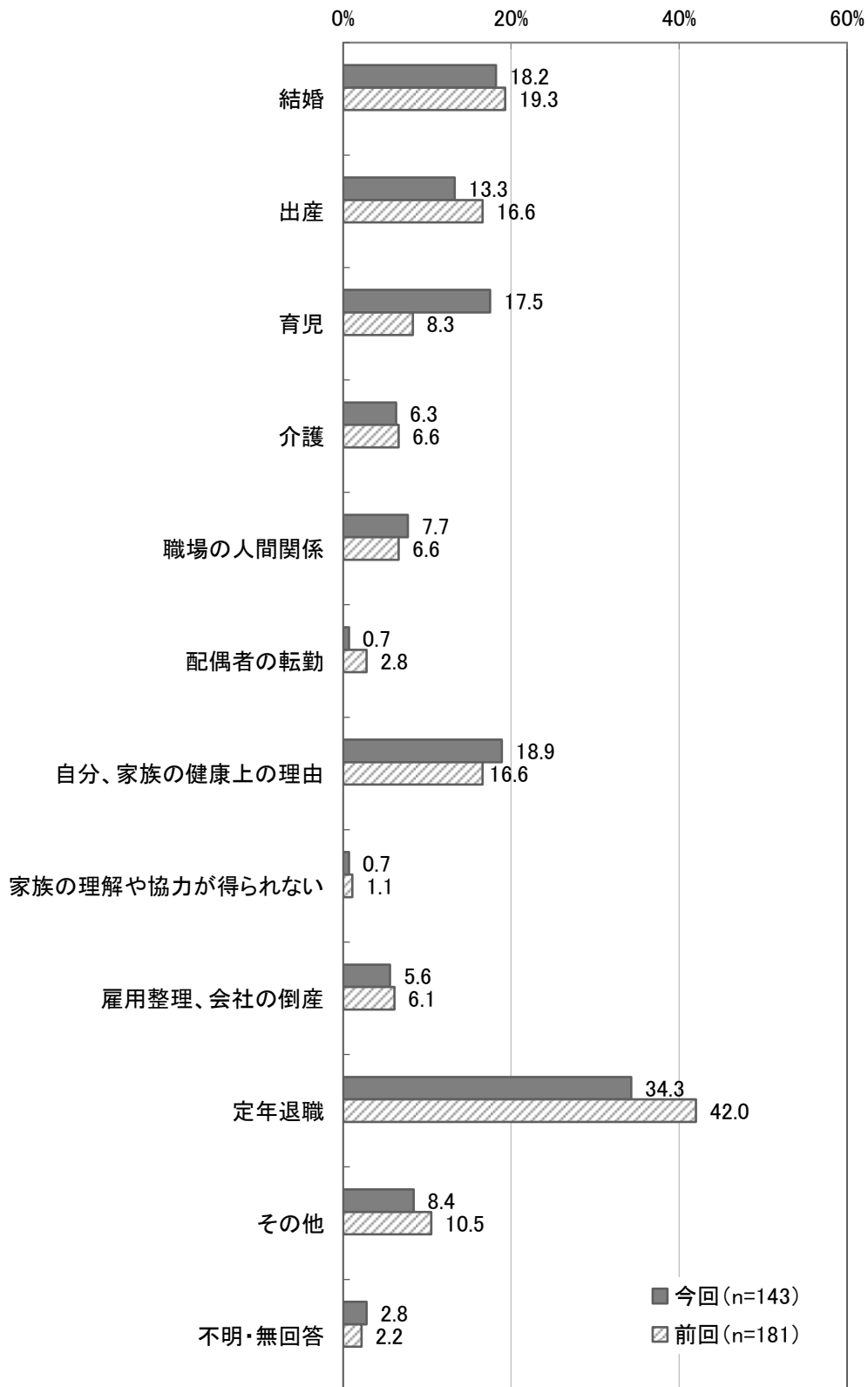
	結婚	出産	育児	介護	職場の人間関係	配偶者の転勤
20歳代 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
30歳代 (n=13)	38.5	30.8	23.1	0.0	15.4	0.0
40歳代 (n=14)	28.6	21.4	21.4	0.0	7.1	0.0
50歳代 (n=20)	30.0	15.0	25.0	15.0	10.0	0.0
60歳代 (n=49)	6.1	10.2	14.3	8.2	8.2	0.0
70歳以上 (n=42)	16.7	7.1	14.3	2.4	2.4	2.4

	自分、家族の健康上の理由	家族の理解や協力が得られない	雇用整理、会社の倒産	定年退職	その他	不明・無回答
20歳代 (n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
30歳代 (n=13)	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代 (n=14)	42.9	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1
50歳代 (n=20)	10.0	0.0	5.0	5.0	5.0	0.0
60歳代 (n=49)	20.4	2.0	10.2	49.0	4.1	2.0
70歳以上 (n=42)	9.5	0.0	2.4	54.8	14.3	4.8

※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

<前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「育児」の割合が増加し、「定年退職」の割合が減少しています。



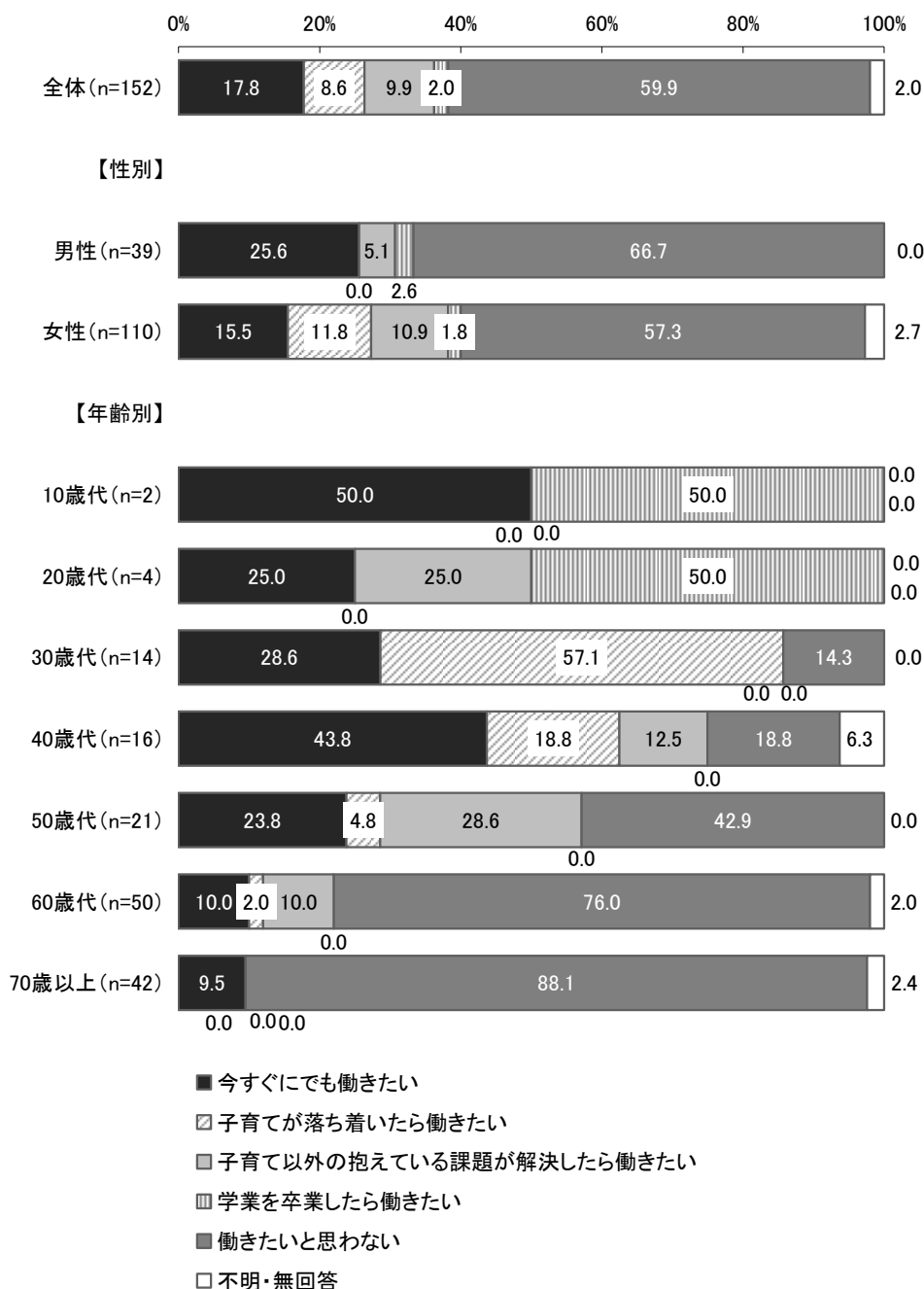


## 問 28. あなたは今後働きたいと思いますか。(〇は1つまで)

今後の就労意向についてみると、全体では「働きたいと思わない」が59.9%と最も高く、次いで「今すぐにも働きたい」が17.8%、「子育て以外の抱えている課題が解決したら働きたい」が9.9%となっています。

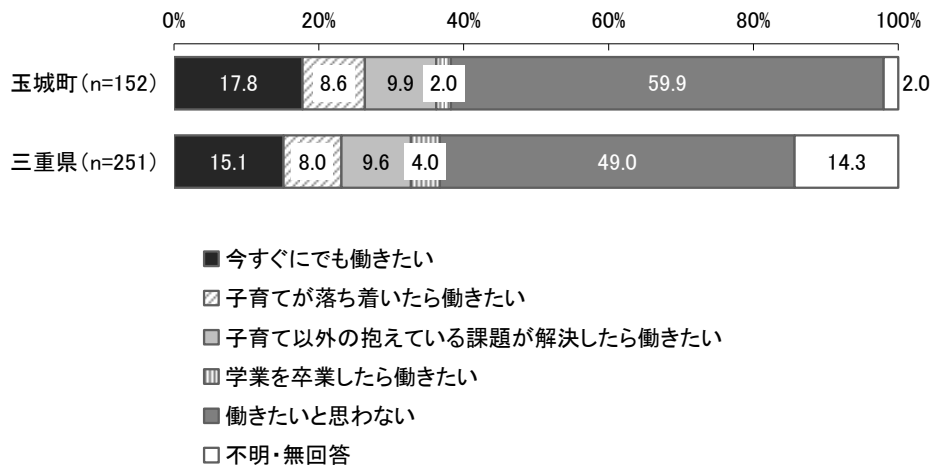
性別でみると、男性では「今すぐにも働きたい」「働きたいと思わない」の割合が女性と比べて高く、女性では「子育てが落ち着いたら働きたい」「子育て以外の抱えている課題が解決したら働きたい」の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代では「子育てが落ち着いたら働きたい」の割合が57.1%と他の年齢区分と比べて高くなっています。



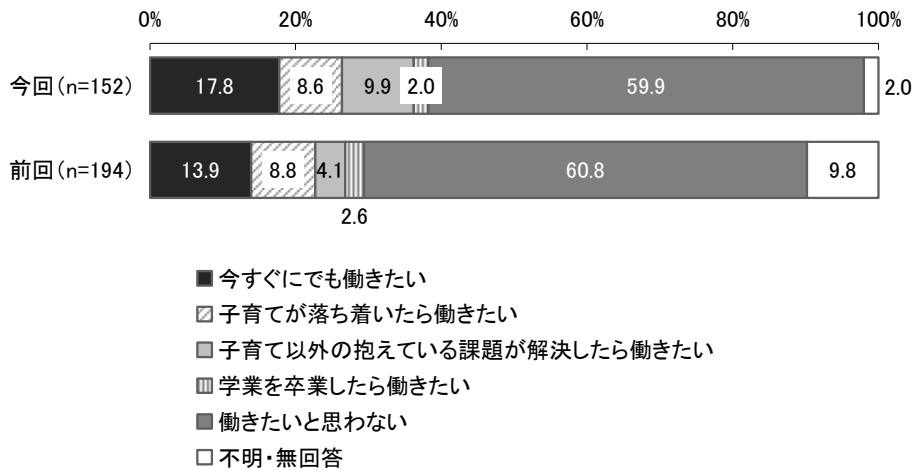
### <県調査との比較>

県調査と比較すると、「働きたいと思わない」の割合が高くなっています。



### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「今すぐにも働きたい」「子育て以外の抱えている課題が解決したら働きたい」の割合が増加しています。

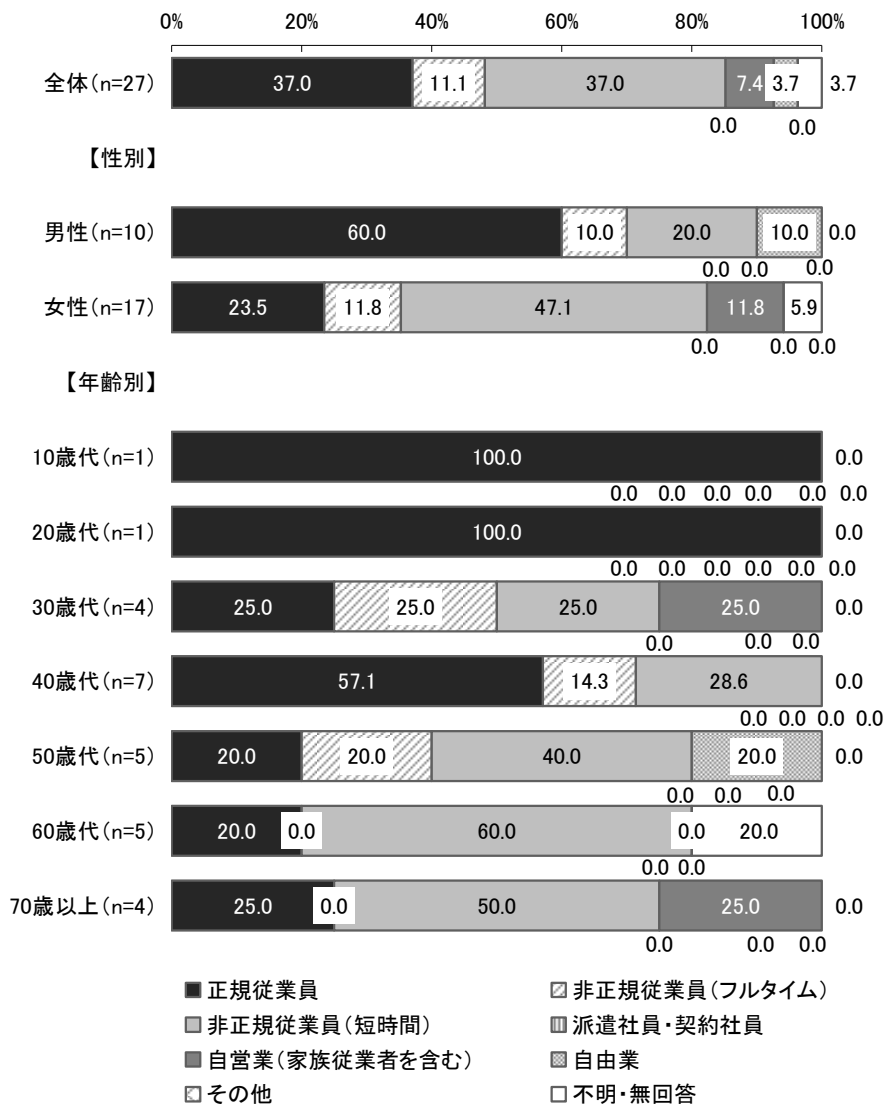


**問 28 で「今すぐにでも働きたい」と答えた方にお聞きします。**

**問 29. どのような勤務形態で働きたいと思いますか。(○は1つまで)**

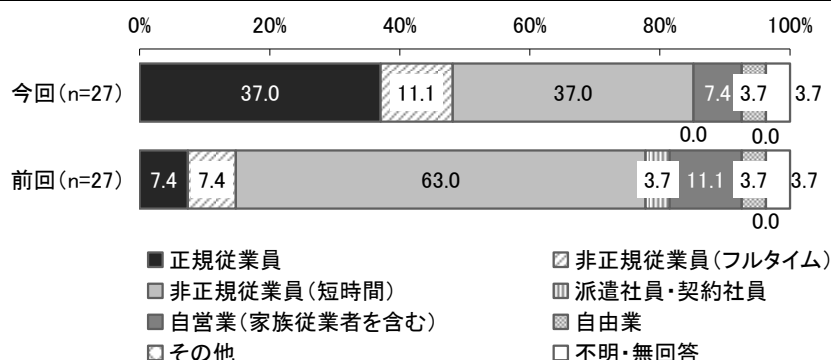
希望する勤務形態についてみると、全体では「正規従業員」「非正規従業員（短時間）」がともに 37.0%と最も高く、次いで「非正規従業員（フルタイム）」が 11.1%となっています。

性別でみると、男性では「正規従業員」の割合が女性と比べて高く、女性では「非正規従業員（短時間）」の割合が男性と比べて高くなっています。



**<前回調査(平成 28 年)との比較>**

前回調査と比較すると、「正規従業員」の割合が前回の 7.4%から 37.0%と約 30 ポイント増加しています。一方で「非正規従業員（短時間）」の割合は前回の 63.0%から 37.0%と 26 ポイント減少しています。

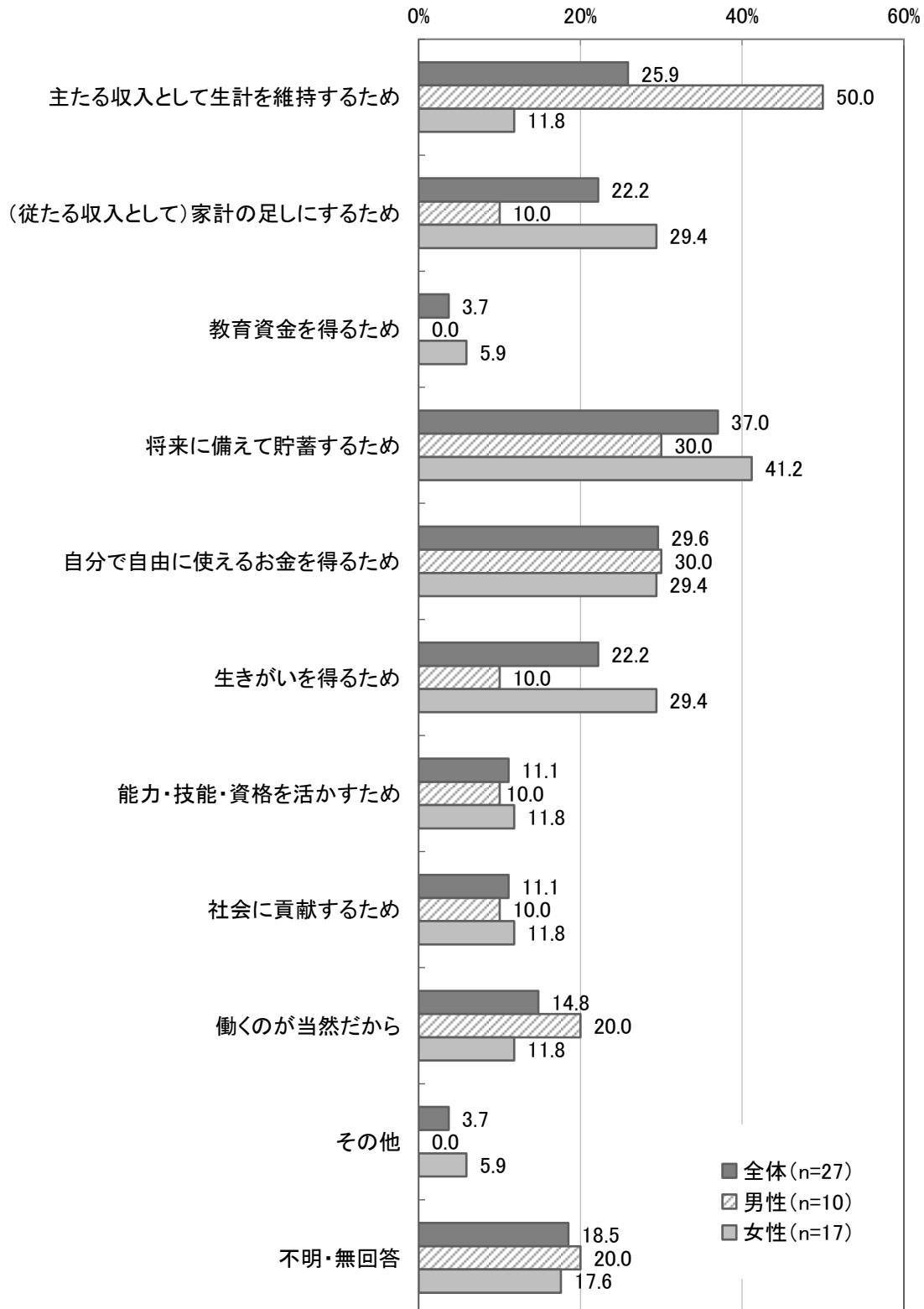


問 28 で「今すぐにでも働きたい」と答えた方にお聞きします。

問 30. あなたが働きたいと思うのはどのような理由からですか。(〇は3つまで)

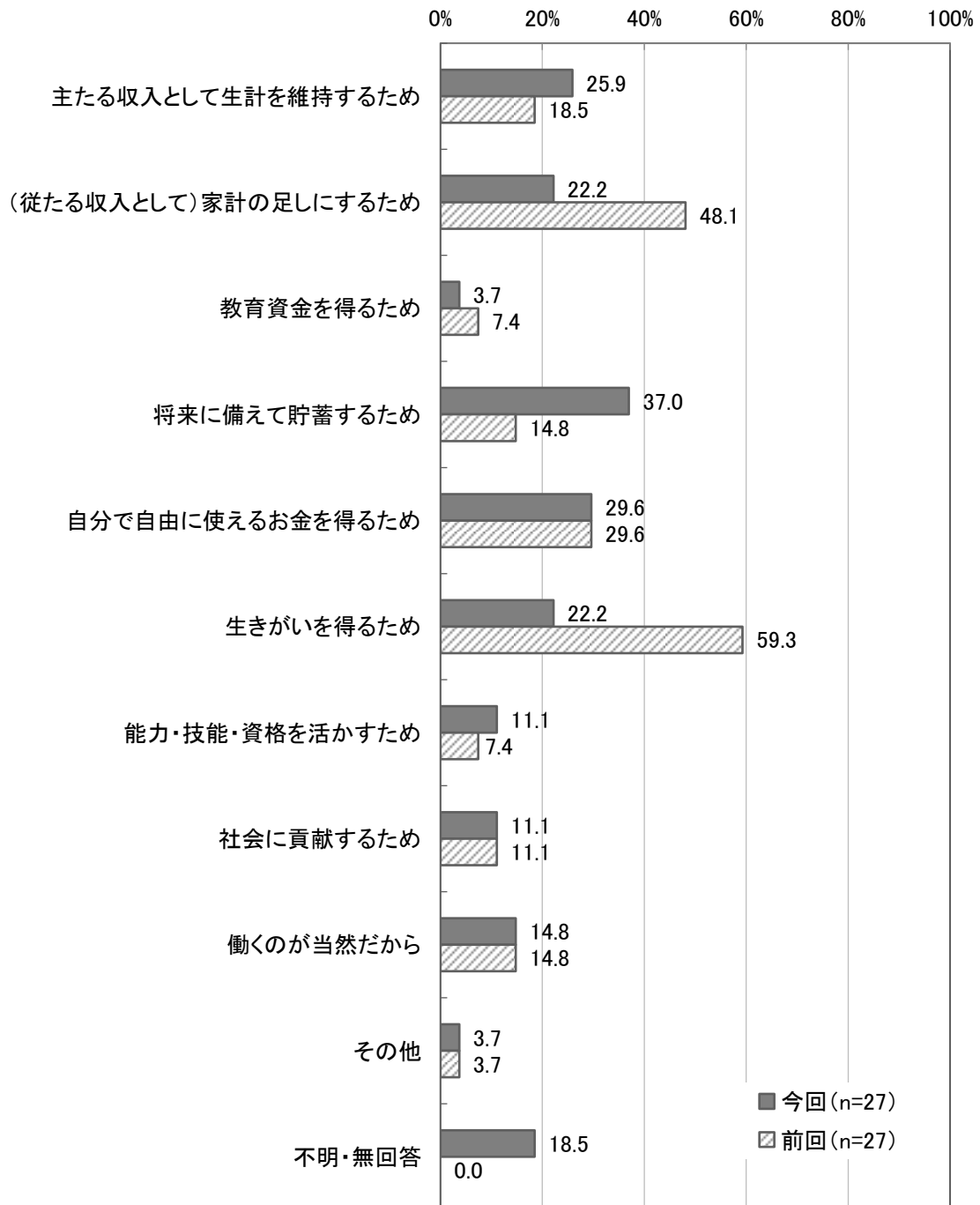
働きたいと思う理由についてみると、全体では「将来に備えて貯蓄するため」が 37.0%と最も高く、次いで「自分で自由に使えるお金を得るため」が 29.6%、「主たる収入として生計を維持するため」が 25.9%となっています。

性別でみると、男性では「主たる収入として生計を維持するため」の割合が高く、女性では「将来に備えて貯蓄するため」の割合が高くなっています。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「主たる収入として生計を維持するため」「将来に備えて貯蓄するため」の割合が増加し、「(従たる収入として)家計の足しにするため」「生きがいを得るため」の割合が減少しています。



## 5 女性の活躍について

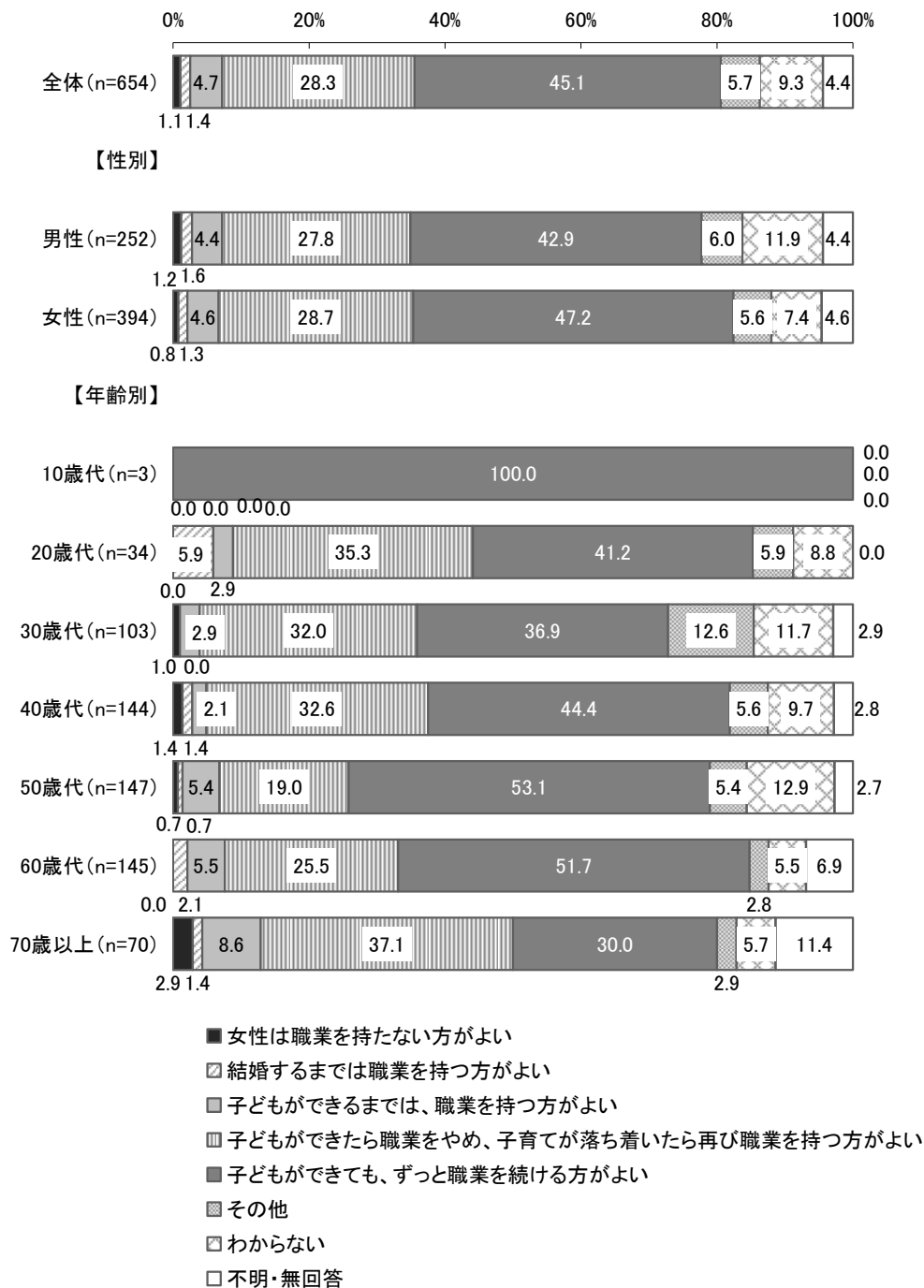
問 31. 女性の職業へのかかわり方について、あなたはどのような形が最も望ましいと思いますか。

(○は1つまで)

女性の職業へのかかわり方について望ましい形についてみると、全体では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が45.1%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業を持つ方がよい」が28.3%、「その他」が5.7%となっています。

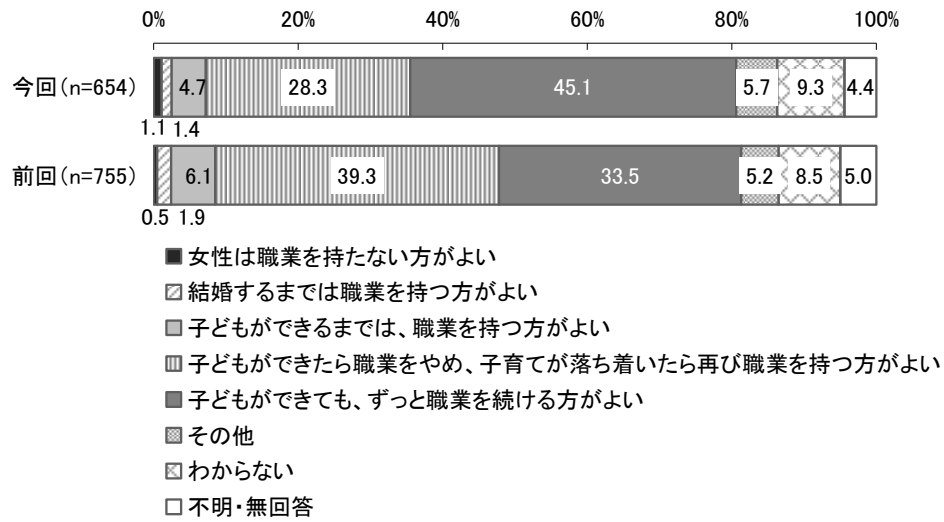
性別でみると、女性では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が男性と比べて高くなっています

年齢別でみると、50歳代と60歳代では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が他の年齢区分と比べて高く、5割を超えています。



## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「子どもができれば職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業を持つ方がよい」の割合が減少し、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が増加しています。

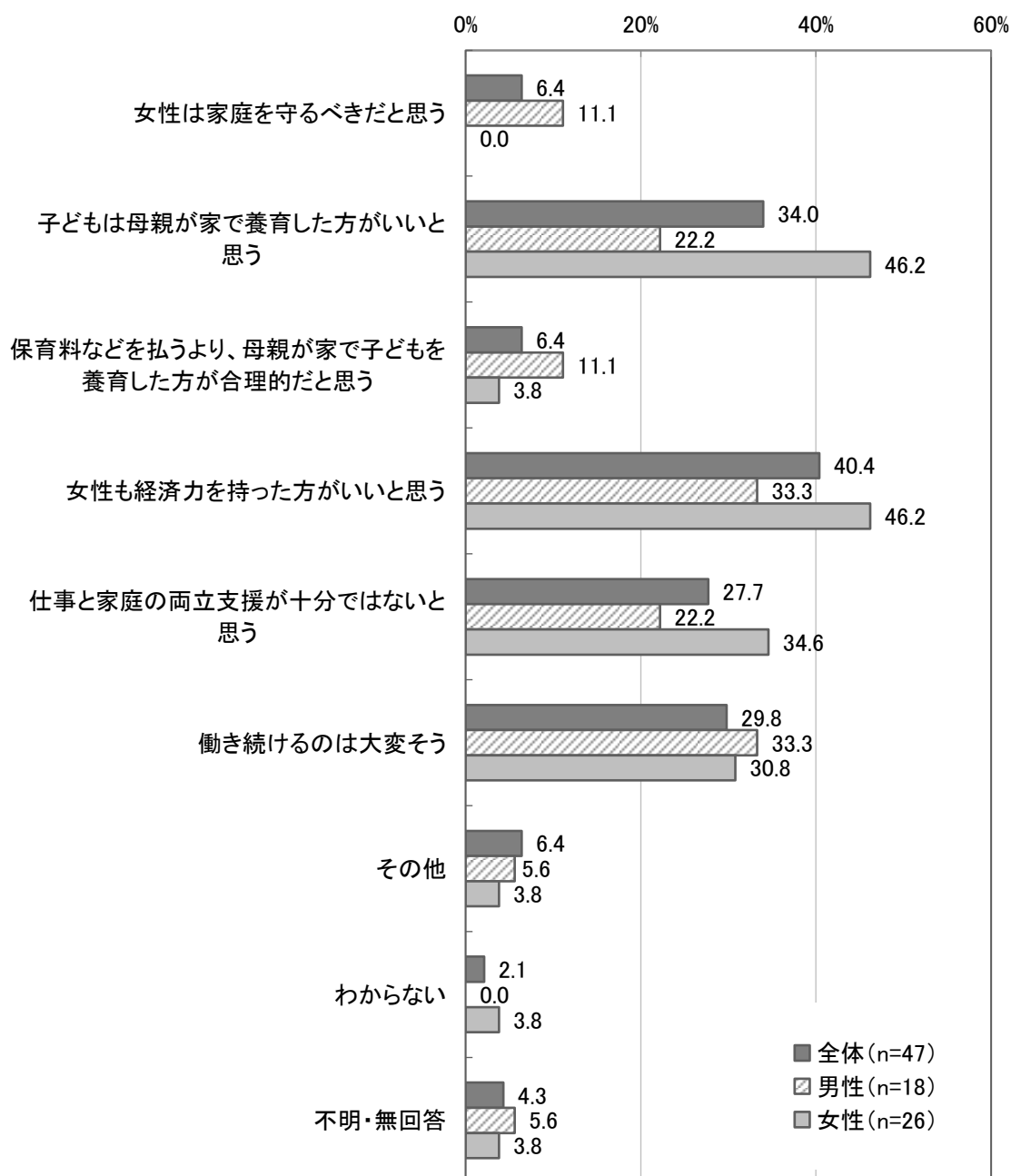


問 31 で「女性は職業を持たない方がよい」「結婚するまでは職業を持つ方がよい」「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」と答えた方にお聞きします。

問 32. その理由はなぜですか。(〇は3つまで)

“女性は職業を持たない方がよい”、“結婚するまで、子どもができるまでは職業を持つ方がよい”と思う理由についてみると、全体では「女性も経済力を持った方がいいと思う」が 40.4%と最も高く、次いで「子どもは母親が家で養育した方がいいと思う」が 34.0%、「働き続けるのは大変そう」が 29.8%となっています。

性別でみると、女性では「子どもは母親が家で養育した方がいいと思う」「女性も経済力を持った方がいいと思う」の割合が男性と比べて高くなっています。





## <年齢別>

年齢別でみると、50歳代と60歳代では「子どもは母親が家で養育した方がいいと思う」の割合が高く、50歳代では「女性も経済力を持った方がいいと思う」「働き続けるのは大変そう」の割合も高くなっています。

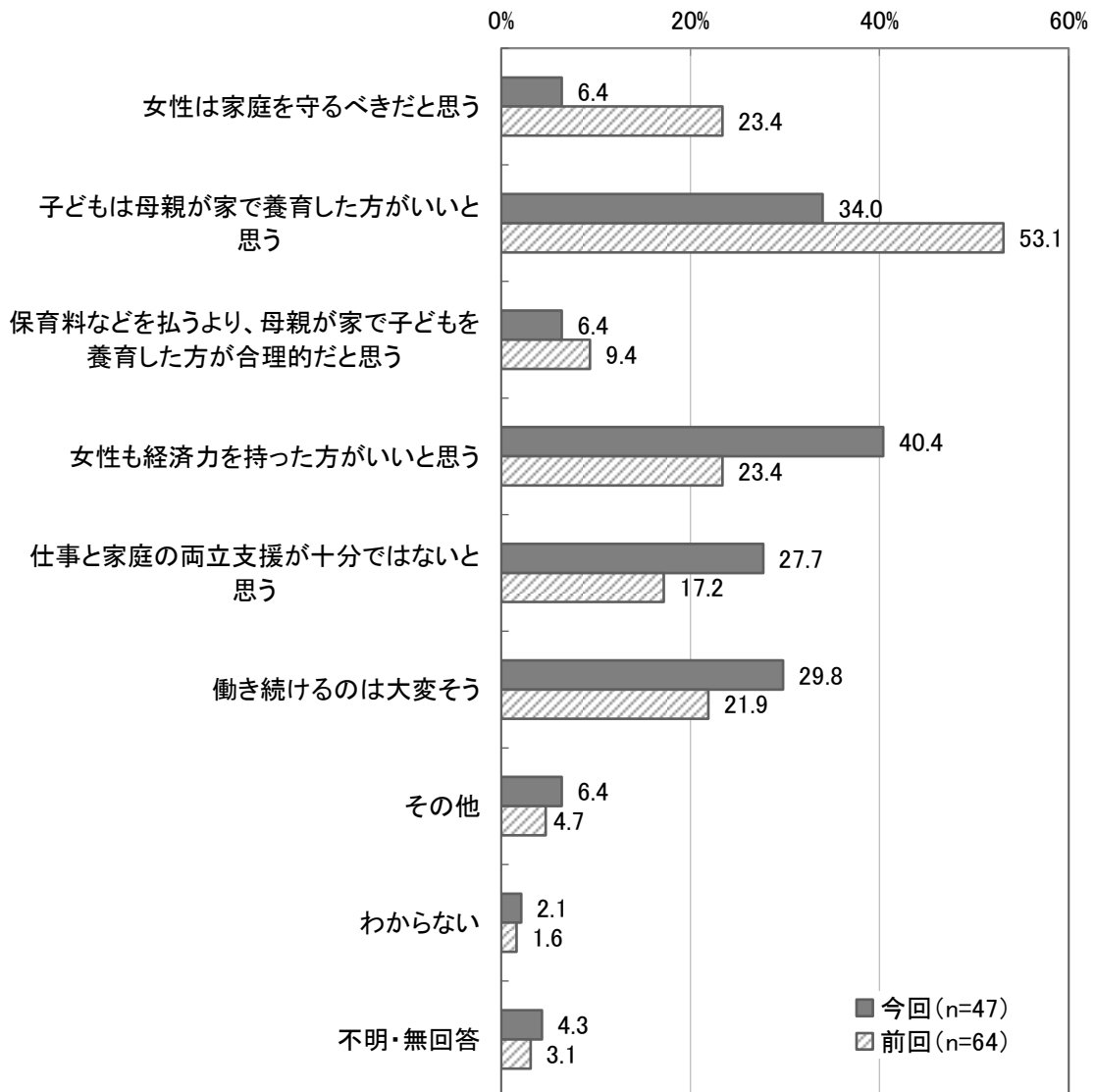
単位：%

	女性 は家庭 を守る べきだ と思う	子ども は母親 が家で 養育し た方が いいと 思う	保育料 などを 払うよ り、母 親が家 で子ど もを 養育し た方が 合理的 だと思 う	女性 も経済 力を持 った方 がいい と思 う	仕事 と家庭 の両立 支援が 十分で はない と思 う	働き 続ける のは大 変そう	その 他	わか らない	不明 ・無 回答
20歳代 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0
30歳代 (n=4)	0.0	25.0	0.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
40歳代 (n=7)	14.3	14.3	0.0	71.4	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
50歳代 (n=10)	0.0	50.0	0.0	50.0	40.0	50.0	0.0	10.0	0.0
60歳代 (n=11)	0.0	45.5	18.2	36.4	0.0	27.3	9.1	0.0	9.1
70歳以上 (n=9)	11.1	44.4	11.1	22.2	33.3	22.2	0.0	0.0	11.1

※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「女性は家庭を守るべきだと思う」「子どもは母親が家で養育した方がいいと思う」の割合が減少し、「女性も経済力を持った方がいいと思う」「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思う」「働き続けるのは大変そう」の割合が増加しています。

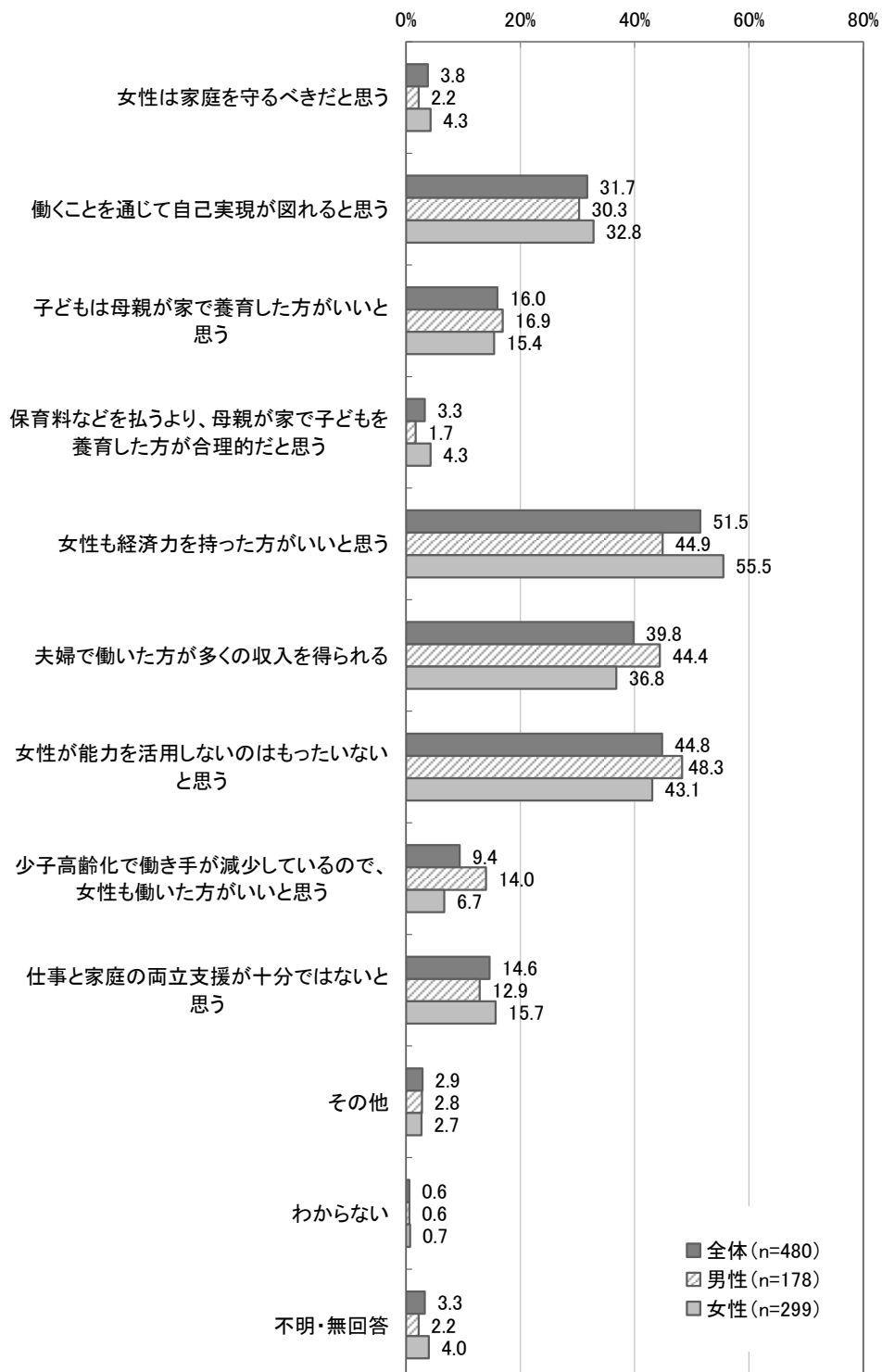


問 31 で「子どもができたら職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業を持つ方がよい」「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた方にお聞きします。

問 33. その理由はなぜですか。(〇は3つまで)

“子どもができたら職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業を持つ方がよい”“子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい”と思う理由についてみると、全体では「女性も経済力を持った方がいいと思う」が51.5%と最も高く、次いで「女性が能力を活用しないのはもったいないと思う」が44.8%、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」が39.8%となっています。

性別でみると、男性では「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」「女性が能力を活用しないのはもったいないと思う」の割合が高く、女性では「女性も経済力を持った方がいいと思う」の割合が高くなっています。



<年齢別>

年齢別でみると、20歳代と30歳代では「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」の割合が最も高く、40歳代から60歳代では「女性も経済力を持った方がいいと思う」、70歳以上では「女性が能力を活用しないのはもったいないと思う」の割合が最も高くなっています。

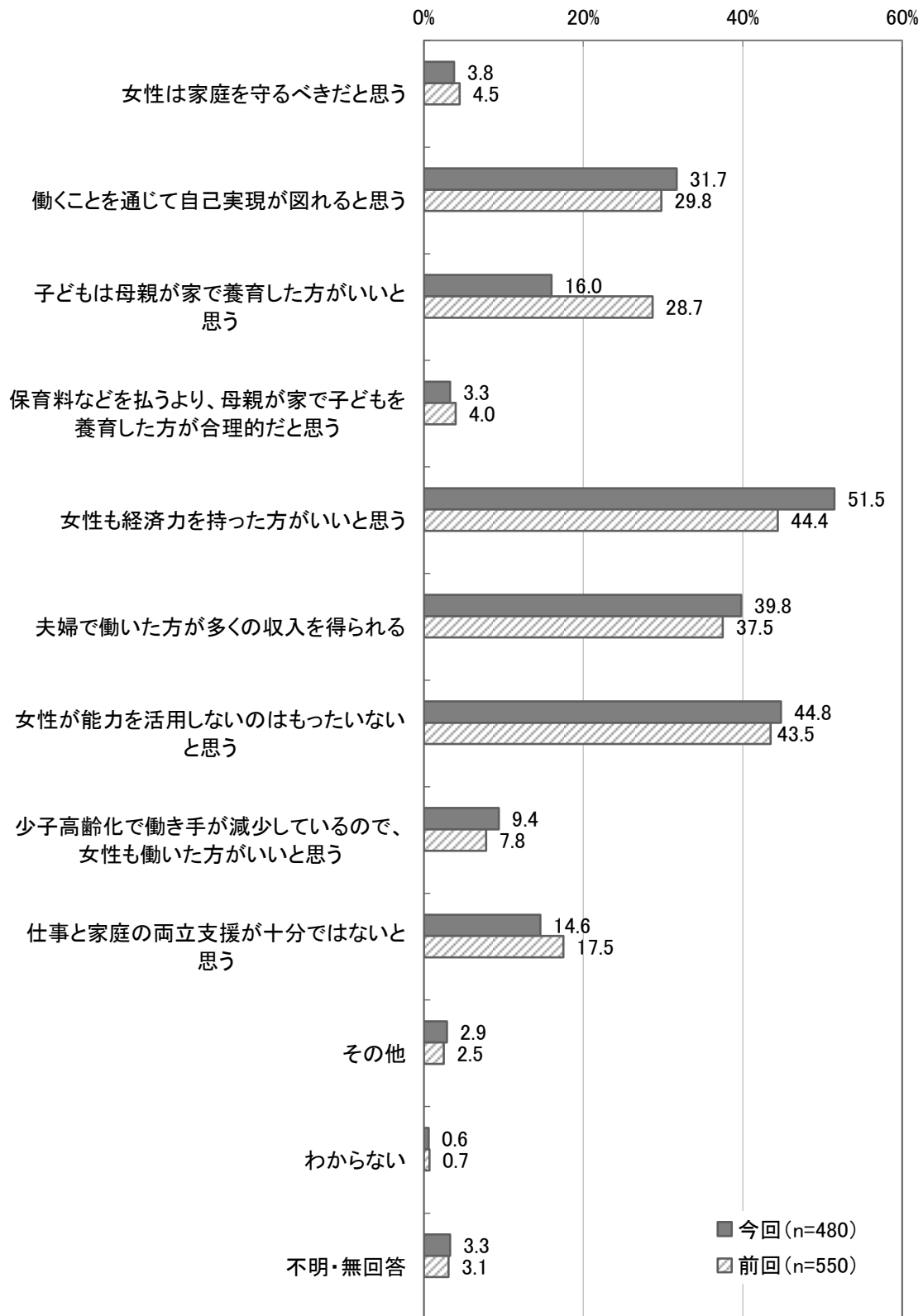
単位：%

	女性は家庭を守るべきだと思う	働くことを通じて自己実現が図れると思う	子どもは母親が家で養育した方がいいと思う	保育料などを払うより、母親が家で子どもを養育した方が合理的だと思う	女性も経済力を持った方がいいと思う	夫婦で働いた方が多くの収入を得られる
10歳代 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
20歳代 (n=26)	0.0	15.4	7.7	3.8	53.8	57.7
30歳代 (n=71)	4.2	29.6	14.1	4.2	38.0	50.7
40歳代 (n=111)	3.6	32.4	19.8	6.3	49.5	36.0
50歳代 (n=106)	6.6	30.2	12.3	1.9	49.1	48.1
60歳代 (n=112)	1.8	41.1	16.1	1.8	60.7	30.4
70歳以上 (n=47)	2.1	27.7	23.4	2.1	57.4	25.5

	女性が能力を活用しないのはもったいないと思う	少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思う	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思う	その他	わからない	不明・無回答
10歳代 (n=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=26)	26.9	11.5	23.1	0.0	0.0	3.8
30歳代 (n=71)	29.6	8.5	14.1	2.8	2.8	7.0
40歳代 (n=111)	40.5	4.5	14.4	2.7	0.9	2.7
50歳代 (n=106)	44.3	11.3	17.9	3.8	0.0	0.9
60歳代 (n=112)	57.1	10.7	13.4	1.8	0.0	1.8
70歳以上 (n=47)	59.6	14.9	6.4	4.3	0.0	8.5

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「子どもは母親が家で養育した方がいいと思う」の割合が減少し、「女性も経済力を持った方がいいと思う」の割合が増加しています。



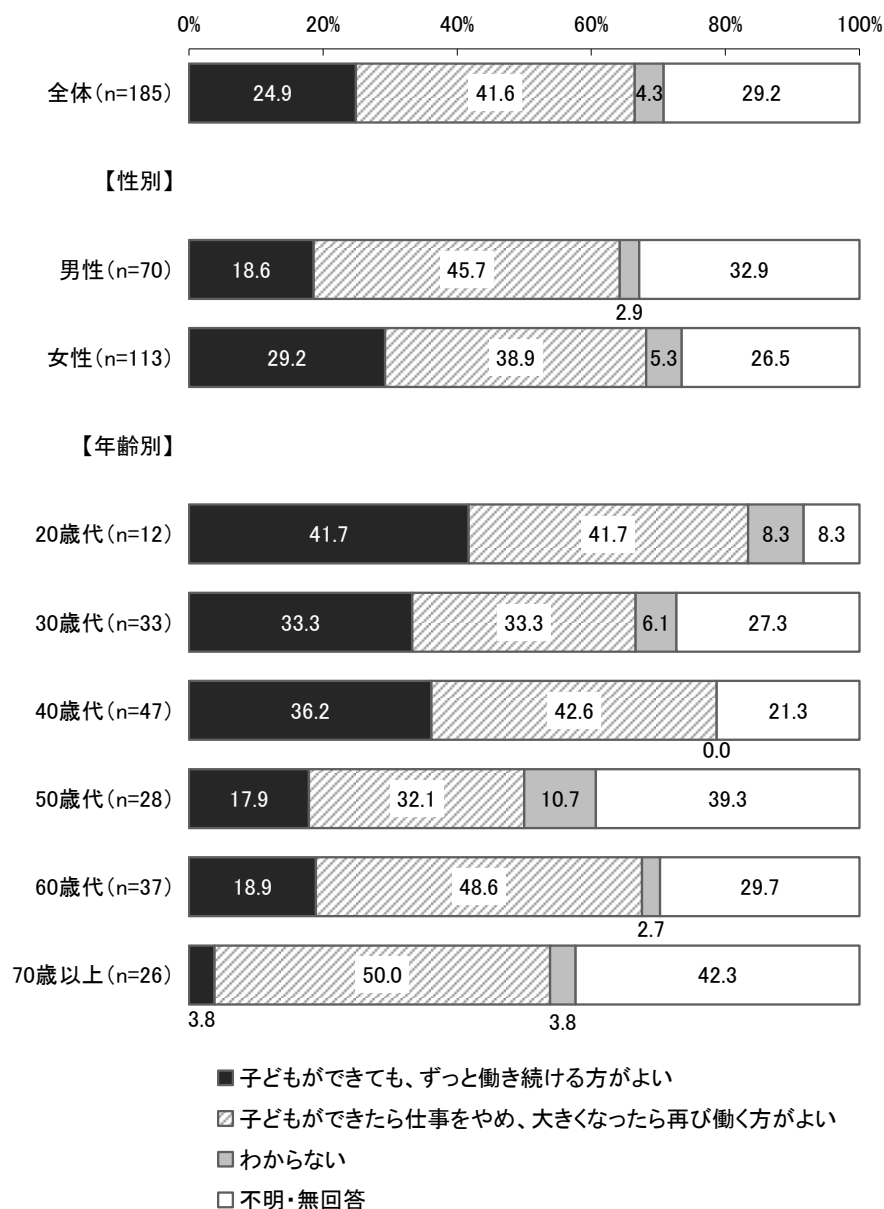
問 31 で「子どもができたら職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業を持つ方がよい」と答えた方にお聞きします。

問 34. もし現在よりも、仕事と子育ての両立がしやすい環境にあるとするならば、どのようにお考えですか。  
(○は1つまで)

仕事と子育ての両立がしやすい環境下における就労への考え方についてみると、全体では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」が 41.6%、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」が 24.9%となっています。

性別でみると、男性では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が女性と比べて高く、女性では「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」の割合が男性と比べて高くなっています

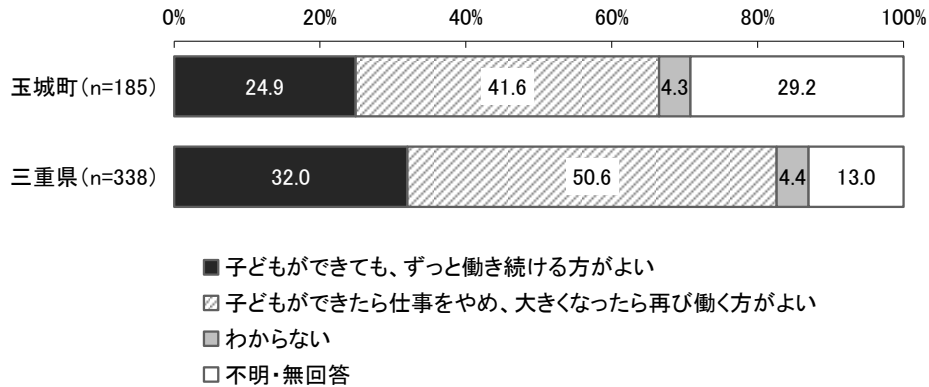
年齢別でみると、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」の割合は概ね年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられ、20 歳代では 4 割台、30 歳代と 40 歳代で 3 割台、50 歳代と 60 歳代で 1 割台、70 歳以上では 1 割以下となっています。



※10 歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

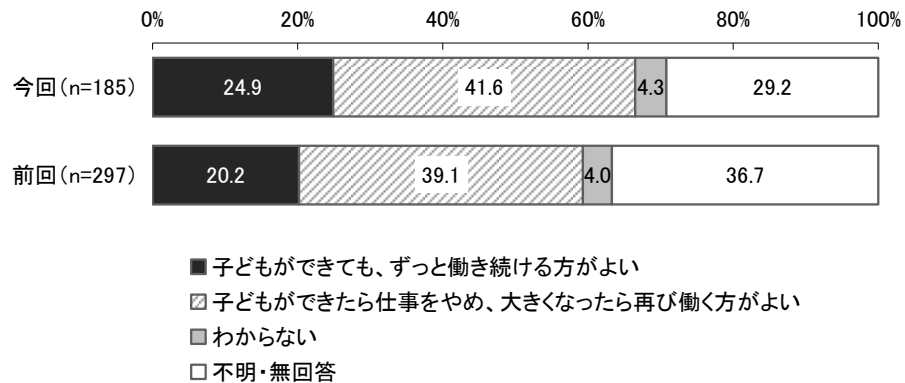
### <県調査との比較>

県調査と比較すると、三重県に比べ「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合がともに低くなっています。



### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が増加しています。

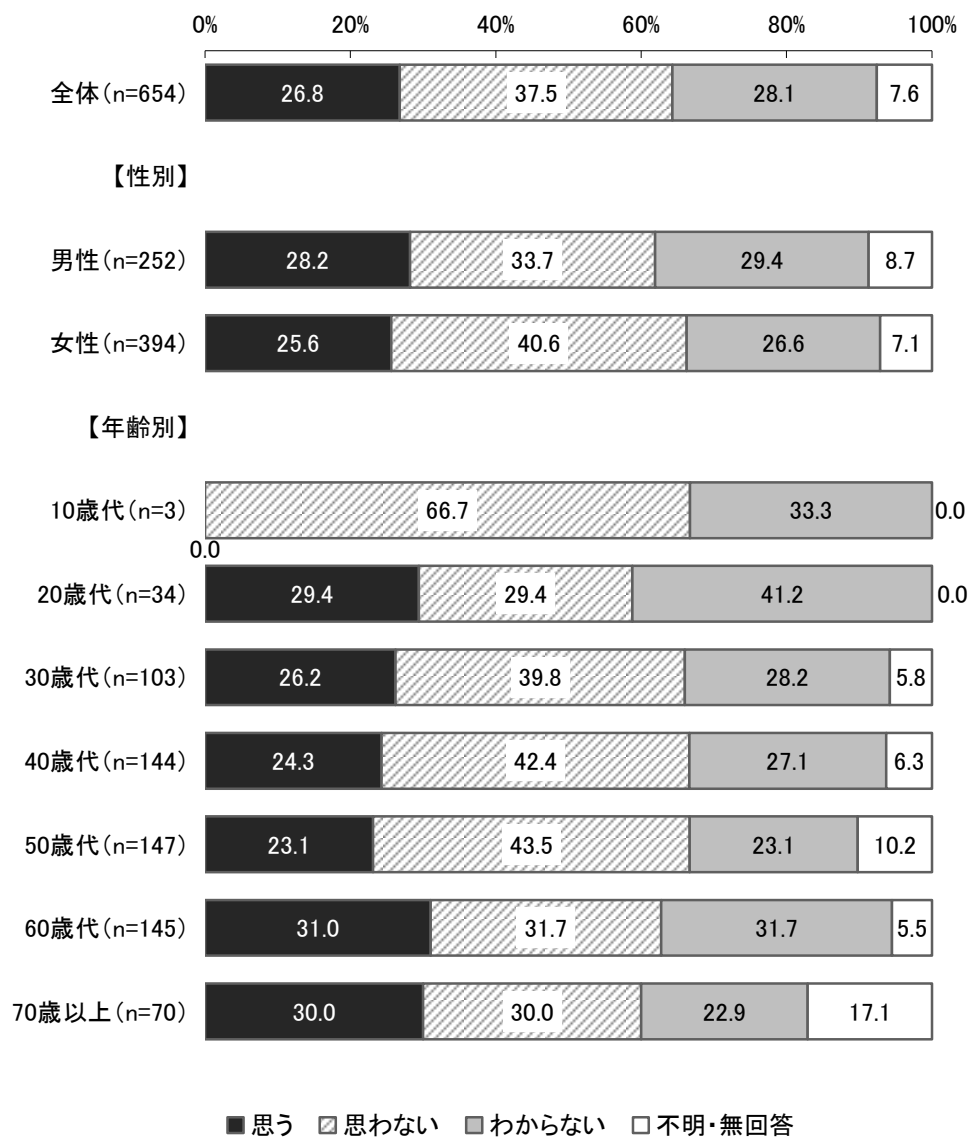


### 問 35. あなたは、現在女性は働きやすい状況にあると思いますか。(○は1つまで)

現在女性は働きやすい状況にあると思うかについてみると、全体では「思わない」が37.5%、「思う」が26.8%となっています。

性別でみると、女性では「思わない」の割合が男性と比べて高くなっています

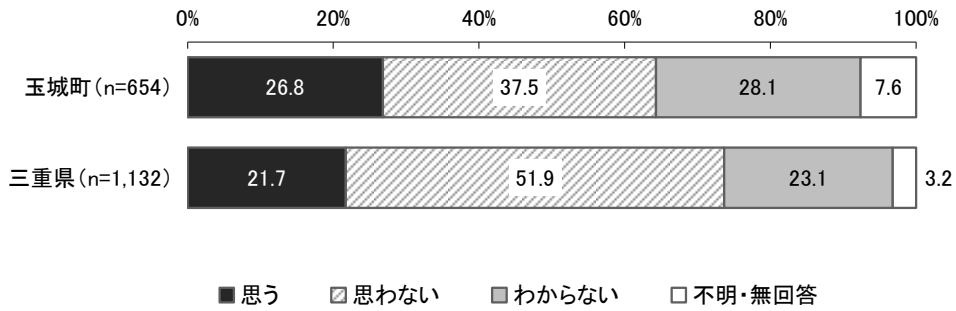
年齢別でみると、40歳代と50歳代で「思わない」の割合が4割を超え、他の年齢区分と比べて高くなっています。





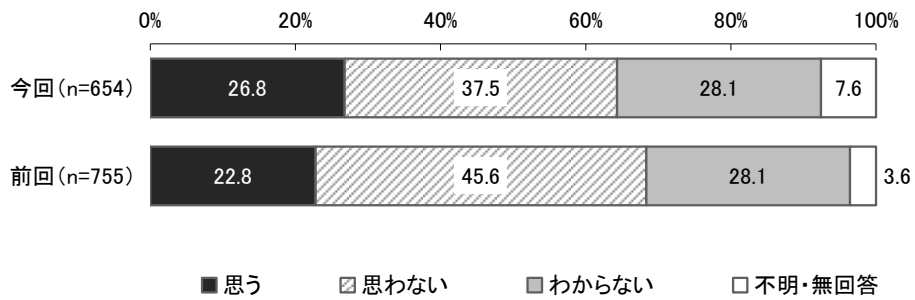
### <県調査との比較>

県調査と比較すると、三重県に比べ「思う」の割合が高く、「思わない」の割合は低くなっています。



### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「思う」の割合が増加し、「思わない」の割合が減少しています。

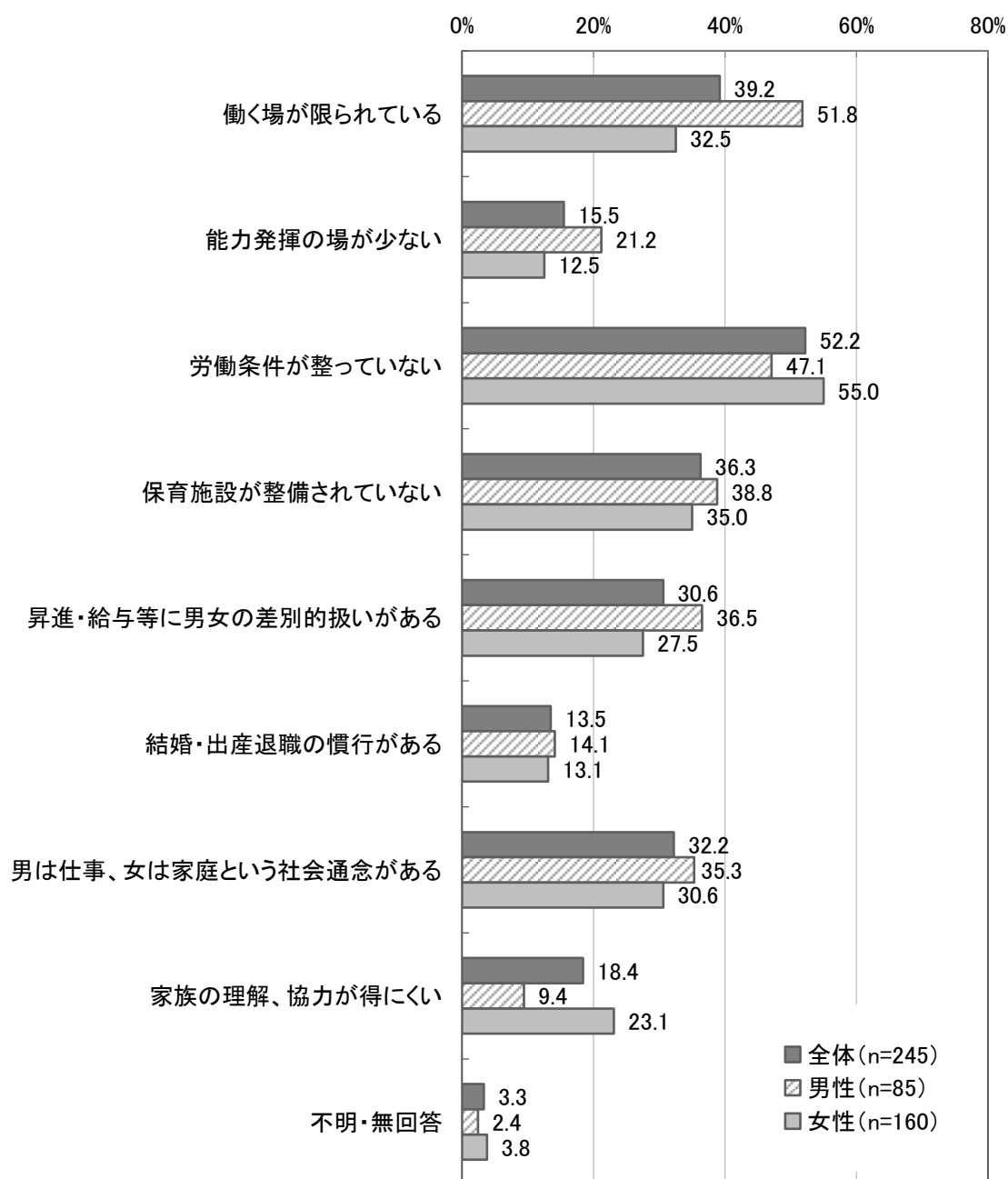


**問 35 で「現在女性は働きやすい状況にあると思わない」と答えた方にお聞きします。**

**問 36. そう思わない理由は何ですか。(〇は3つまで)**

女性は働きやすい状況にあると思わない理由についてみると、全体では「労働条件が整っていない」が52.2%と最も高く、次いで「働く場が限られている」が39.2%、「保育施設が整備されていない」が36.3%となっています。

性別でみると、男性では「働く場が限られている」の割合が高く、女性では「労働条件が整っていない」の割合が高くなっています。



## <年齢別>

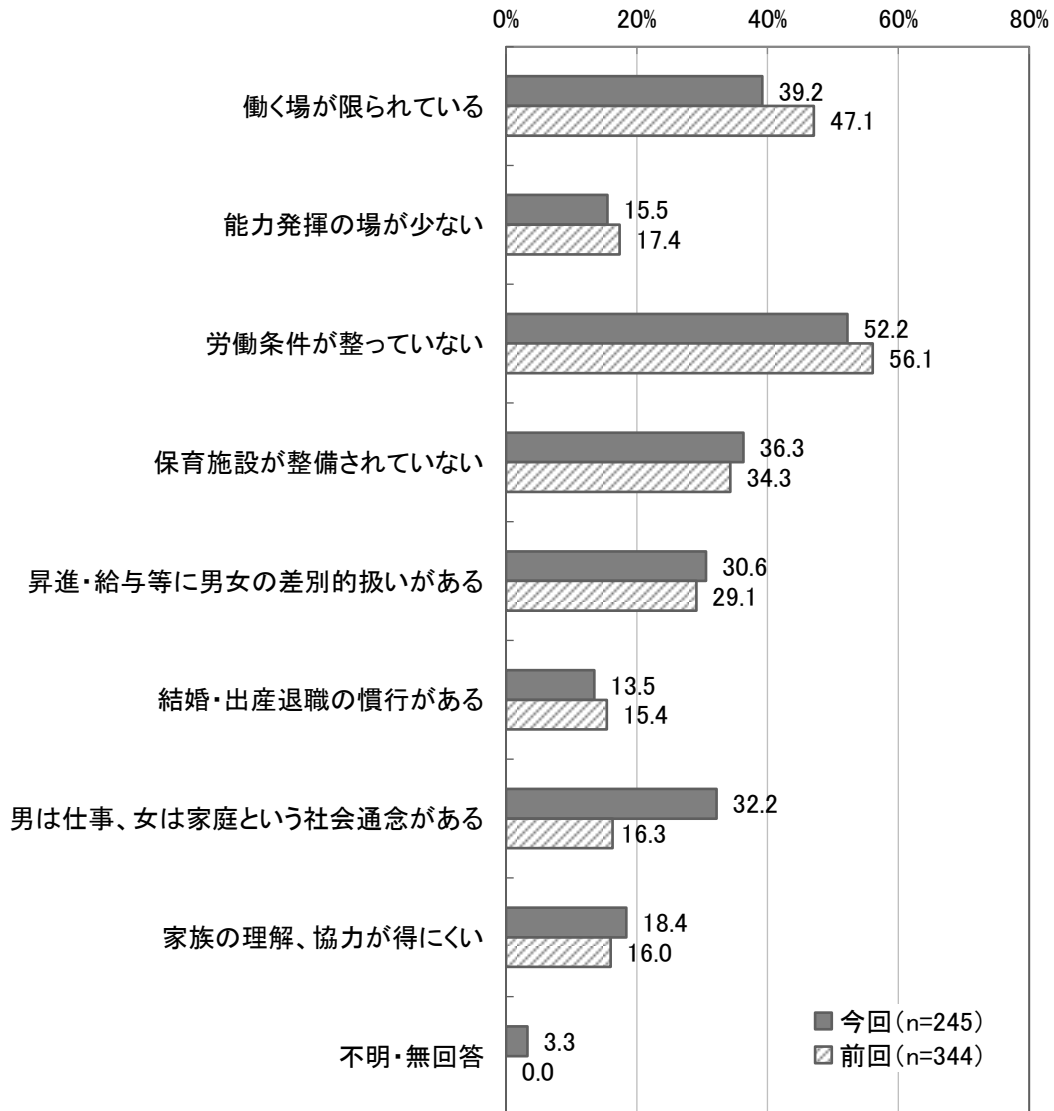
年齢別で見ると、20歳代では「働く場が限られている」「結婚・出産退職の慣行がある」「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」の割合が高く、30歳代以上では「労働条件が整っていない」の割合が高くなっています。

単位：%

	働く場が限られている	能力発揮の場が少ない	労働条件が整っていない	保育施設が整備されていない	昇進・給与等に男女の差別的扱いがある	結婚・出産退職の慣行がある	男は仕事、女は家庭という社会通念がある	家族の理解、協力が得にくい	不明・無回答
10歳代 (n=2)	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=10)	50.0	10.0	30.0	40.0	20.0	50.0	50.0	0.0	0.0
30歳代 (n=41)	43.9	14.6	56.1	26.8	24.4	19.5	31.7	14.6	4.9
40歳代 (n=61)	27.9	8.2	49.2	37.7	29.5	9.8	37.7	11.5	4.9
50歳代 (n=64)	40.6	20.3	48.4	37.5	32.8	15.6	34.4	25.0	3.1
60歳代 (n=46)	47.8	13.0	60.9	43.5	28.3	4.3	28.3	23.9	0.0
70歳以上 (n=21)	38.1	28.6	61.9	28.6	47.6	4.8	14.3	23.8	4.8

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

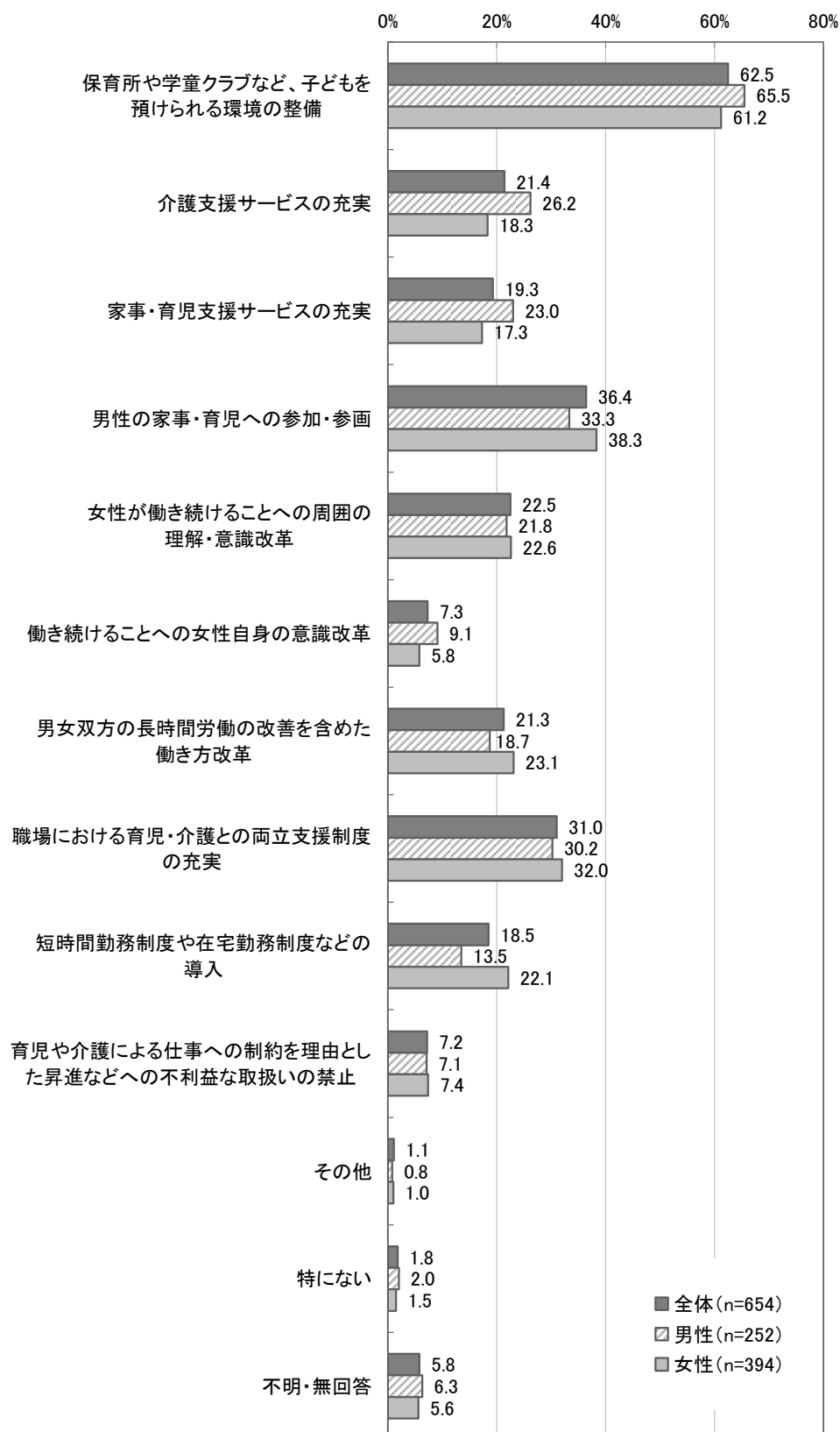
前回調査と比較すると、「働く場が限られている」の割合が減少し、「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」の割合が増加しています。



### 問 37. 女性が働き続けていく上で必要だと思う事柄は何ですか。(〇は3つまで)

女性が働き続けていく上で必要だと思う事柄についてみると、全体では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が62.5%と最も高く、次いで「男性の家事・育児への参加・参画」が36.4%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が31.0%となっています。

性別でみると、男性では「介護支援サービスの充実」「家事・育児支援サービスの充実」の割合が女性と比べて高く、女性では「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別でみると、20歳代以上では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が最も高く、20歳代では「男性の家事・育児への参加・参画」の割合も5割以上と高くなっています。

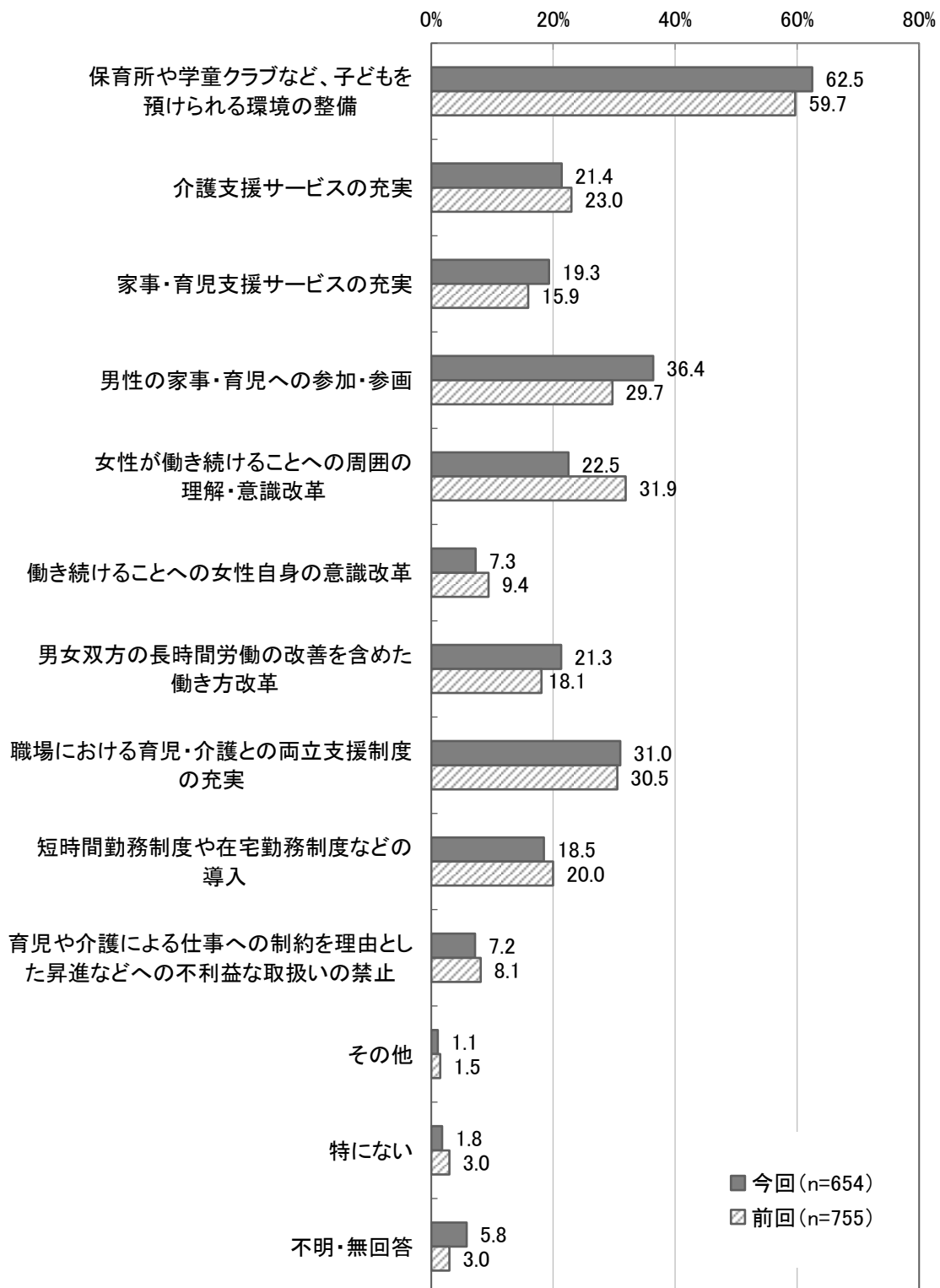
単位：%

	預けられる環境の整備 保育所や学童クラブなど、子どもを	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事・育児への参加・参画	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
10歳代(n=3)	66.7	0.0	33.3	66.7	33.3	0.0	66.7
20歳代(n=34)	64.7	17.6	17.6	52.9	20.6	11.8	29.4
30歳代(n=103)	65.0	7.8	19.4	39.8	23.3	9.7	27.2
40歳代(n=144)	58.3	16.7	22.2	35.4	16.0	6.9	20.8
50歳代(n=147)	61.9	27.2	18.4	40.8	17.7	5.4	20.4
60歳代(n=145)	71.0	29.7	20.0	32.4	26.2	6.2	20.7
70歳以上(n=70)	52.9	24.3	15.7	21.4	35.7	8.6	12.9

	充実 職場における育児・介護との両立支援制度の	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による不利益な取扱いの禁止 した昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
10歳代(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=34)	29.4	29.4	8.8	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=103)	27.2	24.3	9.7	0.0	1.0	3.9
40歳代(n=144)	31.3	23.6	8.3	2.1	2.1	6.3
50歳代(n=147)	33.3	16.3	6.8	1.4	1.4	5.4
60歳代(n=145)	33.1	10.3	7.6	0.7	2.1	4.1
70歳以上(n=70)	30.0	17.1	1.4	0.0	2.9	15.7

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

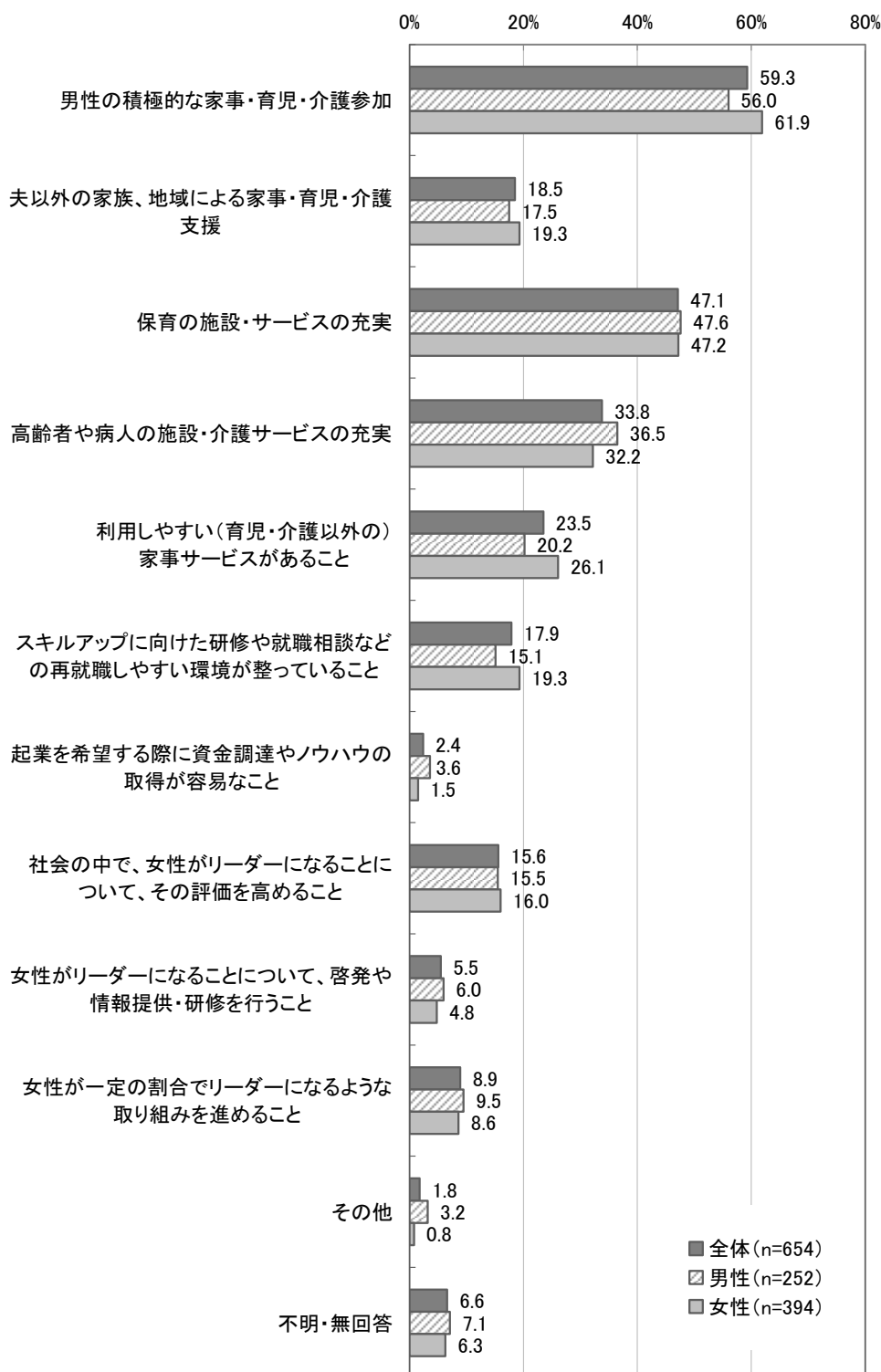
前回調査と比較すると、「男性の家事・育児への参加・参画」の割合が増加し、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の割合が減少しています。



**問 38. 女性の活躍が進むためには、家族や社会などからどのような配慮や取り組みが必要だと思いますか。**  
**(〇は3つまで)**

女性の活躍が進むために必要な、家族や社会などからの配慮や取り組みについてみると、全体では「男性の積極的な家事・育児・介護参加」が59.3%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスの充実」が47.1%、「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」が33.8%となっています。

性別でみると、男性では「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が女性と比べて高く、女性では「男性の積極的な家事・育児・介護参加」「利用しやすい(育児・介護以外の)家事サービスがあること」の割合が男性と比べて高くなっています。





## <年齢別>

年齢別で見ると、20歳代から60歳代では「男性の積極的な家事・育児・介護参加」の割合が最も高く、70歳以上では「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が最も高くなっています。

単位：%

	男性の積極的な家事・育児・介護参加	夫以外の家族、地域による家事・育児・介護支援	保育の施設・サービスの充実	高齢者や病人の施設・介護サービスの充実	利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること	スキルアップに向けた研修や就職相談などの再就職しやすい環境が整っていること
10歳代(n=3)	100.0	0.0	100.0	0.0	66.7	33.3
20歳代(n=34)	79.4	11.8	61.8	20.6	14.7	26.5
30歳代(n=103)	69.9	15.5	43.7	13.6	24.3	20.4
40歳代(n=144)	58.3	18.1	49.3	23.6	26.4	18.1
50歳代(n=147)	59.2	21.1	45.6	40.1	22.4	16.3
60歳代(n=145)	56.6	21.4	51.7	49.7	24.8	15.2
70歳以上(n=70)	42.9	17.1	32.9	45.7	21.4	15.7

	起業を希望する際に資金調達やノウハウの取得が容易なこと	社会の中で、女性がリーダーになることについて、その評価を高めること	女性がリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が一定の割合でリーダーになるような取り組みを進めること	その他	不明・無回答
10歳代(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=34)	0.0	14.7	5.9	8.8	0.0	0.0
30歳代(n=103)	3.9	19.4	11.7	4.9	3.9	5.8
40歳代(n=144)	2.8	14.6	4.2	9.7	2.1	6.3
50歳代(n=147)	2.0	15.0	5.4	8.2	1.4	6.8
60歳代(n=145)	2.1	13.8	2.1	11.0	2.1	4.1
70歳以上(n=70)	1.4	20.0	5.7	11.4	0.0	17.1

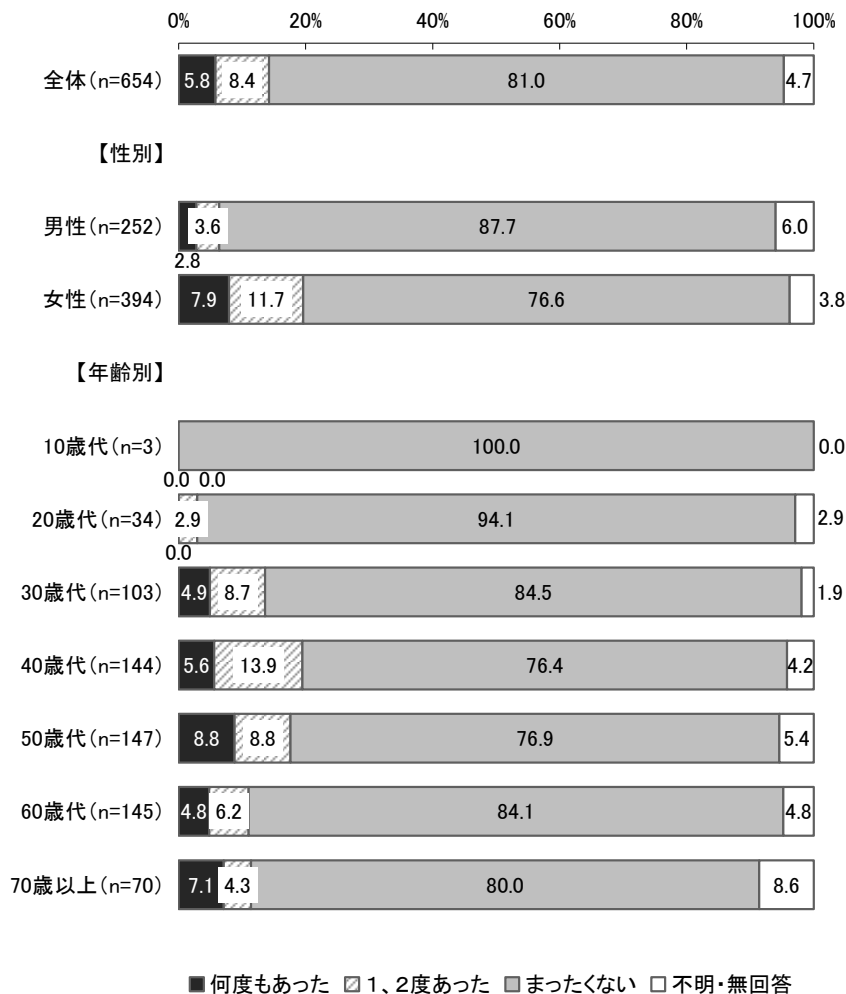
## 6 DV(ドメスティックバイオレンス)などの暴力について

問 39. あなたは、これまでに、あなたの配偶者(事実婚や別居中、離婚後を含む)や恋人から、身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けたことがありますか。(○は1つまで)

配偶者や恋人から身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けた経験についてみると、全体では「まったくくない」が81.0%と最も高く、次いで「1、2度あった」が8.4%、「何度もあった」が5.8%となっています。

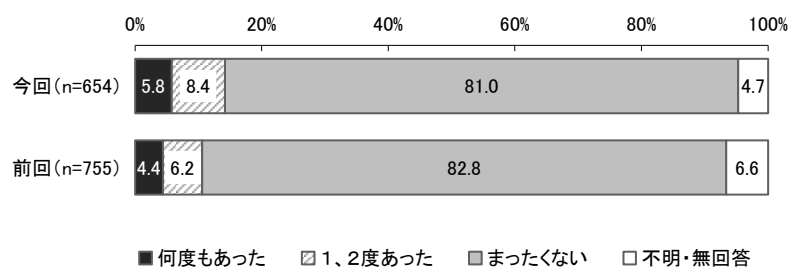
性別でみると、男性では「まったくくない」の割合が女性と比べて高くなっています。一方で、女性では「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた【暴力を受けた経験計】の割合が男性と比べて高く、約2割となっています。

年齢別でみると、40歳代と50歳代で【暴力を受けた経験計】の割合が1割台後半と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、【暴力を受けた経験有り計】の割合が増加しています。

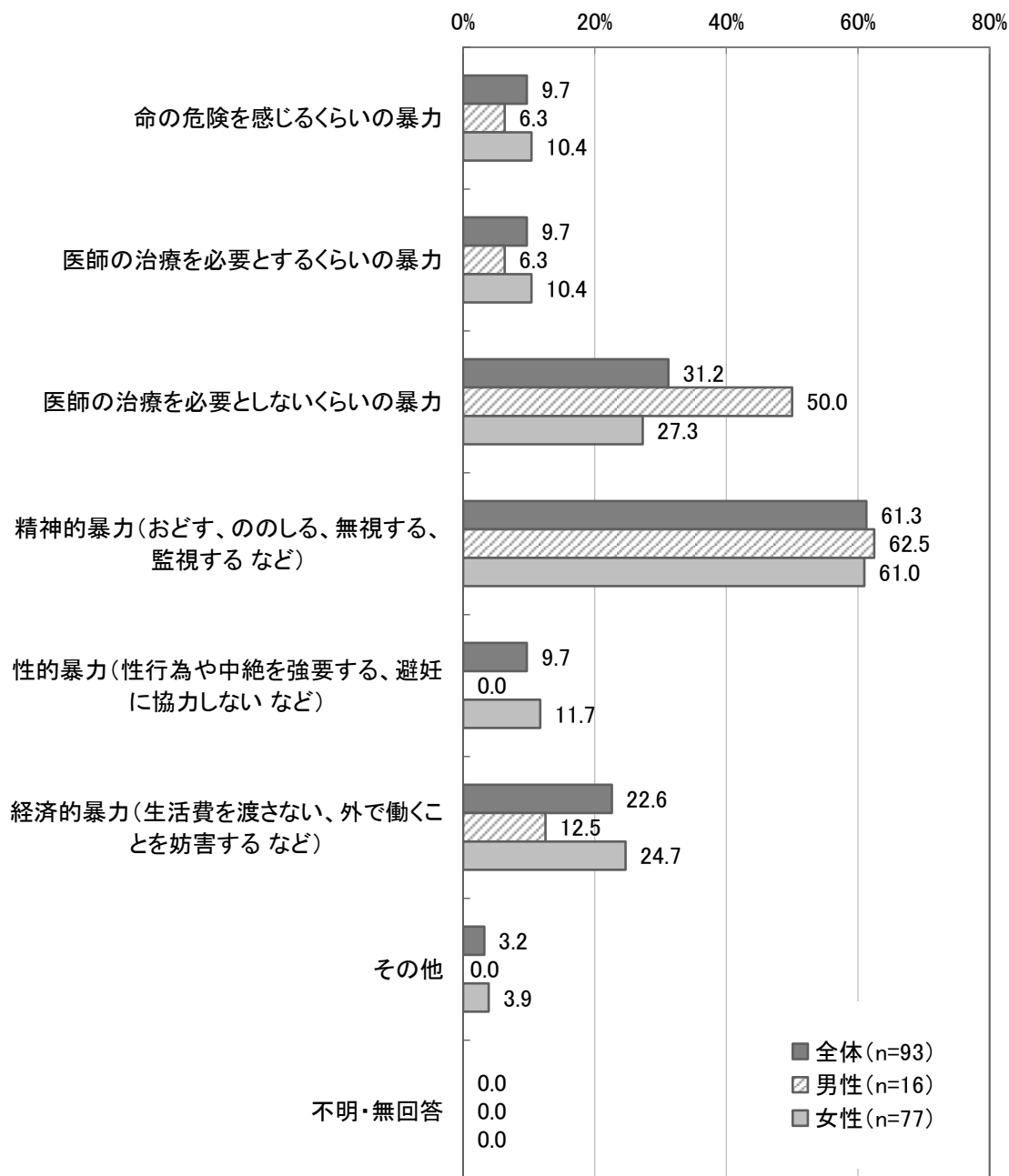


問 39 で配偶者や恋人から、身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けたことが「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方にお聞きします。

問 40. どのような暴力を受けましたか。(〇はいくつでも)

受けた暴力についてみると、全体では「精神的暴力（おどす、ののしる、無視する、監視する など）」が 61.3%と最も高く、次いで「医師の治療を必要としないくらいの暴力」が 31.2%、「経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを妨害する など）」が 22.6%となっています。

性別でみると、男性では「医師の治療を必要としないくらいの暴力」の割合が女性と比べて高く、女性では「経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを妨害する など）」の割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、30歳代以上では「精神的暴力（おどす、ののしる、無視する、監視する など）」の割合が最も高く、60歳代では「医師の治療を必要としないくらいの暴力」の割合も4割台と高くなっています。

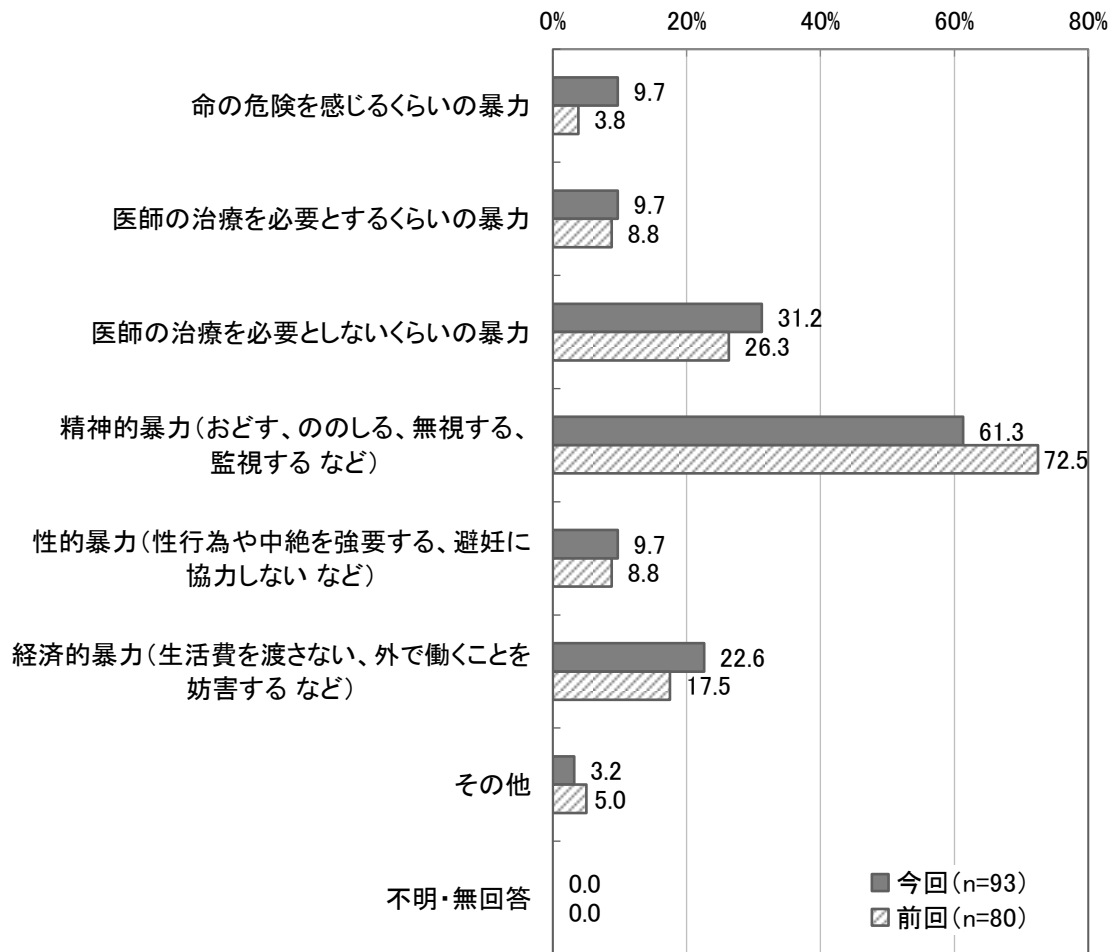
単位：%

	命の危険を感じるくらいの暴力	医師の治療を必要とするくらいの暴力	医師の治療を必要としないくらいの暴力	精神的暴力（おどす、ののしる、無視する、監視する など）	性的暴力（性行為や中絶を強要する、避妊に協力しない など）	経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを妨害するなど）	その他	不明・無回答
20歳代(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=14)	0.0	7.1	28.6	50.0	0.0	35.7	0.0	0.0
40歳代(n=28)	10.7	10.7	25.0	78.6	17.9	7.1	3.6	0.0
50歳代(n=26)	15.4	15.4	26.9	53.8	11.5	26.9	0.0	0.0
60歳代(n=16)	6.3	0.0	43.8	56.3	0.0	18.8	6.3	0.0
70歳以上(n=8)	12.5	12.5	37.5	50.0	0.0	50.0	12.5	0.0

※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「命の危険を感じるくらいの暴力」「経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを妨害する など）」の割合が増加し、「精神的暴力（おどす、ののしる、無視する、監視する など）」の割合が減少しています。

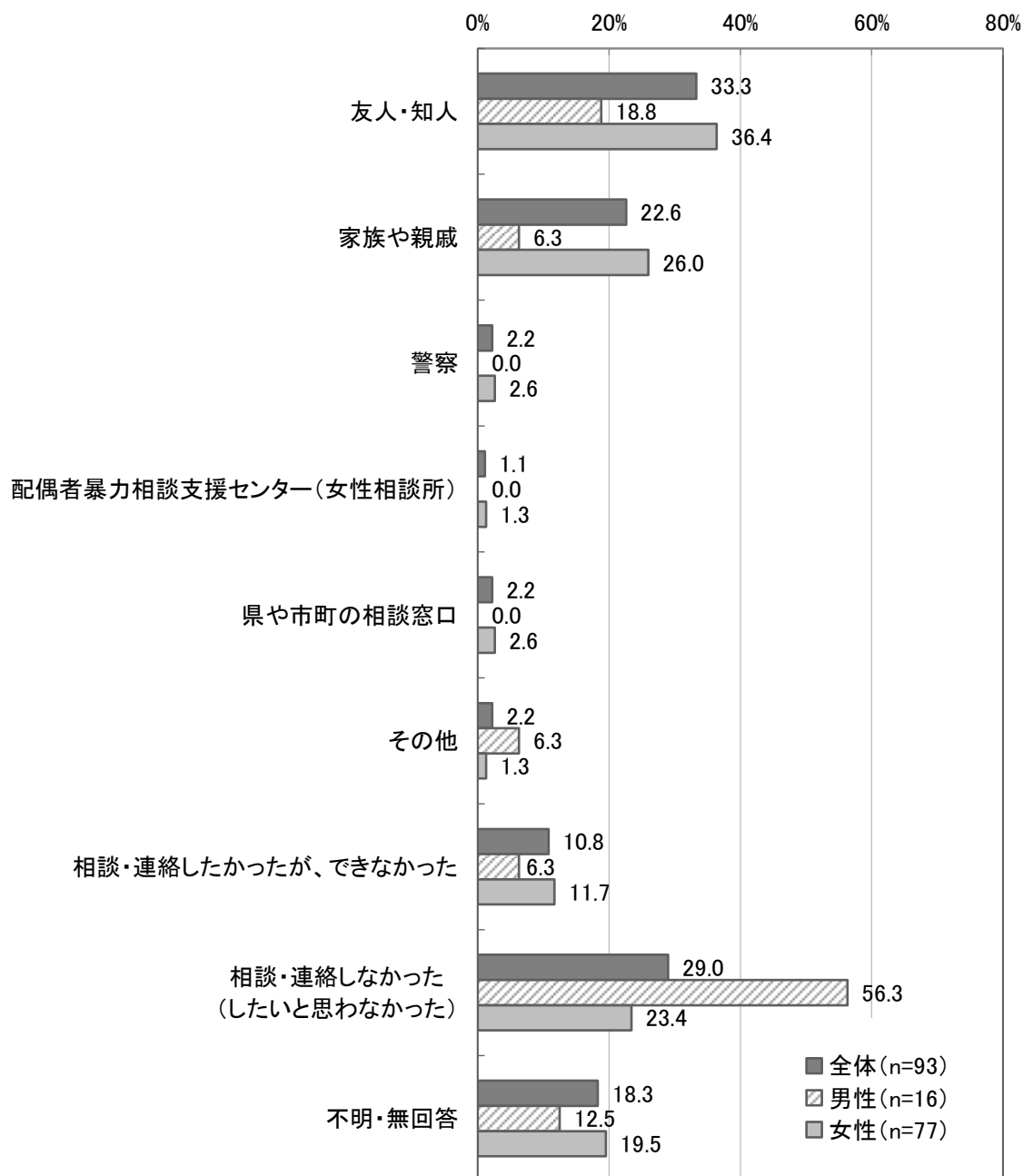


問 39 で配偶者や恋人から、身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けたことが「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方にお聞きします。

問 41. あなたはこれまでに、問 40 であげたような配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

配偶者や恋人から受けた行為などを相談する相手についてみると、全体では「友人・知人」が 33.3%と最も高く、次いで「相談・連絡しなかった(したいと思わなかった)」が 29.0%、「家族や親戚」が 22.6%となっています。

性別でみると、男性では「相談・連絡しなかった(したいと思わなかった)」の割合が高い一方で、女性では「友人・知人」「家族や親戚」の割合が高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、30歳代から50歳代では「友人・知人」の割合が高く、30歳代と40歳代は「相談・連絡しなかった（したいと思わなかった）」の割合も高くなっています。60歳代では「相談・連絡しなかった（したいと思わなかった）」が最も高くなっています。

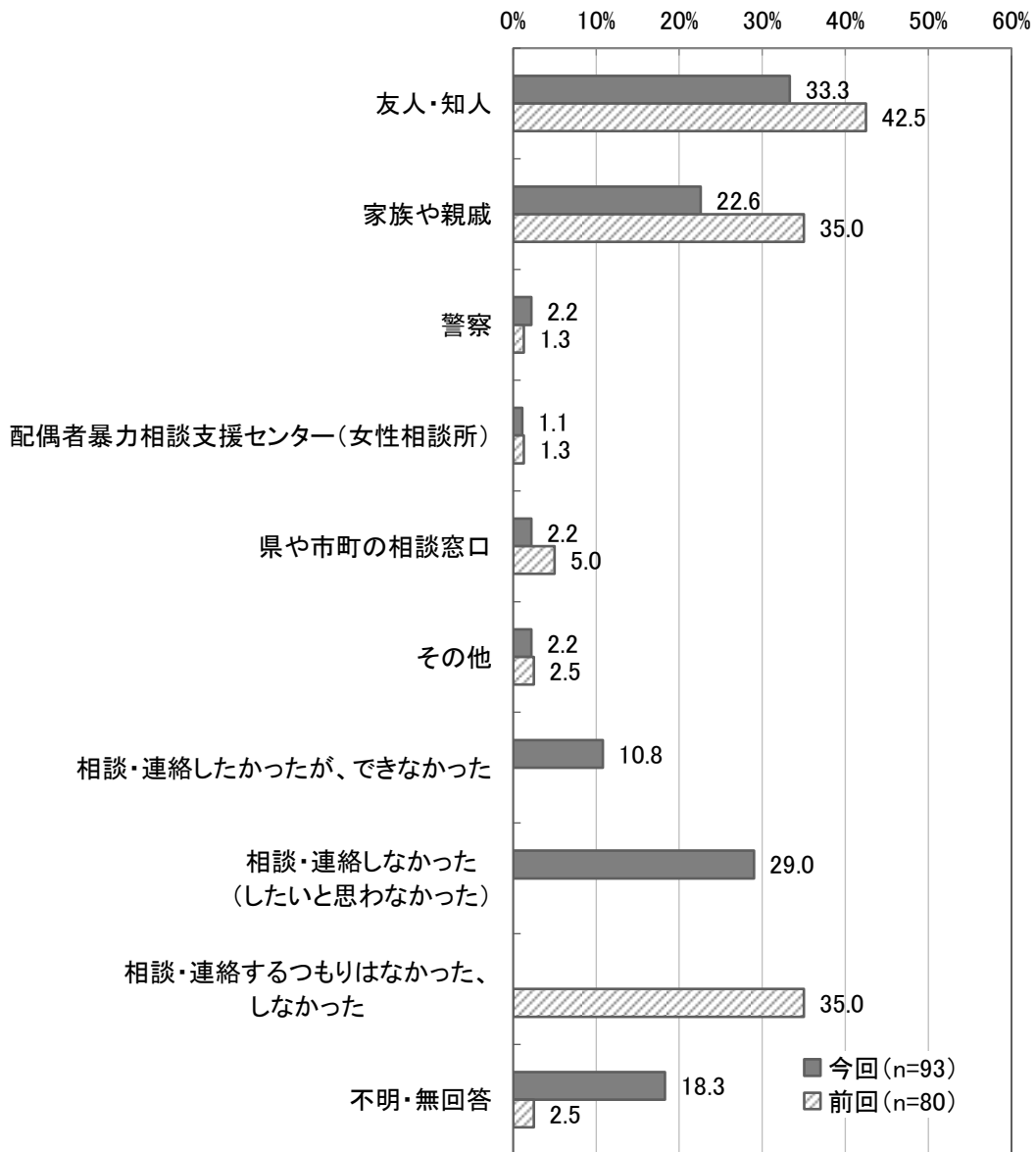
単位：%

	友人・知人	家族や親戚	警察	配偶者暴力相談支援センター (女性相談所)	県や市町の相談窓口	その他	相談・連絡したが、できなかった	相談・連絡しなかった (したいと思わなかった)	不明・無回答
20歳代(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
30歳代(n=14)	35.7	21.4	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1	35.7	21.4
40歳代(n=28)	28.6	21.4	3.6	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	17.9
50歳代(n=26)	38.5	23.1	3.8	3.8	0.0	3.8	7.7	30.8	7.7
60歳代(n=16)	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	31.3	25.0
70歳以上(n=8)	50.0	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	37.5

※10歳代は回答数が「0」のため記載しておりません

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「友人・知人」「家族や親戚」の割合が減少しています。



※「相談・連絡したかったが、できなかった」

「相談・連絡しなかった(したいと思わなかった)」は今回調査のみの選択肢

※「相談・連絡するつもりはなかった、しなかった」は前回調査のみの選択肢

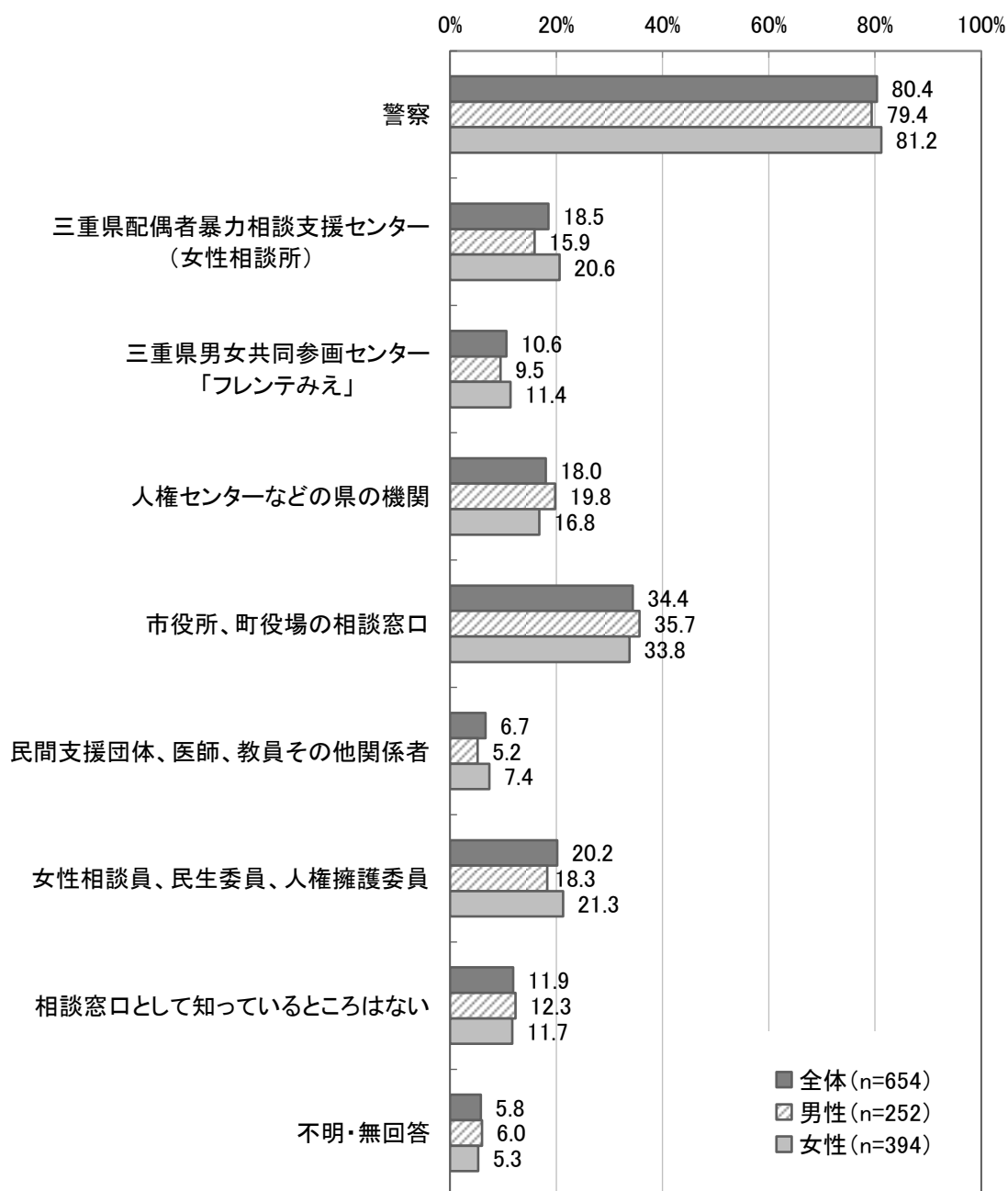


**問 42. 配偶者や恋人からの暴力を受けた時に相談できる機関や関係者のうち、知っているものはどれですか。**

(〇はいくつでも)

配偶者や恋人からの暴力を受けた時に相談できる機関や関係者のうち、知っているものについてみると、全体では「警察」が80.4%と最も高く、次いで「市役所、町役場の相談窓口」が34.4%、「女性相談員、民生委員、人権擁護委員」が20.2%となっています。

性別でみると、比較的男性より女性の方が機関や関係者を知っている割合が高くなっています。



## <年齢別>

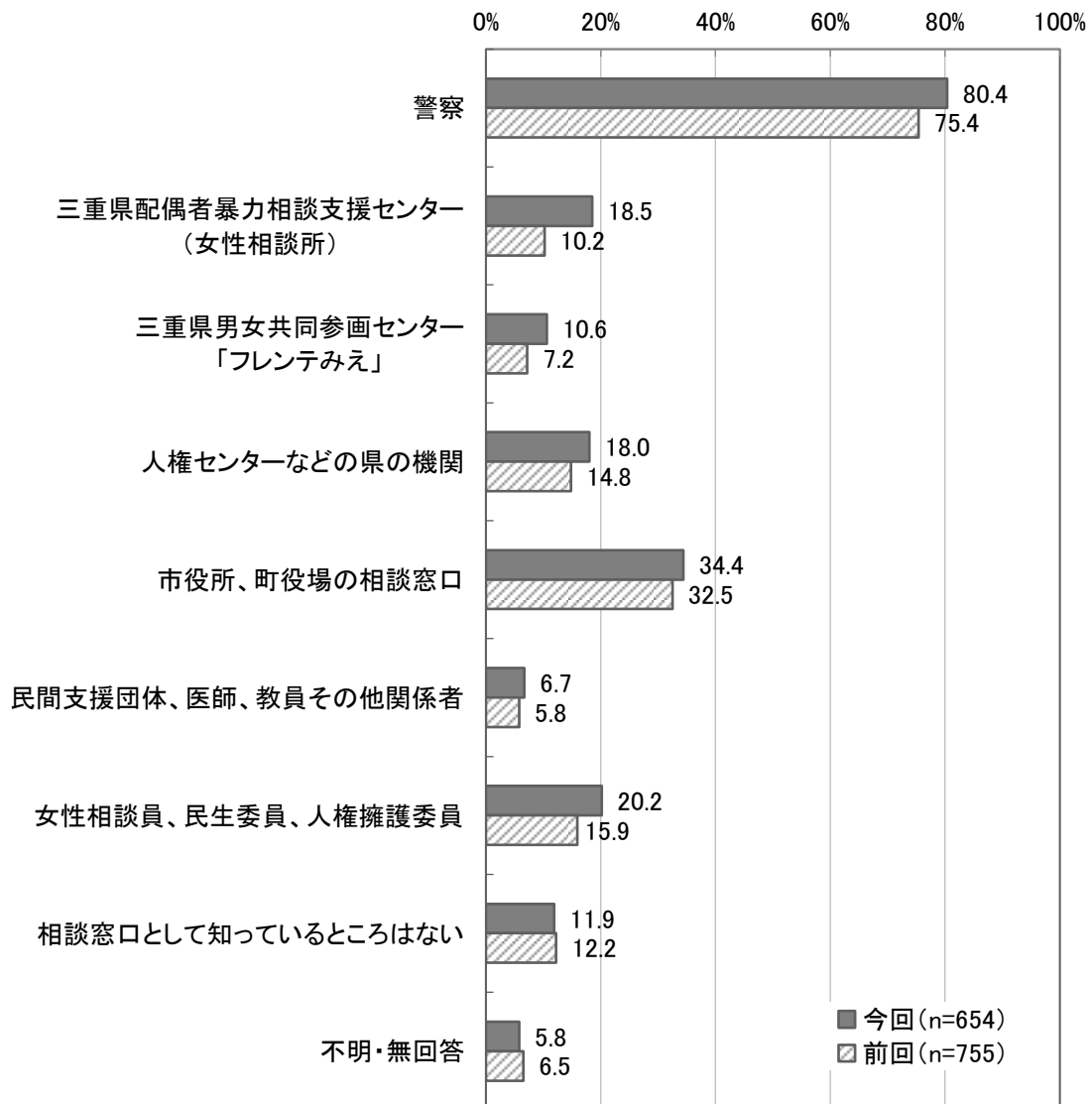
年齢別で見ると、20歳代以上では「警察」の割合が最も高く、60歳代以上では「女性相談員、民生委員、人権擁護委員」の割合も高くなっています。

単位：%

	警察	三重県配偶者暴力相談支援センター (女性相談所)	三重県男女共同参画センター 「フレンテみえ」	人権センターなどの県の機関	市役所、町役場の相談窓口	民間支援団体、医師、教員その他関係者	女性相談員、民生委員、人権擁護委員	相談窓口として知っているところはない	不明・無回答
10歳代(n=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
20歳代(n=34)	88.2	11.8	2.9	20.6	32.4	11.8	5.9	8.8	2.9
30歳代(n=103)	85.4	21.4	6.8	12.6	43.7	7.8	13.6	12.6	3.9
40歳代(n=144)	81.9	20.8	12.5	13.2	34.0	11.1	11.1	11.8	4.2
50歳代(n=147)	79.6	17.7	11.6	19.0	30.6	4.1	15.6	12.2	7.5
60歳代(n=145)	75.9	15.2	9.7	22.1	30.3	2.8	31.0	14.5	6.2
70歳以上(n=70)	77.1	24.3	17.1	25.7	41.4	7.1	41.4	7.1	7.1

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

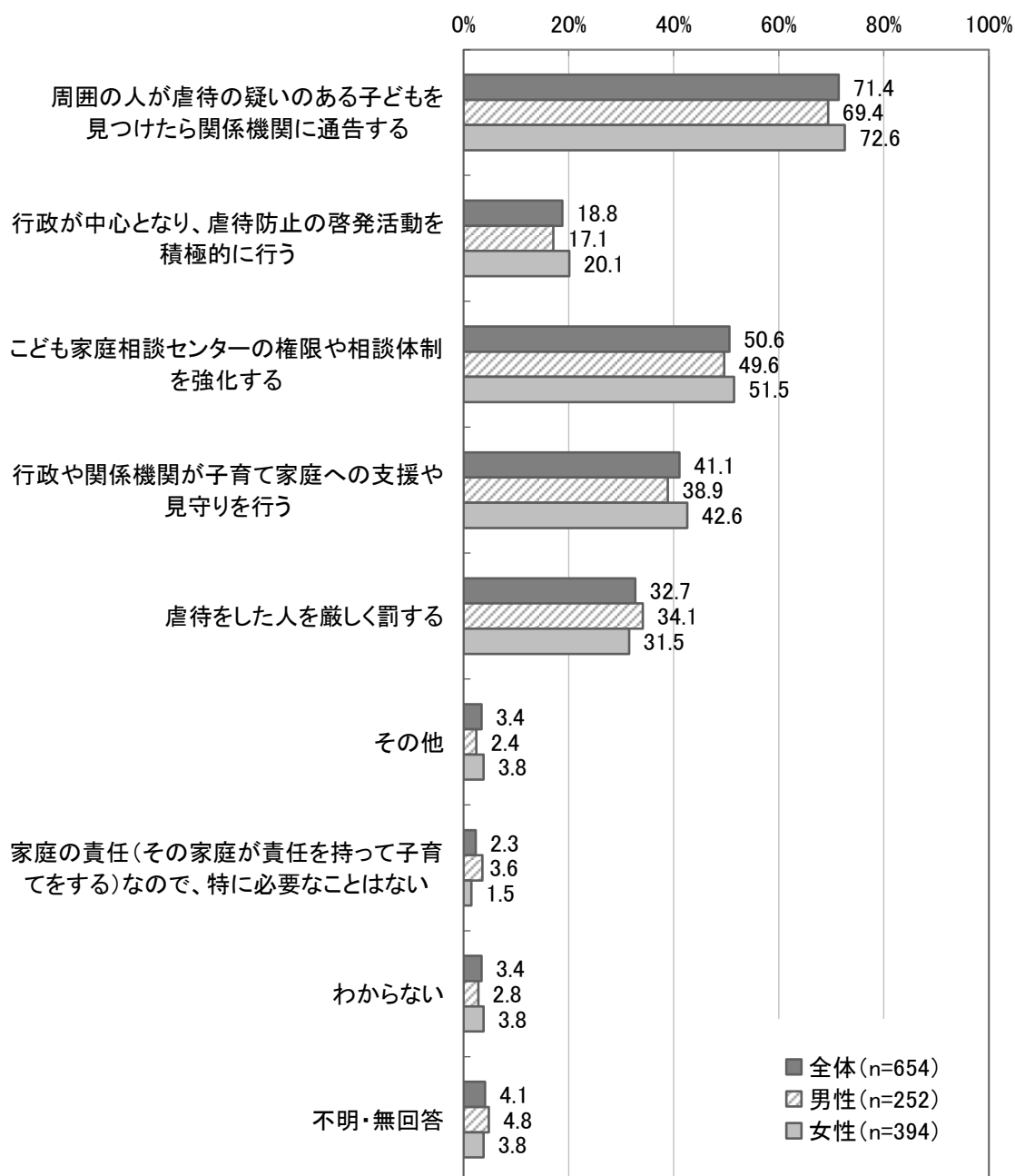
前回調査と比較すると、相談窓口に係る全ての項目において、認知されている割合が増加しています。



**問 43. 近年、配偶者間の暴力だけでなく、配偶者から子どもへの虐待も問題となっています。児童虐待を防止するためには、特にどのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)**

児童虐待を防止するために特に必要なことについてみると、全体では「周囲の人が虐待の疑いのある子どもを見つけたら関係機関に通告する」が71.4%と最も高く、次いで「こども家庭相談センターの権限や相談体制を強化する」が50.6%、「行政や関係機関が子育て家庭への支援や見守りを行う」が41.1%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられませんが、女性では「周囲の人が虐待の疑いのある子どもを見つけたら関係機関に通告する」「行政が中心となり、虐待防止の啓発活動を積極的に行う」「こども家庭相談センターの権限や相談体制を強化する」「行政や関係機関が子育て家庭への支援や見守りを行う」といった行政の関与を必要とする割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別でみると、20歳代以上では「周囲の人が虐待の疑いのある子どもを見つけたら関係機関に通告する」の割合が最も高く、30歳代以上では「こども家庭相談センターの権限や相談体制を強化する」の割合も高くなっています。

単位：%

	周囲の人が虐待の疑いのある子どもを見つけたら関係機関に通告する	行政が中心となり、虐待防止の啓発活動を積極的に行う	こども家庭相談センターの権限や相談体制を強化する	行政や関係機関が子育て家庭への支援や見守りを行う	虐待をした人を厳しく罰する	その他	家庭の責任（その家庭が責任を持って子育てをする）なので、特に必要なことはない	わからない	不明・無回答
10歳代 (n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=34)	70.6	11.8	38.2	47.1	50.0	8.8	0.0	2.9	0.0
30歳代 (n=103)	69.9	16.5	54.4	41.7	41.7	1.9	3.9	2.9	1.9
40歳代 (n=144)	72.2	15.3	50.0	34.0	30.6	4.9	2.1	4.2	2.1
50歳代 (n=147)	67.3	20.4	49.7	44.2	27.9	3.4	4.1	2.7	6.1
60歳代 (n=145)	75.9	20.7	53.1	40.0	34.5	2.1	1.4	4.1	4.1
70歳以上 (n=70)	72.9	24.3	54.3	48.6	20.0	1.4	0.0	2.9	10.0

## 7 マタハラ、パタハラ、セクハラについて

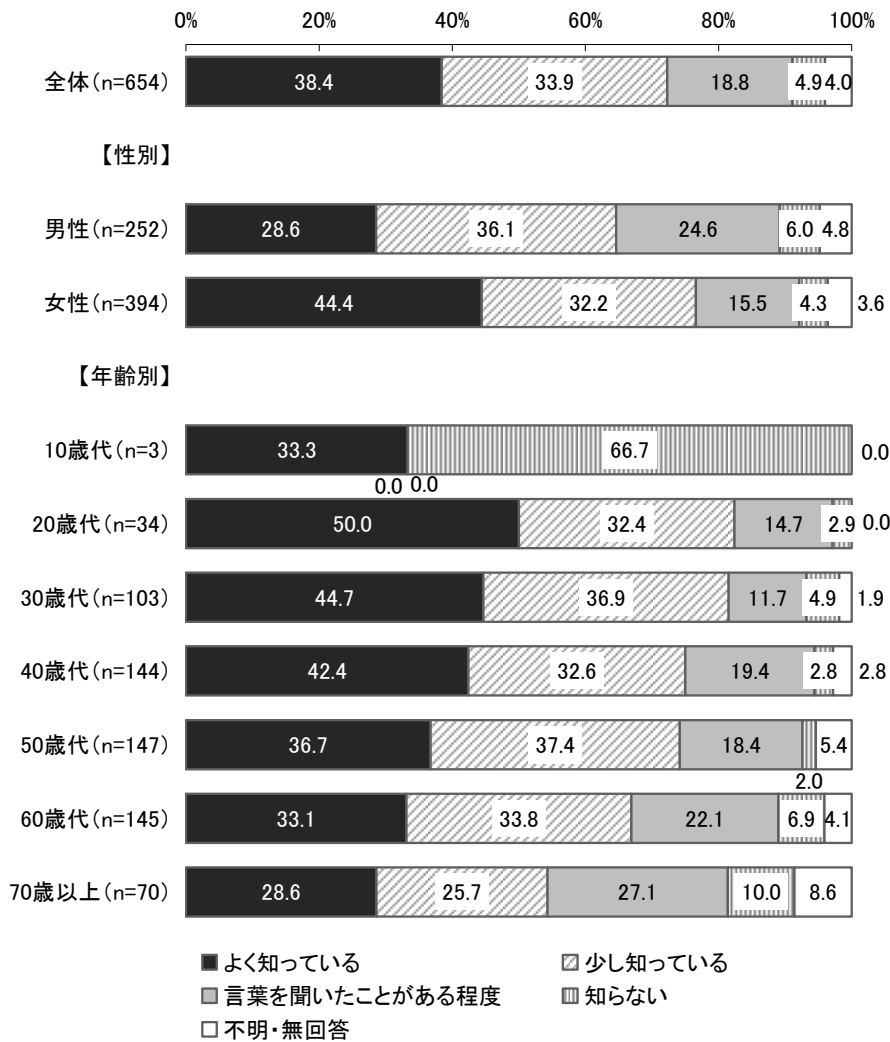
問 44. あなたは次の言葉をどの程度知っていますか。(それぞれ○は1つまで)

### A マタニティハラスメント

マタニティハラスメントの認知状況についてみると、全体では「よく知っている」が38.4%と最も高く、次いで「少し知っている」が33.9%、「言葉を聞いたことがある程度」が18.8%となっています。

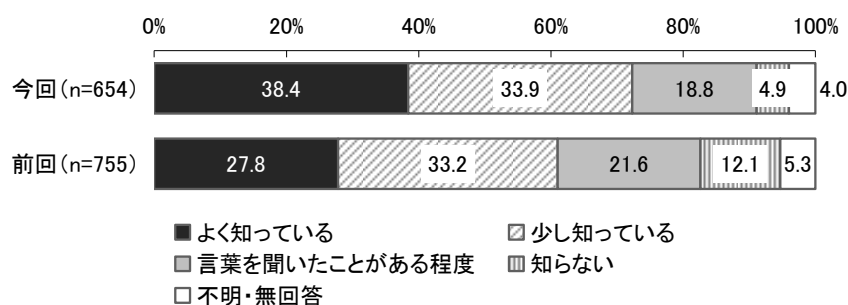
性別でみると、男性では「少し知っている」「言葉を聞いたことがある程度」の割合が女性と比べて高く、女性では「よく知っている」の割合が男性と比べて高くなっています

年齢別でみると、「よく知っている」の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられ、20歳代の割合(50.0%)に対して、70歳以上の割合は28.6%と20ポイント以上下回っています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「よく知っている」の割合が増加し、「知らない」の割合が減少しています。

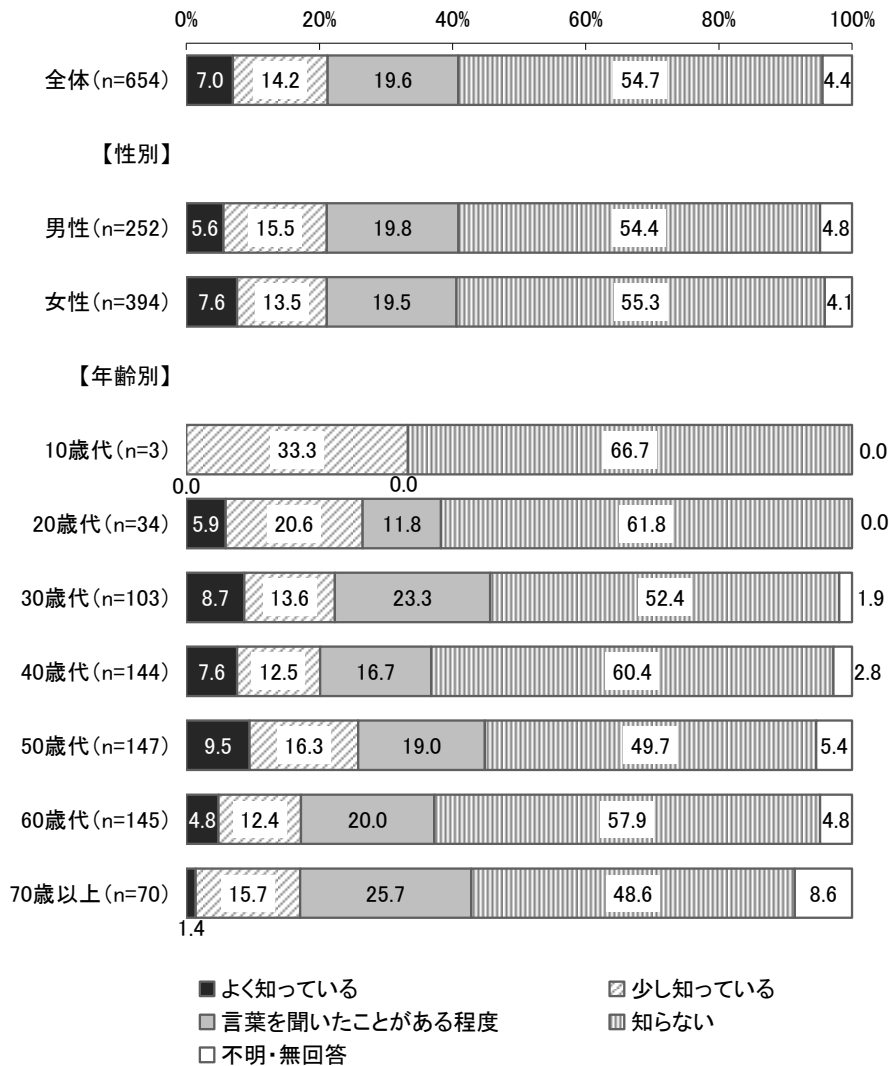


## B パタニティハラスメント

パタニティハラスメントの認知状況についてみると、全体では「知らない」が54.7%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある程度」が19.6%、「少し知っている」が14.2%となっています。

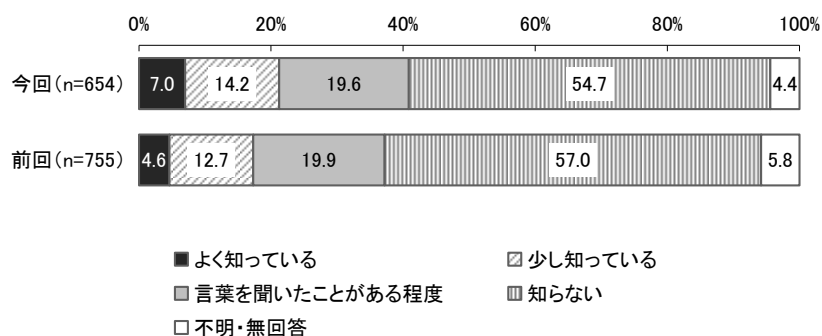
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、20歳代と50歳代では「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた【知っている計】の割合が2割半ばと他の年齢区分と比べて高くなっています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

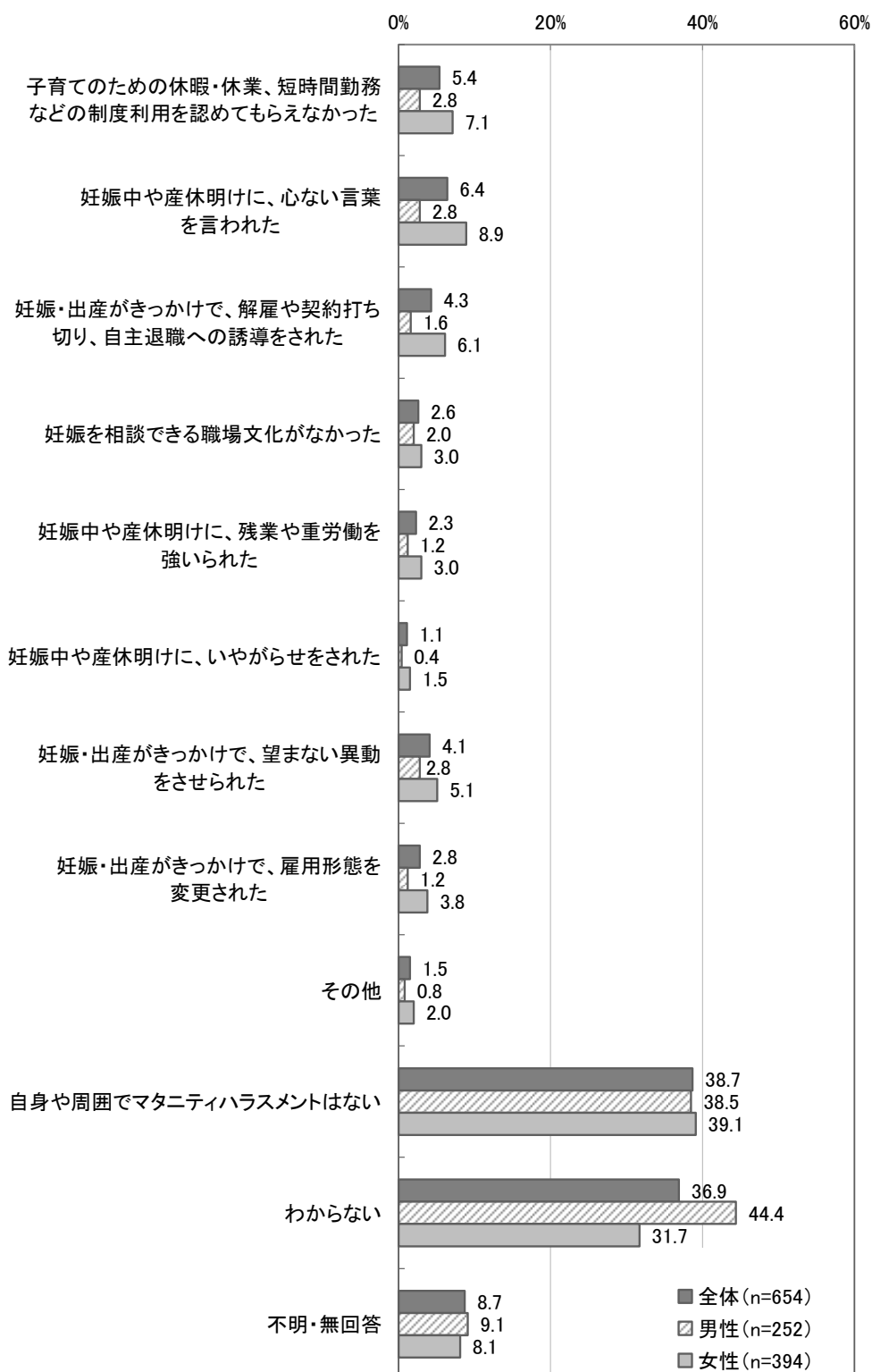
前回調査と比較すると、【知っている計】の割合が増加し、「知らない」の割合が減少しています。



**問 45. あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるマタニティハラスメントを経験した人はいいますか。それは、どのようなマタニティハラスメントでしたか。(〇はいくつでも)**

職場におけるマタニティハラスメントの経験についてみると、全体では「わからない」を除いて、「自身や周囲でマタニティハラスメントはない」が38.7%と最も高く、次いで「妊娠中や産休明けに、心ない言葉を言われた」が6.4%、「子育てのための休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認められなかった」が5.4%となっています。

性別でみると、女性では「わからない」「不明・無回答」を除く、全ての項目の割合が男性と比べて高くなっています。





## <年齢別>

年齢別でみると、「わからない」を除いて、20歳代以上では「自身や周囲でマタニティハラスメントはない」の割合が最も高く、20歳代、40歳代、60歳代では割合が4割台と他の年齢区分と比べて高くなっています。また、「わからない」「不明・無回答」を除く項目においては、20歳代と30歳代では「子育てのための休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認められなかった」の割合が高く、40歳代から60歳代では「妊娠中や産休明けに、心ない言葉を言われた」、70歳以上では「妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導をされた」の割合が高くなっています。

単位：%

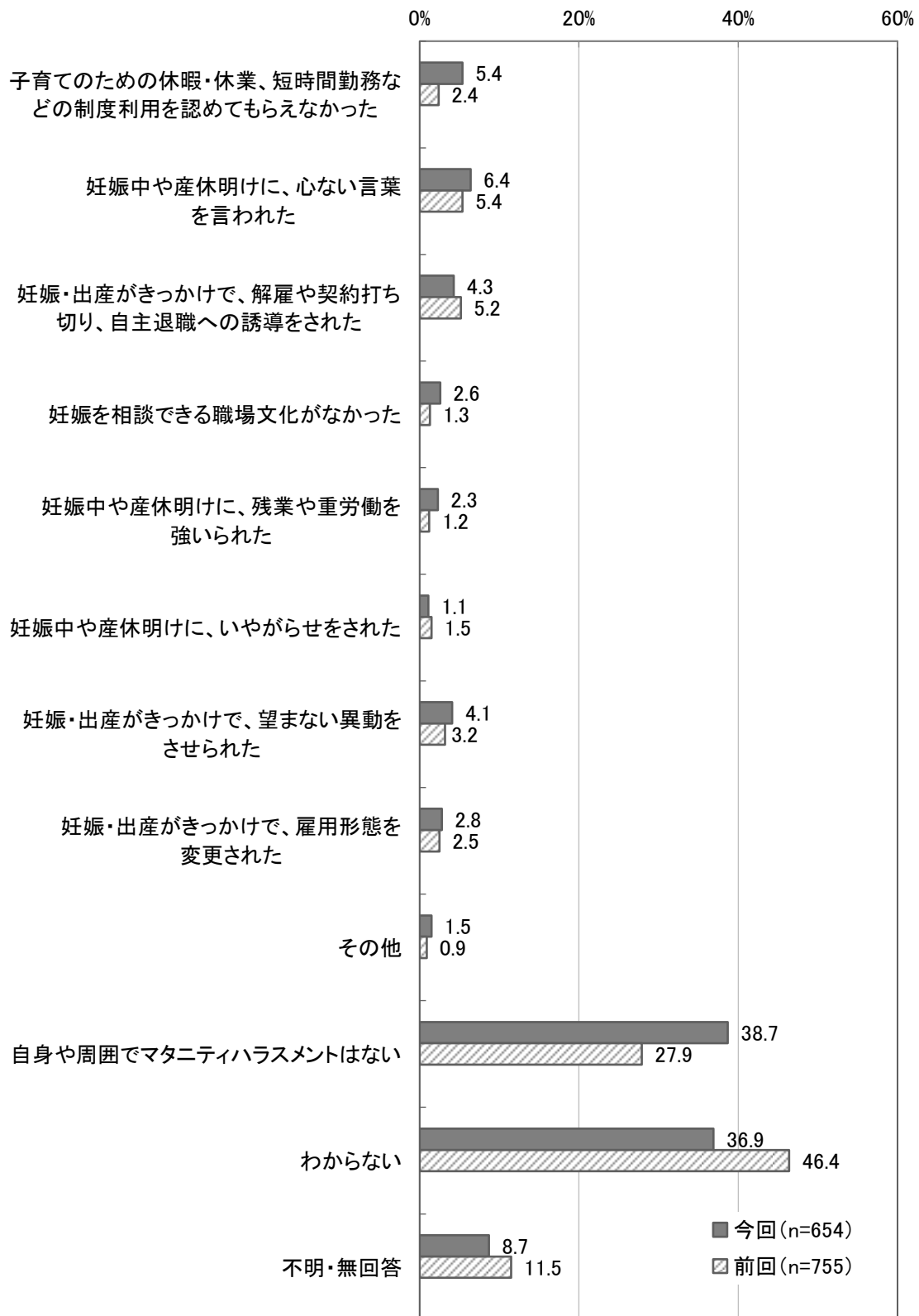
	子育てのための休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認められなかった	妊娠中や産休明けに、心ない言葉を言われた	妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導をされた	妊娠を相談できる職場文化がなかった	妊娠中や産休明けに、残業や重労働を強いられた	妊娠中や産休明けに、いやがらせをされた
10歳代 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=34)	8.8	2.9	5.9	0.0	0.0	2.9
30歳代 (n=103)	10.7	8.7	5.8	5.8	3.9	2.9
40歳代 (n=144)	4.2	6.9	5.6	2.1	3.5	0.7
50歳代 (n=147)	5.4	8.2	3.4	2.0	2.7	0.0
60歳代 (n=145)	2.8	6.2	1.4	3.4	1.4	1.4
70歳以上 (n=70)	4.3	1.4	5.7	0.0	0.0	0.0

	妊娠・出産がきっかけで、望まない異動をさせられた	妊娠・出産がきっかけで、雇用形態を変更された	その他	自身や周囲でマタニティハラスメントはない	わからない	不明・無回答
10歳代 (n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
20歳代 (n=34)	5.9	5.9	2.9	41.2	41.2	0.0
30歳代 (n=103)	5.8	3.9	3.9	34.0	40.8	4.9
40歳代 (n=144)	3.5	1.4	1.4	47.2	29.2	6.3
50歳代 (n=147)	4.1	1.4	1.4	36.1	38.8	9.5
60歳代 (n=145)	3.4	4.8	0.7	41.4	34.5	10.3
70歳以上 (n=70)	4.3	1.4	0.0	28.6	44.3	17.1

<前回調査(平成 28 年)との比較>

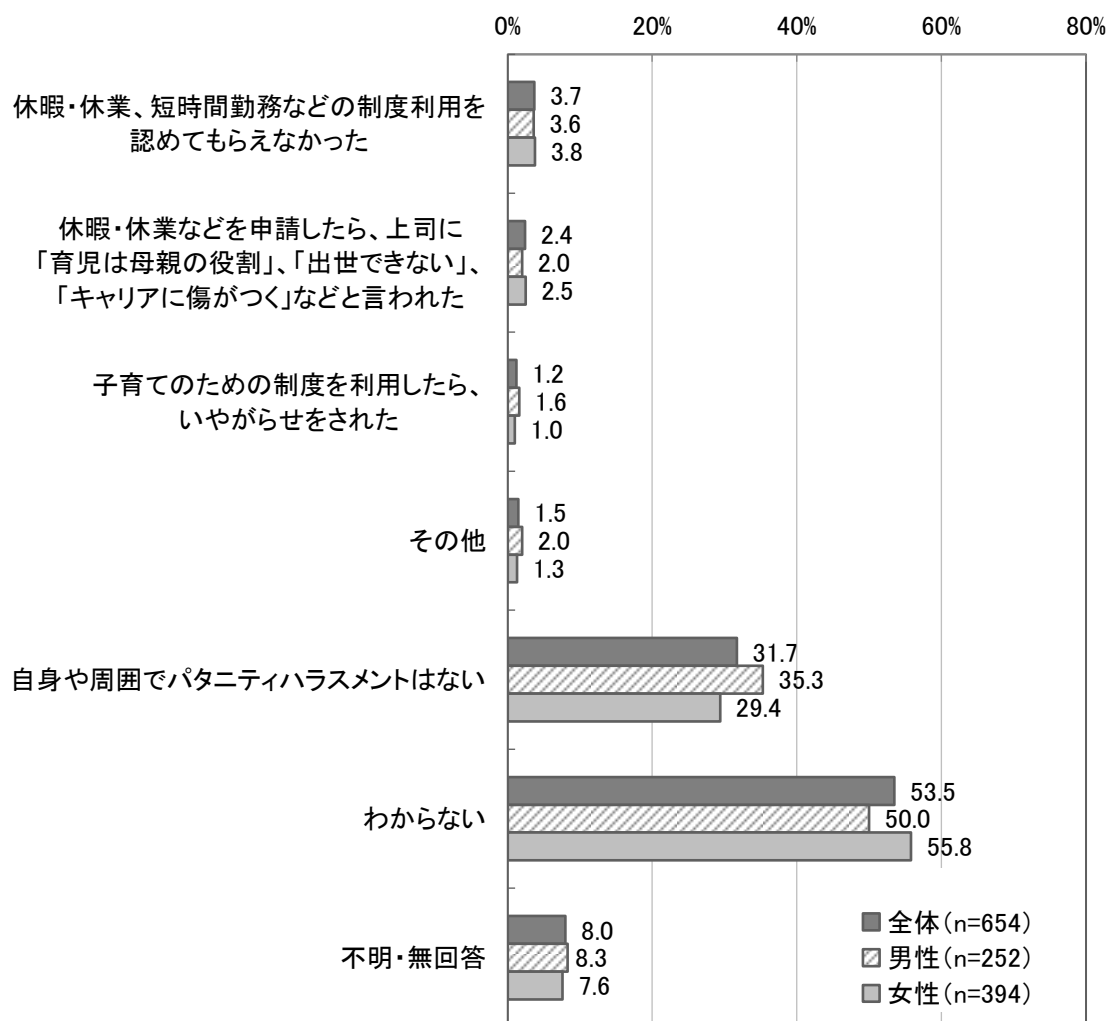
前回調査と比較すると、「自身や周囲でマタニティハラスメントはない」の割合は 10 ポイント以上の増加となっていますが、一方で「妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導をされた」「妊娠中や産休明けに、いやがらせをされた」を除く多くの項目の割合も増加しています。



**問 46. あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるパタニティハラスメントを経験した人はいですか。それは、どのようなパタニティハラスメントでしたか。(〇はいくつでも)**

職場におけるパタニティハラスメントの経験についてみると、全体では「わからない」を除いて、「自身や周囲でパタニティハラスメントはない」が31.7%と最も高く、次いで「休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認めてもらえなかった」が3.7%、「休暇・休業などを申請したら、上司に「育児は母親の役割」、「出世できない」、「キャリアに傷がつく」などと言われた」が2.4%となっています。

性別でみると男性では「自身や周囲でパタニティハラスメントはない」の割合が女性に比べて高くなっています。



## <年齢別>

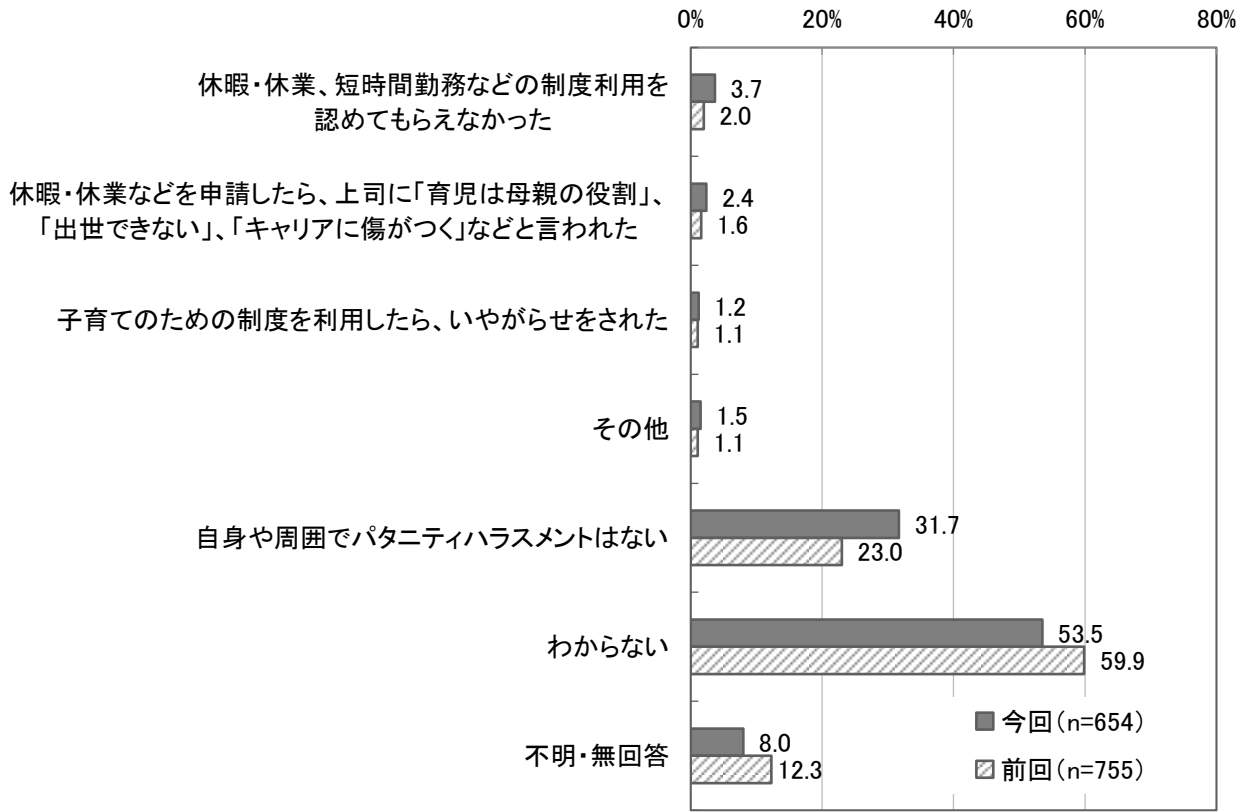
年齢別でみると、「わからない」を除いて、20歳代以上では「自身や周囲でパタニティハラスメントはない」の割合が最も高く、20歳代、40歳代では割合が3割台後半と他の年齢区分と比べて高くなっています。また、「その他」「わからない」「不明・無回答」を除く項目においては、20歳代から60歳代では「休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認めてもらえなかった」の割合が高く、70歳以上では「休暇・休業などを申請したら、上司に「育児は母親の役割」、「出世できない」、「キャリアに傷がつく」などと言われた」の割合が高くなっています。

単位：%

	休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認めてもらえなかった	休暇・休業などを申請したら、上司に「育児は母親の役割」、「出世できない」、「キャリアに傷がつく」などと言われた	子育てのための制度を利用したら、いやがらせをされた	その他	自身や周囲でパタニティハラスメントはない	わからない	不明・無回答
10歳代(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
20歳代(n=34)	5.9	0.0	0.0	5.9	38.2	50.0	0.0
30歳代(n=103)	6.8	5.8	1.9	1.9	27.2	56.3	6.8
40歳代(n=144)	3.5	2.8	0.7	2.1	38.9	47.9	4.9
50歳代(n=147)	4.1	2.0	2.0	1.4	31.3	55.8	5.4
60歳代(n=145)	2.8	0.7	1.4	0.0	31.7	53.1	11.7
70歳以上(n=70)	0.0	1.4	0.0	1.4	22.9	57.1	17.1

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

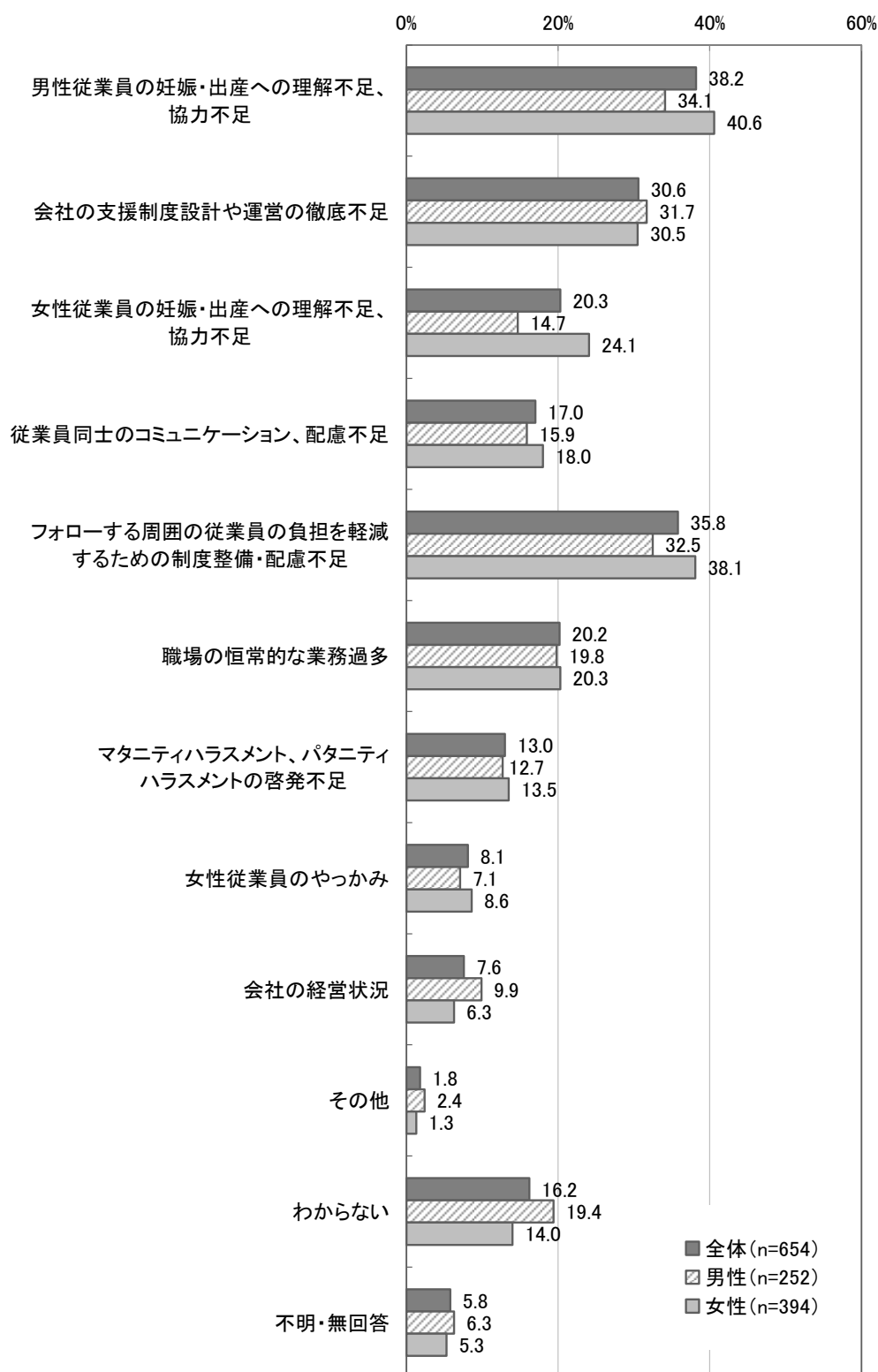
前回調査と比較すると、「自身や周囲でパタニティハラスメントはない」の割合は増加していますが、一方で「わからない」「不明・無回答」を除いた、全ての項目においても割合が増加となっています。



**問 47. 職場でマタニティハラスメント、パタニティハラスメントが起こる原因は何だと考えますか。(〇は3つまで)**

職場でマタニティハラスメント、パタニティハラスメントが起こる原因についてみると、全体では「男性従業員の妊娠・出産への理解不足、協力不足」が38.2%と最も高く、次いで「フォローする周囲の従業員の負担を軽減するための制度整備・配慮不足」が35.8%、「会社の支援制度設計や運営の徹底不足」が30.6%となっています。

性別でみると、男性では「会社の支援制度設計や運営の徹底不足」「会社の経営状況」の割合が女性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別でみると、20歳代と30歳代では「男性従業員の妊娠・出産への理解不足、協力不足」の割合が最も高く、40歳代と50歳代では「フォローする周囲の従業員の負担を軽減するための制度整備・配慮不足」、60歳代以上では「会社の支援制度設計や運営の徹底不足」の割合が最も高くなっています。

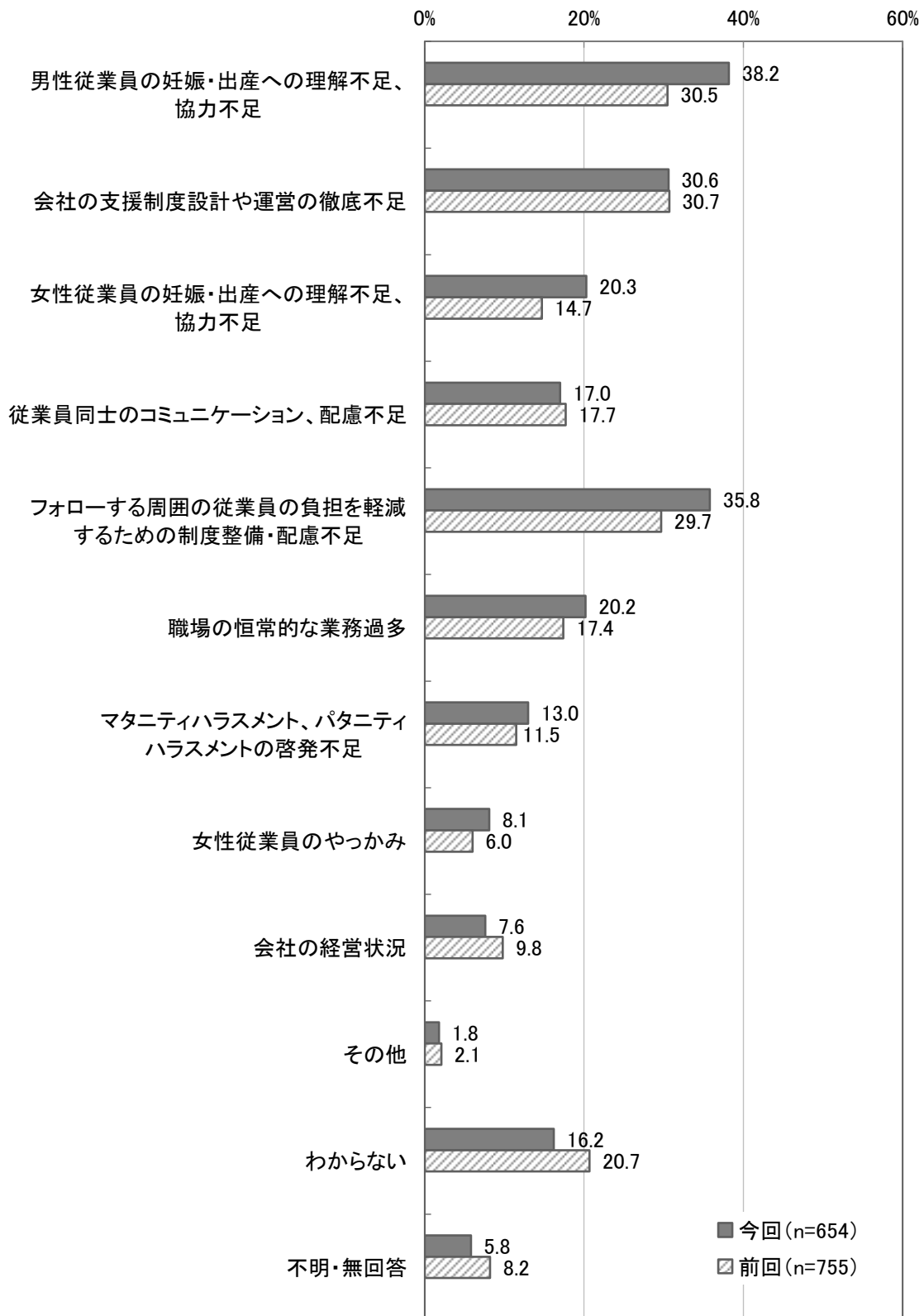
単位：%

	男性従業員の妊娠・出産への理解不足、協力不足	会社の支援制度設計や運営の徹底不足	女性従業員の妊娠・出産への理解不足、協力不足	従業員同士のコミュニケーション、配慮不足	フォローする周囲の従業員の負担を軽減するための制度整備・配慮不足	職場の恒常的な業務過多
10歳代(n=3)	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3
20歳代(n=34)	50.0	20.6	32.4	5.9	38.2	20.6
30歳代(n=103)	58.3	32.0	21.4	18.4	39.8	19.4
40歳代(n=144)	37.5	26.4	16.7	15.3	43.1	25.7
50歳代(n=147)	32.7	27.9	20.4	19.0	36.7	19.7
60歳代(n=145)	30.3	35.9	18.6	20.7	29.7	18.6
70歳以上(n=70)	31.4	40.0	24.3	12.9	25.7	12.9

	マタニティハラスメントの啓発不足、パタニティ	女性従業員のやっかみ	会社の経営状況	その他	わからない	不明・無回答
10歳代(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=34)	14.7	23.5	2.9	0.0	17.6	0.0
30歳代(n=103)	12.6	9.7	2.9	2.9	10.7	3.9
40歳代(n=144)	11.8	6.3	8.3	2.1	13.2	4.2
50歳代(n=147)	10.9	6.1	8.2	0.7	19.7	4.8
60歳代(n=145)	14.5	7.6	11.7	3.4	16.6	6.9
70歳以上(n=70)	18.6	7.1	7.1	0.0	21.4	14.3

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「男性従業員の妊娠・出産への理解不足、協力不足」「女性従業員の妊娠・出産への理解不足、協力不足」「フォローする周囲の従業員の負担を軽減するための制度整備・配慮不足」などの割合が増加しています。



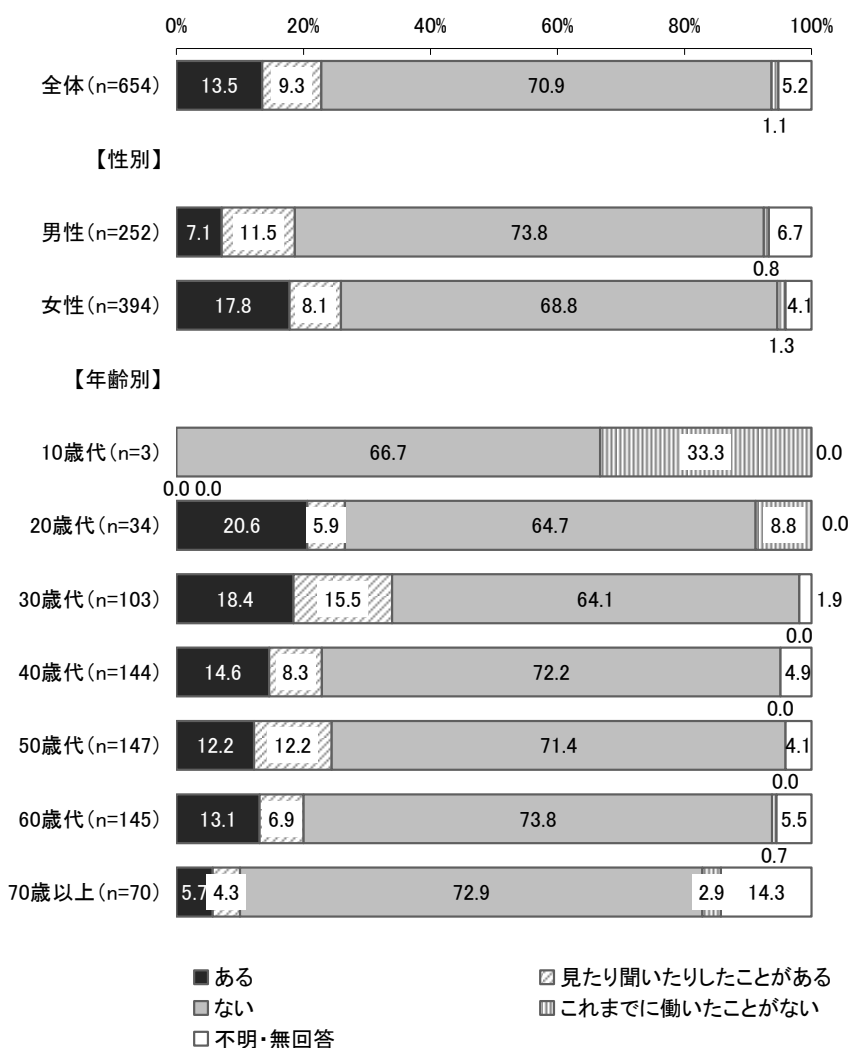


## 問 48. あなたは、職場でセクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことや、見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は1つまで)

職場でセクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことや、見たり聞いたりしたことについてみると、全体では「ない」が70.9%と最も高く、次いで「ある」が13.5%、「見たり聞いたりしたことがある」が9.3%となっています。

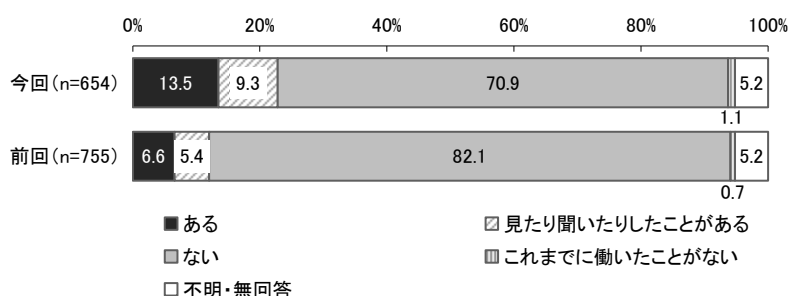
性別でみると、女性では「ある」の割合が男性と比べて高く、1割台後半となっています

年齢別でみると、20歳代では「ある」の割合が2割台と他の年齢区分と比べて高く、「ある」の割合は年齢が上がるにつれて低くなる傾向となっています。



### <前回調査(平成28年)との比較>

前回調査と比較すると、「ある」「見たり聞いたりしたことがある」の割合が増加し、「ない」の割合が減少しています。

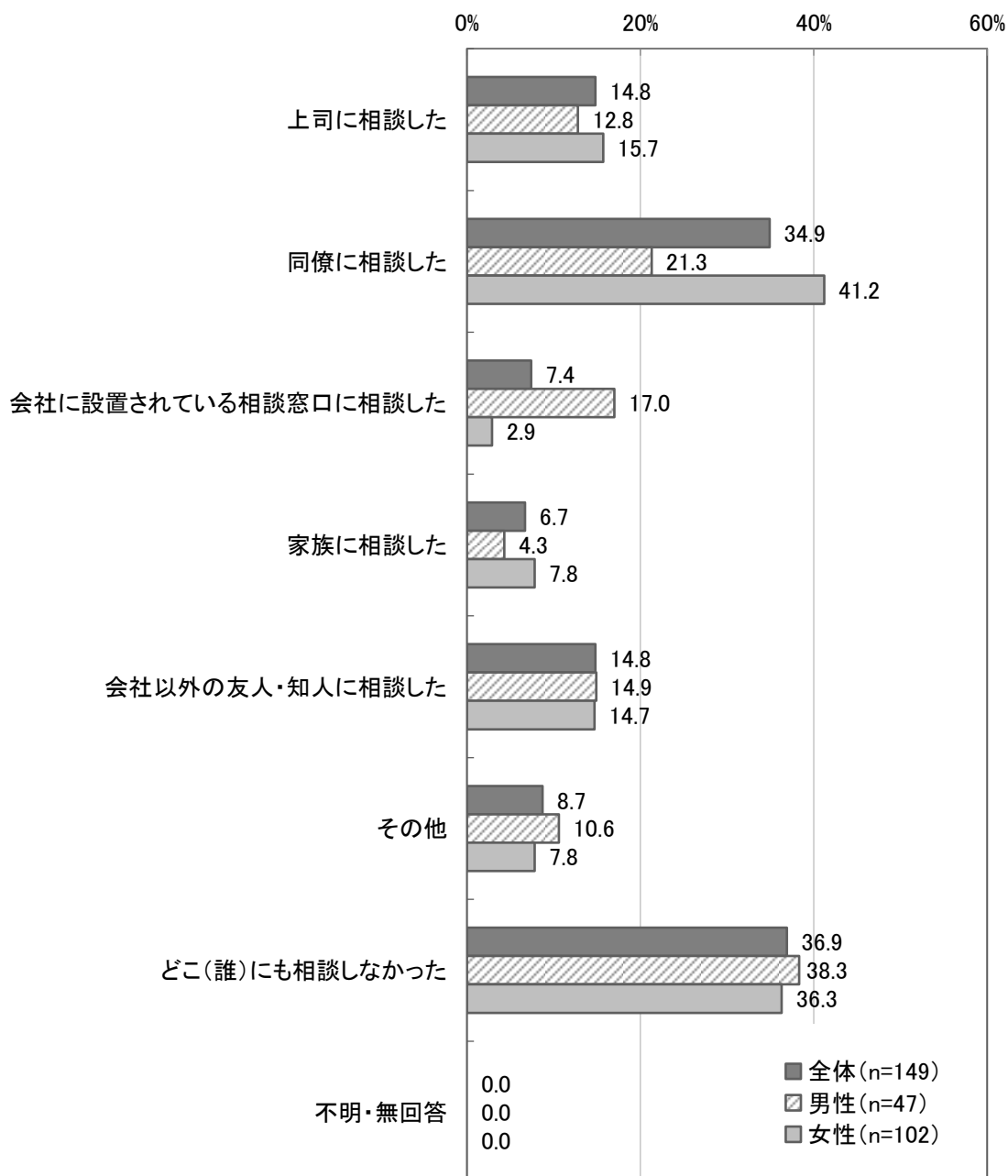


**問 48 で職場でのセクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)について「受けたことがある」「見たり聞いたりしたことがある」と答えた方にお聞きます。**

**問 49. 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)**

職場でのセクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)の相談先についてみると、全体では「どこ(誰)にも相談しなかった」が36.9%と最も高く、次いで「同僚に相談した」が34.9%、「上司に相談した」「会社以外の友人・知人に相談した」がともに14.8%となっています。

性別でみると、男性では「会社に設置されている相談窓口相談した」の割合が女性と比べて高く、女性では「同僚に相談した」の割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、30歳代では「どこ（誰）にも相談しなかった」の割合が高く、40歳代から70歳以上では「同僚に相談した」の割合が高くなっています。60歳代では「どこ（誰）にも相談しなかった」、70歳以上では「会社以外の友人・知人に相談した」の割合も高くなっています。

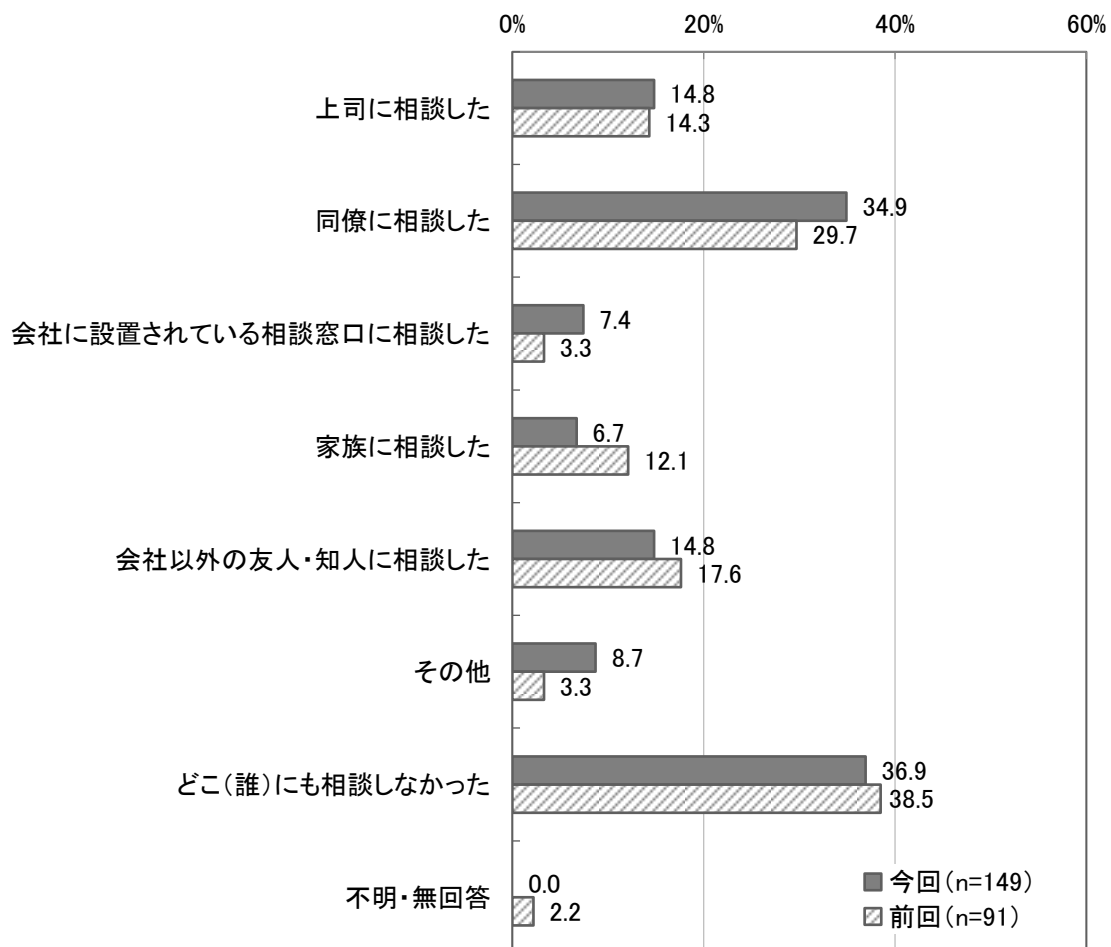
単位：%

	上司に相談した	同僚に相談した	会社に設置されている相談窓口 に相談した	家族に相談した	会社以外の友人・知人に 相談した	その他	どこ（誰）にも 相談しなかった	不明・無回答
20歳代 (n=9)	11.1	22.2	0.0	22.2	11.1	11.1	55.6	0.0
30歳代 (n=35)	14.3	28.6	8.6	5.7	25.7	0.0	42.9	0.0
40歳代 (n=33)	15.2	42.4	3.0	6.1	9.1	12.1	33.3	0.0
50歳代 (n=36)	19.4	38.9	5.6	2.8	13.9	5.6	36.1	0.0
60歳代 (n=29)	13.8	34.5	13.8	10.3	6.9	13.8	34.5	0.0
70歳以上 (n=7)	0.0	28.6	14.3	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0

※10歳代は回答数が「0」のため記載していません

### <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「同僚に相談した」の割合が増加し、「家族に相談した」の割合が減少しています。

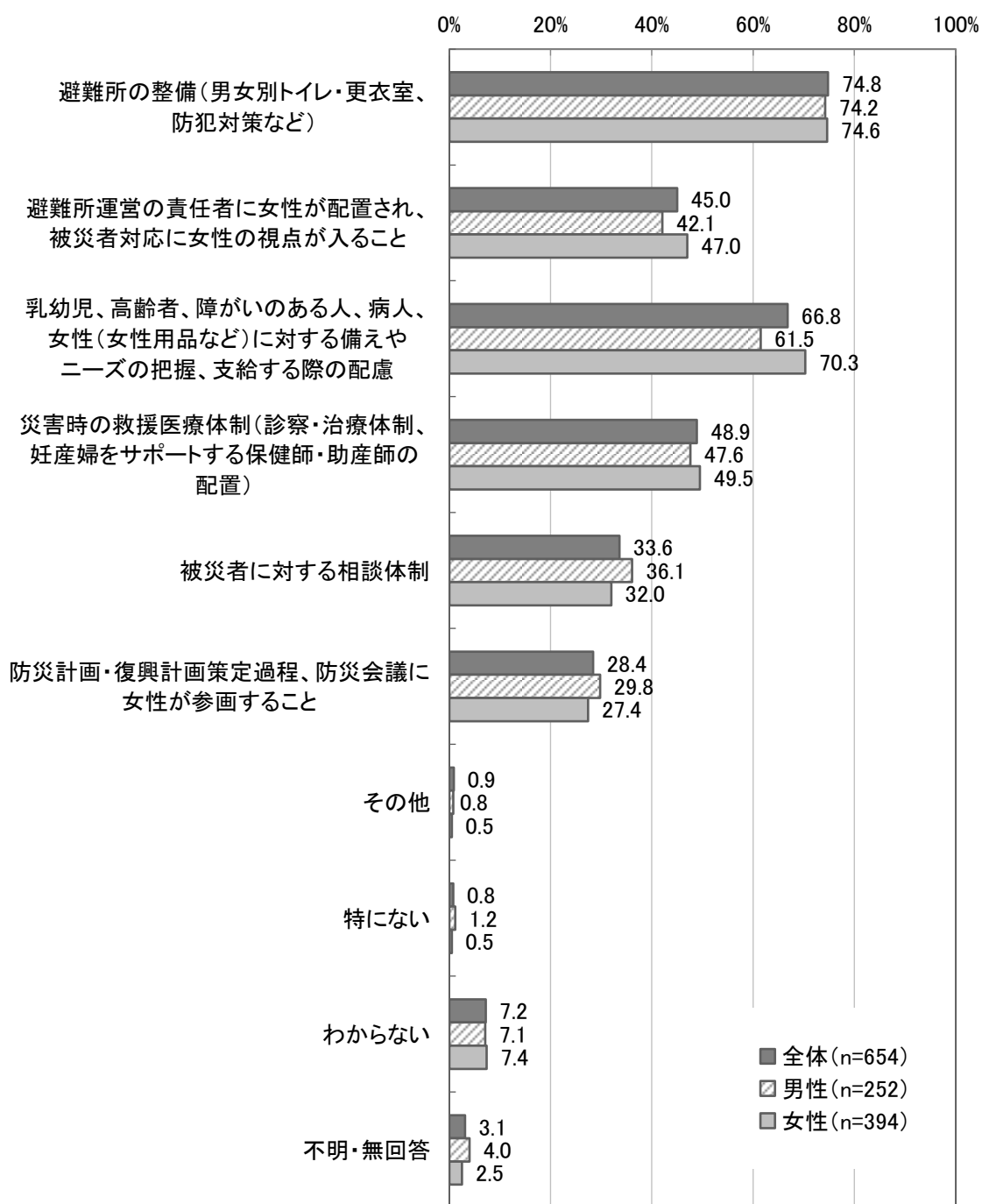


## 8 防災・災害復興対策などについて

問 50. 防災・災害復興対策で男女共同参画の視点から取り組む必要があると思うものは何ですか。(〇はいくつでも)。

防災・災害復興対策で男女共同参画の視点から取り組む必要があるものについてみると、全体では避難所の整備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策など)が74.8%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障がいのある人、病人、女性(女性用品など)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が66.8%、「災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)」が48.9%となっています。

性別でみると、女性では「乳幼児、高齢者、障がいのある人、病人、女性(女性用品など)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が男性と比べて高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、20歳代以上では「避難所の整備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）」の割合が高く、60歳代では「乳幼児、高齢者、障がいのある人、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合も7割台と高くなっています。

単位：％

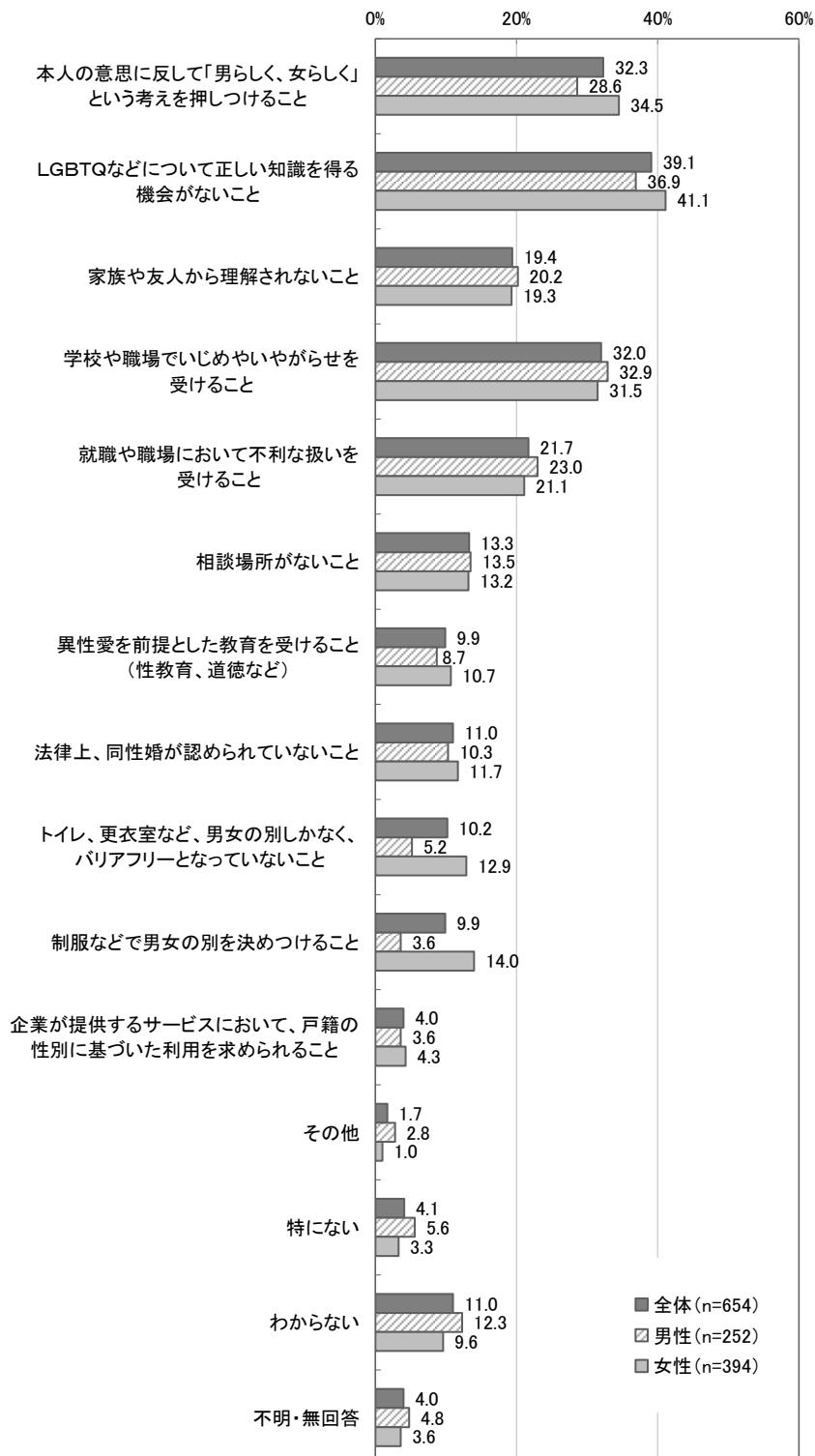
	避難所の整備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障がいのある人、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）	被災者に対する相談体制	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	その他	特になし	わからない	不明・無回答
10歳代 (n=3)	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
20歳代 (n=34)	64.7	26.5	61.8	44.1	20.6	11.8	0.0	0.0	26.5	0.0
30歳代 (n=103)	74.8	42.7	64.1	45.6	23.3	22.3	0.0	1.0	12.6	1.9
40歳代 (n=144)	73.6	48.6	69.4	43.8	26.4	21.5	0.0	0.7	5.6	3.5
50歳代 (n=147)	76.2	40.1	63.9	46.9	37.4	29.9	1.4	0.0	6.8	2.7
60歳代 (n=145)	73.1	47.6	72.4	55.2	42.8	35.2	0.7	1.4	3.4	3.4
70歳以上 (n=70)	80.0	55.7	65.7	55.7	42.9	44.3	1.4	1.4	1.4	5.7

## 9 多様な性について

### 問 51. 多様な性への理解について、あなたが特に課題だと思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

多様な性への理解において課題と思うことについてみると、全体では「LGBTQなどについて正しい知識を得る機会がないこと」が39.1%と最も高く、次いで「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」が32.3%、「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」が32.0%となっています。

性別でみると、男性・女性ともに「LGBTQなどについて正しい知識を得る機会がないこと」の割合が最も高く、男性では「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」、女性では「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」の割合も高くなっています。



## <年齢別>

年齢別で見ると、20歳代では「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」の割合が最も高く、30歳代以上では「LGBTQなどについて正しい知識を得る機会がないこと」の割合が最も高くなっています。

単位：%

	本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	LGBTQなどについて正しい知識を得る機会がないこと	家族や友人から理解されないこと	学校や職場でいじめやいやがらせを受けること	就職や職場において不利な扱いを受けること	相談場所がないこと	異性愛を前提とした教育を受けること（性教育、道徳など）	法律上、同性婚が認められていないこと
10歳代(n=3)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7
20歳代(n=34)	50.0	29.4	23.5	52.9	26.5	5.9	5.9	26.5
30歳代(n=103)	36.9	43.7	28.2	35.0	21.4	7.8	17.5	19.4
40歳代(n=144)	34.0	40.3	19.4	34.0	14.6	8.3	10.4	12.5
50歳代(n=147)	29.3	38.8	19.0	34.0	27.9	17.0	9.5	6.1
60歳代(n=145)	31.0	41.4	16.6	24.8	22.1	19.3	6.2	5.5
70歳以上(n=70)	22.9	34.3	12.9	24.3	22.9	15.7	8.6	8.6

	トイレ、更衣室など、男女の別しなく、バリアフリーとなっていないこと	制服などで男女の別を決めつけること	企業が提供するサービスにおいて、戸籍の性別に基づいた利用を求められること	その他	特になし	わからない	不明・無回答
10歳代(n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=34)	11.8	5.9	5.9	2.9	8.8	5.9	0.0
30歳代(n=103)	10.7	9.7	2.9	1.0	1.0	4.9	1.0
40歳代(n=144)	10.4	11.1	3.5	2.8	3.5	11.8	3.5
50歳代(n=147)	10.2	12.9	4.8	2.0	5.4	11.6	2.7
60歳代(n=145)	6.9	8.3	3.4	0.0	4.8	13.1	4.8
70歳以上(n=70)	11.4	7.1	5.7	2.9	4.3	11.4	12.9

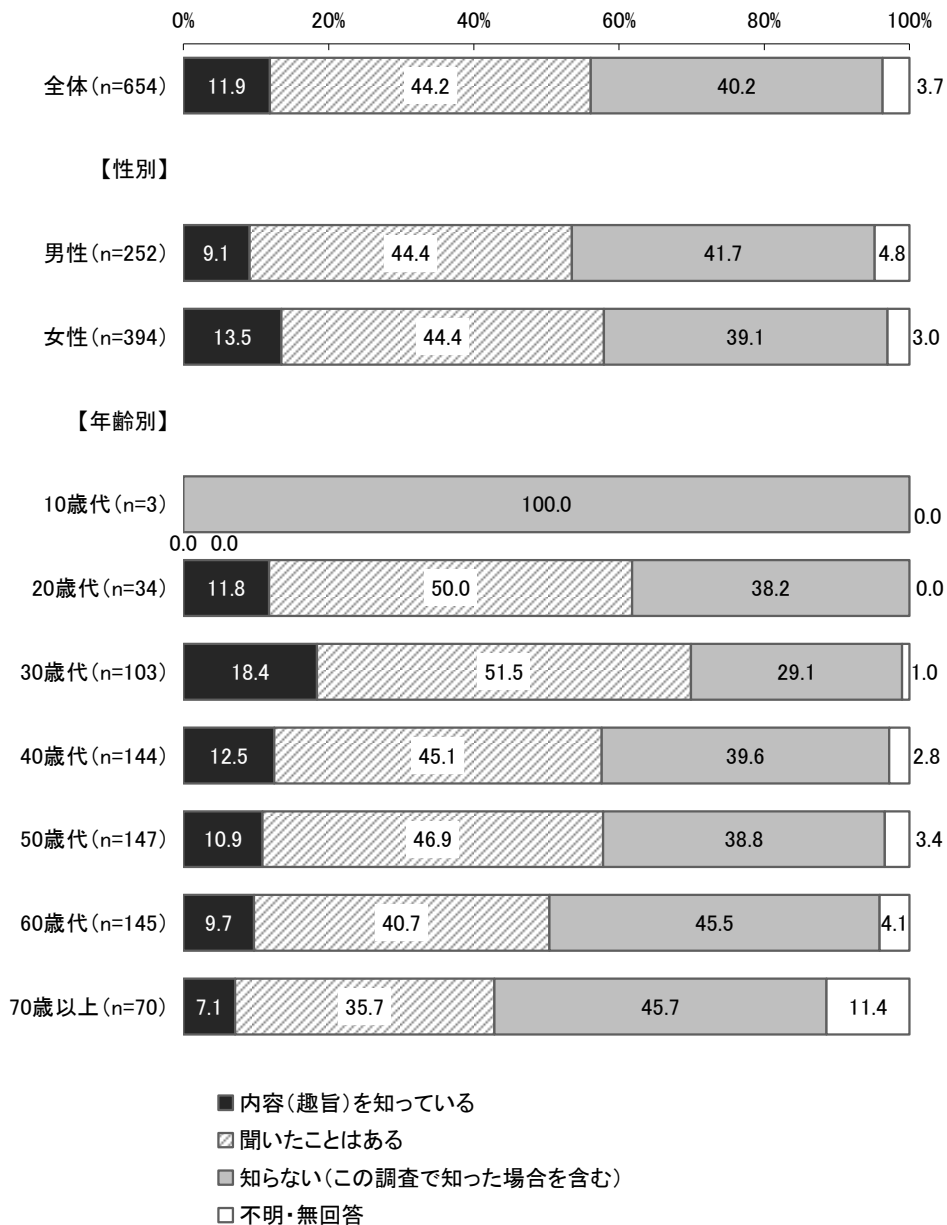


**問 52. あなたは「パートナーシップ制度」をご存知ですか。(〇は1つまで)**

「パートナーシップ制度」の認知状況についてみると、全体では「聞いたことはある」が44.2%と最も高く、次いで「知らない(この調査で知った場合を含む)」が40.2%、「内容(趣旨)を知っている」が11.9%となっています。

性別でみると、女性では「内容(趣旨)を知っている」の割合が男性と比べて高くなっています

年齢別でみると、「内容(趣旨)を知っている」と「聞いたことはある」をあわせた【認知計】の割合は20歳代と30歳代で6割台、40歳代から60歳代で5割台、70歳以上で4割台と年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。

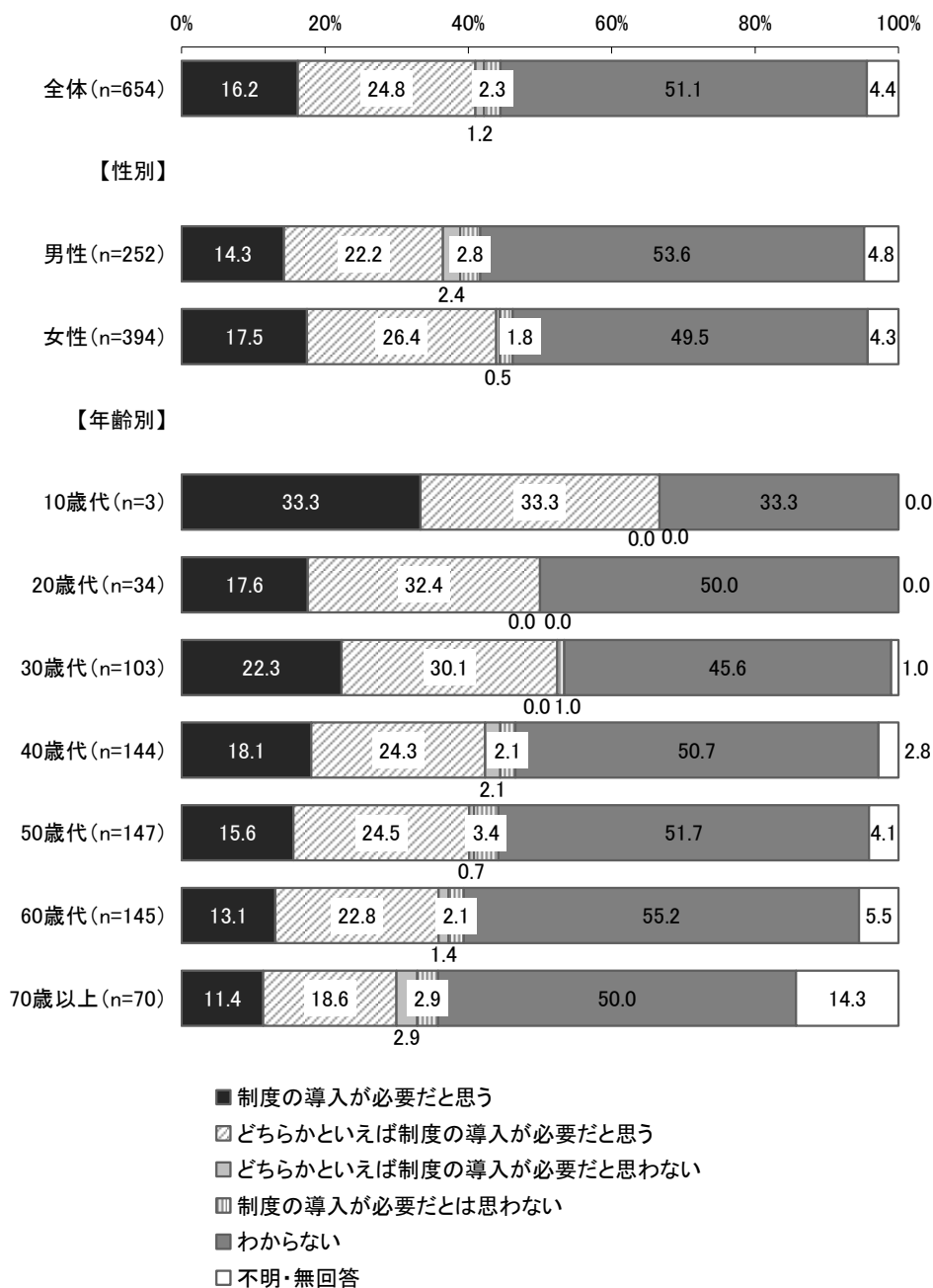


**問 53. 現在「パートナーシップ制度」を導入している自治体がありますが、制度に関してあなたの考えをお聞かせください。(〇は1つまで)**

「パートナーシップ制度」に関する考え方についてみると、全体では「わからない」が51.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば制度の導入が必要だと思う」が24.8%、「制度の導入が必要だと思う」が16.2%となっています。

性別でみると、女性では「制度の導入が必要だと思う」と「どちらかといえば制度の導入が必要だと思う」をあわせた【導入が必要だと思う計】の割合が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、【導入が必要だと思う計】の割合は概ね年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。

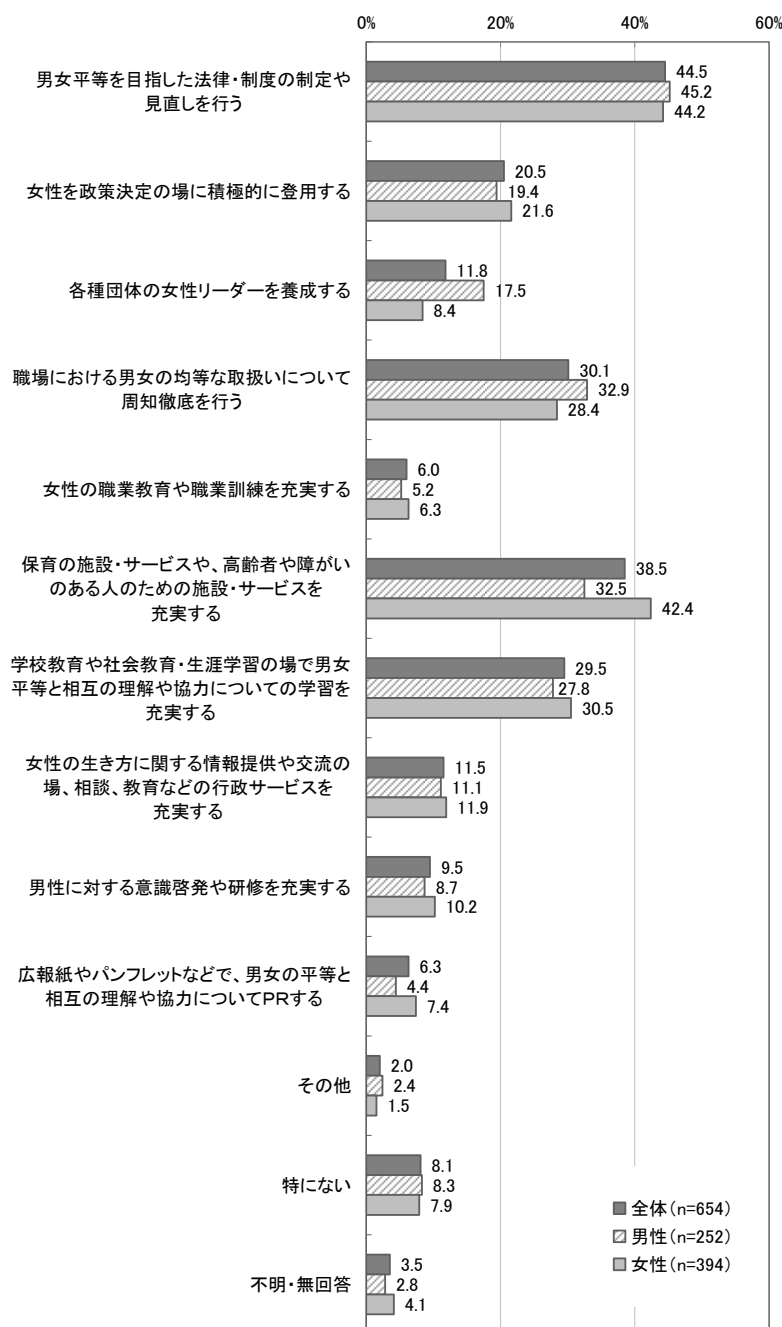


# 10 男女共同参画社会づくりについて

問 54. 男女共同参画を推進していくために、今後、国や県、市町村ではどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

男女共同参画を推進していくために、国や県、市町村が力を入れていくことについてみると、全体では「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」が44.5%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や障がいのある人のための施設・サービスを充実する」が38.5%、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」が30.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」、女性では「保育の施設・サービスや、高齢者や障がいのある人のための施設・サービスを充実する」の割合が高くなっています。



<年齢別>

年齢別でみると、20歳代から50歳代と70歳以上では「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が最も高く、60歳代では「保育の施設・サービスや、高齢者や障がいのある人のための施設・サービスを充実する」の割合が最も高くなっています。

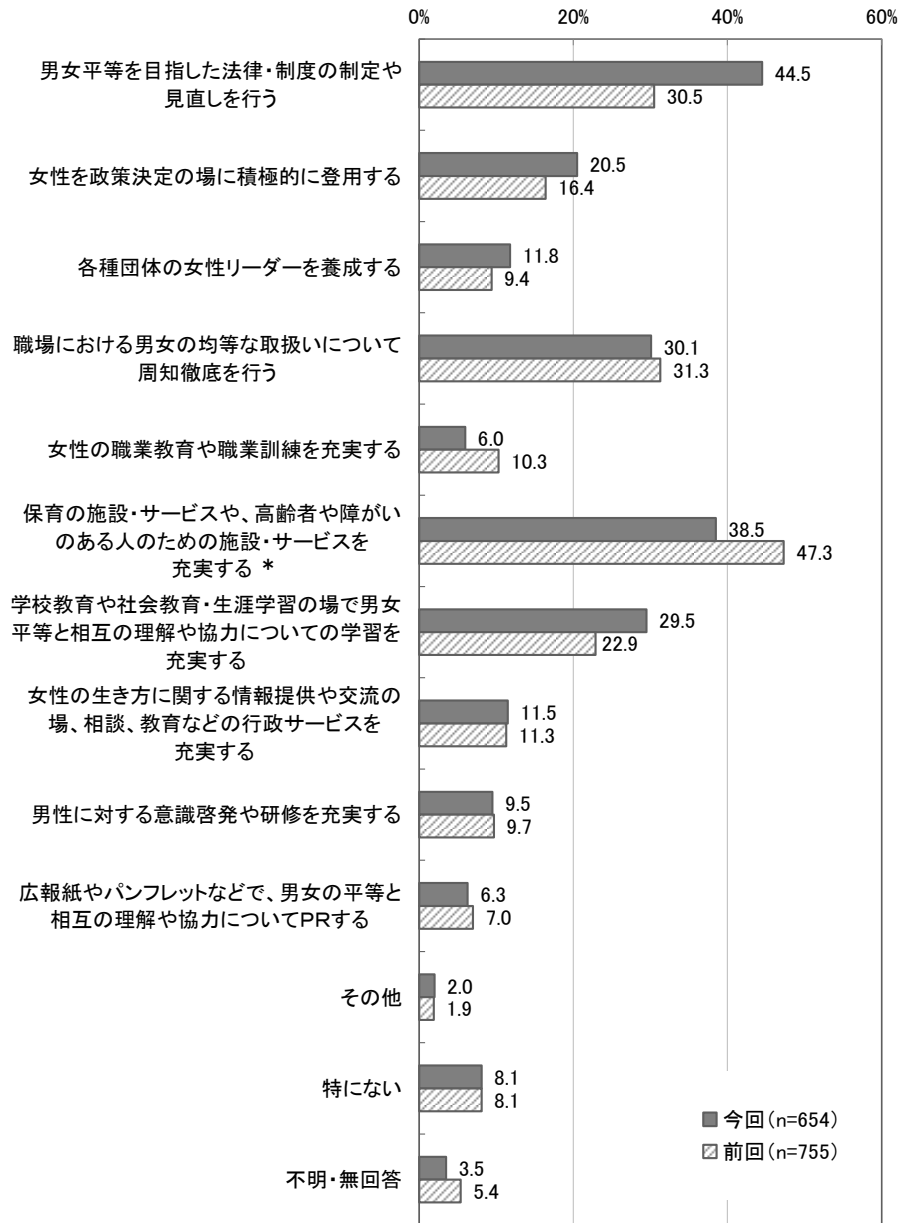
単位：%

	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性リーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設・サービスや、高齢者や障がいのある人のための施設・サービスを充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についで学習を充実する
10歳代 (n=3)	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=34)	58.8	5.9	2.9	20.6	5.9	47.1	32.4
30歳代 (n=103)	52.4	20.4	11.7	38.8	7.8	32.0	34.0
40歳代 (n=144)	44.4	21.5	9.0	22.9	7.6	38.9	26.4
50歳代 (n=147)	44.2	15.6	12.2	25.9	4.8	40.1	26.5
60歳代 (n=145)	37.2	24.8	13.1	33.8	2.8	46.9	32.4
70歳以上 (n=70)	42.9	28.6	20.0	35.7	8.6	24.3	30.0

	女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する	男性に対する意識啓発や研修を充実する	広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	その他	特になし	不明・無回答
10歳代 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=34)	17.6	5.9	2.9	0.0	8.8	0.0
30歳代 (n=103)	9.7	8.7	5.8	3.9	8.7	1.0
40歳代 (n=144)	10.4	11.1	9.0	3.5	7.6	3.5
50歳代 (n=147)	13.6	8.8	2.0	0.7	11.6	4.1
60歳代 (n=145)	11.0	10.3	8.3	1.4	6.9	2.1
70歳以上 (n=70)	11.4	10.0	7.1	0.0	2.9	11.4

## <前回調査(平成 28 年)との比較>

前回調査と比較すると、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が増加し、「保育の施設・サービスや、高齢者や障がいのある人のための施設・サービスを充実する」の割合が減少しています。



\* 前回調査では「保育の施設・サービスや、高齢者、病人の施設・サービスを充実する」